埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第462集

加須市

長竹遺跡Ⅴ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

2020

国土交通省　関東地方整備局
公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県の北東県境を流れる利根川は、日本一の流域面積を誇る大河川です。「刀祢河泊（とねかわ）」と万葉集にもその名が見えるように、古くから人や物資が行きかう交通路として利用され、親しまれてきました。現在も生活用水や産業用水の供給源として、私たちは利根川から多大な恩恵を受けています。

しかし、その一方で利根川はたびたび恐ろしい水害を引き起こし、流域に生活する人々に計り知れないダメージを与えてきました。特に 1947 年のカスリーン台風による豪雨では、現在の加須市内で堤防が決壊し埼玉県東部が水没する大災害となりました。

国土交通省では、発生すればこのような災害を引き起こす利根川の氾濫を未然に防ぐため、堤防や調節池等の整備と防災・減災のための取組を推進しています。埼玉県における首都圏氾濫区域堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜市内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った加須市の長竹遺跡もそのひとつです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

長竹遺跡で発見された縄文時代後晩期の環状盛土遺構の上には、奈良・平安時代から江戸時代にかけて人々が暮らしていた生活面があり、竪穴住居跡や井戸跡などが発見されました。竪穴住居跡の多くは平安時代中期の１０世紀代に属するものです。この時期の集落跡は県内でもあまり調査例がなく、当時のムラの様相を明らかにする貴重な成果をあげることができました。

本書は、長竹遺跡北盛土上における奈良・平安時代以降の発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・活用の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、加須市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長　藤田栄二

例　言

1　本書は加須市大字大越に所在する長竹遺跡（第４次・第５次・第６次調査）の発掘調査報告書である。

長竹遺跡の調査成果については、以下のように巻を分け、順次報告書を刊行している。

・『長竹遺跡Ⅰ』第 413 集　A～C区古墳時代以降、B区南半～C区縄文時代
・『長竹遺跡Ⅱ』第 440 集（南盛土遺構編）A区南半～B区北半縄文時代の遺構
・『長竹遺跡Ⅲ』第 441 集（北盛土遺構編）A区北半～D区縄文時代の遺構
・『長竹遺跡Ⅳ』第 461 集（南盛土盛土編）A区南半～B区北半縄文時代の遺物包含層
・『長竹遺跡Ⅴ』第 462 集（本書）D区古代以降
・『長竹遺跡Ⅵ』（北盛土盛土編）A区北半～D区縄文時代の遺物包含層（予定）

2　遺跡の代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

長竹遺跡（No. 69 － 038）

第４次調査

埼玉県加須市大越字樋ノ口 620 － 1 他

平成 25 年５月 24 日付け　教生文２－８号

第５次調査

埼玉県加須市大越字樋ノ口 620 － 1 他

平成 25 年 10 月３日付け　教生文２－ 39 号

第６次調査

埼玉県加須市大越字樋ノ口 620 － 1 他

平成 26 年５月 15 日付け　教生文２－７号

3　発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策に先立つ埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。発掘調査及び整理報告書作成事業については、埼玉県教育局市町村支援部文化資源課（発掘時は生涯学習文化財課）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4　各事業の委託事業名は、下記のとおりである。

発掘調査事業（平成 25 年度・第４次）

「利根川上流河川改修事業における平成 25 年度埋蔵文化財発掘調査」

発掘調査事業（平成 25 年度・第５次）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成25年度埋蔵文化財発掘調査」

発掘調査事業（平成 26 年度・第６次）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査」

整理・報告書作成事業（平成 31 年度）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成 31 年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

5　発掘調査、整理報告書作成事業は Ⅰ－３に示した組織により実施した。

発掘調査は、第４次調査を平成 25 年４月１日から平成 25 年 10 月 31 日まで吉田稔、山本靖、青木弘、村山卓、宗像義輝、西田真由子、魚水環が、第５次調査を平成 25 年 11 月１日から平成 26 年３月 31 日まで吉田、山本、古谷渉、宗像、西田が、第６次調査を平成 26 年４月１日から平成 27 年３月 31 日まで西井幸雄、吉田、古谷、宗像、宮原正樹が担当した。

整理・報告書作成事業は、令和元年６月１日から令和２年３月 31 日まで実施し、瀧瀬芳之が担当した。

報告書は令和２年３月 23 日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 462 集として印刷、刊行した。

6　発掘調査における基準点測量は、第４次調査は株式会社ビッソ測量設計に、第５次調査は有限会社ジオプランニングに、第６次調査は株式会社新日本エグザに委託した。空中写真撮影は、第４次調査は株式会社新日本エグザに、第

5次調査は株式会社シン技術コンサルに、第6次調査は中央航業株式会社に委託した。自然科学分析は、第5次調査で株式会社パレオ・ラボに委託した。

7　発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は瀧瀬が行った。

8　出土品の整理と図版作成は瀧瀬が行い、陶磁器類は村山卓、木製品は矢部暉、石製品は水村雄功の協力を得た。

9　本書の執筆は、Ⅰ－1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を瀧瀬が行った。

10　本書の編集は瀧瀬が行った。

11　本書にかかる諸資料は、令和2年3月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。

12　発掘調査と本書の作成に際し、下記の機関・方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝致します。（敬称略）

加須市教育委員会

凡　例

1　遺跡全体におけるX・Y座標の値は、世界測地系による国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値であり、Z座標の値は標高を示す。また、各挿図に示した方位はすべて座標北を示す。

ZY-998グリッド北西杭の座標は、以下のとおりである。

X＝20890.000m、Y＝-19810.000m、Z＝15.146m、北緯36° 11′ 17″、東経139° 36′ 47″

2　調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標第Ⅸ系に基づく10×10mの範囲を1グリッドとし、調査区全体の方眼網を組んだ。

3　グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばA－1グリッドと呼称した。

4　本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下のとおりである。

ＳＪ…竪穴住居跡　ＳＢ…掘立柱建物跡
ＳＩ…竪穴状遺構　ＳＫ…土壙
ＳＥ…井戸跡　ＳＤ…溝跡
ＳＡ…杭列跡
Pit・P…小穴・柱穴

5　調査区は着手年次の関係上、北西より南東方向にD、A、B、Cと地区割りしている。本書が扱うD区では縄文時代と古代以降の文化層に間隙があり、それぞれ確認面が二面識別できた。その中で、第一面の古代以降の遺構と出土遺物を取り扱う。

6　本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。ただし、一部例外もあり、それについては図中に縮尺とスケールを示した。

全体図　1：800・1：100
遺構図　1：60・1：30
土器・陶磁器　1：4・1：3
瓦　1：4
土製品　1：3・1：2
石製品　1：6・1：4
木製品　1：8
金属製品　1：3・1：2
銭貨　2：3
出土状況図の遺物は、上記の50%縮小

7　遺構図・遺物実測図の表記方法は以下のとおりである。

・灰　焼土　炭　地山
・須恵器は断面を黒塗りした。図外の短線はヘラケズリの範囲を示す。
・施釉等の特徴をもつ土器は、その範囲に網を掛けて示した。
自然釉・灰釉　赤彩
黒色処理・漆　油煙・炭化
・釉の範囲は一点鎖線で示した。
・ヘラケズリ工具の観察できた移動方向は矢印で示した。

8　遺構断面図に表記した水準数値は標高（m）で示した。

9　遺物観察表の表記方法は以下の通りである。

・器種は、土師器、須恵器と表記した。
・遺物の計測値は土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位で示した。
・（　）は推定値、［　］は残存値を示す。
・胎土は土器に含まれる特徴的な鉱物等を記号で示した。
A：雲母　B：片岩　C：角閃石・輝石
D：長石　E：石英　F：軽石　G：砂粒子
H：赤色粒子　I：白色粒子　J：針状物質
K：黒色粒子　L：その他
・残存率は、図示した器形に対する大まかな遺

存程度を%で示した。
・焼成は良好・普通・不良の3段階で示した。
・色調は『新版標準土色帖』に照らし、最も近い色相を記した。
・備考には、注記番号・諸特徴を記した。

10　本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図、加須市発行の1/2,500都市計画図を編集して使用した。

11　遺構番号は、原則として調査時のものを用いた。長竹遺跡の調査では、遺構番号を第1次調査から第6次調査まで連番でつけているため、番号が大きく飛ぶ場合がある。番号の欠番と変更結果は下記に示した。
・ＳＩ４…ＳＩ10に変更
・ＳＢ４…ＳＡ９～11に変更
・ＳＸ９・10…欠番
・ＳＸ11…第１号火葬跡に変更
・ＳＸ12…第２号火葬跡に変更
・ＳＸ13…第３号火葬跡に変更
・ＳＸ14…第４号火葬跡に変更
・ＳＫ407…第５号火葬跡に変更
・ＳＫ475…ＳＪ86の床下土壙に変更
・ＳＫ446・ＳＫ505…欠番
・ＳＤ49・50…欠番（ＳＤ55に統合）
・畝80・81・171・196・227…欠番

12　文中の引用文献は、（著者（組織名）発行年）の順で表記し、参考文献とともに巻末に掲載した。

目　次

序
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
1　発掘調査に至る経過 …… 1
2　発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
（1）発掘調査 …… 2
（2）整理・報告書の作成 …… 3
3　発掘調査・報告書作成の組織 …… 4
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 5
1　地理的環境 …… 5
2　歴史的環境 …… 6
Ⅲ　遺跡の概要 …… 11
Ⅳ　遺構と遺物 …… 32
1　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 32
（1）住居跡 …… 34
（2）掘立柱建物跡 …… 76
（3）土壙 …… 79
（4）溝跡 …… 86
（5）杭列跡 …… 86
（6）畝跡B …… 87
2　中・近世の遺構と遺物 …… 93
（1）竪穴状遺構 …… 93
（2）土壙 …… 95
（3）火葬跡 …… 119
（4）井戸跡 …… 120
（5）溝跡 …… 136
（6）杭列跡 …… 161
（7）畝跡A …… 162
（8）ピット …… 170
3　遺構外の出土遺物 …… 175
Ⅴ　自然科学分析 …… 178
1　長竹遺跡の花粉分析と
プラント・オパール分析 …… 178
2　長竹遺跡より採取した
土壌の元素マッピング分析 …… 181
3　長竹遺跡のテフラ分析 …… 183
Ⅵ　調査のまとめ …… 186
1　奈良・平安時代の様相 …… 186
2　中・近世の様相 …… 188

写真図版

挿図目次

第１図　埼玉県の地形 …… 5
第２図　周辺の遺跡（古代～近世） …… 7
第３図　遺跡位置図 …… 11
第４図　調査区西壁土層断面図 …… 13
第５図　遺構全体図 …… 14
第６図　１面の遺構（１） …… 15
第７図　１面の遺構（２） …… 16
第８図　１面の遺構（３） …… 17
第９図　１面の遺構（４） …… 18
第10図　１面の遺構（５） …… 19
第11図　１面の遺構（６） …… 20
第12図　１面の遺構（７） …… 21
第13図　２面の遺構（１） …… 22
第14図　２面の遺構（２） …… 23
第15図　２面の遺構（３） …… 24
第16図　３面の遺構（１） …… 25
第17図　３面の遺構（２） …… 26
第18図　３面の遺構（３） …… 27
第19図　３面の遺構（４） …… 28
第20図　３面の遺構（５） …… 29
第21図　３面の遺構（６） …… 30
第22図　３面の遺構（７） …… 31
第23図　奈良・平安時代遺構全体図 …… 32
第24図　第69号住居跡 …… 33
第25図　第69号住居跡出土遺物 …… 33
第26図　第70号住居跡（１） …… 34
第27図　第70号住居跡（２） …… 35
第28図　第70号住居跡出土遺物 …… 36
第29図　第71号住居跡 …… 37
第30図　第71号住居跡出土遺物 …… 38
第31図　第72号住居跡 …… 39
第32図　第72号住居跡出土遺物 …… 40
第33図　第73号住居跡 …… 41
第34図　第73号住居跡出土遺物 …… 42
第35図　第74・75号住居跡 …… 43
第36図　第74号住居跡・出土遺物 …… 44
第37図　第76号住居跡 …… 45
第38図　第77号住居跡 …… 46
第39図　第77号住居跡出土遺物 …… 47
第40図　第78号住居跡 …… 48
第41図　第78号住居跡出土遺物 …… 49
第42図　第79号住居跡（１）・第80号住居跡 …… 50
第43図　第79号住居跡（２） …… 51
第44図　第79号住居跡出土遺物 …… 52
第45図　第81号住居跡 …… 54
第46図　第81号住居跡出土遺物 …… 54
第47図　第82号住居跡・出土遺物 …… 55
第48図　第83号住居跡 …… 56
第49図　第84号住居跡 …… 56
第50図　第85号住居跡 …… 57
第51図　第86号住居跡 …… 58
第52図　第86号住居跡出土遺物 …… 58
第53図　第87号住居跡・出土遺物 …… 59
第54図　第88号住居跡 …… 61
第55図　第88号住居跡出土遺物 …… 62
第56図　第89号住居跡 …… 63
第57図　第90号住居跡 …… 63
第58図　第91号住居跡 …… 64
第59図　第91号住居跡出土遺物 …… 65
第60図　第92号住居跡・出土遺物 …… 66
第61図　第94号住居跡 …… 67
第62図　第95Ａ・95Ｂ号住居跡（１） …… 68
第63図　第95Ａ・95Ｂ号住居跡（２） …… 69
第64図　第95Ａ号住居跡出土遺物 …… 70
第65図　第95Ｂ号住居跡出土遺物 …… 70
第66図　第96号住居跡 …… 72
第67図　第96号住居跡出土遺物 …… 72
第68図　第97号住居跡 …… 73
第69図　第97号住居跡出土遺物 …… 74

第70図　第98号住居跡…… 74
第71図　第127号住居跡・出土遺物…… 75
第72図　第５号掘立柱建物跡…… 77
第73図　第６・７号掘立柱建物跡……78
第74図　土壙（１）…… 80
第75図　土壙（２）…… 81
第76図　土壙出土遺物（１）…… 82
第77図　溝跡（３面）（１）…… 83
第78図　溝跡（３面）（２）…… 84
第79図　第３～８号杭列跡…… 85
第80図　畝跡Ｂ区割図…… 87
第81図　畝跡Ｂ（１）…… 89
第82図　畝跡Ｂ（２）…… 90
第83図　畝跡Ｂ（３）…… 91
第84図　畝跡Ｂ（４）…… 92
第85図　第５・６号竪穴状遺構…… 93
第86図　第10号竪穴状遺構…… 94
第87図　竪穴状遺構出土遺物…… 94
第88図　土壙（３）…… 99
第89図　土壙（４）…… 100
第90図　土壙（５）…… 101
第91図　土壙（６）…… 102
第92図　土壙（７）…… 103
第93図　土壙（８）…… 104
第94図　土壙（９）…… 105
第95図　土壙（10）…… 106
第96図　土壙（11）…… 107
第97図　土壙（12）…… 108
第98図　土壙（13）…… 109
第99図　土壙（14）…… 110
第100図　土壙（15）…… 111
第101図　土壙（16）…… 112
第102図　土壙出土遺物（２）…… 113
第103図　土壙出土遺物（３）…… 114
第104図　土壙出土遺物（４）…… 115
第105図　土壙出土遺物（５）…… 116
第106図　火葬跡…… 119
第107図　井戸跡（１）…… 121
第108図　井戸跡（２）…… 122
第109図　井戸跡（３）…… 123
第110図　井戸跡（４）…… 124
第111図　井戸跡（５）…… 125
第112図　井戸跡出土遺物（１）…… 126
第113図　井戸跡出土遺物（２）…… 127
第114図　第27号井戸跡出土木製品（１）… 129
第115図　第27号井戸跡出土木製品（２）… 130
第116図　第27号井戸跡出土木製品（３）… 131
第117図　第35号井戸跡出土木製品（１）… 133
第118図　第35号井戸跡出土木製品（２）… 134
第119図　溝跡（１面）区割図…… 138
第120図　溝跡（２面）区割図…… 138
第121図　溝跡（１面）（１）…… 139
第122図　溝跡（１面）（２）…… 140
第123図　溝跡（１面）（３）…… 141
第124図　溝跡（１面）（４）…… 142
第125図　溝跡（１面）（５）…… 143
第126図　溝跡（１面）（６）…… 144
第127図　溝跡（１面）（７）…… 145
第128図　溝跡（２面）…… 146
第129図　溝跡出土遺物（１）…… 147
第130図　溝跡出土遺物（２）…… 148
第131図　溝跡出土遺物（３）…… 149
第132図　溝跡出土遺物（４）…… 150
第133図　溝跡出土遺物（５）…… 151
第134図　溝跡出土遺物（６）…… 152
第135図　溝跡出土遺物（７）…… 153
第136図　溝跡出土遺物（８）…… 154
第137図　溝跡出土遺物（９）…… 155
第138図　溝跡出土遺物（10）…… 156
第139図　溝跡出土遺物（11）…… 157
第140図　第２・９～11号杭列跡…… 162
第141図　畝跡Ａ区割図…… 164
第142図　畝跡Ａ（１）…… 165
第143図　畝跡Ａ（２）…… 166

第144図　畝跡A（3）…… 167
第145図　畝跡A（4）…… 168
第146図　畝跡A（5）…… 169
第147図　ピット（1）…… 171
第148図　ピット（2）…… 172
第149図　ピット（3）…… 173
第150図　ピット（4）…… 174
第151図　ピット出土遺物…… 174
第152図　遺構外出土遺物（1）…… 175
第153図　遺構外出土遺物（2）…… 176
第154図　長竹遺跡から産出した植物珪酸体
…… 180
第155図　長竹遺跡における植物珪酸体分布図
…… 180
第156図　畠跡から検出された軽石質テフラ
…… 184
第157図　1φ篩軽石中の火山ガラス及び
斜方輝石の屈折率測定結果…… 185
第158図　長竹遺跡・樋ノ口遺跡の古代集落
…… 187

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧（古代～近世）… 7
第２表　第69号住居跡出土遺物観察表…… 33
第３表　第70号住居跡出土遺物観察表…… 36
第４表　第71号住居跡出土遺物観察表…… 38
第５表　第72号住居跡出土遺物観察表…… 40
第６表　第73号住居跡出土遺物観察表…… 42
第７表　第74号住居跡出土遺物観察表…… 44
第８表　第77号住居跡出土遺物観察表…… 47
第９表　第78号住居跡出土遺物観察表…… 49
第10表　第79号住居跡出土遺物観察表…… 53
第11表　第81号住居跡出土遺物観察表…… 54
第12表　第82号住居跡出土遺物観察表…… 55
第13表　第86号住居跡出土遺物観察表…… 58
第14表　第87号住居跡出土遺物観察表…… 59
第15表　第88号住居跡出土遺物観察表…… 62
第16表　第91号住居跡出土遺物観察表…… 65
第17表　第92号住居跡出土遺物観察表…… 66
第18表　第95Ａ号住居跡出土遺物観察表… 70
第19表　第95Ｂ号住居跡出土遺物観察表… 71
第20表　第96号住居跡出土遺物観察表…… 72
第21表　第97号住居跡出土遺物観察表…… 74
第22表　第127号住居跡出土遺物観察表…… 75
第23表　土壙一覧表（１）…… 79
第24表　土壙出土遺物観察表（１）…… 82
第25表　溝跡一覧表（１）…… 86
第26表　杭列跡一覧表（１）…… 86
第27表　畝跡Ｂ計測表…… 88
第28表　竪穴状遺構出土遺物観察表…… 94
第29表　土壙一覧表（２）…… 96
第30表　土壙一覧表（３）…… 112
第31表　土壙出土遺物観察表（２）…… 116
第32表　火葬跡一覧表…… 119
第33表　井戸跡一覧表…… 120
第34表　井戸跡出土遺物観察表…… 128
第35表　第27号井戸跡出土木製品観察表… 132
第36表　第35号井戸跡出土木製品観察表… 135
第37表　溝跡一覧表（２）…… 136
第38表　溝跡出土遺物観察表…… 157
第39表　杭列跡一覧表（２）…… 161
第40表　畝跡Ａ計測表…… 163
第41表　ピット計測表…… 170
第42表　ピット出土遺物観察表…… 174
第43表　遺構外出土遺物観察表…… 177
第44表　分析試料一覧表…… 178
第45表　産出花粉胞子一覧表…… 179
第46表　試料１ｇあたりのプラント・オパール個数……180
第47表　分析対象一覧…… 181
第48表　各ポイントの半定量分析結果…… 182
第49表　分析範囲全体の半定量分析結果… 182
第50表　テフラ分析を行った試料…… 183
第51表　試料の処理重量と篩分け結果…… 183
第52表　４φ篩残渣中の鉱物組成…… 183
第53表　長竹遺跡・樋ノ口遺跡における古代住居跡の時期 …… 186

写真図版

図版１　１　長竹遺跡空中写真Ａ～Ｄ区（合成写真）（垂直）
　　２　第５次調査Ｄ区第一面空中写真（垂直）
　　３　第６次調査Ｄ区第一面空中写真（垂直）
図版２　１　第５次調査Ｄ区第一面空中写真（北西から）
　　２　第６次調査Ｄ区第一面空中写真（北東から）
　　３　長竹遺跡遠景（南東から）
図版３　１　第５次調査Ｄ区第一面全景（北から）
　　２　第５次調査Ｄ区第一面全景（南から）
図版４　１　第６次調査Ｄ区第一面全景（北から）
　　２　第６次調査Ｄ区第一面全景（東から）
図版５　１　第69号住居跡
　　２　第70号住居跡
　　３　第70号住居跡カマド遺物出土状況
　　４　第71号住居跡
　　５　第71号住居跡カマド
図版６　１　第72号住居跡
　　２　第72号住居跡カマド
　　３　第73号住居跡
　　４　第74・75号住居跡
　　５　第74・75号住居跡炭化物・焼土検出状況
　　６　第74号住居跡カマド
　　７　第76号住居跡
　　８　第76号住居跡カマド
図版７　１　第77号住居跡
　　２　第77号住居跡カマド
　　３　第78号住居跡
　　４　第79・80号住居跡
　　５　第79号住居跡
図版８　１　第79号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
　　２　第81号住居跡
　　３　第82号住居跡
　　４　第82号住居跡カマド遺物出土状況
　　５　第83号住居跡
　　６　第84号住居跡
　　７　第85号住居跡
　　８　第85号住居跡カマド
図版９　１　第86号住居跡
　　２　第87号住居跡
　　３　第88号住居跡
　　４　第88号住居跡カマド
　　５　第88号住居跡遺物出土状況
図版10　１　第89号住居跡
　　２　第90号住居跡
　　３　第91号住居跡
　　４　第91号住居跡遺物出土状況
　　５　第91号住居跡カマド遺物出土状況
図版11　１　第92号住居跡
　　２　第94号住居跡
　　３　第95Ａ・95Ｂ号住居跡
　　４　第95Ｂ号住居跡
　　５　第95Ｂ号住居跡遺物出土状況
図版12　１　第95Ｂ号住居跡カマド
　　２　第95Ｂ号住居跡遺物出土状況
　　３　第96号住居跡
　　４　第97号住居跡
　　５　第97号住居跡カマド

	6	第98号住居跡
	7	第127号住居跡
	8	第127号住居跡遺物出土状況
図版13	1	第５号掘立柱建物跡
	2	第６・７号掘立柱建物跡
	3	第５号竪穴状遺構
	4	第６号竪穴状遺構
	5	第10号竪穴状遺構
図版14	1	第347号土壙
	2	第348号土壙
	3	第358号土壙
	4	第363号土壙
	5	第372号土壙
	6	第373号土壙
	7	第378・427号土壙
	8	第379号土壙
図版15	1	第380号土壙
	2	第381号土壙
	3	第381号土壙漆塗膜出土状況
	4	第382号土壙
	5	第383・384号土壙
	6	第383号土壙
	7	第383号土壙遺物出土状況
	8	第388号土壙
図版16	1	第392・393号土壙
	2	第395号土壙
	3	第397号土壙
	4	第398号土壙
	5	第399号土壙
	6	第401号土壙
	7	第423号土壙
	8	第424号土壙
図版17	1	９～11号杭列跡、第378～380・398～401・408・427号土壙
	2	第428号土壙
	3	第434・435号土壙
	4	第437・438号土壙
	5	第472号土壙
図版18	1	第473号土壙
	2	第474号土壙
	3	第477号土壙遺物出土状況
	4	第477・495号土壙
	5	第497号土壙
	6	第510号土壙
	7	第511号土壙
	8	第512号土壙
図版19	1	第513号土壙
	2	第515号土壙
	3	第518号土壙
	4	第627号土壙
	5	第２号火葬跡
	6	第３号火葬跡
	7	第21号井戸跡
	8	第21号井戸跡漆椀出土状況
図版20	1	第23号井戸跡
	2	第27号井戸跡
	3	第28号井戸跡
	4	第31号井戸跡
	5	第32号井戸跡
	6	第34号井戸跡
	7	第35号井戸跡井戸側
	8	第35号井戸跡
図版21	1	第41・57・58・64・65・71号溝跡
	2	第43～45・52・61号溝跡
図版22	1	第55・60号溝跡
	2	第60号溝跡
	3	第63・66～68号溝跡
	4	第79号溝跡
	5	第91・92号溝跡
	6	第３～６号杭列跡
	7	第５～７号杭列跡
	8	第８号杭列跡、第90号溝跡
図版23	1	畝跡A

2　畝跡B
図版24　1～4　第70号住居跡
5　第71号住居跡
6　第72号住居跡
7・8　第79号住居跡
図版25　1～3　第79号住居跡
4　第86号住居跡
5～7　第88号住居跡
図版26　1・2　第88号住居跡
3～5　第91号住居跡
6　第91号住居跡墨書
図版27　1～4　第91号住居跡
5～7　第95B号住居跡
図版28　1～3　第95B号住居跡
4　第97号住居跡
5・6　第127号住居跡
7　第27号井戸跡
図版29　1　第32号井戸跡
2　第6号竪穴状遺構
3　第393号土壙
4　第477号土壙
5　第511号土壙
6　第627号土壙
7　第44号溝跡
8　第54号溝跡
図版30　1～4　第55号溝跡
5　第58号溝跡
6　第60号溝跡
図版31　1～8　第60号溝跡
図版32　1　第60－2号溝跡
2　第64号溝跡
3・4　第65号溝跡
5　第66号溝跡
6・7　第66・67号溝跡
8　第68号溝跡
図版33　1　第73号溝跡
2～7　遺構外
図版34　銅製品
1・2　第383号土壙
3・4　第392号土壙
5　第393号土壙
砥石
6　第382号土壙
7・8　第31号井戸跡
9・10　第35号井戸跡
11・12　第66号溝跡
磨石
13　第70号住居跡
14　第373号土壙
15　第60号溝跡
16　第64号溝跡
17・18　第66号溝跡

Ⅰ　発掘調査の概要

1　発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域内には埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所はこの回答の時点では周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、平成18年秋に事業予定地すべての現地踏査を行い、さらには明治時代の地形図等と照合し、確認調査の必要箇所の絞り込みを行った。当該箇所については平成21年5月後半から6月にかけて確認調査を実施した。その結果、縄文時代・平安時代を中心とした遺構・遺物が確認され、この箇所は長竹遺跡（No.69-038）として平成21年6月16日に遺跡台帳に登載された。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成21年6月24日付け教生文第623-1号で工事計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査の実施が必要な旨を回答し、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

本遺跡は、膨大な遺構、遺物が検出されたことから、計5か年の調査を実施した。調査にあたっては、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（平成23年度までは財団法人）と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

なお、平成24年6月、遺跡が北西に延伸していることが確認され、平成24年6月13日付けで長竹遺跡の範囲拡大の変更増補を行った。この範囲を含めた文化財保護法第94条の規定による国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長からの埋蔵文化財発掘通知と、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は下記のとおりである。

平成22年4月9日付け教生文第4-1001号
平成23年3月18日付け教生文第4-1404号
平成24年2月16日付け教生文第4-1336号

また、同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

〔4次調査〕
平成25年5月24日付け教生文第2-8号
〔5次調査〕
平成25年10月3日付け教生文第2-39号
〔6次調査〕
平成26年5月15日付け教生文第2-7号

（埼玉県教育局市町村支援部文化資源課）

2　発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

本書に係る長竹遺跡の発掘調査は、平成25年度（第4・5次）・平成26年度（第6次）に実施した。調査対象面積は3,846.82㎡である。

平成25年度（第4次調査）

長竹遺跡第4次の発掘調査は、平成25年4月1日から10月31日まで実施した。調査対象は、第3次調査から継続するA区南盛土と、D区第一面である。調査面積は7,007.82㎡であった。

4月上旬に発掘調査事務所に器材と図面の搬入を行った。4月上旬から、A区南盛土の遺物包含層の補助員による掘削と遺構精査を再開した。検出した遺構は順次断面図・平面図を作成し、遺物を取り上げて、写真撮影を行った。

これらの作業に並行して、8月下旬から重機でD区の表層土の除去を行い、第一面の遺構検出面を露出した。9月下旬には基準点測量を実施し、人力による遺構確認調査を行った。

遺構調査の進捗に伴って、8月の上旬には空中写真撮影を行った。その後、10月末までにA区のすべての遺構・遺物の記録作業を終了し、A区の発掘調査を終了した。

平成25年度（第5次調査）

長竹遺跡第5次の発掘調査は、平成25年11月1日から平成26年3月31日まで実施した。調査対象は、第4次調査から継続するD区第一面で、調査面積は3,846.82㎡である。

11月から補助員作業を開始し、第4次調査で確認した遺構の精査を行った。検出した遺構は、順次断面図・平面図を作成し、遺物を取り上げて写真撮影を行った。

12月下旬に空中写真撮影を行い、1月下旬に畝跡に堆積した土壌の自然科学分析を実施した。

3月下旬には発掘器材及び図面・遺物を引き上げ、発掘調査事務所を閉鎖して年度内の作業を終了した。

平成26年度（第6次調査）

長竹遺跡第6次の発掘調査は、平成26年4月1日から平成27年3月31日まで実施した。調査対象はD区の第一・二面で、調査面積は3,846.82㎡である。

4月上旬に発掘調査事務所を再開し、器材と図面の搬入を行った。

4月上旬に補助員作業を開始した。作業は第5次調査から引き続き、D区第一面の遺構精査を行った。検出した遺構は順次断面図・平面図を作成し、遺物を取り上げて写真撮影を行った。

5月中旬には第一面のほぼすべての遺構の精査を終了したため、空中写真撮影を行った。

その後、補足的な記録作業を行い、5月下旬に第一面の調査を終了した。

第一面の遺構検出面はほとんどが縄文時代の遺物包含層の上面と一致していたが、部分的に氾濫土に覆われていた。このため6月上旬、重機を用いて上層土の除去を行い、第二面を露出した。

その後、遺物包含層の調査を開始した。6月中旬には、基準点測量を委託し、測量杭の打設を行った。

検出した遺構は順次遺物を取り上げ、図面・写真撮影等の記録作業を行った。

遺物包含層の掘削に伴い、一部の基準杭を抜去したため、11月下旬に、補足的な基準点測量を行った。

第二面で発見された遺物・遺構の量が膨大であったため、1月中旬から3月上旬にかけて遺構のデジタル測量を行った。

第二面のほぼすべての遺構の調査が終了したため、2月下旬には空中写真撮影を実施した。これに併せて、縄文時代当時の地形を記録するための航空測量を実施した。

その後、補足的な記録作業を行い、3月上旬には第二面の調査を完了した。

３月中旬には危険防止のため重機による埋戻し作業を行った。また、器材・記録類を搬出し、発掘調査事務所を撤去した。

３月下旬には囲柵・防塵ネットを撤去した。

その後、事務所用地の現状復旧と、事務手続きを行い、６次にわたる長竹遺跡の発掘調査を終了した。

（２）整理・報告書の作成

整理・報告書作成事業は、令和元年６月１日から令和２年３月 31 日まで実施した。

６月から出土遺物の水洗・注記・接合を行い、必要に応じて石膏による復元を行った。その後、順次実測、トレース、採拓を行った。実測には磁気式３次元位置計測装置、正射投影画像撮影機などを活用した。仕上がったトレース図と拓本、正射投影画像はスキャナでパソコンに取り込み、印刷用の版下を作成した。

１月には図版用の遺物写真を撮影し、発掘調査で撮影された遺構写真と合わせて、写真図版用の版下データを作成した。

発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図等は、照合・修正を加えた第二原図を作成した。これをスキャナでパソコンに取り込み、画像編集ソフトを用いてトレースした。これに土層説明等を組み込み、印刷用の版下データを作成した。

11 月から各版下データをもとに、原稿の執筆と報告書の割付・編集を行った。その後、原稿を印刷業者に入稿した。３回の校正を経て、令和２年３月 23 日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 462 集『長竹遺跡Ⅴ』を刊行した。

遺物及び図面類・写真類・データ類等の諸資料は、３月に整理分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3　発掘調査・報告書作成の組織

平成 25 年度（発掘調査）

理事長	中村英樹	**調査部**	
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	調査部長	昼間孝志
総務部		調査部副部長	劔持和夫
総務部副部長	富田和夫	調査監兼調査第一課長	細田勝
総務課長	藤倉英明	主査	吉田稔
		主査	山本靖
		主任	古谷渉
		主事	青木弘
		主事	村山卓
		主事	宗像義輝
		主事	西田真由子
		主事	魚水環

平成 26 年度（発掘調査）

理事長	樋田明男	**調査部**	
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	調査部長	昼間孝志
総務部		調査部副部長	富田和夫
総務部副部長	瀧瀬芳之	主幹	西井幸雄
総務課長	藤倉英明	主査	吉田稔
		主任	古谷渉
		主事	宗像義輝
		主事	宮原正樹

令和元年度（報告書作成）

理事長	藤田栄二	**調査部**	
常務理事兼総務部長	髙津導	調査部長	黒坂禎二
総務部		副部長兼整理第一課長	上野真由美
総務部副部長	山本靖	主幹兼整理第二課長	福田聖
総務課長	新井了悟	主任専門員	瀧瀬芳之

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

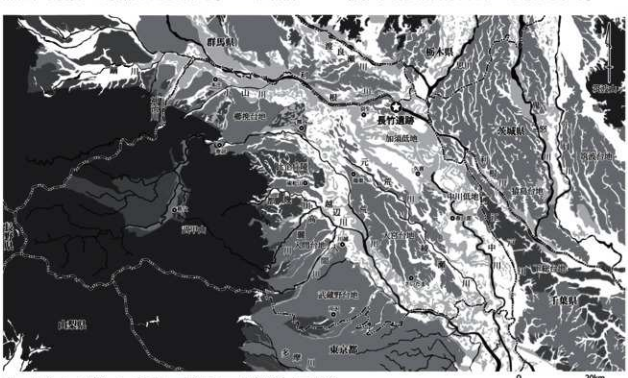
長竹遺跡は埼玉県の北東部に位置し、東武伊勢崎線加須駅から７㎞北方の加須市大越に所在する。遺跡の脇には利根川が東流し、周辺には屋敷林が点在する田園風景が広がっている。

現在、遺跡周辺の地形分類は加須低地とされている。埼玉県では、他にも東部に妻沼・荒川・中川の三低地が広がっている。この三低地は更新世の渡良瀬・利根・荒川などによる開析谷が埋積した低地である。これに対し加須低地は基盤の台地を氾濫土が覆った、いわば見かけの低地といえる。

もともと加須市を含む旧北埼玉郡域の大半は、川口市北部から群馬県東毛地域へと連なる大宮・館林台地の一部であった。しかし、現在の東京湾岸から中川低地に沿うようにして「関東造盆地運動」が進行し利根川が流れを東に変えた結果、この一帯に氾濫土が被覆し、河畔砂丘や自然堤防が点在する現況へと変化したとされる。この旧利根川流路変遷に伴う活発な氾濫・堆積作用を繰り返した痕跡が、加須市志多見・道目や羽生市砂山など行田・加須・羽生地域で河畔砂丘として現在でも起伏のある地形を残している。

現利根川左岸の群馬県館林地域では、館林・邑楽台地が広がっている。これらの台地は、関東造盆地運動や利根川による氾濫堆積の影響を大きく受けず旧地形をよくとどめている。

一方、長竹遺跡の下流側は、渡良瀬川の広大な氾濫原となり、多くの輪中やデルタが形成されている。このように今日の長竹遺跡の地形は、足尾山系に端を発し渡良瀬川を始めとする南流した河川によって開析された台地を起点とする。これに、関東造盆地運動による地盤沈降と、利根川の流路を東側へ変遷させ、沈降部への流入を加速させるようにして氾濫堆積を繰り返した結果、現在の複雑な地形を形成したものと考えられる。



第１図　埼玉県の地形

2　歴史的環境

長竹遺跡の位置する加須市及び羽生市域における集落遺跡の存在は、前項で述べた地理的環境も相まって、今まであまり知られていなかった。しかし、ここ数年にわたって実施されている利根川堤防強化対策に伴う埋蔵文化財の発掘調査により、その実体が徐々に明らかになってきている。ここでは、これらの成果を中心に古代から近世までの歴史的環境について記述する。

旧石器時代から古墳時代までの歴史的環境については、『長竹遺跡Ⅱ』（第440集　2018年刊行）の第Ⅱ章第2節（pp.9-14）を参照されたい。

古代

古代に入ると、長竹遺跡周辺の地形は、利根川を主とする河川の氾濫や堆積が進行し、自然堤防を残し地形の平坦化が進行する。この時期の集落は、その細長い自然堤防上の最も高い位置に立地している。

長竹遺跡の下流側（南東側）に隣接する加須市宮西遺跡（3）では、平安時代（9世紀後半主体）の竪穴住居跡7軒と畠跡1箇所が検出された。住居跡同士の重なりはなく、小規模ながらも竪穴住居が整然と立ち並んだ集落の景観が復元される。さらに谷を挟んで東に対峙する加須市宮東遺跡（4）では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が約60軒検出された。検出面には地震による液状化現象（噴砂）の痕跡が認められた。噴砂を切って構築された住居跡や、噴砂が床面に堆積した後に、再度床を貼り直した住居跡が確認されており、地震被災後にも同じ場所に住み続けていたことが判明している。記録に残る平安時代の大地震は、弘仁地震（818年）と元慶地震（878年）があり、そのどちらかに該当するものと推定される。

上流側（北西側）に接する加須市樋ノ口遺跡（5）では、平安時代でも10世紀前半を中心とした竪穴住居跡が9軒検出された。同時期の土師器焼成土壙が11基検出されており、この時期の土師器生産の様相を表すものとして注目される。

さらに市境を越えた上流側では、羽生市茂手木遺跡（6）、屋敷裏遺跡（7）、米の宮遺跡（9）、北尾崎北遺跡（10）で当期の遺構が発見されている。

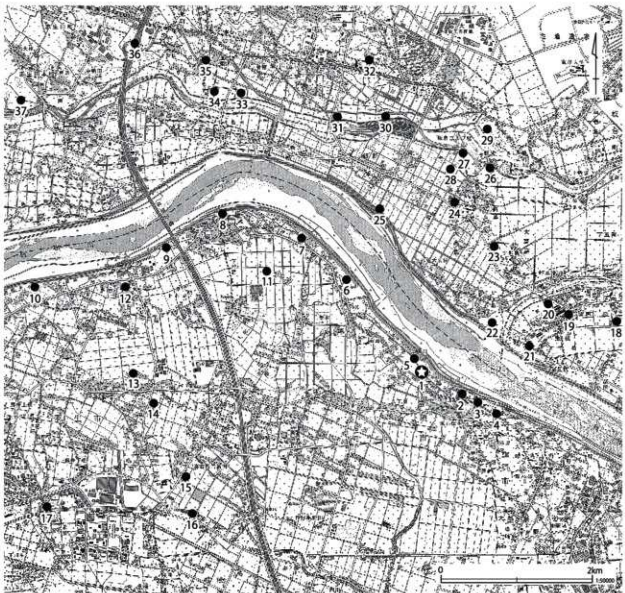
茂手木遺跡では、9世紀後半を主体とする竪穴住居跡が20軒検出された。「寺」「秋」などの墨書土器が出土しており、前者は当時の仏教信仰を示す資料と評価される。

屋敷裏遺跡では、9世紀中葉から10世紀中葉にかけての竪穴住居跡が26軒検出された。特記される遺物として、10世紀第一四半期の住居跡から発見された鉄製の口琴がある。国内では、さいたま市氷川神社東遺跡の竪穴住居跡（10世紀第2四半期）から出土した2点に次いで3例目という大変特殊な遺物である。口琴という楽器が10世紀前半という限られた時期に、普遍的な竪穴住居跡から出土する理由は現段階ではよくわからない。その評価を定めるためにも、県内のみならず全国的な類例の増加を期待したい。

米の宮遺跡では、9世紀後半から10世紀にかけての竪穴住居跡が4軒検出された。

北尾崎北遺跡では、平成30年度の発掘調査で、平安時代の竪穴住居跡が検出されている。令和元年度も調査は継続しており、当期・当地方において、新たな知見が得られるものと期待される。

これら利根川沿岸の集落遺跡は、武蔵国と上野国の境界に位置し、下野国や下総国とも接する地域にあたる。そのため、各地域で生産されたさまざまな土器が出土している。末野窯跡群（寄居町）、東金子窯跡群（入間市・狭山市）、南比企窯跡群（鳩山町）など、武蔵国内で生産された須恵器のほかに、上野国金山窯跡群（群馬県太田市）、下野国三毳山山麓窯跡群（栃木県佐野市）、下総国三和窯跡群（茨城県古河市）、さらに、常陸国新治窯跡群（茨城県土浦市）・堀ノ内窯跡群（茨



第２図　周辺の遺跡（古代～近世）

第１表　周辺の遺跡一覧（古代～近世）（第２図）

No.	遺跡名	所在	No.	遺跡名	所在	No.	遺跡名	所在
1	長竹遺跡	加須市	14	外之内遺跡	羽生市	27	伊勢ノ木遺跡	群馬県板倉町
2	旧利根川堤防跡		15	内野遺跡		28	岡遺跡	
3	宮西遺跡		16	高橋遺跡		29	小保呂遺跡	
4	宮東遺跡		17	北谷遺跡		30	花和田遺跡	
5	樋ノ口遺跡		18	北倉遺跡	加須市（旧北川辺町）	31	沼田南遺跡	
6	茂手木遺跡	羽生市	19	山根遺跡		32	宝福寺遺跡	
7	原敷賀遺跡		20	須加遺跡		33	八反遺跡	
8	東領遺跡		21	飯積遺跡		34	長良遺跡	
9	米の宮遺跡		22	島那途遺跡	群馬県板倉町	35	舟山古墳	
10	北尾崎北遺跡		23	宇那根西遺跡		36	道満遺跡	群馬県館林市
11	天王遺跡		24	大塚山古墳		37	宮内遺跡	
12	風張遺跡		25	城遺跡				
13	大口遺跡		26	中島遺跡				

城県桜川市）など県外各地の窯跡群で生産された須恵器が発見されている。各窯跡の製品の出土量は、集落の盛行時期によって異なっており、国境の集落における経済活動の一端を知る手掛かりとなる。さらに、樋ノ口遺跡、茂手木遺跡、屋敷裏遺跡からは緑釉陶器が出土しており、東山道を介する流通ルートとの関係が推察される。

利根川堤防強化事業以外の周辺遺跡にも目を向けると、近隣では羽生市の天王遺跡（11）や風張遺跡（12）、大口遺跡（13）、外之内遺跡（14）、内野遺跡（15）、高橋遺跡（16）、北谷遺跡（17）などが当期に属する遺跡として周知されている。いずれの遺跡も分布調査等で確認された遺跡で、その多くは、古墳時代後期から引き続いて営まれていた集落遺跡と考えられる。

また、遺跡分布図（第２図）からは外れるが、長竹遺跡から約８km西には羽生市大道遺跡が位置している。羽生市街地の遺跡である。大道遺跡からは、奈良時代の竪穴住居跡３軒と、平安時代から中世の井戸跡と考えられる土壙が９基検出された。利根川堤防強化事業が始まるまでは、当期における羽生市内唯一の調査事例であった。

長竹遺跡と利根川を挟んで対峙する加須市飯積遺跡（21）は、120 軒もの竪穴住居跡が検出された大規模集落遺跡である。集落の最盛期は古墳時代後期であるが、７世紀末から 10 世紀前半の竪穴住居跡も 40 軒検出された。８世紀初頭から前半にかけての住居跡が大半を占める。当期の住居跡は、古墳時代後期と比較すると住居規模が縮小する一方で、分布範囲が広がる傾向がある。

飯積遺跡の位置する加須市旧北川辺町地域では、ほかにも麦倉遺跡（18）、山越遺跡（19）、須加遺跡（20）で当期の遺物が採取されている。

利根川対岸の群馬県側では、邑楽・館林台地の縁辺部や自然堤防上に当期の遺跡が分布している。館林市の南東部にあたる赤羽地区では、道満遺跡（36）や宮内遺跡（37）などが当期の遺跡として知られている。道満遺跡は、縄文時代から平安時代にわたる複合遺跡で、平安時代の竪穴住居跡が５軒検出された。

板倉町八反・長良遺跡（33・34）は、古墳時代後期（６世紀）に最盛期を迎える集落遺跡で、８世紀に属する竪穴住居跡が４軒発見されている。そのうち１軒からは、馬具（轡）と推定される鉄製品が出土しており、注目される。

板倉町小保呂遺跡（29）では、９世紀後半の竪穴住居跡が５軒検出された。鉄鏃や鉄斧、刀子など、鉄製品が多く出土している。

板倉町花和田遺跡（30）では、９世紀代と考えられる竪穴住居跡が４軒、板倉町沼田南遺跡（31）では、９世紀から 10 世紀頃と考えられる竪穴住居跡が５軒、板倉町城遺跡（25）では９世紀中葉の土壙墓が検出されている。これらの遺跡では洪水層が確認され、沼田南遺跡で 10 世紀代と考えられる住居跡が洪水層の上に構築されている。明確な時期は不明であるが、９世紀から 10 世紀の早い時期に、この地域に洪水が発生していたことを示している。

板倉町内ではこのほかに、宇那根西遺跡（23）、中島遺跡（26）、伊勢ノ木遺跡（27）などで、当期に属する遺構や遺物が発見されている。

中世

中世の利根川は、羽生市川俣で会の川、長竹遺跡の位置する加須市大越で北川辺蛇行流路跡、浅間川に分流していた。大越地区は武蔵国太田荘の東端に属し、浅間川を境として下総国下河辺荘と接していた。太田荘は、北は羽生市から南はさいたま市岩槻区にまで及ぶ広大な荘園で、平安時代末期に成立した八条院領荘園の一つである。

鎌倉時代の歴史書である『吾妻鏡』には、鎌倉幕府による太田荘の堤防修復や荒地開墾の記事がみられ、低地開発が本格化したと考えられる。

遺跡周辺はまた、太田荘を開発した太田氏の傍流にあたり、下野国小山を本拠とする小山氏

の縁故地でもあった。宮西遺跡の南側には貞和元（1345）年の銘文がある鎌倉武士の「小山朝正の墓」と伝承されている宝篋印塔が残されている。近接する徳正寺は小山朝正の祈願所で、小山義政（？～1382年）の再興と言われている。現利根川に沿いに朝正墓所を通過する道は、小山・宇都宮方面へ通じる「鎌倉街道」支道、羽倉道の候補になっている。

室町時代にはこの地域一帯は、関東管領上杉方と、鎌倉を追われ下総国古河に拠点を移した足利氏の古河公方方との勢力争いの地となった。続く戦国時代には、相模国小田原に本拠地を構え、関東地方に勢力を拡大してきた後北条氏と、上杉氏との間で争奪戦が繰り広げられた。

こうした歴史的背景のもと、この地域に新たに移住した人々が残した遺跡には、加須市旧利根川堤防跡（2）と羽生市東畑遺跡（8）がある。

旧利根川堤防跡では、主に15世紀から16世紀後半にかけて機能していた集落と墓域が検出された。土壙や井戸跡が多数検出され、貿易陶磁器や古瀬戸製品が出土した。遺跡の西側には墓域が広がり、126基からなる土壙墓群が発見された。その多くには人骨が残っており、銭貨やかわらけ、数珠玉が副葬されていた。一部の井戸跡からは、15世紀から16世紀代の板碑や五輪塔・宝篋印塔がまとまって出土した。

東畑遺跡では、戦国時代から江戸時代にかけての掘立柱建物跡、道路跡、井戸跡などが検出された。井戸跡のなかには、複数の割れた板碑の上から、かわらけや石臼、焼石、散乱した種実類が出土したものがあり、何らかの祭祀行為が行われた可能性が指摘されている。板碑の年代は14世紀から15世紀代である。

その一方で、宮西遺跡、宮東遺跡、樋ノ口遺跡、茂手木遺跡、屋敷裏遺跡、米の宮遺跡、北尾崎北遺跡では、古代から引き続いて人々が生活を営んでいたことが明らかになっている。

宮西遺跡では、15～16世紀代を主体とする井戸跡や土壙、溝跡が検出され、宮東遺跡からは、中世陶器や板碑が出土した墓壙や馬を埋葬した土壙が検出された。

米の宮遺跡からは、13世紀後半から15世紀前半にかけての掘立柱建物跡群が検出された。中には東西16ｍ、南北７ｍの大形の四面庇付きの掘立柱建物跡も含まれている。溝によって掘立柱建物跡の集中箇所、井戸跡が集中する箇所、竪穴状遺構と土壙が集中する箇所に区画されているため、各遺構が計画的に配置された屋敷跡と推定されている。

北尾崎北遺跡からは、板碑と蔵骨器を伴う集石墓や、区画溝などが検出された。

これらの利根川堤防強化事業で調査された遺跡は、中世の街道沿いに営まれた集落という性格をもつと考えられる。それぞれ時期は異なるものの居住施設や墓跡などの遺構や、陶磁器や板碑などの遺物が発見されており、大越地区を中心とした往時の繁栄の様子を窺うことができる。

利根川対岸では、飯積遺跡から井戸跡や区画溝が検出され、八反・長良遺跡から竪穴状遺構やピット群が検出されている。

板倉町内の利根川右岸地域では、大塚山古墳（24）、宝福寺遺跡（32）、舟山古墳（35）から中世墓が検出されている。

大塚山古墳の中世墓は、古墳の範囲確認調査で検出されたものである。４基いずれも土壙墓でかわらけや擂鉢が出土した。遺物の時期は15世紀代である。

宝福寺遺跡では塚の石室から２点の蔵骨器が発見された。いずれも古瀬戸の瓶子であり、14世紀代に比定されている。また、塚の盛土には経石が含まれていた。

舟山古墳では、墳丘上から常滑産の壺（蔵骨器）と擂鉢が出土した。壺は14世紀後半、擂鉢は15世紀代とされている。出土状況等は明らかではな

いが、舟山古墳からは他にも 1302 ～ 1400 年銘の板碑が発見されており、14 世紀から 15 世紀にかけて、墳丘上に中世墓が形成されていたと考えられる。

近世

近世に至ると、治水・新田・舟運の利便を図るため、徳川幕府によって大規模な利根川東遷事業が実施された。その前段階といえるのが徳川家康の四男で忍城（行田市）の城主であった松平忠吉による文禄 3（1594）年の川俣の堰における会の川の締め切りである。この事業は忍領の治水対策が目的であったが、これによって利根川の主流は会の川から加須市大越方面を経て浅間川へ至るようになる。

徳川幕府が関東郡代の伊奈氏に命じた利根川東遷事業は、元和 7（1621）年に開始された。まず、加須市大利根町佐波から旗井まで、約 4 ㎞にわたって新川通を掘削し、利根川と渡良瀬川を合流させた。さらに権現堂川の拡幅を行い、新川通から権現堂川、太日川を経て江戸湾に至る流路が利根川の本流となった。

元和 7（1621）年には赤堀川の掘削も開始された。これは、利根川を常陸川に合流させることで、利根川の水を太平洋へ注ぐ銚子河口まで繋げ、水運を整備する目的を持っていた。しかし、下総台地を掘削するために難工事となり、ようやく承応 3（1654）年に通水に成功し、利根川東遷事業は終了となった。

天明 3（1783）年には浅間山が大噴火を起こした。火災泥流が吾妻川と利根川に流れ込んだために洪水が発生し、火砕流の被害と合わせて死者が 1000 人を超える大災害となった。このため利根川の河床が上昇し、その後も頻繁に洪水が起こるようになる。

天保 9（1838）年には、合の川と浅間川は完全に締め切られ、利根川の主流は新川通に統一された。大越には黒田河岸と鈴木河岸からなる大越河岸が設けられ、北埼玉地域の物資の集積地となり大いに繁栄したという。時代は下るが、この黒田河岸を運営していた河岸問屋、黒田家由来の火鉢が宮東遺跡で採取されている。

利根川旧堤防跡では、中世の遺構群と洪水層の上に、16 世紀末から堤防が築かれていた。堤防はその後も拡幅を繰り返しながら近代に至るまで機能し続けていたことが判明した。また、同じ堤防でも、場所によって築堤の方法や材料が異なることも明らかとなり、築堤技術に関する貴重な知見を得ることができた。

東畑遺跡では、道路跡と屋敷の区画溝が検出された。一条の溝跡からは、豊富な陶磁器類とともに鉄鍋と鉄瓶が出土した。この溝跡は、天明の浅間山大噴火の際に飛来した火山灰を含む砂で埋没しており、利根川の洪水によって廃絶されたと考えられる。この地表を覆った洪水砂層と、下層の耕作土を入れ替えるために、天地返しを行った災害復旧痕も検出された。

対岸の板倉町島悪途遺跡（22）では、江戸初期前後に開かれた畠跡が検出された。天明の大噴火以来、幾度かの洪水を受けていた痕跡が認められるにもかかわらず、畠の区画は、18 世紀中頃以前まで同じ位置に維持されていたことが判明した。

これらの遺跡から、当時の為政者の洪水防止のための絶え間ない努力とともに、農民の土地に対する執着の強さ、災害復興にかける強い意志を垣間見ることができる。

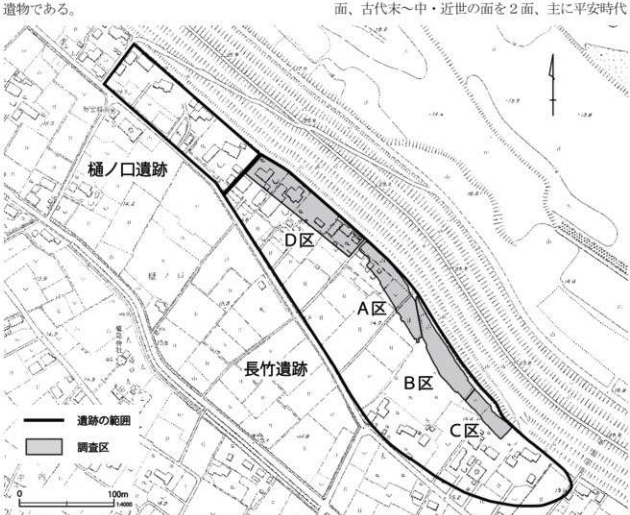
Ⅲ　遺跡の概要

長竹遺跡は、利根川沿いの埋没台地上に立地する縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。遺跡は、地盤の沈降と河川の氾濫のため、分厚い堆積土で覆われており、現地表面から縄文時代の遺構の確認面まで、最大で厚さ３～４ｍにも及んでいる。その堆積過程において、古墳時代から古代及び中・近世の生活面が、間層を挟んで重なり合っている。そのため、古墳時代から近世までの文化層を第一面、縄文時代の文化層を第二面として調査を実施した。

今回報告の対象とするのは、調査区の中で最も上流側のD区における第一面で検出された遺構と遺物である。

A区に接するD区の南東側には第二面である縄文時代の盛土遺構（北盛土・『長竹遺跡Ⅲ』で報告）が埋没していた。盛土頂部付近では、第一面の遺構確認面との差がほとんどないため、第一面の遺構は盛土を基盤層として、盛土遺構を掘り込んで構築されていた。

D区第一面では、奈良・平安時代と中・近世の遺構が検出された。第一面と一括呼称しているが、古代と中・近世の遺構確認面は必ずしも同一面ではなく、地点によっては 40 ～ 50 ㎝の間層を挟む。調査では３枚の遺構確認面が検出された。今回の報告では、中・近世の遺構確認面を１面、古代末～中・近世の面を２面、主に平安時代



第３図　遺跡位置図

の遺構が確認された面を３面と呼称する。なお、下流側のＡ～Ｃ区の第一面では、古墳時代後期の竪穴住居跡や畝跡などが検出された（『長竹遺跡Ⅰ』で報告）が、Ｄ区では当該期の遺構は確認されなかった。ただし、遺構外や溝跡など近世の遺構の覆土中から、当該期の土師器や埴輪などの遺物が採取されている。

Ｄ区第一面で検出された奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡３棟、土壙20基、溝跡８条（うち２条は第二面で検出）、杭列跡（ピットが直線的に連続する遺構を杭列跡と呼称する）６条、畝跡（正確には畝間跡であるが、本報告書では畝跡と呼称する）140条である。このうち、竪穴住居跡などの主たる遺構は、現地表面約１ｍ下の３面から検出された。標高は14.5ｍ前後である。

竪穴住居跡はおおむね一辺３～５ｍの方形を呈し、規模や形状に大きな差異は認められない。分布状況は散漫でカマドの向きも一定ではない。しかし、中央を横切る第83号溝跡を境に、南側には８～９世紀代の住居跡が含まれるため、少なくとも２つの異なる住居跡群として捉えることが可能である。カマドは燃焼部が壁外に張り出し気味のものが多い。この時期のものとしては珍しく、煙道の天井部が残っているカマドも検出された。

住居跡から出土した遺物は、ロクロ土師器の坏埦類が最も多く、土師器甕や須恵器坏類なども含まれる。須恵器には、南比企窯跡群など、武蔵国内で生産されたもののほかに、下野国三毳山山麓窯跡群など、近隣諸国から流通した製品も含まれている。また、破片のみ数点ではあるが、灰釉陶器も出土した。これらの遺物から、住居跡の時期は、奈良時代にさかのぼる１軒を除き、そのほとんどが平安時代で、中期（10世紀代）が中心になることが判明した。

掘立柱建物跡は３棟検出されたが、うち１棟は西側に廂のついた２×３間の側柱建物跡と考えられる。

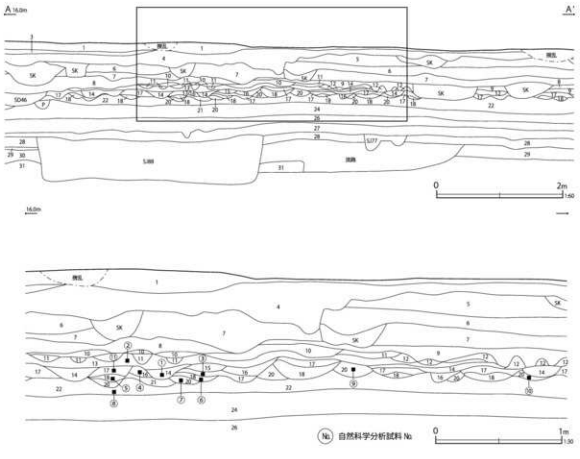
畝跡（畝跡Ｂ）は、竪穴住居跡の確認面（３面）よりも40～50㎝上の面から検出された。この面を２面とする。畝跡の方向は調査区を横切る形で南西から北東に延びている。覆土に堆積していた細粒軽石層は分析の結果、天仁元（1108）年に浅間山から噴出した浅間Ｂテフラ（As-B）と同定された。浅間Ｂテフラは広範囲にわたって堆積していることから、11世紀代には耕作が行われていたと推定される。

中・近世の遺構は、竪穴状遺構３基、土壙140基、火葬跡５基、井戸跡21基、溝跡41条、杭列跡４条、畝跡180条、ピット126基である。主に１面と２面で確認された。

１面では、井戸跡や溝跡・土壙などが多数検出された。これらはそのほとんどが近世に属する。土壙はその多くが用途不明であるが、木桶を埋めたいわゆる埋設桶も検出された。２基並んでいるものが多く、杭列跡で囲われた中心に位置するものも存在する。井戸跡は素掘りのものが最も多いが、井戸側を備えた井戸跡も含まれていた。これらの遺構からは、主に18世紀から19世紀にかけての陶磁器や焙烙、かわらけなどが出土している。

溝跡は、畝跡と直交もしくは並行するものが多く、なかには畠の区割りや地境を目的に掘削されたものもあると推定される。その一部は中世の段階でも機能していたようであり、常滑甕や片口鉢など、中世に帰属する遺物が出土している。

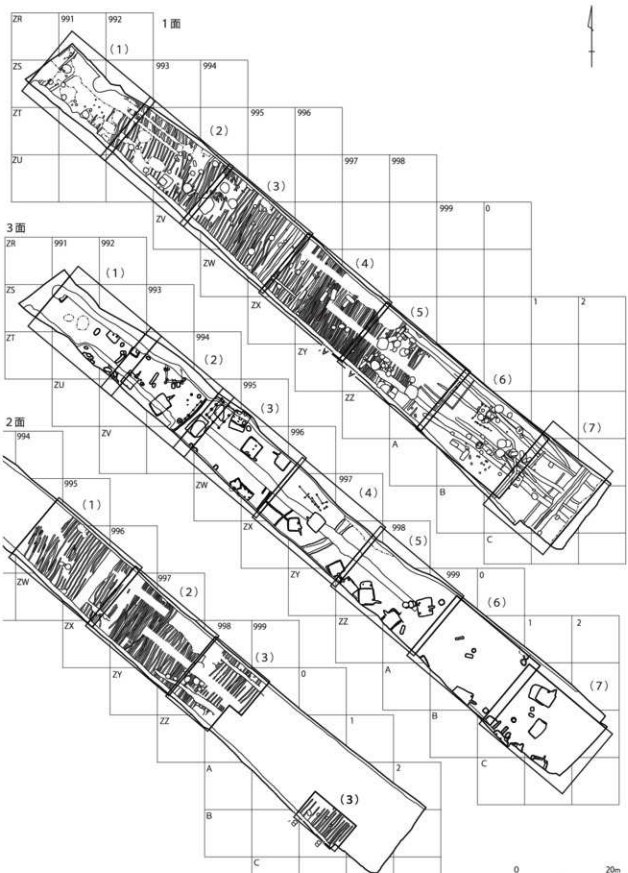
畝跡（畝跡Ａ）は、一条の規模は畝跡Ｂとほぼ同等で方向も共通するが、畝跡Ｂの約２倍ほどの面積を有する。畝跡Ａと12世紀初頭に廃絶した畝跡Ｂの間には、４～10㎝程度の間層を挟む。畝跡Ｂ確認面（２面）では、その間層から掘り込まれ、畝跡Ｂを切る土壙や溝跡などの遺構も検出された。これらの遺構の時期は不明であるが、その重複関係から中世～近世前半と推定される。



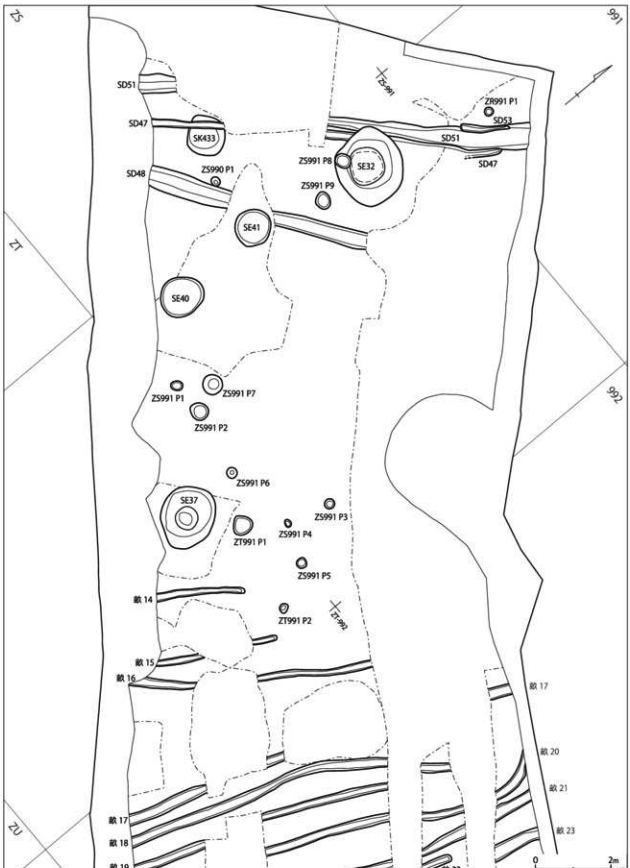
調査区西壁断面

1 表土
2 灰黒色土
3 灰色土　シルト質土　鉄分多量
4 灰褐色土　灰色シルトをブロック状に含む　白色粒子含む　鉄分多量
5 褐色土　炭化物微量　白色粒子・赤色粒子少量　粘土ブロック含む
6 暗茶褐色土　シルト質土　褐色粘土ブロック含む　粘性強い
7 灰褐色～褐色土 シルト質土　灰白色粘土ブロック・黒色粒子・白色粒子含む
8 にぶい褐色土　シルト質土　灰白色粘土ブロック含む　下層に多い
9 灰褐色土　砂質土　しまりなし　粘性なし
10 灰褐色土　砂質土
11 灰褐色土　シルト質土
12 暗褐色土　黄褐色粒子含む　しまりあり　粘性あり
13 青灰色土　砂質土　しまりなし　粘性なし
14 青灰色土　13層に灰色粘土多量に混入
15 灰色土　砂質土　白色粘土ブロック多量
16 灰色土　15層より砂質土の割合が多い
17 明褐色土　シルト質土に白色粘土ブロック多量
18 灰褐色の細粒輝石堆積層
19 黄褐色土　灰色シルトを斑に含む
20 灰褐色土　灰色粘土ブロックとシルト質土を含む　しまりあり
21 褐色土　粘質土　灰白砂質土多量
22 灰褐色土　粘質土　鉄分含む　しまりあり　粘性あり
23 暗褐色土　黄褐色土粒子含む　しまりあり　粘性あり
24 灰褐色土　23層より鉄分が多い　粘土ブロックとシルト質土を斑に含む
25 灰褐色土　粘質土　赤色粒子・炭化物少量
26 灰褐色土　粘質土　鉄分を斑に含む　シルト質土をブロック状に含む　粘性あり　しまりあり
27 暗褐色土　シルト質土　炭化物（φ1mm）少量　粘性ややあり
28 黒褐色土　古代遺物包含層　粘性あり
29 暗褐色土　粘性あり
30 暗褐色土　粘性あり
31 黒褐色土
32 褐色土　下層に黄色土粒子（φ2～5mm）・ブロックやや多量　しまりややあり　粘性ややあり
33 暗褐色土　焼土粒子少量　しまりややあり　粘性あり
34 暗褐色土　炭化物・焼土・骨小片微量　しまりあり　粘性あり
35 褐色土　骨小片微量　しまりあり　粘性ややあり
36 暗褐色土　骨小片微量　褐色土斑に含む　しまりあり　粘性ややあり
37 褐色土　骨小片微量　しまりややあり　粘性ややあり

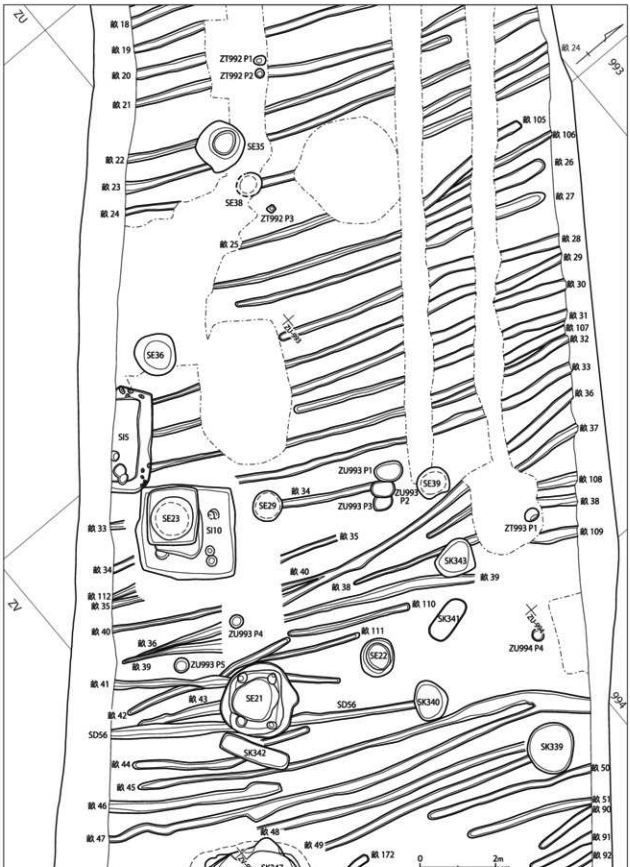
第4図　調査区西壁土層断面図



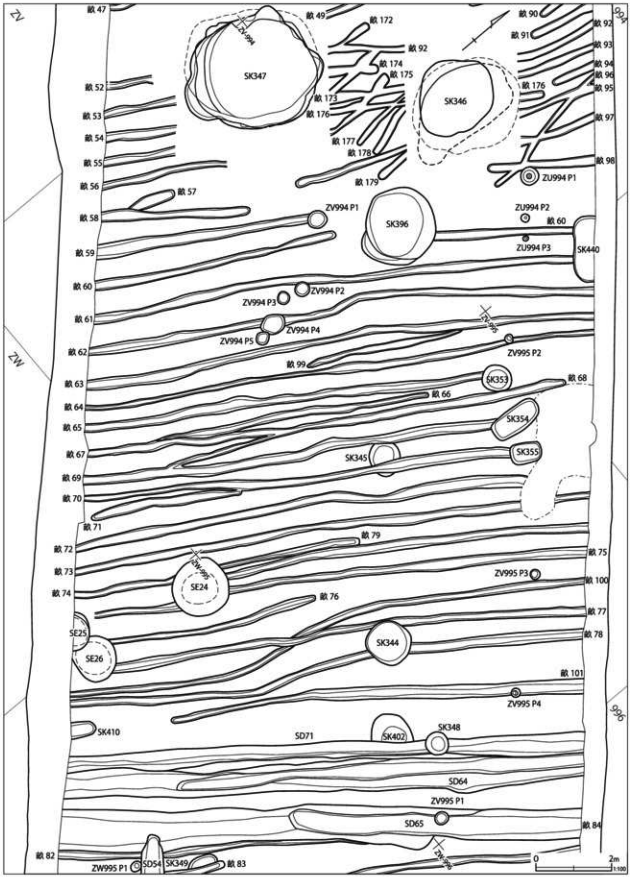
第５図　遺構全体図


SD51
SD47
SK433
SD48
ZS990 P1
ZS991 P8
SE32
ZS991 P9
SE41
SE40
ZS991 P1
ZS991 P7
ZS991 P2
ZS991 P6
SE37
ZT991 P1
ZS991 P3
ZS991 P4
ZS991 P5
ZT991 P2
ZT991
ZR991 P1
SD53
SD51
SD47
畝 14
畝 15
畝 16
畝 17
畝 18
畝 19
畝 22
畝 17
畝 20
畝 21
畝 23
0
2m

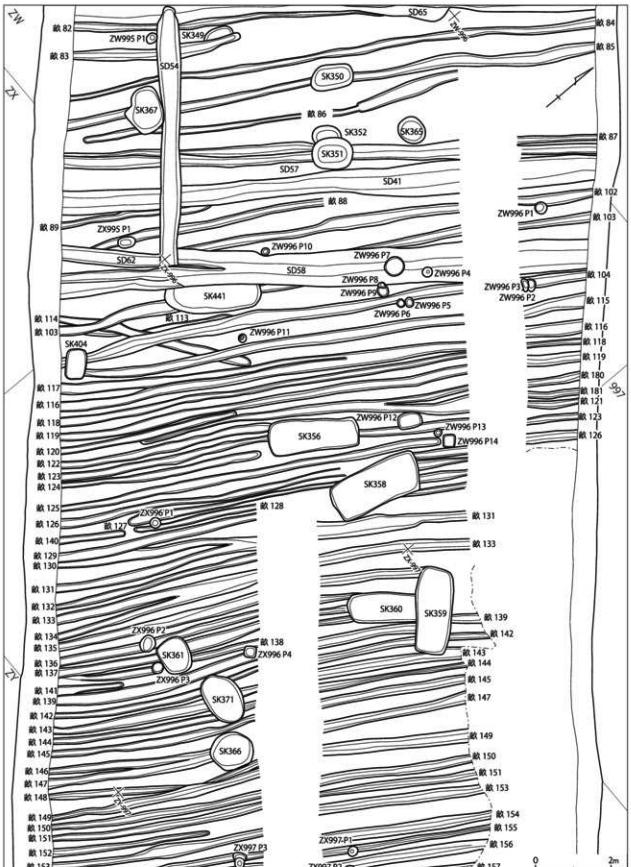
第６図　１面の遺構（１）


ZU
ZV
ZW
ZX
畝18
畝19
畝20
畝21
畝22
畝23
畝24
畝25
畝105
畝106
畝26
畝27
畝28
畝29
畝30
畝31
畝107
畝32
畝33
畝36
畝37
畝108
畝38
畝109
畝34
畝35
畝40
畝112
畝39
畝41
畝42
畝43
畝44
畝45
畝46
畝47
畝48
畝49
畝172
畝110
畝111
畝50
畝51
畝90
畝91
畝92
ZT992 P1
ZT992 P2
ZT992 P3
SE35
SE38
SE36
SI15
SE23
SI10
SE29
ZU993 P1
ZU993 P2
ZU993 P3
SE39
ZT993 P1
SK343
SK341
SE22
ZU994 P4
ZU993 P4
ZU993 P5
SE21
SD56
SK340
SK342
SK339
SK347
0
2m
1/100

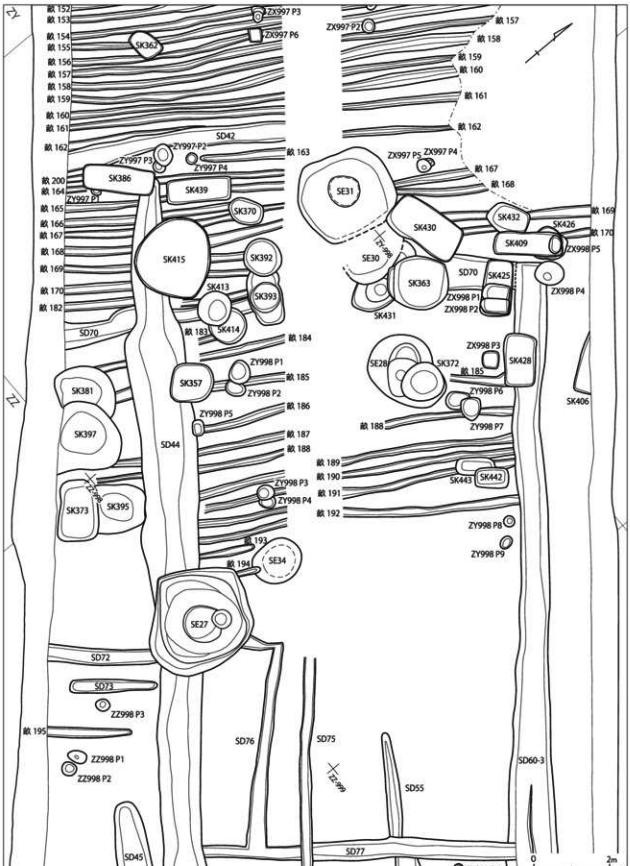
第7図　1面の遺構（2）


ZV
ZW
ZX
ZY
畝47
畝49
畝172
畝90
畝92
畝91
畝93
畝94
畝96
畝95
畝97
畝98
畝52
畝53
畝54
畝55
畝56
畝57
畝58
畝59
畝60
畝61
畝62
畝63
畝64
畝65
畝67
畝69
畝70
畝71
畝72
畝73
畝74
畝92
畝174
畝175
畝173
畝176
畝177
畝178
畝179
畝176
畝60
畝99
畝66
畝68
畝79
畝75
畝100
畝76
畝77
畝78
畝101
畝84
畝82
畝83
SK347
SK346
SK396
SK440
SK353
SK354
SK355
SK345
SK344
SK410
SD71
SK402
SK348
SD64
SD65
SE24
SE25
SE26
SD54
SK349
ZV994 P1
ZV994 P2
ZV994 P3
ZV994 P4
ZV994 P5
ZV995 P1
ZV995 P2
ZV995 P3
ZV995 P4
ZW995 P1
ZU994 P1
ZU994 P2
ZU994 P3
0
2m
1:100

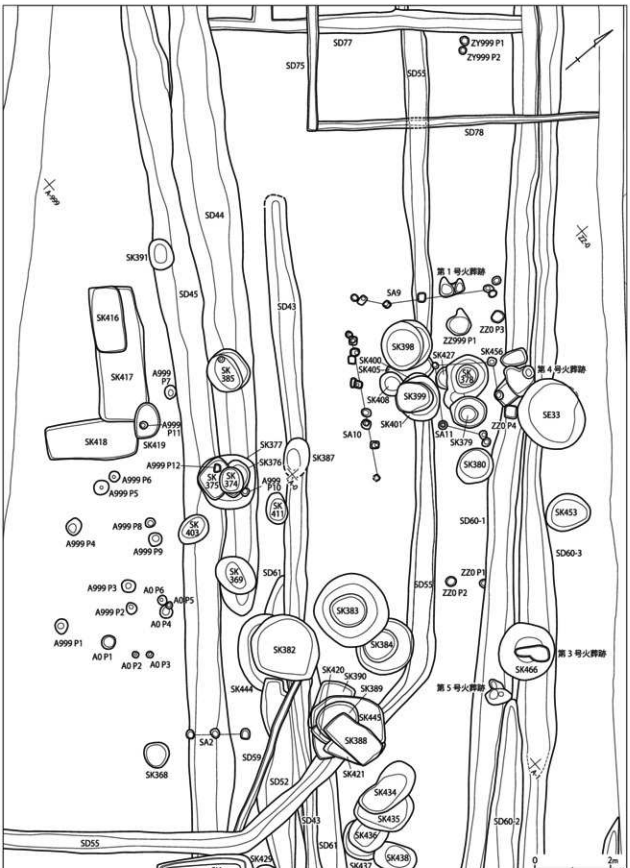
第８図　１面の遺構（３）


ZW
ZX
ZY
997
SD65
ZW-996
ZW995 P1
SK349
SD54
SK350
SK367
SK352
SK365
SK351
SD57
SD41
ZX995 P1
SD62
ZW996 P10
ZW996 P7
SD58
ZW996 P4
ZW996 P8
ZW996 P9
ZW996 P5
ZW996 P6
SK441
ZW996 P11
SK404
ZW996 P1
ZW996 P3
ZW996 P2
ZW996 P12
ZW996 P13
ZW996 P14
SK356
SK358
ZX996 P1
ZX996 P2
SK361
ZX996 P4
ZX996 P3
SK371
SK366
SK360
SK359
ZX997 P3
ZX997-P1
ZX997 P2
0
2m
1:100

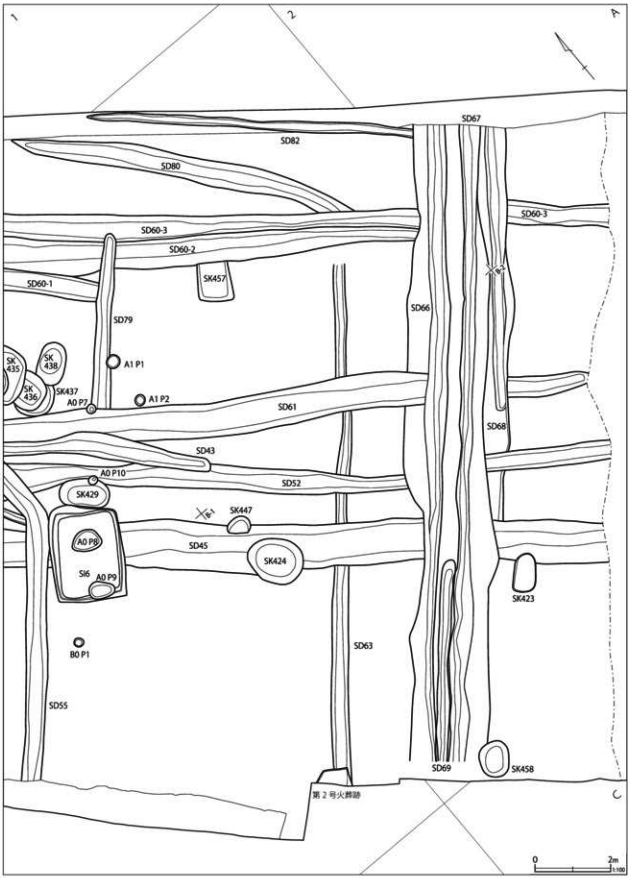
第９図　１面の遺構（４）


ZX
ZZ
畝 152
畝 153
畝 154
畝 155
畝 156
畝 157
畝 158
畝 159
畝 160
畝 161
畝 162
畝 163
畝 164
畝 165
畝 166
畝 167
畝 168
畝 169
畝 170
畝 182
畝 183
畝 184
畝 185
畝 186
畝 187
畝 188
畝 189
畝 190
畝 191
畝 192
畝 193
畝 194
畝 195
畝 157
畝 158
畝 159
畝 160
畝 161
畝 162
畝 163
畝 164
畝 165
畝 166
畝 167
畝 168
畝 169
畝 170
畝 182
畝 183
畝 184
畝 185
畝 186
畝 187
畝 188
畝 189
畝 190
畝 191
畝 192
畝 193
畝 194
畝 195
ZX997 P3
ZX997 P6
ZX997 P2
SK362
SD42
ZY997-P2
ZY997 P3
ZY997 P4
SK386
SK439
ZY997 P1
SK370
SK415
SK392
SK413
SK393
SK414
SD70
SK357
ZY998 P1
ZY998 P2
SK381
SK397
SD44
ZY998 P5
ZZ998
SK373
SK395
ZY998 P3
ZY998 P4
SE34
SE27
SD72
SD73
ZZ998 P3
ZZ998 P1
ZZ998 P2
SD76
SD75
ZZ999
SD55
SD45
SD77
ZY999 P1
SE31
ZX997 P5
ZX997 P4
SK430
SE30
ZY998
SK363
SK431
SD70
SK425
ZX998 P1
ZX998 P2
SK432
SK426
SK409
ZX998 P5
ZX998 P4
SE28
SK372
ZY998 P3
SK428
ZY998 P6
ZY998 P7
SK406
SK443
SK442
ZY998 P8
ZY998 P9
SD60-3
0
2m
1:100

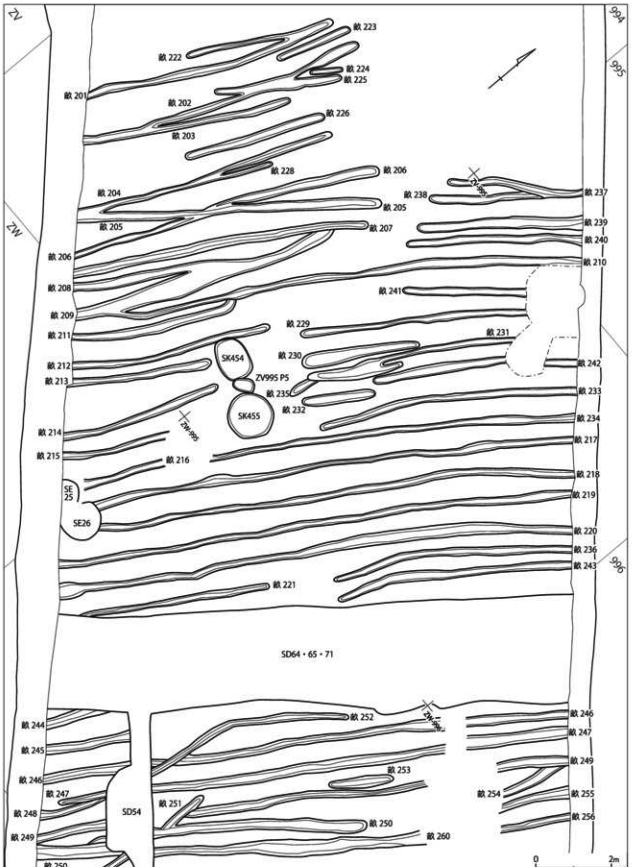
第10図　1面の遺構（5）


SD77
ZY999 P1
ZY999 P2
SD75
SD55
SD78
SD44
SD45
SD43
SK391
SK416
SK417
SK418
SK419
A999 P7
A999 P11
SK 385
第 1 号火葬跡
SA9
ZZ0 P3
ZZ999 P1
SK398
SK456
SK400
SK405
SK427
第 4 号火葬跡
SK 378
SK408
SK399
SK401
SA10
SA11
SK379
ZZ0 P4
SE33
SK380
SK377
SK376
SK387
A999 P12
A999 P10
SK 375
SK 374
SK 411
A999 P6
A999 P5
A999 P8
A999 P4
A999 P9
SK 403
SK453
SD60-1
SD60-3
SD61
SK 369
SD55
ZZ0 P1
ZZ0 P2
A999 P3
A0 P6
A0P5
A999 P2
A0 P4
A999 P1
A0 P1
A0 P2
A0 P3
SK383
SK382
SK384
SK420
SK390
SK389
SK444
SK445
SK388
SK466
第 3 号火葬跡
第 5 号火葬跡
SA2
SD59
SK368
SD52
SK421
SK434
SK435
SK436
SK437
SK438
SD43
SD61
SD60-2
SD55
SK429
SI6
0
2m
1:100

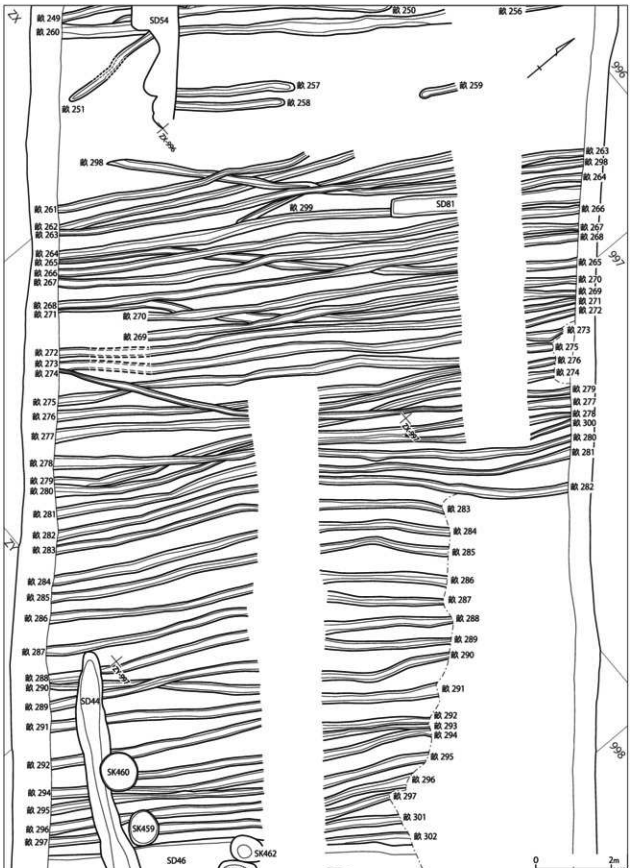
第 11 図　1 面の遺構（6）


1
2
A
C
SD67
SD82
SD80
SD60-3
SD60-2
SD60-1
SD79
SK457
SD66
SD61
SD43
SD52
SD45
SD63
SD55
SD68
SD69
SK458
SK423
SK424
SK429
SK447
SK435
SK438
SK436
SK437
A1 P1
A1 P2
A0 P7
A0 P10
A0 P8
A0 P9
SI6
B0 P1
第２号火葬跡
0
2m

第12図　１面の遺構（７）

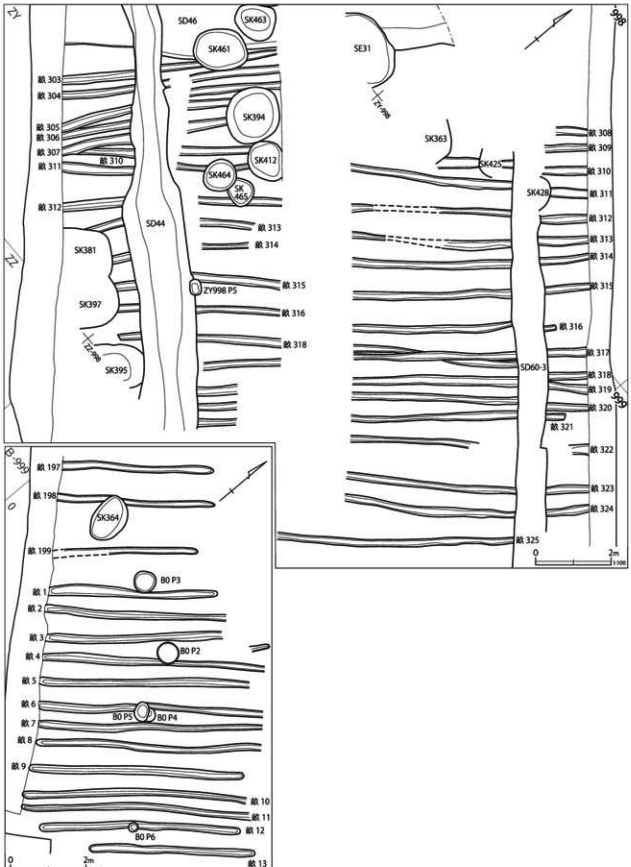

ZV
ZW
994
995
996
畝 201
畝 202
畝 203
畝 204
畝 205
畝 206
畝 207
畝 208
畝 209
畝 210
畝 211
畝 212
畝 213
畝 214
畝 215
畝 216
畝 217
畝 218
畝 219
畝 220
畝 221
畝 222
畝 223
畝 224
畝 225
畝 226
畝 228
畝 229
畝 230
畝 231
畝 232
畝 233
畝 234
畝 235
畝 236
畝 237
畝 238
畝 239
畝 240
畝 241
畝 242
畝 243
畝 244
畝 245
畝 246
畝 247
畝 248
畝 249
畝 250
畝 251
畝 252
畝 253
畝 254
畝 255
畝 256
畝 260
SK454
SK455
ZV995 P5
SE25
SE26
SD54
SD64・65・71
0
2m
1:100

第13図　2面の遺構（1）

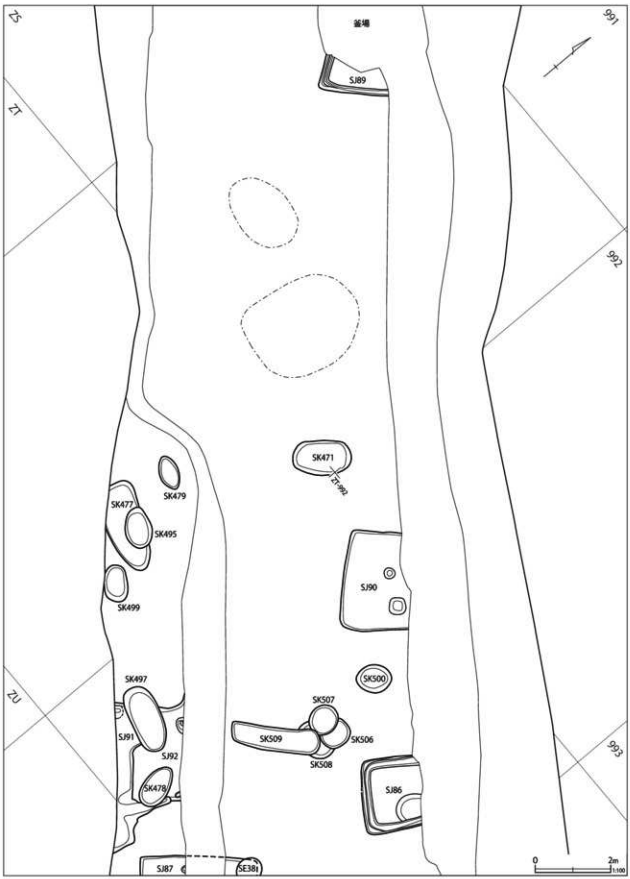


ZX
SD54
SD81
SD44
SD46
SK460
SK459
SK462
SK463
ZX-996
ZX-997
996
997
998
0
2m
1:100

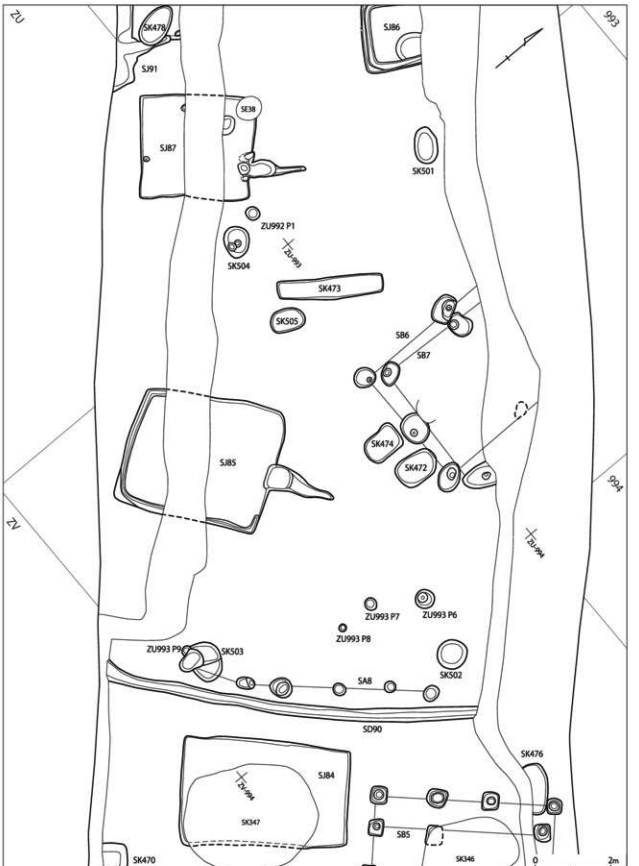
第 14 図　2 面の遺構（2）


SD46
SK463
SK461
SE31
SK394
SK412
SK464
SK 465
SD44
SK381
SK397
SK395
ZY998 P5
SK363
SK425
SK428
SD60-3
SK364
B0 P1
B0 P2
B0 P3
B0 P4
B0 P5
B0 P6
畝 303
畝 304
畝 305
畝 306
畝 307
畝 310
畝 311
畝 312
畝 313
畝 314
畝 315
畝 316
畝 318
畝 308
畝 309
畝 317
畝 319
畝 320
畝 321
畝 322
畝 323
畝 324
畝 325
畝 197
畝 198
畝 199
畝 1
畝 2
畝 3
畝 4
畝 5
畝 6
畝 7
畝 8
畝 9
畝 10
畝 11
畝 12
畝 13
0
2m

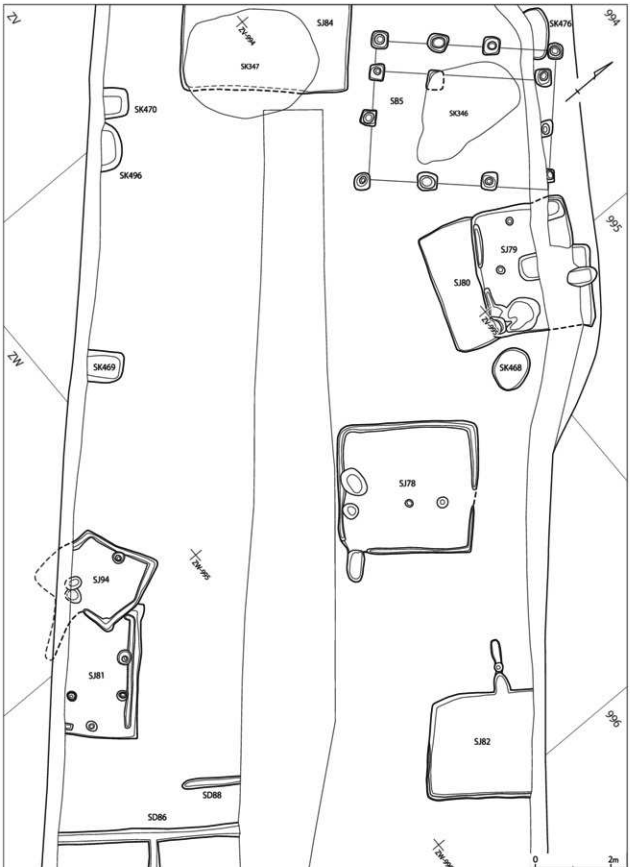
第15図　２面の遺構（３）


ZS
ZT
ZU
991
992
993
盖場
SJ89
SK471
ZT-992
SK479
SK477
SK495
SK499
SJ90
SK500
SK497
SK507
SK509
SK506
SK508
SJ91
SJ92
SK478
SJ86
SJ87
SE381
0
2m
1:100

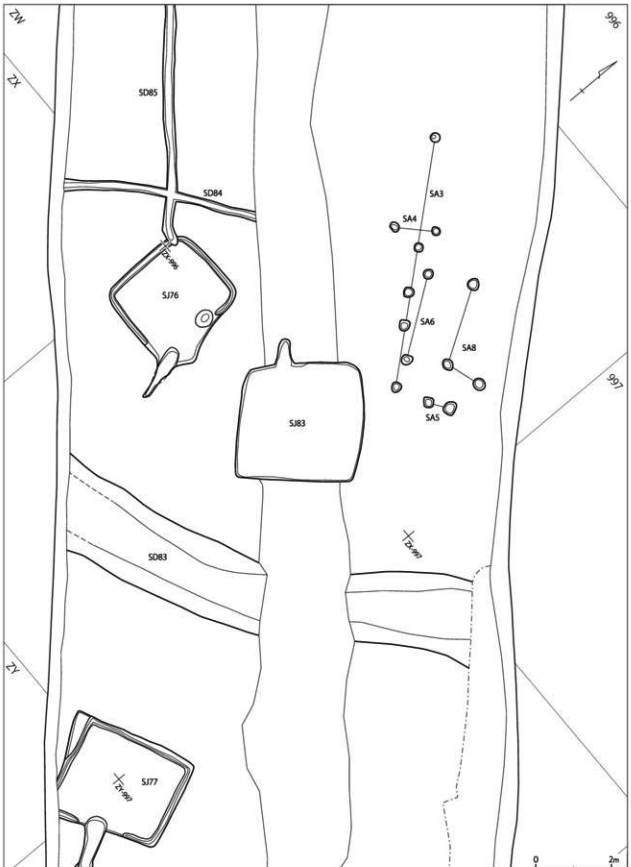
第16図　3面の遺構（1）


ZU
ZV
993
994
SK478
SJ91
SJ86
SE38
SJ87
SK501
ZU992 P1
SK504
ZU/W
SK473
SK505
SB6
SB7
SJ85
SK474
SK472
ZU/W
ZU993 P7
ZU993 P6
ZU993 P8
ZU993 P9
SK503
SA8
SK502
SD90
SK476
SJ84
ZU/W
SK347
SB5
SK346
SK470
0
2m
1:100

第17図　3面の遺構（2）


2V
SJ84
SK347
SK476
994
SK470
SB5
SK346
SK496
995
SJ79
SJ80
SK469
SK468
2W
SJ78
SJ94
SJ81
SJ82
996
SD88
SD86
0
2m
1:100

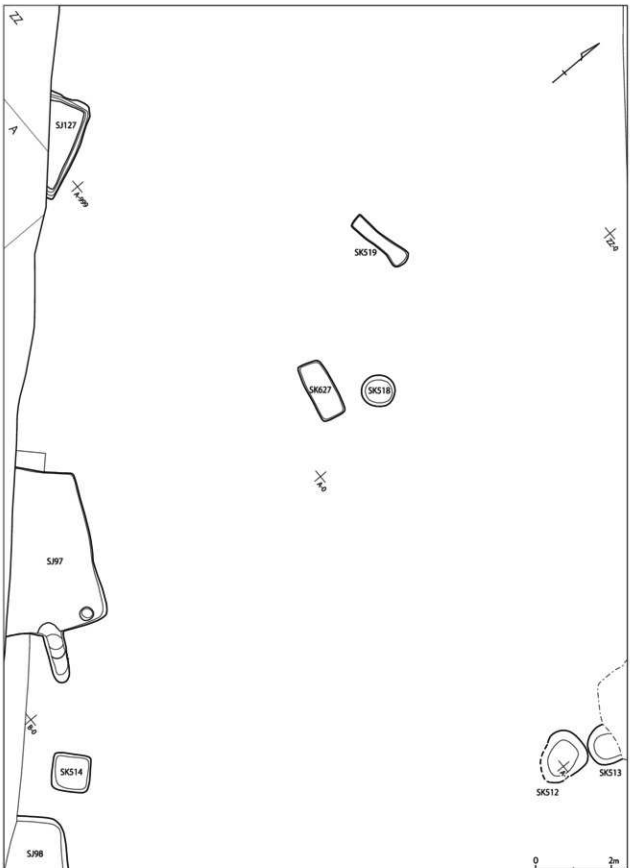
第18図　3面の遺構（3）


ZW
ZX
ZY
906
997
SD85
SD84
SD83
SJ76
SJ77
SJ83
SA3
SA4
SA5
SA6
SA8
12.4m
0
2m
1:100

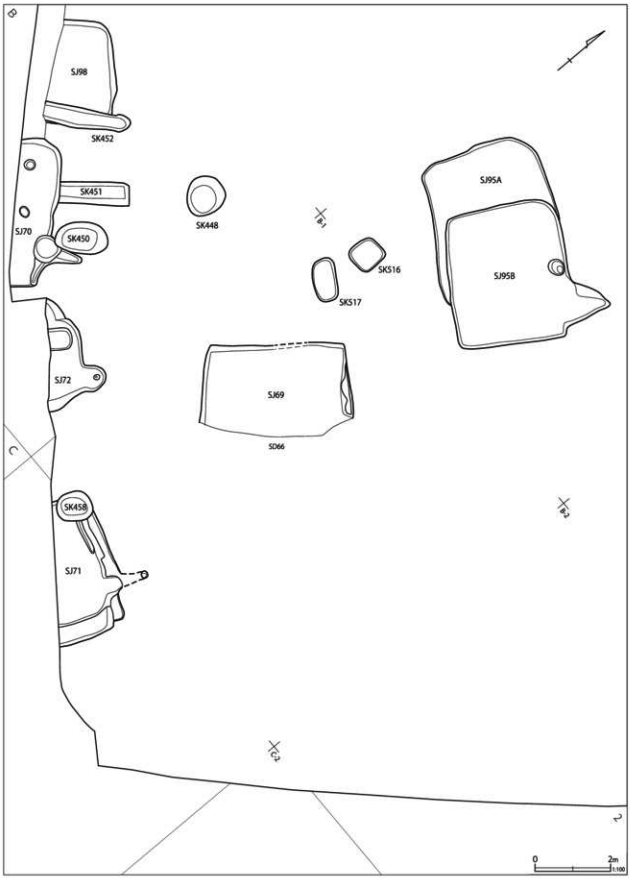
第19図　3面の遺構（4）

ZY
997
998
SJ88
SJ75
SJ74
ZY-998
ZZ
ZZ-998
SJ73
SE34
SK467
SE27
999
SK510
SJ96
SK511
ZZ-999
0
2m
1:100

第 20 図　3 面の遺構（5）



第21図　3面の遺構（6）


SJ98
SK452
SK451
SJ70
SK450
SK448
SJ95A
SJ95B
SK516
SK517
SJ72
SJ69
SD66
SK458
SJ71
0
2m
1:100

第22図　3面の遺構（7）

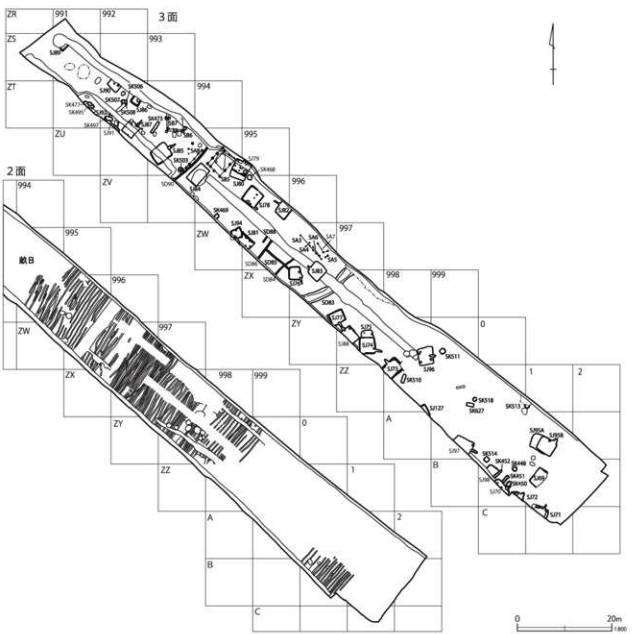
Ⅳ　遺構と遺物

1　奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡3棟、土壙20基、溝跡8条、杭列跡6条、畝跡140条である。畝跡を除く当期の遺構の多くは、現地表面約1m下の3面から検出された。標高は14.5m前後である。

住居跡の分布は散漫であるが、調査区のほぼ中央を横切る第83号溝跡を境に2つの住居跡群として捉えられる。南側は、時期的に古い8～9世紀代の住居跡を含み、北側は10世紀代の住居跡と掘立柱建物跡で構成されている。

住居跡の規模はおおむね一辺3～5m、形状は方形である。規模や形状に大きな差異は認められない。カマドは、燃焼部を壁のラインよりも外側に張り出すように構築されたものや、コーナー部



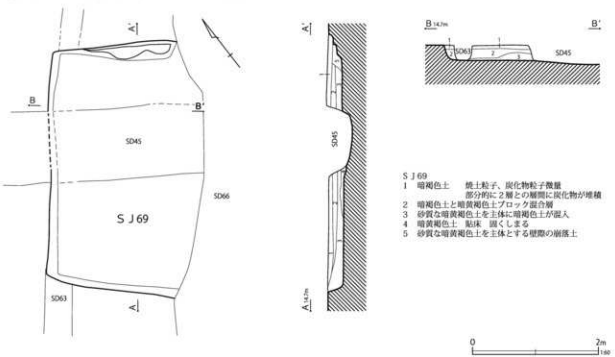
第23図　奈良・平安時代遺構全体図

分に設けられたものがある。これは、居住空間を広くとるための工夫と考えられる。この時期のものとしては珍しく、煙道の天井部が残っているカマドも検出された。

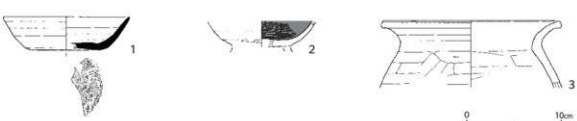
3棟検出された掘立柱建物跡のうち、第5号掘立柱建物跡は西側に廂のついた2×3間の側柱建物跡である。近接する第86号溝とそれに沿う第8号杭列跡は主軸方向が一致しており、敷地を区画する施設と考えられる。

検出された土壙のうち、その用途が判明したものはほとんどない。主として生活に関わる廃棄土壙などと推定されるが、第627号土壙はその規模や遺物の出土状況から、墓壙であった可能性が高い。

2面で検出された畠の畝跡（畝跡B）の堆積土中には、天仁元（1108）年の浅間山の噴火に伴う噴出物が含まれていた。集落が途絶えた11世紀代には、この土地が耕作地として利用されていたことを物語っている。



第24図　第69号住居跡



第25図　第69号住居跡出土遺物

第2表　第69号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(13.2)	35.0	(7.0)	C・G・H・I・K	20	良好	灰黄	三彩産	
2	ロクロ土師器	高台付埦	—	[2.7]	—	C・E・I・K	15	良好	にぶい橙	内面ミガキ 内黒 高台剥落	
3	土師器	甕	(18.6)	[7.1]	—	A・I・K	10	普通	にぶい橙	2片を図上復元	

（1）住居跡

第69号住居跡（第24・25図　第2表）

B－1グリッドに位置する。中央を第45号溝跡に、南東側を第66号溝跡等に切られている。北西壁の傾きはN—43°—Eで、北東壁から南西壁までの最大長は4.05ｍである。幅約2ｍの第66号溝跡の反対側からは検出されなかったため、形状は一辺4ｍ前後の方形を呈していたと考えるのが妥当である。

床面までの深さは0.25ｍである。覆土3層と4層にはブロック状の土が混在していることから、この住居跡は故意に埋め戻されている可能性がある。

第66号溝跡の掘削中に撹乱された焼土と炭化物が検出されたため、カマドは北東壁に構築されていたものと推定される。

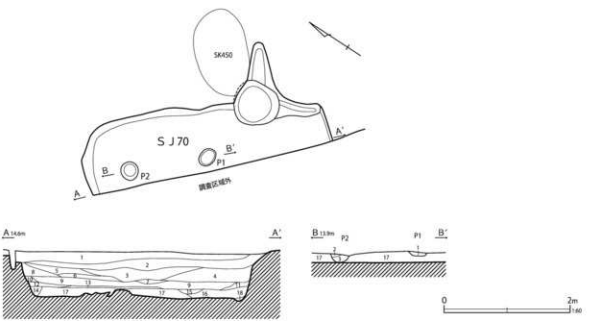
土層断面では、北東壁際にテラス状の堆積が認められたが、平面では明確にとらえることはできなかった。

床面は平坦で、部分的に貼床が認められた。

壁溝や貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

出土遺物は少なく、図示できたのは3点のみである。第25図1は栃木県三毳山麓窯跡群の製品と推定される須恵器坏である。同図2は内黒の高台付埦で、高台が剥落している。同図3は土師器甕である。同一個体の破片2点を図上で復元した。このほかに土師器の破片が十数点出土している。

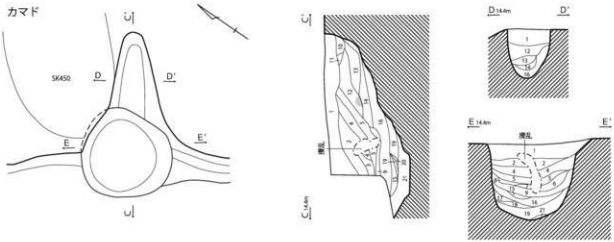
時期は9世紀後半と考えられる。



S J 70
1　褐色土　　灰色シルト（φ1～2cm）含む
2　褐色土　　灰色シルト斑に多量　焼土・炭化物（φ2～3mm）少量
3　灰褐色土　暗褐色シルト質土（φ2～3cm）多量
　　青灰色シルト質土（φ2～3cm）ブロック状に斑に多量
　　焼土（φ2～3mm）含む
4　灰褐色土　青灰色シルト質土（φ1cm）ブロック状に多量
　　焼土・炭化物（φ1～2mm）含む
5　灰褐色土　明褐色シルト質土（φ1～2cm）ブロック状に含む
　　焼土・炭化物（φ1～2mm）微量
6　灰褐色土　灰色シルト質土（φ1cm）含む
　　明褐色シルト質土（φ2～3cm）ブロック状に少量
7　明褐色土　炭化物・焼土（φ5mm）少量
8　灰褐色土　灰色シルト質土（φ1cm）ブロック状に多量
　　明褐色シルト質土（φ1～2cm）ブロック状に少量
9　暗褐色土　灰色・明褐色シルト質土（φ1cm）多量
10　明褐色土　暗褐色・灰色・明褐色シルト質土含む
11　黒褐色土　炭化物・焼土（φ5mm）多量
12　灰褐色土　明褐色シルト質土ブロック状に多量
13　黄褐色土　粘土・炭化物少量　貼床
14　暗褐色土　焼土・炭化物少量　灰色シルトブロック含む　壁溝
15　赤褐色土　黄褐色粘土・炭化物・焼土の互層
16　明褐色土　黒褐色土（φ2～3cm）ブロック状
　　焼土・炭化物（φ2～3mm）少量　掘方
17　明褐色土　黄褐色シルト質土（φ2～3cm）ブロック状
　　焼土・炭化物（φ2～3mm）少量　掘方
18　褐色土　　黄褐色・暗褐色・灰色シルト（φ2～3cm）ブロック状に含む　掘方

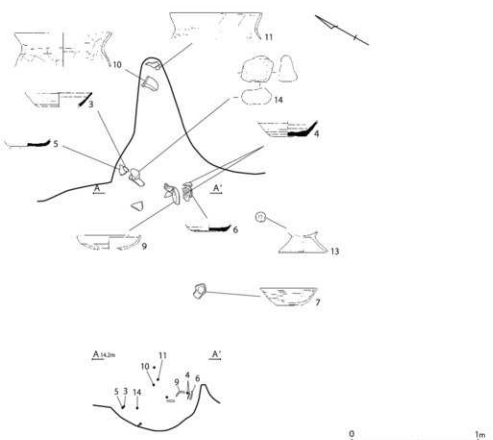
Pit1・2
1　赤褐色土　焼土（φ2～4cm）・炭・炭化物多量（P1）
2　褐色土　　黄褐色土少量（P2）
3　黒褐色土　黄褐色土ブロック状（P2）

第26図　第70号住居跡（1）

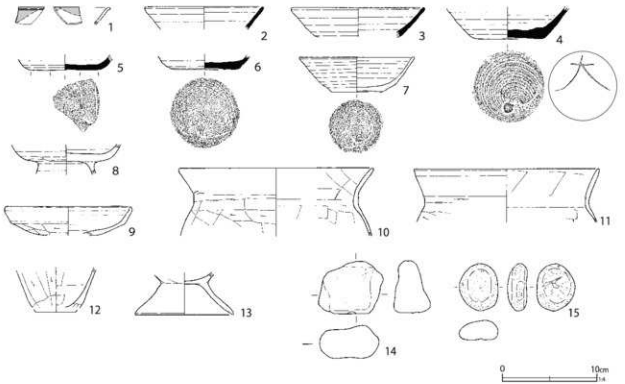


SJ70 カマド

1 褐色土　灰色シルト斑に多量　焼土・炭化物（φ2～3mm）少量
2 明褐色土　焼土（φ5mm）少量　灰色シルト質土（φ1cm）ブロック状
3 明褐色　焼土（φ5mm）少量
4 明褐色土　焼土（φ5～10mm）含む　天井崩落土
5 褐色土　焼土（φ5～10mm）多量　天井崩落土
6 赤褐色土　焼土・炭化物層
7 明褐色　焼土ブロック状多量　灰多量
8 黒色土　炭化物層
9 褐色土　焼土（φ1cm）多量
10 灰褐色土　炭化物（φ5mm）少量　暗褐色土と灰色シルトをブロック状に少量
11 赤褐色土　焼土層　煙道天井部崩落土
12 褐色土　焼土（φ1cm）ブロック状に含む　煙道天井部崩落土
13 赤褐色土　焼土層
14 灰色土　炭化物・焼土（φ2cm）含む
15 灰色土　灰層　焼土・炭化物（φ5mm）含む
16 明褐色　焼土ブロック状多量　灰含む
17 褐色土　焼土・炭化物（φ2～3mm）含む
18 褐色土　焼土（φ1cm）含む
19 黒灰色土　褐色土、焼土（φ5mm）、炭化物、灰の混合土
20 黒色土　炭化物層　焼土（φ1cm）含む
21 明褐色　貼床



第27図　第70号住居跡（2）



第 28 図　第 70 号住居跡出土遺物

第 3 表　第 70 号住居跡出土遺物観察表（第 28 図）

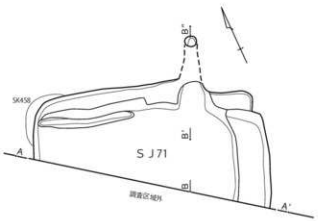
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	灰釉陶器	碗	—	[1.8]	—	I・K	5	良好	黄灰	東農産 黒笹 90 号窯式段階 灰釉刷毛塗	24-1
2	須恵器	坏	(12.5)	[2.4]	—	I・K	10	良好	灰白	カマド	
3	須恵器	坏	(14.0)	[3.1]	—	E・I・J・K	10	良好	灰	№5	
4	須恵器	坏	—	3.4	7.6	G・H・I・K	50	良好	灰	№9・15 底部刻書「大」	24-2
5	須恵器	坏	—	[1.6]	[7.4]	A・H・I・J・K	20	普通	暗灰黄	№4 底部周辺ヘラケズリ	
6	須恵器	坏	—	[1.6]	7.0	E・I・K	95	良好	灰白	№16	
7	ロクロ土師器	坏	(12.0)	3.7	5.5	C・H・I・K	60	良好	にぶい橙	№11	24-3
8	ロクロ土師器	高台付椀	—	[3.1]	—	A・E・H・I・K	40	普通	にぶい黄橙		
9	土師器	坏	(13.2)	[3.0]	—	A・C・I・K	30	普通	にぶい褐	№14	
10	土師器	甕	20.4	7.2	—	C・G・I・K	35	良好	明赤褐	カマド№8	
11	土師器	甕	(19.4)	[5.7]	—	C・E・H・I・K	15	良好	明赤褐	№2	
12	土師器	甕	—	[4.2]	—	A・E・H・I・K	20	普通	明赤褐	カマド	
13	土師器	台付甕	—	[4.5]	10.2	C・E・I・K	95	良好	明赤褐	№12	24-4
14	土製品	支脚	高さ [5.5] 幅 [6.4] 厚さ [1.9 ～ 3.8]			G・I・K	5	不良	にぶい黄橙	№6	
15	石製品	磨石	長さ 5.0 幅 4.1 厚さ 2.1 重さ 21.5							角閃石安山岩 多孔質 自然面使用	34-13

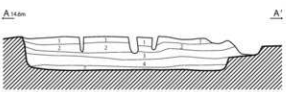
第 70 号住居跡（第 26・27 図　第 3 表）

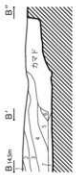
B－0 グリッドに位置する。南西側の大部分が調査区域外にかかり、カマドが構築された北東壁のみが検出された。カマドの一部を第 450 号土壙に壊されている。形状は方形を呈する。北東壁の長さは 3.77 m である。掘り込みは深く、明瞭で、床面までの深さは 0.59 m である。

床面は平坦で、部分的に貼床が認められた。

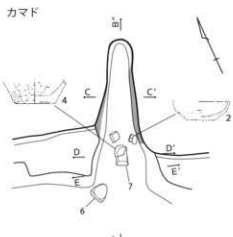
壁溝はカマドの右脇部分で検出された。幅 13 ～ 18 cm、深さ 2 ～ 4 cm である。北西壁際にも巡っていたがあまり明瞭ではなく、平面で捉えることはできなかった。

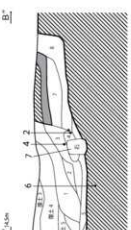


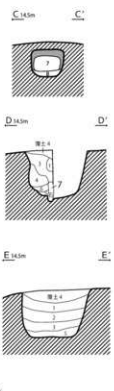




SJ71
1　暗灰褐色土　黄褐色土粒子微量・ブロック多量　粘性強い
2　暗褐色土　炭化物粒子微量　黄褐色土粒子・ブロック少量
3　黒褐色土　炭化物粒子微量　黄褐色土粒子・ブロック多量
4　黒褐色土　炭化物粒子少量　黄褐色土粒子やや多量
5　黒褐色土　焼土・炭化物粒子微量　黄褐色土粒子多量
6　黒褐色土　炭化物粒子　黄褐色土
7　黒褐色土　炭化物粒子少量　黄褐色土ブロック少量　貼床

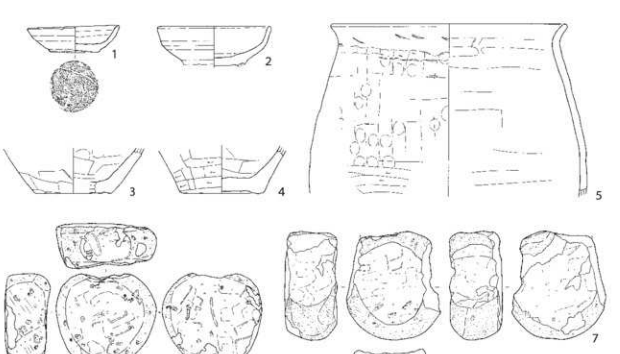






SJ71 カマド
1　暗褐色土　炭化物・焼土粒子微量　黄褐色土ブロック多量　カマド天井部崩落土
2　黒褐色土　炭化物・黄褐色土粒子微量
3　暗褐色土　底面付近に焼土ブロック堆積　カマド天井部崩落土
4　炭化物層　カマド構築材と思われる黄褐色土ブロック少量
5　炭化物層　火床面上面に堆積
6　暗褐色土　炭化物・焼土混入　カマド天井部崩落土
7　暗褐色土　炭化物・焼土粒子少量
8　炭化物層

第 29 図　第 71 号住居跡



第 30 図　第 71 号住居跡出土遺物

第 4 表　第 71 号住居跡出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師	坏	9.7	2.9	5.1	A・C・I・K	75	普通	にぶい黄橙		24-5
2	ロクロ土師	高台付椀	(11.7)	[4.3]	—	E・H・I・K	35	良好	にぶい橙	№2	
3	土師器	甕	—	[4.8]	(8.0)	A・C・H・I・K	20	普通	にぶい橙	カマド	
4	土師器	甕	—	[5.1]	(8.6)	A・G・H・I	45	普通	明赤褐	№3	
5	土師器	甕	(24.8)	[18.2]	—	A・C・E・I・K	15	良好	灰褐	カマド	
6	石製品	不明	長さ 15.2 幅 16.0 厚さ 7.2 重さ 965.0				№4 角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 幅広工具痕				
7	石製品	不明	長さ 17.3 幅 13.0 厚さ 8.4 重さ 1574.7				№5 カマド支脚 角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 煤付着 被熱 工具痕 4 面				

カマドは北東壁の東寄りに位置し、燃焼部の半分ほどが壁を掘り込んで構築されている。傾きはN―46°―Eである。燃焼部と煙道を合わせた全長は 145 ㎝、燃焼部は径 72 × 70 ㎝、煙道の長さは 64 ㎝である。燃焼部の掘り込みは浅く、皿状を呈する。底面には焼土・炭化物・灰が厚く堆積し、煙道埋土上位から天井部の崩落土（4・5層）が検出された。

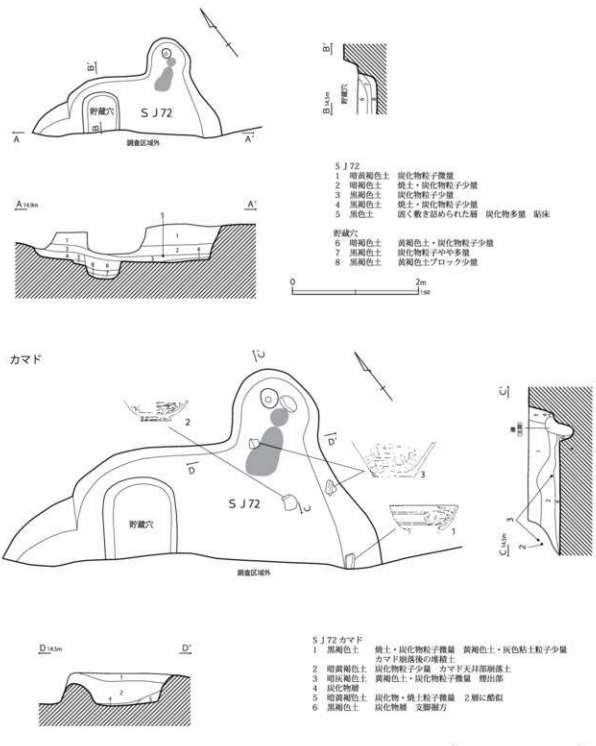
床面から浅く掘り込まれた径 30 ㎝ほどのピットが 2 基検出されたが、柱痕が検出されなかったため、柱穴かどうかは不明である。

遺物はカマドを中心に比較的残りの良い状態で出土した。第 28 図 1 は覆土から出土した灰釉陶器碗の破片である。同図 2 ～ 6 は須恵器坏で、カマド燃焼部覆土中から出土した。4 の底部には「大」の刻書が認められる。同図 10・11 は土師器甕の口縁部の破片で、煙道の煙出しに据え付けられていたものと推定される。同図 14 は支脚の破片と考えられる土製品である。カマド周辺からは図示した土器以外に、甕の胴部破片が出土している。同図 7 は覆土 1 層から出土したロクロ土師器坏で、同図 8 とともに混入品と考えられる。

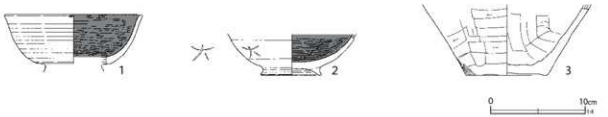
時期は８世紀末～９世紀初頭と考えられる。

第 71 号住居跡（第 29・30 図　第４表）

B・C－１グリッドに位置する。形状は方形で、北壁と東壁はテラス状に広がっている。南側は調査区域外に延びる。第 458 号土壙に北西壁隅を壊されているが、調査区壁面の断面から推定する



第 31 図　第 72 号住居跡



第 32 図　第 72 号住居跡出土遺物

第 5 表　第 72 号住居跡出土遺物観察表（第 32 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付椀	(14.4)	[5.2]	—	A・C・E・H・I・K	25	普通	にぶい黄橙	№4 内面ミガキ 内黒 漆付着 高台刺落	
2	ロクロ土師器	高台付椀	—	[4.3]	6.3	A・H・I・K	55	普通	にぶい橙	№2 内面ミガキ 内黒 外面刻書「大」	24-6
3	土師器	甕	—	[7.5]	(8.8)	A・C・G・I・K	30	普通	にぶい黄橙	№1・3	

と、北壁の長さは 3.65 mになる。床面までの深さは 0.54 mである。覆土には黄褐色土ブロックが多量に混入しているため、埋め戻されたものと考えられる。

床面は平坦で、ほぼ全面に貼床が認められる。

壁溝は北壁の西半分で検出された。幅 8 ～ 12cm、深さ 2 ～ 3cmと浅い。

カマドは北壁のやや東寄りに構築されている。傾きはN—33°—Eである。壁面よりも外側に掘り込まれ、石の支脚が壁面とほぼ同じ位置に据えられている。屋内に延びる袖は検出されず、壁面部分を利用して天井を構築したと考えられる。規模は全長 117 cm、燃焼部の幅 57 cmである。燃焼部の掘り込みはなく、底面には薄い炭化物の堆積が認められた。煙道は地山をトンネル状に掘り抜き、壁から 73 cm離れた位置に径 16cmの煙出口を設けている。天井部は崩落せずに残存しており、壁面は被熱し赤化していた。

出土遺物は少なく、第 30 図 1 のロクロ土師器坏以外はすべてカマドから出土した。同図 7 はカマドの支脚に使われていた加工された角閃石安山岩である。

時期は 10 世紀前半と考えられる。

第 72 号住居跡（第 31・32 図　第 5 表）

B － 0 グリッドに位置する。南側は調査区域外に延びる。そのため平面形状は不明であるが、方形を呈するものと考えられる。検出された北東壁の長さは 3.15 mと小型の住居跡である。床面までの深さは 0.6 mで、埋め戻された形跡は認められなかった。

床面は部分的にではあるが貼床が残っており、踏み固められている。床面直上には炭化物が薄く堆積しており、敷物の痕跡が認められた。

カマドは北東隅に設けられている。傾きはN—36°—Eである。燃焼部は壁の外側に設けられ、壁から 54 cm外に張り出している。焚口の幅は 70 cmである。燃焼部の掘り込みは認められず、床面と同じレベルである。支脚には楕円形の自然礫を利用し、半分ほど埋め込んで立てられている。削平されたためか煙道は検出されなかった。

貯蔵穴は南西隅に設けられ、南側が調査区域外にかかる。南北に長い楕円形を呈する。検出された長さは 65 cm、幅 57 cm、深さ 31 cmである。

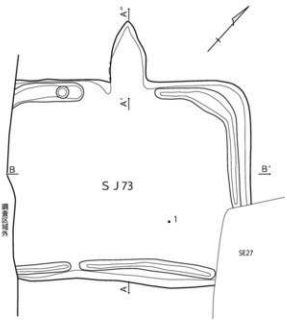
壁溝や柱穴は検出されなかった。

出土遺物は少なく、図示できたのは内黒土器 2 点（第 32 図 1・2）と甕の底部 1 点（同図 3）である。いずれもカマド周辺の覆土中～下層から出土している。2 は内黒の高台付埦である。体部外面に「大」の刻書が施されている。

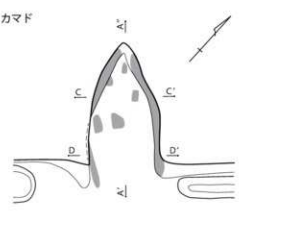
時期は 10 世紀前半と考えられる。

第 73 号住居跡（第 33・34 図　第 6 表）

ZY-998・ZZ-998 グリッドに位置する。南西壁

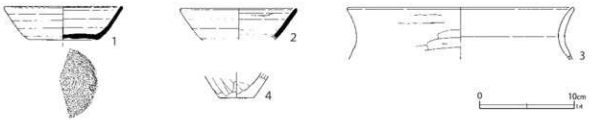


S J 73
1　暗褐色土　黒色・白色粒子（φ1㎜）少量
2　暗褐色土　黄褐色土（φ2～3㎝）ブロック状に少量
3　暗褐色土　黄褐色土（φ1㎝）ブロック状　黒色・赤色粒子少量
4　灰褐色土　黄褐色土（φ2～3㎝）ブロック状
5　灰褐色土　黒色粒子微量
6　暗褐色土　灰色シルト質土（φ5～10㎜）ブロック状に多量
7　灰褐色土　灰色シルト質土・黄褐色土（φ5～10㎜）ブロック状に多量
8　暗褐色土　焼土・炭化物（φ5㎜）少量
9　灰褐色土　灰色シルト質土（φ10㎜）ブロック状に多量
　　焼土（φ1～2㎜）少量
10　暗褐色土　焼土・炭化物（φ2～3㎜）含む　しまり強い
　　粘性あり　広狭
11　褐色土　粘質土　焼土・炭化物（φ1～2㎜）含む
　　しまり強い　粘性あり



S J 73 カマド
1　褐色土　焼土（φ5㎜）少量　黄褐色土・灰色シルト質土（φ5～10㎜）ブロック状
2　褐色土　焼土（φ5㎜）少量　灰色シルト質土（φ1㎝）ブロック状
3　褐色土　焼土（φ5㎜）少量
4　明褐色土　焼土（φ5㎜）多量
5　赤褐色土　焼土層　灰含む
6　明褐色土　焼土（φ5㎜）・灰少量
7　明褐色土　シルト質土　炭化物微量
8　灰褐色土　灰・焼土（φ2～3㎜）・明褐色土の混合層
9　灰色土　灰層　焼土（φ2～3㎜）少量

第 33 図　第 73 号住居跡



第34図　第73号住居跡出土遺物

第6表　第73号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(12.4)	3.5	(7.4)	I・K	50	普通	灰白	床直№1	
2	須恵器	坏	(12.0)	[3.3]	—	E・H・I・K	15	良好	灰		
3	土師器	甕	(23.7)	[5.5]	—	A・C・H・I・K	5	良好	明赤褐		
4	土師器	甕	—	[2.6]	(3.6)	C・E・H・I・K	25	普通	橙		

は調査区域外にかかり、南東隅を第27号井戸跡によって壊されている。平面形状は方形である。規模は長軸推定4.00m、短軸3.24m、床面までの深さは0.54mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—44°—Wである。

床面は全面的に貼床され、平らに踏み固められている。

壁溝はほぼ全周するものと考えられる。幅は16～34cm、深さは8～16cmと一定しない。

カマドは北西壁中央に設けられ、燃焼部は壁の外に張り出している。規模は長さ111cm、幅61cmである。燃焼部の掘り込みは認められない。緩やかに底をあげ、幅を狭めて煙道に至るが、煙道は検出されなかった。壁面は熱を受けて赤化している。

床面を精査したが、柱穴や貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は床面直上から須恵器坏（第34図1）が出土した。それ以外は、すべて覆土中からの出土である。図示したもののほかに、カマドの覆土から土師器甕の破片が数点出土している。

時期は9世紀中葉と考えられる。

第74号住居跡（第35・36図　第7表）

ZY-997グリッドに位置する。第75号住居跡の廃絶後に構築された住居跡である。平面形状は正方形に近く、規模は長軸3.43m、短軸3.38mである。床面までの深さは0.20mである。カマドの中心を通る主軸は、N—74°—Eである。

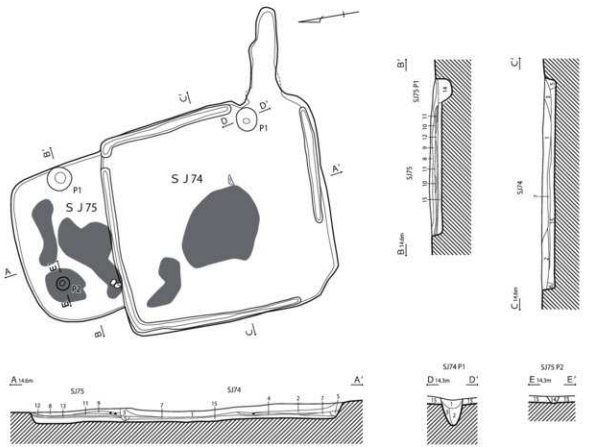
床面は踏み固められており、中央部には貼床がされていた。床面には薄い炭化物の層が部分的に認められた。

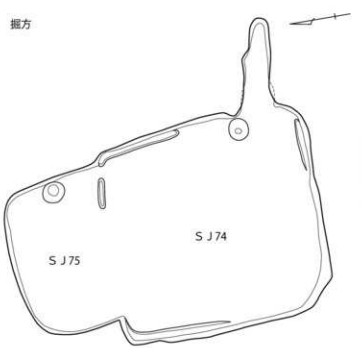
壁溝はおおむね全周するが、北東隅の一部と南西隅の周辺が途切れている。幅10～16cm、深さ7～9cmである。

カマドは北西隅に構築されている。燃焼部の掘り込みはなく、そのまま若干幅を狭め、わずかに底上げして煙道に至っている。全長は174cmで、燃焼部は半分ほど壁の外側に張り出している。煙道の天井部の一部（被熱面）が残存していたため、その土層断面から確認された燃焼部の規模は、長さ70cm、幅45cm、煙道は幅40cm、長さ104cmである。燃焼部の底面には炭化物や灰を主体とする層が堆積していたが、左側壁付近から、その堆積層がない一辺10cmの正方形の箇所が認められた。痕跡が薄く、記録をとる前に消滅してしまったが、支脚の痕跡であったと推定される。

ピットはカマド燃焼部脇に1基検出された（P1）が、柱痕は確認されなかった。径37×32cm、深さ39cmである。

出土遺物の量は非常に少ない。床面直上からは





S J74
1　褐色土　焼土・炭化物（φ2～3㎜）少量
　　炭褐色土（φ5㎜）ブロック状
2　褐色土　焼土・炭化物（φ5～8㎜）少量
　　炭褐色土ブロック状
3　褐色土　焼土・炭化物（φ5㎜）微量
　　灰色シルトブロック状
4　黒色土　炭化物層
5　褐色土　炭化物粒子少量　壁溝
6　褐色土　暗褐色土ブロック状に含む　壁溝
7　褐色土　明褐色土・焼土・炭化物含む　貼床

S J75
8　褐色土　焼土・炭化物（φ5㎜）少量
9　灰褐色　焼土（φ5㎜）多量　炭化物少量
10　黒色土　炭化物層
11　灰褐色土　粘土質　貼床
12　黒色土　炭化物層
13　褐色土　焼土・炭化物含む　貼床

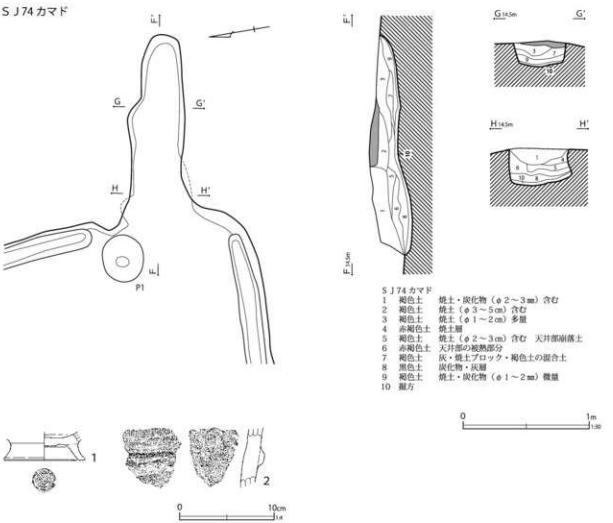
S J75　Pit1・2
14　暗褐色土　焼土（φ1～2㎝）、
　　炭化物（φ2～3㎜）含む　Pit

S J74・75
15　掘方

S J74　Pit1
1　褐色土　シルト質土　炭化物多量　焼土粒子少量
　　しまりややあり　粘性あり
2　明褐色土　シルト質土　焼土（φ2～3㎜）少量
　　しまりややあり　粘性あり
3　明褐色土　シルト質土
　　灰色シルト質土（φ5～10㎜）ブロック状に含む
　　しまりあり　粘性あり

0　2m
1:60

第35図　第74・75号住居跡



第36図　第74号住居跡・出土遺物

第7表　第74号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付埦	—	[3.0]	(7.2)	A・C・E・H・I・K	50	普通	にぶい橙	Pit1 カマド	
2	埴輪	円筒埴輪	—	[6.6]	—	A・C・E・H・I・K	5	普通	灰黄褐	掘方 突帯部	

自然礫が1点出土しているに過ぎない。図示できた帰属遺物はカマド及びＰ１覆土から出土したロクロ土師器高台付埦１点（第36図１）のみである。なお、掘方覆土からは円筒埴輪の破片（同図２）が出土した。

時期は10世紀前半と考えられる。

第75号住居跡（第35図）

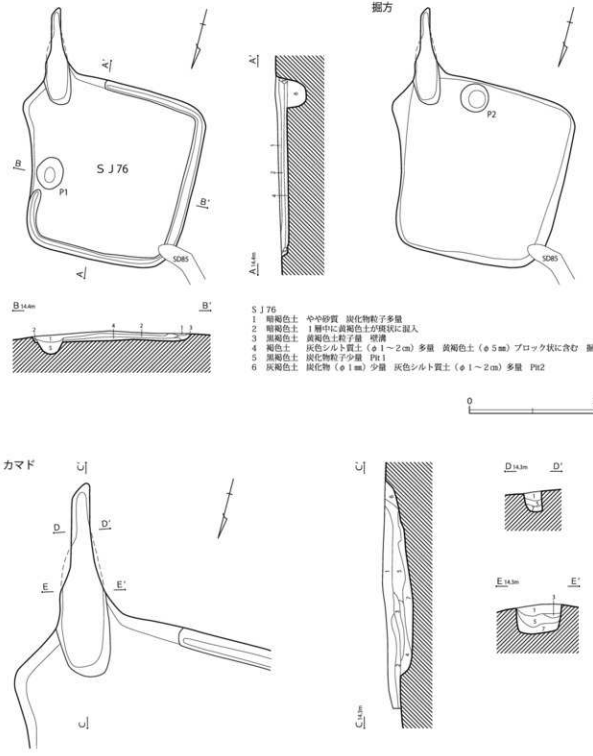
ZY-997グリッドに位置する。第74号住居跡よりも古い住居跡である。南半分が第74号住居跡によって失われ、完全に検出されたのは北壁のみである。東西軸の長さは2.48m、傾きはN―89°―Eである。床面までの深さは0.20mである。

壁の掘り込みは緩やかであるが、床面は貼床が認められ硬い。床面直上には炭化物の薄い層が部分的に堆積していた。

ピットは２基検出された。Ｐ１は径38×36㎝、深さ20㎝である。Ｐ２は径21×20㎝、深さ８㎝である。ともに柱痕は認められない。

ピット以外の施設は検出されなかった。

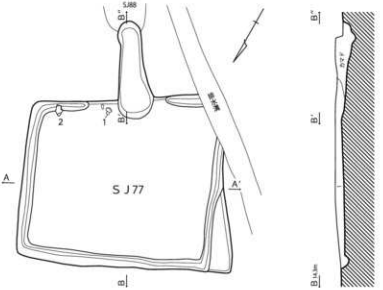
床面直上から自然礫が２点検出されたが、土器



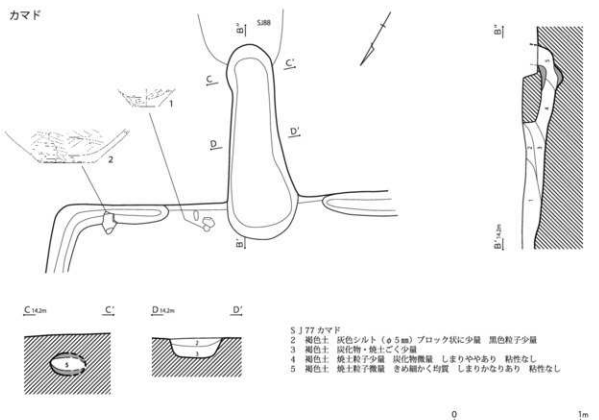
SJ76
1　暗褐色土　やや砂質　炭化物粒子多量
2　暗褐色土　1層中に黄褐色土が根状に混入
3　黒褐色土　黄褐色土粒子量　壁溝
4　褐色土　灰色シルト質土（φ1～2cm）多量　黄褐色土（φ5m）ブロック状に含む　掘方
5　黒褐色土　炭化物粒子少量　Pit1
6　灰褐色土　炭化物（φ1m）少量　灰色シルト質土（φ1～2cm）多量　Pit2

SJ76カマド
1　灰褐色土　シルト質　焼土・炭化物（φ1～5m）少量
2　褐色土　焼土・炭化物（φ1～2m）少量　黄褐色土（φ5m）少量
3　赤褐色土　焼土と明褐色土の混合土
4　明褐色土　シルト質　焼土（φ1～2m）少量
5　褐色土　シルト質　焼土（φ5m）少量
6　赤褐色土　焼土・炭化物層
7　黒色土　灰層　焼土（φ1cm）含む　明褐色土ブロック状

第37図　第76号住居跡



SJ77
1　褐色土　シルト質土　灰色・黄褐色シルト質土ブロック状



SJ77 カマド
2　褐色土　灰色シルト（φ5㎜）ブロック状に少量　黒色粒子少量
3　褐色土　炭化物・焼土ごく少量
4　褐色土　焼土粒子少量　炭化物微量　しまりややあり　粘性なし
5　褐色土　焼土粒子微量　きめ細かく均質　しまりかなりあり　粘性なし

第38図　第77号住居跡

第39図　第77号住居跡出土遺物

第8表　第77号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	—	[3.7]	5.6	A・C・I	50	普通	にぶい黄橙	№4	
2	土師器	壺	—	[7.1]	(6.0)	A・E・I・K	20	良好	にぶい橙	№1	

などの遺物は出土しなかった。

時期は不明であるが、第74号住居跡との切り合い関係から、10世紀前半以前と考えられる。

第76号住居跡（第37図）

ZW-996・ZX-996グリッドに位置する。北西隅を第85号溝跡によって壊されている。平面形状は方形で、規模は長軸2.94m、短軸2.82m、床面までの深さは0.14mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—11°—Wである。

床面に貼床は確認されなかったが、比較的硬くしまっており、明瞭に検出された。

壁溝は東壁の南半分を除いて巡る。幅10～19cm、深さ1～3cmと浅い。

カマドは南東隅に構築されている。燃焼部は若干壁外に張り出しており、住居の隅を利用して天井を構築したものと推定される。全長154cm、燃焼部は長さ71cm、幅41cmの楕円形を呈し、煙道は長さ83cm、幅17cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘り込まれており、徐々に底をあげて煙道に至っている。底面には炭化物・焼土・灰が堆積していた（6・7層）。

床面で検出されたピットは1基（P1）である。径52×42cm、深さ27cmである。柱痕は認められなかった。P2はカマド脇の床下から検出されたピットで、直径45cmのほぼ円形を呈する。逆台形に掘り込まれ、深さは29cmである。その位置から貯蔵穴の可能性も考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第77号住居跡（第38・39図　第8表）

ZX-996・ZX-997・ZY-996・ZY-997グリッドに位置する。カマドの一部が第88号住居跡のカマドを壊している。平面形状は方形で、西壁北半が三角形状に張り出している。長軸3.41m、短軸2.78m、床面までの深さは0.14mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—23°—Wである。

床面に硬化面などは認められず、あまりはっきりとは確認できなかった。

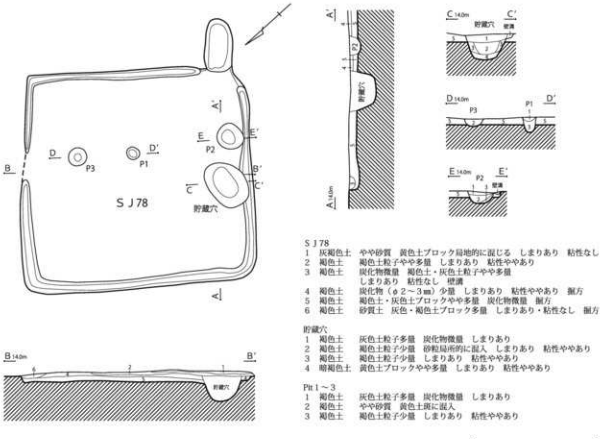
壁溝はほぼ全周する。幅12～19cm、深さ6～8cmである。

カマドは南壁中央に構築されている。全長は154cmである。燃焼部は浅く皿状に掘り込まれ、全体の約2／3がカマドの外に張り出している。長さ90cm、幅37cm、深さ13cmである。煙道は天井部が残存しており、長さ64cmと比較的短いが、燃焼部よりも深く煙突状に掘り込まれている。煙出口は35×15cmである。

床面を精査したが、柱穴や貯蔵穴は検出されなかった。

出土遺物は破片が多く、図示できたのはカマドの脇から出土した土師器甕底部2点（第39図1・2）である。

時期は、指標となる遺物の出土がなく不明である。奈良時代の第88号住居跡の廃絶後に構築されているため、周辺の状況から、平安時代の住居跡である可能性が高いと考えられる。



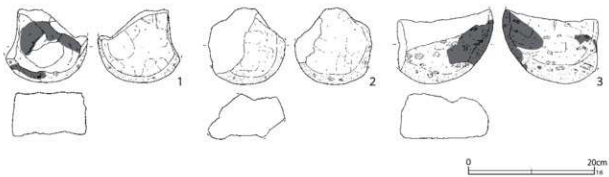
S J 78
1　灰褐色土　やや砂質　黄色土ブロック局地的に混じる　しまりあり　粘性なし
2　褐色土　褐色土粒子やや多量　しまりあり　粘性ややあり
3　褐色土　炭化物微量　褐色土・灰色土粒子やや多量
　しまりあり　粘性なし　壁溝
4　褐色土　炭化物（φ2～3㎜）少量　しまりあり　粘性ややあり　掘方
5　褐色土・灰色土ブロックやや多量　炭化物微量　掘方
6　褐色土　砂質土　灰色・褐色土ブロック多量　しまりあり・粘性なし　掘方

貯蔵穴
1　褐色土　灰色土粒子多量　炭化物微量　しまりあり
2　褐色土　褐色土粒子少量　砂粒局所的に混入　しまりあり　粘性ややあり
3　褐色土　褐色土粒子少量　しまりあり　粘性ややあり
4　暗褐色土　黄色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性ややあり

Pit 1～3
1　褐色土　灰色土粒子多量　炭化物微量　しまりあり
2　褐色土　やや砂質　黄色土斑に混入
3　褐色土　褐色土粒子少量　しまりあり　粘性ややあり

S J 78 カマド
1　赤褐色土　焼土（φ2～5㎜）極多量
2　褐色土　焼土・炭化物（φ1㎜）多量
3　黒色土　炭化物層
4　褐色土　炭化物（φ1～2㎜）多量
5　白色粘土ブロック

第 40 図　第 78 号住居跡



第 41 図　第 78 号住居跡出土遺物

第 9 表　第 78 号住居跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種別	器種	法量	備考	図版
1	石製品	不明	長さ［11.3］幅［12.0］厚さ［6.9］重さ 793.3	角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 表裏工具痕・煤付着	
2	石製品	不明	長さ 12.2 幅 12.4 厚さ 6.7 重さ 692.6	角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 表裏工具痕か	
3	石製品	不明	長さ［9.9］幅［14.2］厚さ 7.2 重さ 8963.9	角閃石安山岩 多孔質 表裏工具痕か 煤付着	

第 78 号住居跡（第 40・41 図　第 9 表）

ZV-995 グリッドに位置する。平面形状は長軸 3.74 m、短軸 3.47 m と正方形に近い。床面までの深さは 0.17 m である。カマドの中心を通る主軸の傾きは N―48°―W である。

床面は平坦ではあるが、硬化面などは認められなかった。

壁溝はほぼ全周し、幅 10 ～ 25 cm、深さ 5 cm である。

カマドは南隅に構築されている。残りが良好ではなく、壁外に大きく張り出した燃焼部のみが検出された。皿状に浅く掘り込まれており、平面形状は楕円形である。規模は長さ 80 cm、幅 45 cm、深さ 11 cm である。

貯蔵穴は南西壁際から検出された。79 × 58 cm の楕円形で、深さ 41 cm である。掘り込み角度は深く底部は平坦になる。

ピットは 2 基検出されたが、いずれも柱痕は確認されなかった。P 1 は径 20 × 18 cm、深さ 24 cm である。P 2 は径 41 × 40 cm、深さ 19 cm である。P 3 は径 29 × 27 cm、深さ 12 cm である。

出土遺物は、角閃石安山岩が 3 点出土している（第 41 図 1 ～ 3）。土器は出土しなかった。

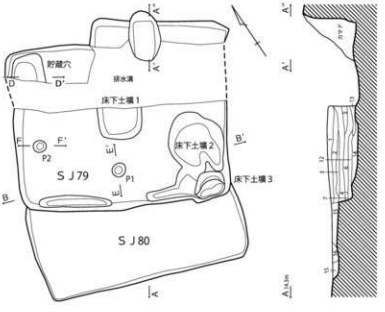
平安時代に属すると推定されるが、詳細な時期は不明である。

第 79 号住居跡（第 42・43・44 図　第 10 表）

ZU-994・ZU-995・ZV-994・ZV-995 グリッドに位置する。第 80 号住居跡の廃絶後に構築されている。平面形状は方形である。排水溝が横断し、一部を削平してしまったため、東壁の一部は検出できなかった。長軸は推定で 3.55 m、短軸は 2.65 m、床面までの深さは 0.54 m である。カマドの中心を通る主軸の傾きは N―33°―E である。カマドの両側の壁は床面から 20 ～ 30 cm の高さでテラス状に広がり、向かって左側は 35 cm 幅、右側は 25 cm 幅の平坦面が設けられている。

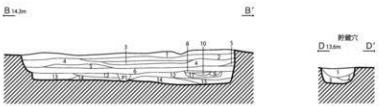
床面に顕著な硬化面は検出されなかったが、直上に薄い炭化物層が広がっていた。炭化物は部分的に編物状になっており、敷物の痕跡である可能性が高い。炭化材も少量検出されている。

床下から土壙が 3 基検出された。床下土壙 1 は住居跡のほぼ中心に位置し、北側を排水溝で切られている。平面形状は楕円形と推定される。規模は東西幅 62 cm、深さ 6 cm である。覆土は径 1 cm ほどの炭化物を含むしまりのある灰褐色土で、下層に炭化物が多く堆積していた。床下土壙 2 は東

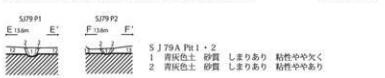


S J 79
1 灰色土　シルト質　炭化物（φ5㎜）やや多量　しまりあり
2 灰色土　シルト質　炭化物（φ8㎜）やや多量　しまりややあり
3 灰色土　シルト質　炭化物（φ4～8㎜）多量　焼土（φ2～3㎜）微量　しまりやや欠く
4 灰色土　炭化物（φ1㎝）極多量　焼土（φ2～3㎜）少量　粘性強い　しまりなし
5 灰色土　炭化物（φ1㎝）多量　褐色土ブロック多量　粘性あり　しまりなし
6 青灰色土　やや砂質　炭化物（動物状）多量　しまりあり　貼床
7 青灰色土　非常に細かい砂質土　しまりあり　壁溝
8 青灰色土　やや砂質　炭化物多量　しまりあり（床下土壙2）
9 灰色土　砂質土　炭化物やや多量　下層に焼土（φ5㎜以下）多量　しまりやや欠く（床下土壙2）
10 暗灰色土　砂質土　炭化物・焼土多量　しまりなし（床下土壙2）
11 灰褐色土　やや砂質　焼土少量　しまりやや欠く（床下土壙2）
12 青灰色土　非常に細かい砂質土　褐色土粒微量　しまりかなりあり（掘方）
13 灰色土　粘質土　褐色土混じる　しまりなし（掘方）
14 灰色土　粘質土　しまりなし（掘方）

S J 80
15 灰褐色土　きめの細かい砂質土　灰色土ブロック少量　しまりかなりあり　粘性なし
16 灰褐色土　15層中に黄色土が混入



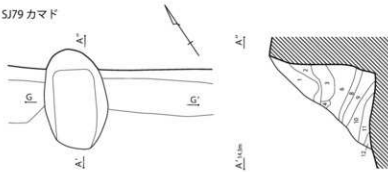
S J 79 貯蔵穴
1 褐色土　やや砂質　しまりかなりあり　粘性ややあり
2 青灰色土　砂質　しまりあり　粘性ややあり
3 青灰色土　炭化物（φ5㎝）やや多量　しまりややあり　やや粘性あり



S J 79A Pit 1・2
1 青灰色土　砂質　しまりあり　粘性ややあり
2 青灰色土　砂質　しまりあり　粘性ややあり

0　2m
1:60

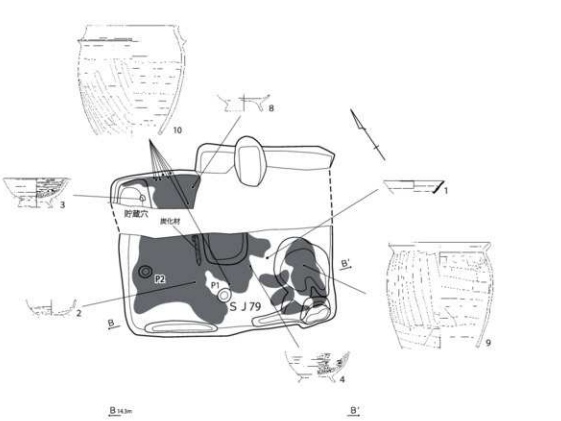
SJ79 カマド



S J 79 カマド
1 黄灰色土　シルト質　しまりなし　粘性あり
2 赤褐色土　シルト質　弱い被熱を受ける
3 黄褐色土　シルト質　しまりなし　粘性あり
4 赤褐色土　砂質土　しまりよし　天井被熱面
5 赤褐色土　炭化物（φ10～30㎜）含む
6 黄灰色土　炭化物（φ3～5㎜）多量　焼土（φ5㎜）微量
7 褐色土　非常にしまりよく固い　埋道崩落土
8 灰褐色土　炭化物（φ5～8㎜）少量　焼土（φ2～3㎜）少量　しまりなし
9 赤褐色土　固くしまる　天井崩落土
10 灰褐色土　炭化物極多量　しまりやや欠く
11 赤褐色土　部分的に固くしまる　火床面
12 黒褐色土　灰層　細かい炭化物極多量

0　1m
1:30

第 42 図　第 79 号住居跡（1）・第 80 号住居跡



第 43 図　第 79 号住居跡（2）

壁南寄りに位置する。掘り込みは明瞭ではなく、平面形状は不整円形である。規模は 105 × 90 ㎝、深さは 10 ㎝である。床下土壙 3 は南東隅に位置する。平面形状は不整円形である。規模は 47 × 37 ㎝、深さ 20 ㎝である。床下土壙 2 と 3 の覆土上層には炭化物と焼土が多く含まれていた。

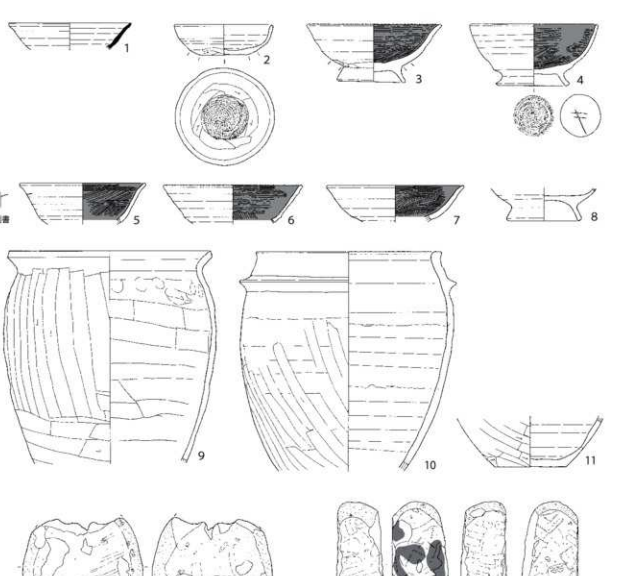
壁溝は南壁から部分的に検出された。幅 15 ～ 19 ㎝、深さは 4 ～ 6 ㎝ である。

カマドは北壁のやや東寄りで検出された。燃焼部が排水溝によって大きく斜めにカットされている。検出された長さは 80 ㎝、幅 51 ㎝、床面から 6 ㎝ほど楕円形に掘り込まれたものと推定される。煙道は調査区域外に延びるものと考えられる。

貯蔵穴は北西隅に設けられている。排水溝によって南側を切られるが、平面形状は南北に長い楕円形と推定される。規模は東西幅 54 ㎝、深さ 26 ㎝である。

ピットは 2 基検出された。P 1 は径 23 × 21 ㎝、深さ 15 ㎝である。P 2 は径 21 × 20 ㎝、深さ 9 ㎝である。ともに柱痕は明瞭ではなく、柱穴ではない。

遺物は、床面直上から良好な状態で出土した。第 44 図 1 は、南比企産の須恵器坏である。小破片であり、混入品と考えられる。同図 4 は、底部に「キ」の刻書のある内黒土器である。同図 5 の内黒土器の体部外面にも刻書の一部が残る。



第 44 図　第 79 号住居跡出土遺物

時期は 10 世紀第２四半期から第３四半期と考えられる。

第 80 号住居跡（第 42 図）

ZU-994・ZU-995・ZV-994・ZV-995 グリッドに位置する。北側半分を第 79 号住居跡によって切られている。平面形状は方形と考えられる。規模は南壁の長さが 3.36 m、床面までの深さは 0.20 mである。傾きはN―20°―Eである。

床面は平坦ではあるが、硬化面は認められなかった。

床面を精査したが、柱穴など住居内の施設は検出されなかった。

出土遺物はなく、時期は不明である。ただし、本住居跡の廃絶後に構築された第 79 号住居跡の

第10表　第79号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(12.8)	[2.8]	—	E・I・J・K	5	良好	灰白	№3 南比企産	
2	ロクロ土師器	坏	10.3	3.3	5.0	C・G・I・K	100	普通	にぶい黄橙	№1 底部周辺ヘラケズリ	24-7
3	ロクロ土師器	高台付椀	14.0	6.2	6.8	A・C・E・I・K	100	普通	にぶい黄橙	№14 内面ミガキ 内黒	24-8
4	ロクロ土師器	高台付椀	(13.4)	6.6	7.0	A・C・E・I・K	50	良好	にぶい橙	№2 内面ミガキ 内黒 底部刻書「キ」	25-1
5	ロクロ土師器	坏	(13.2)	[4.4]	—	A・C・H・I・K	25	普通	灰白	内面ミガキ 内黒 外面刻書（一部）	
6	ロクロ土師器	坏	(14.6)	[4.1]	—	A・C・E・H・I・K	15	普通	にぶい黄橙	摺方 内面ミガキ 内黒	
7	ロクロ土師器	高台付？	(14.4)	[3.9]	—	A・C・E・H・I・K	20	普通	にぶい黄橙	内黒	
8	ロクロ土師器	高台付椀	—	[3.5]	(7.3)	E・I・K	60	普通	にぶい黄橙	№7	
9	土師器	甕	(21.4)	[22.4]	—	C・H・I・K	25	普通	にぶい黄橙	№4	25-2
10	土師器	羽釜	19.3	[23.2]	—	A・E・I・K		普通	にぶい赤褐	№5・6・8・9・10・11・12・13・床直一括	25-3
11	土師器	甕	—	[5.4]	(7.6)	A・C・E・H・I・K	25	普通	にぶい褐	内面ミガキ	
12	石製品	不明	長さ［15.5］幅19.2 厚さ8.0 重さ1611.4							角閃石安山岩 多孔質 側面一部擦り・自然面残存 表工具痕	
13	石製品	不明	長さ18.1 幅9.4 厚さ8.8 重さ905.0							角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 表裏幅広工具痕 側面丸ノミ痕か 表面煤付着	

示す時期から、少なくとも10世紀前半以前と推定される。

なお、本住居跡は調査時には旧79号住居跡として処理されていたが、別個の住居跡と判断し、調査時に欠番となった番号を新たに付け直して報告するものである。

第81号住居跡（第45・46図　第11表）

ZW-994・ZW-995グリッドに位置する。南西側は調査区域外にかかる。北側は第94号住居跡に切られ、中央付近を第25・26号井戸跡によって壊されている。平面形状は方形である。規模は北東壁の長さが3.55m、床面までの深さは0.41mである。

床面はあまり踏み固められておらず、硬化面は検出されなかった。

壁溝は南西壁で一部途切れている。幅15～18cm、深さ3～6cmである。

ピットは4基検出された。P1は径40×35cm、深さ18cmである。P2は径30×27cm、深さ14cmである。P3は径26×25cm、深さ17cmである。P4は径30×25cm、深さ14cmである。P3では柱痕と推定される土層堆積が観察できたが、すべてが柱穴である確証はない。

カマド・貯蔵穴は検出されなかった。

出土遺物は非常に少なく、図示できたのは土師器甕の口縁部～胴部上半（第46図1）と、底部（同図2）である。このほかに、どちらかの甕のものと考えられる胴部破片が数点出土している。

時期は10世紀代と考えられる。

第82号住居跡（第47図　第12表）

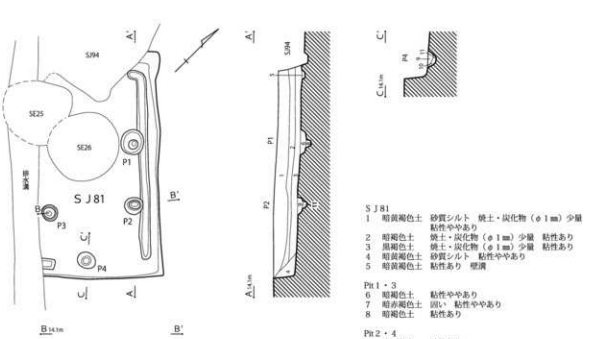
ZV-995・ZV-996グリッドに位置する。北東側は調査区域外にかかる。平面形状は方形である。規模は北西壁から南東壁までの長さが2.77m、床面までの深さは0.26mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—40°—Eである。

掘り込みは浅く、南側の壁は緩やかに立ち上がる。床面はわずかに凹凸があり、顕著な硬化面は検出されなかった。

カマドは北西壁に構築されている。燃焼部を壁外に設けており、全長144cmである。燃焼部は長さ57cm、幅42cmで、掘り込みはほとんどなく、床面との高低差はない。埋土上層から土器に混じって緑泥片岩が出土しているが、カマド芯材の一部と推定される。煙道は底面のみが検出された。長さ87cm、深さ3cmである。煙道と燃焼部との境に径22cm、深さ10cmのピット状の掘り込みがみられる。

床面を精査したが、貯蔵穴や柱穴などの住居内施設は検出されなかった。

出土遺物は非常に少なく、カマドから土師器甕



第 45 図　第 81 号住居跡

第 46 図　第 81 号住居跡出土遺物

第 11 表　第 81 号住居跡出土遺物観察表（第 46 図）

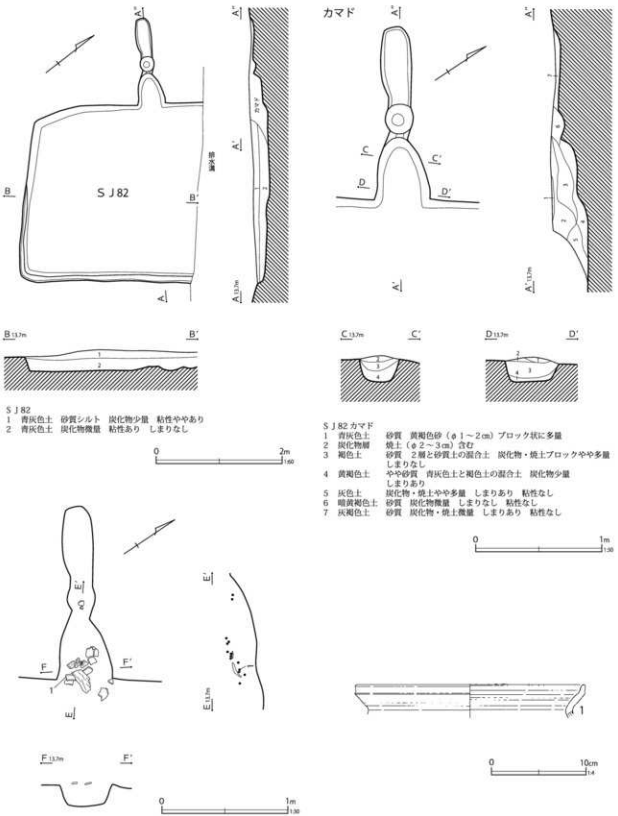
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(18.8)	[12.2]	—	C・F・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	3 片を図上復元	
2	土師器	甕	—	[5.6]	(5.6)	E・I・K	25	普通	にぶい黄橙	№.1	

の破片が数点出土したに過ぎない。図示できたのは第 46 図 1 の口縁部のみである。同じ甕のものと思われる胴部破片が、緑泥片岩と重なり合うように出土している。煙道部の破片 2 点と、カマド右袖の破片 2 点は、別個体の土師器甕の胴部破片である。

時期は甕の口縁の特徴から、10 世紀代と考えられる。

第 83 号住居跡（第 48 図）

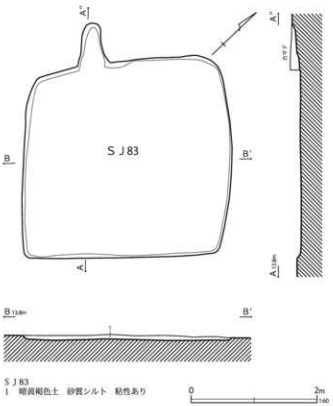
ZW-996・ZX-996 グリッドに位置する。平面形状は正方形に近い方形である。規模は長軸 3.30 m、短軸 3.10 m である。削平を大きく受けてお

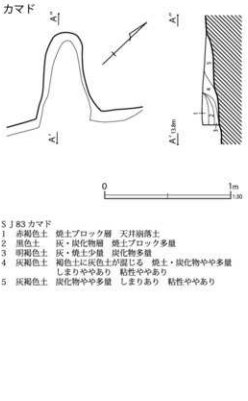


第 47 図　第 82 号住居跡・出土遺物

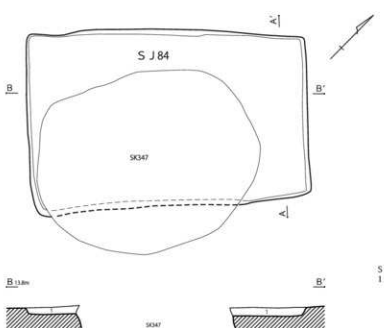
第 12 表　第 82 号住居跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(24.0)	[4.1]	—	A・I	10	普通	灰白	カマドNo.13	





第 48 図　第 83 号住居跡



第 49 図　第 84 号住居跡

り、床面までの深さは0.14mである。

床面はあまりしっかりしておらず、硬化面は認められない。

カマドは北西壁のやや南寄りに構築されている。壁外に設けられた燃焼部のみが検出された。規模は長さ70cm、幅34cmである。

壁溝や貯蔵穴などの住居内施設は検出されなかった。

遺物はほとんどなく、わずかに土師器甕の小破片が数点出土したに過ぎない。

時期は不明である。

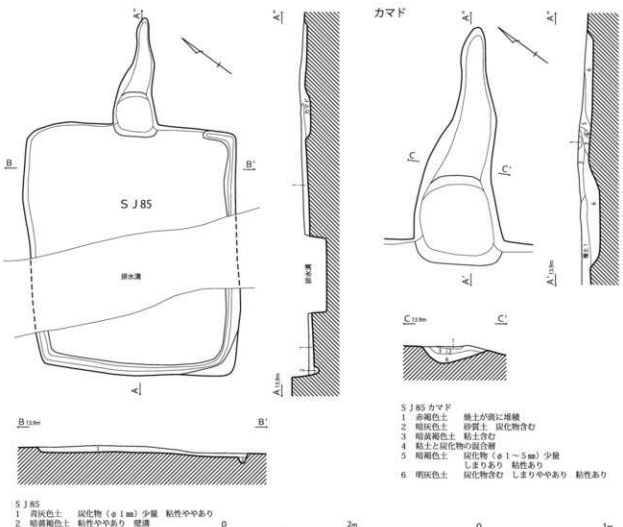
第84号住居跡（第49図）

ZU-993・ZU-994・ZV-993・ZV-994グリッドに位置する。中央を第347号土壙によって大きく壊されている。平面形状は方形である。規模は長軸4.42m、短軸推定2.78m、床面までの深さは0.14mである。

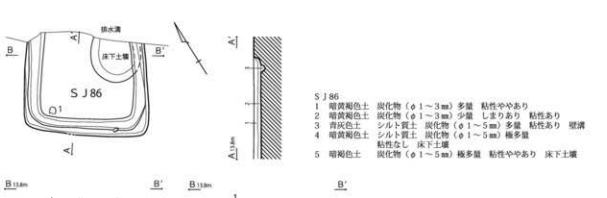
床面に硬化面はなく、軟弱である。

カマドは北西もしくは南東壁に構築されていたものと考えられるが、その痕跡を見出すことはできなかった。そのほかの住居内施設も検出されなかった。

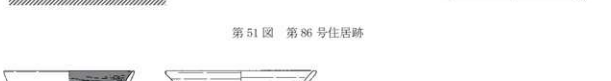
出土遺物はなく、時期は不明である。ただし、第84号住居跡を壊していた第347号土壙の覆土から出土した高台付埦（第102図1）が、この住居跡に由来する可能性がある。



第50図 第85号住居跡



第 51 図　第 86 号住居跡



第 52 図　第 86 号住居跡出土遺物

第 13 表　第 86 号住居跡出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付椀	(13.7)	[5.1]	—	A・C・I・K	55	普通	にぶい橙	7.5YR 7/4 内面ミガキ 内黒 高台剥落 器面風化	25-4
2	ロクロ土師器	高台付椀	(15.7)	[5.0]	—	C・E・I・K	15	良好	にぶい黄橙	床下	
3	ロクロ土師器	坏	—	[1.6]	(6.0)	H・I・K	20	普通	浅黄橙	底部周辺ヘラケズリ	
4	ロクロ土師器	高台付椀	—	[1.3]	—	A・H・I・K	20	普通	にぶい黄橙	床下土壙 内面ミガキ 内黒 高台剥落	

第 85 号住居跡（第 50 図）

ZU-993 グリッドに位置する。排水溝が横断し、壁の一部を壊している。平面形状は方形である。規模は長軸 3.95 m、短軸 3.37 m、床面までの深さは 0.10 mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN―54°―Eである。

床面に硬化面は認められなかった。

壁溝は東隅から西隅にかけて検出された。幅 12～20 ㎝、深さ 7～10 ㎝である。

カマドは北東壁中央に構築されている。全長 187 ㎝である。燃焼部は壁外に設けられ、規模は長さ 69 ㎝、幅 70 ㎝である。浅く皿状に掘り込まれており、床面からの深さは 8 ㎝である。煙道は長さ 118 ㎝、幅 26 ㎝、深さ 5～7 ㎝である。

貯蔵穴や柱穴は検出されなかった。

覆土が浅いため、出土遺物は極めて少なく、土師器の破片が数点出土しているに過ぎない。

時期は不明である。

第 86 号住居跡（第 51・52 図　第 13 表）

ZT-992 グリッドに位置する。北側は調査区域外にかかる。平面形状は方形である。規模は南壁の長さで 1.96 mである。床面までの深さは 0.12 m、西壁の傾きはN―30°―Eである。

床面には顕著な硬化面は認められなかった。

壁溝は、検出された範囲で全周する。掘り込みはしっかりとしており、幅 14～25 ㎝、深さ 7～10 ㎝である。

東壁際から床下土壙が検出された。調査時には住居跡よりも古い単独の土壙（S K 475）として処理されたが、その位置関係や出土遺物から、本

住居跡の床下土壙と判断した。平面形状は楕円形で、規模は東西幅78㎝、床面からの深さは18㎝である。

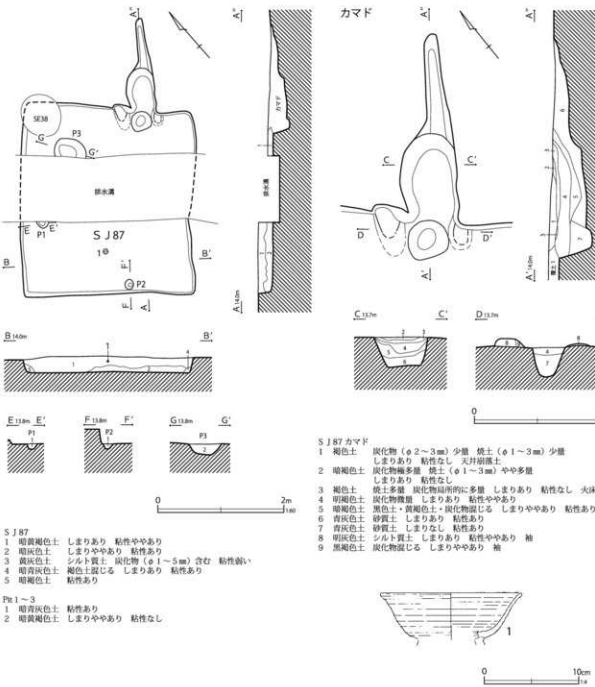
カマドは北壁に構築されていたものと推定される。柱穴等は検出されなかった。

遺物は、床面直上や床下土壙からロクロ土師器の内黒土器（第52図1・4）が出土した。

時期は10世紀前半と考えられる。

第87号住居跡（第53図　第14表）

ZT-992・ZU-992グリッドに位置する。平面形



第53図　第87号住居跡・出土遺物

第14表　第87号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付椀	(14.8)	[4.9]	—	A・C・I・K	20	普通	にぶい黄橙	№1　高台剥落	

状は方形である。中央を排水溝が横切っているため、壁の一部が失われている。北隅を第38号井戸跡によって壊されている。規模は長軸3.04m、短軸2.71m、床面までの深さは0.23mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—41°—Eである。

床面に顕著な硬化面は認められなかったが、平らに踏み固められていた。

カマドは北東壁のやや東寄りに構築されている。本遺跡では珍しく、焚口の袖が残存していた。規模は全長175cmである。袖は灰色のシルト質土を利用した付袖で、焚口の幅は34cmである。袖間から検出された径32×30cm、深さ25cmのピットは、支脚の掘方もしくは支脚を引き抜いた痕跡と考えられる。燃焼部は楕円形に大きく壁外に張り出しており、規模は長さ98cm、幅34cm、深さ22cmである。煙道は長さ79cm、幅14cm、深さ5～13cmである。

床面で検出されたピットは3基である。P1は北西壁寄りにあり、北半を排水溝によって切られている。推定径21cm、深さ9cmである。P2は南西壁際にあり、径16×14cm、深さ9cmである。規模が小さく、両者とも柱穴である可能性は低い。北隅寄りで検出されたP3は、その規模や位置関係から、貯蔵穴の可能性もある。南側を排水溝に切られ、残存する長軸の長さは52cm、深さは18cmである。

出土遺物は少なく、図示できたのは覆土中層から出土したロクロ土師器の高台付埦(第53図1)1点のみである。このほかにカマドの覆土から土師器甕の胴部破片が数点出土している。

時期は10世紀前半と考えられる。

第88号住居跡（第54・55図　第15表）

ZY-997グリッドに位置する。南西側は調査区域外にかかる。カマドの煙道部が第77号住居跡のカマドによって壊されている。平面形状は方形である。規模は北東壁の長さが3.46m、床面までの深さは0.58mである。覆土の状況から、埋め戻された痕跡は見受けられない。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—39°—Wである。

床面は中央部を中心に貼床され、踏み固められていた。直上には炭化物の薄い堆積層が部分的に広がり、炭化材も散見された。

壁溝は北東壁の中央でのみ検出された。幅11～22cm、深さは1～5cmと非常に浅く、掘り込みも弱い。

カマドは北西壁に構築され、煙道は第77号住居跡のカマドによって大半が壊されていた。燃焼部は壁外に楕円形状に張り出している。規模は長さ104cm、幅66cmである。掘り込みはなく、床面のレベルから底をあげて煙道に至る。焚口に当たる位置に逆円錐状のピットが検出された。径60×31cm、深さ20cmである。位置と形状から支脚を引き抜いた痕跡と推定される。下面には炭化物と灰を主体とする層が厚く堆積し、天井崩落土の堆積も明瞭に観察された。

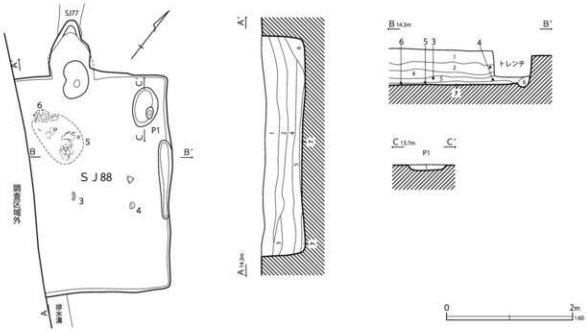
ピットは北隅に1基検出された（P1）。その位置から貯蔵穴を想定して掘り下げたが、深さ9cmと浅く、貯蔵穴の可能性は低いと判断した。平面形状は楕円形で、規模は長軸64cm、短軸40cmである。

出土遺物の量は比較的多い。カマド手前の床面直上から2点の土師器甕がつぶれた状態で出土した（第55図5・6）。第55図1はカマド覆土から出土した須恵器坏で、切り合う第77号住居跡に帰属する可能性がある。同図7～9はカマド燃焼部の底に堆積していた灰層から出土した円柱状の土製品である。同じ形状で大きさも等しいが接合しなかった。用途は不明である。

時期は、床直で出土した土師器甕の年代観から、8世紀中葉と考えられる。

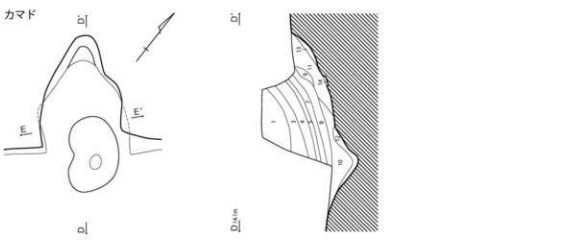
第89号住居跡（第56図）

ZS-991グリッドに位置する。大半を排水溝と排水用の釜場によって切られており、わずかに南



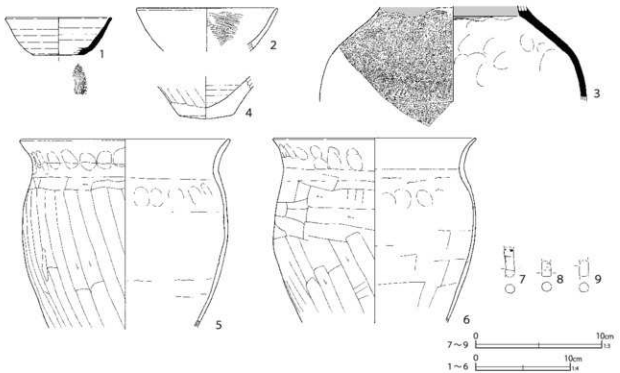
SJ88
1 褐色土　炭化物少量　褐色土粒子やや多量　しまりややあり　粘性なし
2 褐色土　炭化物少量　黄褐色土粒子やや多量　しまりあり　粘性ややあり
3 褐色土　褐色土ブロック・灰色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性ややなく
4 明褐色土　褐色土粒子下層にややや多量　炭化物（φ3㎜）微量　灰色土斑に混入　しまりあり　粘性あり
5 明褐色土　褐色土粒子多量　炭化物やや多量　黄色土ブロック混じる　しまりややなく　粘性強い
6 明褐色土　粘質土　灰色土ブロックやや多量　しまりややなく　粘性ややなく
7 明褐色土　黄褐色土ブロック多量　しまりかなりあり　粘性ややあり　貼床

Pit1
1 褐色土　炭化物・焼土粒子やや多量　しまりかなりあり　粘性なし



SJ88カマド
1 褐色土　砂質土　炭化物微量　灰色土・褐色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性なし
2 褐色土　砂質土　焼土・炭化物微量　しまりなし　粘性なし　天井崩落土
3 褐色土　砂質土　炭化物（下層）・灰色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性なし　天井崩落土
4 褐色土　砂質土　炭化物微量　灰色土ブロックやや多量　しまりややあり　粘性あり　天井崩落土
5 褐色土　炭化物・焼土多量　しまり強い　粘性なし　壁面崩落土と天井崩落土の混合土
6 褐色土　焼土・炭化物の混合土　しまりなし　粘性あり　天井崩落土
7 赤褐色土　被熱で全体的に焼土化する　しまりややあり　粘性ややあり　天井崩落土
8 黒色土　炭化物極多量　焼土ブロック多量　しまりなし　粘性あり
9 褐色土　炭化物やや多量　焼土粒子少量　しまりあり　粘性なし　堆積天井崩落土
10 褐色土　炭化物・焼土ブロック極多量　しまりややなく　粘性あり　天井崩落土と灰の混合土
11 褐色土　炭化物・焼土ブロック極多量　しまりややなく　粘性あり　堆積天井崩落土と灰の混合土
12 褐色土　炭化物・焼土多量　しまりややなく　粘性強い　灰と地山土の混合土　使用時の堆積土
13 褐色土　川砂主体　褐色土ブロック少量　しまりなし　粘性なし
14 黒褐色土　灰と地山土の混合土　褐色土ブロック少量　しまりなし　粘性強い

第54図　第88号住居跡



第 55 図　第 88 号住居跡出土遺物

第 15 表　第 88 号住居跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(11.0)	4.0	(5.4)	E・I・J・K	20	良好	灰	カマド	
2	土師器	埦	(14.8)	[4.6]	—	C・E・H・I・K	10	不良	明赤褐	カマド 内面ミガキ	
3	須恵器	甕	—	[10.1]	—	E・I・J・K	5	良好	灰白	№3 口縁内外面自然釉	
4	土師器	甕	—	[4.5]	(5.5)	E・H・I・K	40	不良	にぶい橙	№2	
5	土師器	甕	21.9	[19.9]	—	A・C・E・G・I・K	80	普通	にぶい橙	№4・5・6・8・9	26-1
6	土師器	甕	21.4	[19.5]	—	A・C・H・I・K	85	普通	橙	№7	26-2
7			長さ[3.6]	径1.9	重さ3.6						25-5
8	土製品	不明	長さ[1.9]	径1.1	重さ2.0	H・I・K		不良	にぶい橙	火床面灰層	25-6
9			長さ[1.8]	径1.1	重さ2.3						25-7

隅が検出された。平面形状は方形になると推定される。検出された南東壁の長さは 1.79m、南西壁の長さは 0.86 mである。床面までの深さは 0.24 mである。南東壁の傾きはN—49°—Eである。

床面には硬化面は認められなかった。

壁溝は検出された範囲全てに巡っている。幅 15 ～ 18 ㎝、深さ 6 ～ 10 ㎝である。

検出範囲が少ないため、柱穴などは検出されなかった。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第 90 号住居跡（第 57 図）

ZS-992・ZT-992 グリッドに位置する。排水溝によって北東側半分は失われている。規模は南西壁の長さが 2.65 mである。排水溝の反対側からは検出されなかったため、平面形状は正方形に近い方形と推定される。床面までの深さは 0.28 mである。

床面に硬化面はなく、あまり明瞭ではない。

壁溝は検出されなかった。

カマドは検出されなかった。排水溝側に構築されていたものと推定される。

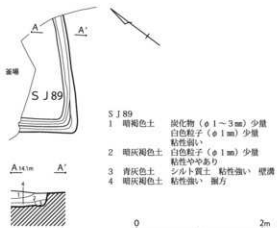
ピットは 2 基検出された。P 1 は径 30 × 27 ㎝、深さ 13 ㎝である。P 2 は径 45 × 43 ㎝、深さ 19 ㎝である。いずれも浅く、柱痕は検出され

なかった。

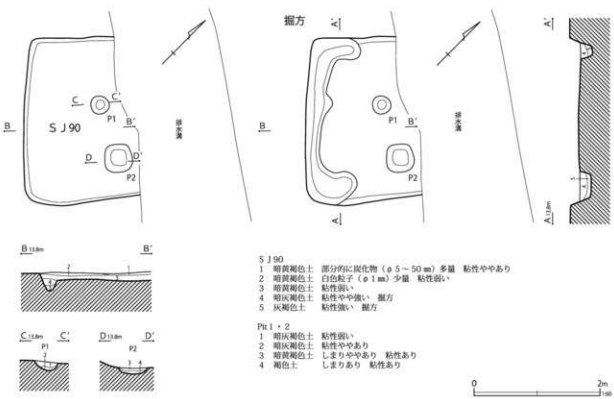
出土遺物はなく、時期は不明である。

第91号住居跡（第58・59図　第16表）

ZT−992・ZU−992グリッドに位置する。南側の大半が調査区域外にかかる。第92号住居跡の廃絶後に構築されている。カマドの一部を第478号土壙に、北西隅を第497号土壙によって壊されている。平面形状は方形と推定される。北西隅が大きく北側に張り出している。規模は東西幅で3.75ｍ程度になると考えられる。床面までの深さは0.34ｍである。カマドの中心を通る主軸の



第56図　第89号住居跡

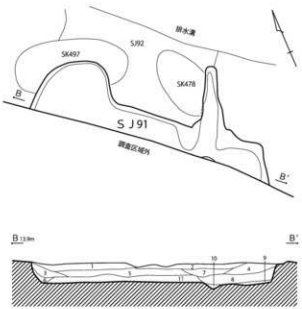


第57図　第90号住居跡

傾きはN−39°−Eである。

検出範囲が狭小であるため、床面は、カマド前に堆積していた炭化物の堆積を目安に掘り進めたが、西側は床面を明確にとらえられなかった。

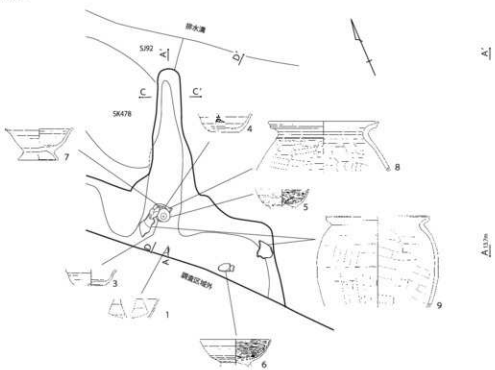
カマドは北壁東寄りに構築されている。検出された長さは149㎝である。袖にあたる部分が張り出しており、地山を掘り残して袖の基部にしていたと推定される。焚口の幅は43㎝である。燃焼部は大きく掘り込まれず、徐々に幅を減じて煙道となる。底面は床と同じレベルである。煙道は天井部が残存していた。トンネル状に掘り込まれ、底が緩やかに立ち上がり煙出口に至る。幅は20㎝である。支脚には6点の土器が再利用されている。ベースに土師器甕（第59図8）の破片



S J 91
1　灰褐色土　炭化物含む　しまりややあり　粘性あり
2　暗灰褐色土　しまりややあり　粘性あり
3　明褐色土　炭化物（φ５～10㎜）含む　しまりあり　粘性あり
4　暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり
5　暗黄褐色土　しまりあり　粘性ややあり
6　明褐色土　しまりややあり　粘性あり
7　明褐色土　炭化物（φ１～５㎜）含む　しまりあり　粘性あり
8　黄褐色土　炭化物（φ１～５㎜）少量　しまりあり　粘性ややあり
9　黒褐色土　炭化物（φ５～10㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
10　黒色土　炭化物（φ５～10㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
11　黄褐色土　炭化物（φ５～10㎜）局所的に含む
しまりあり　粘性あり

0　2m
1:60

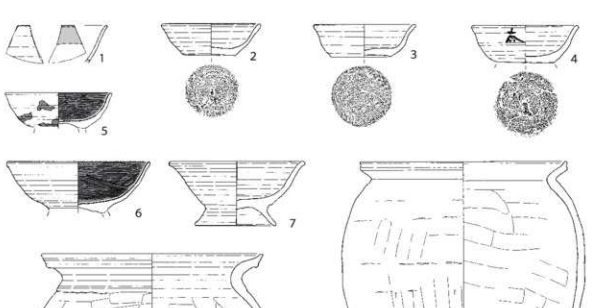
カマド



S J 91 カマド
1　黒褐色土　炭化物多量　しまりややあり　粘性ややあり
2　青灰色土　炭化物多量　しまりややあり　粘性あり
3　暗灰色土　炭化物多量　しまりややあり　粘性強い

0　1m
1:30

第 58 図　第 91 号住居跡



第59図　第91号住居跡出土遺物

第16表　第91号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	灰釉陶器	碗	—	[4.0]	—	I・K	5	良好	灰白	カマドNo.8 灰釉刷毛塗か	27-4
2	ロクロ土師器	坏	10.2	3.3	5.6	A・I・K	90	普通	にぶい橙	カマドNo.3	26-3
3	ロクロ土師器	坏	10.7	3.4	6.3	I・K	70	普通	灰黄褐	カマドNo.4 内面漆付着	26-4
4	ロクロ土師器	坏	11.1	3.9	6.9	A・H・I・K	80	良好	にぶい褐	カマドNo.5 外面墨書　底部回転ヘラケズリ	26-5・6
5	ロクロ土師器	高台付埦	11.2	[3.8]	—	A・C・I・K	85	普通	にぶい橙	カマドNo.1 内面ミガキ 内黒 外面油煙？付着	27-1
6	ロクロ土師器	高台付埦	(15.0)	5.4	(6.2)	A・C・G・I・K	50	普通	にぶい黄橙	カマドNo.9 内面ミガキ 内黒 高台剥落	27-2
7	ロクロ土師器	高台付埦	(14.4)	6.8	(8.2)	A・C・I・K	55	普通	橙	カマドNo.6	27-3
8	土師器	甕	(23.4)	[10.5]	—	A・C・I・K	20	不良	にぶい黄橙	カマドNo.7	
9	土師器	甕	(11.6)	[19.2]	—	A・C・E・H・I・K	15	普通	灰褐	カマドNo.2・10	

を置き、その上にロクロ土師器の坏埦類5点を伏せて積み重ねている。順番は下から第59図7→3→4→2→5である。

検出面積が狭いにもかかわらず、出土土器の量は多く、種類も比較的豊富である。

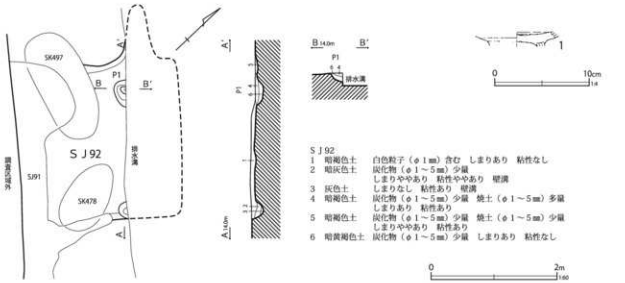
カマドの支脚に再利用されていた土器には、墨書土器が1点含まれていた（第59図4）。支脚の一番上に伏せられていた内黒土器（同図5）の外面には油煙らしき付着物がみられる。このほかに、カマド手前の覆土中から灰釉陶器碗の破片（同図1）が、床直から内黒土器（同図6）などが出土した。

時期は10世紀第2四半期と考えられる。

第92号住居跡（第60図　第17表）

ZT-992グリッドに位置する。北側は排水溝に切られ、南側は第91号住居跡と第478・497号土壙によって壊されている。排水溝の反対側からは検出されなかった。平面形状は方形になるものと推定される。規模は北西壁から南東壁までの長さが2.46m、床面までの深さは0.08mである。傾きはセクションA－A′ラインでN―49°―Wである。

床面は凹凸があり、明瞭ではない。硬化面は検出されなかった。



第 60 図　第 92 号住居跡・出土遺物

第 17 表　第 92 号住居跡出土遺物観察表（第 60 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付埦	—	[1.5]	—	A・C・E・H・I・K	30	普通	にぶい黄橙	P1t1	

南東壁には壁溝と考えられる落ち込みが検出された。幅 25 ㎝、深さ 13 ㎝である。ピットの可能性もある。

カマドは、その痕跡から北西壁の排水溝にあたる部分に構築されていたと推定される。

ピットはカマド前庭に当たる部分から 1 基検出された（P 1）。北半分は排水溝にかかる。規模は推定長軸 43 ㎝、深さ 23 ㎝である。覆土上層にはカマド由来と考えられる焼土が多量に含まれていた。

出土遺物の量は少なく、図示できたのはロクロ土師器の高台付埦（第 60 図 1）のみである。P 1 の覆土中から出土した。

時期は 10 世紀代と考えられる。

第 94 号住居跡（第 61 図）

ZW-994 グリッドに位置する。南西側は排水溝によって切られ、調査区域外にかかる。第 81 号住居跡の廃絶後に構築されている。平面形状は歪んだ不整方形である。規模は長軸 2.52 m、短軸 2.22 m、床面までの深さは調査区壁面で 0.40 m である。カマドの中心を通る主軸の傾きは、推定でN―33°―Wである。

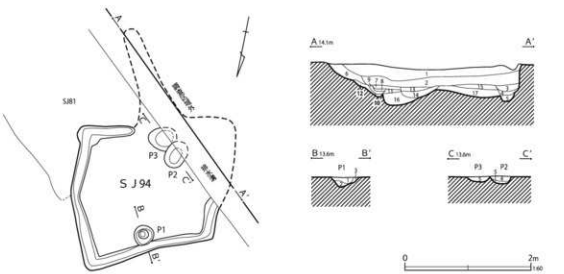
床面はあまり明瞭ではなく、硬化面は認められない。

壁溝は、検出された範囲でほぼ全周する。幅 15 ～ 35 ㎝、深さ 5 ～ 16 ㎝で、幅・深さとも一定しない。

カマドは南壁中央に構築されていると考えられる。大半が排水溝によって切られてしまったが、調査区壁面の土層から、その方向と規模をおおむね把握することができた。煙道と燃焼部を合わせた長さは約 160 ㎝になると推定される。

ピットは北壁中央から 1 基（P 1）、カマドの前庭にあたる箇所から 2 基（P 2・3）が検出された。P 1 は径 35 × 32 ㎝、深さ 16 ㎝である。P 2 は一部排水溝に切られているため、規模は推定で径 44 × 32 ㎝、深さ 9 ㎝である。P 3 も同じく推定で径 45 × 38 ㎝、深さ 6 ㎝である。いずれも柱痕はなく、柱穴ではない。

貯蔵穴は検出されなかったが、調査区壁面の土



S J 94
1 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　粘性ややあり
2 暗黄褐色土　粘性ややあり
3 暗褐色土　粘性ややあり
4 黄白色土　黄白色土ブロック層　粘性ややあり　壁溝
5 黒褐色土　粘質土　粘性あり　壁溝
6 暗黄褐色土　粘性ややあり　カマド焚道
7 暗褐色土　炭化物（φ 5～10 ㎜）・焼土（φ 1～5 ㎜）少量　粘性ややあり
8 暗褐色土　炭化物（φ 1～5 ㎜）少量　焼土（φ 5～10 ㎜）多量　粘性ややあり
9 黒色土　炭化物層　焼土（φ 1～5 ㎜）多量　粘性あり
10 暗褐色土　炭化物（φ 5～10 ㎜）多量
焼土（φ 5～10 ㎜）少量　粘性ややあり
11 暗黄褐色土　炭化物を層状に含む　粘性あり
12 暗黄褐色土　炭化物（φ 1～5 ㎜）多量　粘性ややあり
13 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）多量　粘性ややあり
14 黒褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）多量　粘性あり
15 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　粘性あり
16 暗黄褐色土　炭化物（φ 1～5 ㎜）少量　粘性ややあり　掘方か
17 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　粘性ややあり　掘方か

Pit 1～3
1 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　鉄分少量　粘性あり
2 赤褐色土　鉄分多量　粘性ややあり
3 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　鉄分多量　粘性ややあり　壁溝
4 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）少量　粘性ややあり
5 暗褐色土　炭化物（φ 1 ㎜）・黄褐色土ブロック少量　粘性ややあり

第 61 図　第 94 号住居跡

層断面にみられる炭化物を含む掘り込み（13・14 層）から、カマド右脇の南西隅に設けられていた可能性がある

出土遺物はなく、正確な時期は不明である。第 81 号住居跡よりも新しいことから、10 世紀以降と推定される。

第 95 A号住居跡（第 62・63・64 図　第 18 表）

A－1 グリッドに位置する。第 95 B 号住居跡と切り合い関係にあり、本住居跡の方が古い。平面形状は方形である。規模は長軸が推定で約 4.00 m、短軸 3.29 mである。床面までの深さは 0.28 mである。短軸方向の傾きはN―31°―Eである。

床面は踏み固められているが、貼床のような硬化面は認められない。

床面を精査したが、壁溝・貯蔵穴などの住居内施設は検出されなかった。

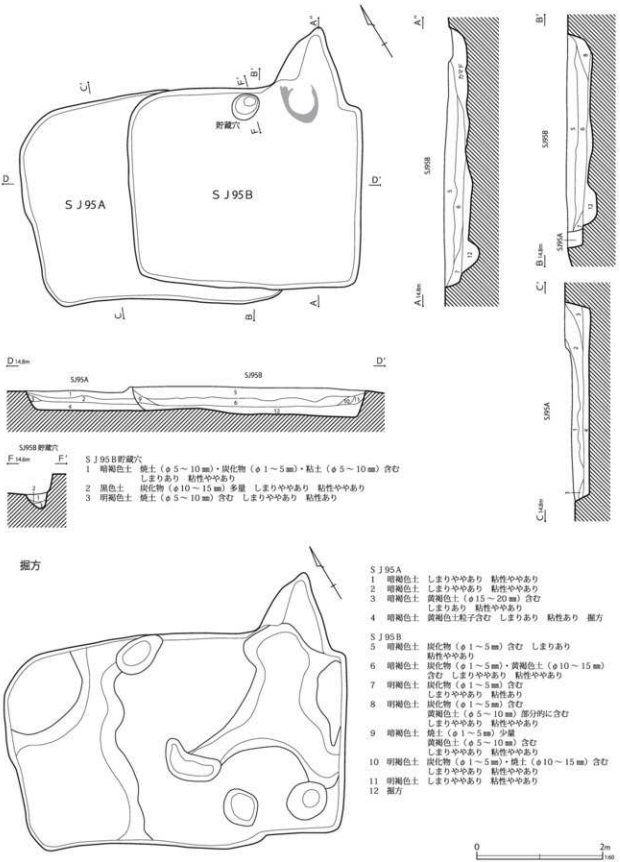
北壁のラインが第 95 B 号住居跡と一致し、床面の高さも極端に変わらないため、本住居跡は第 95 B住居跡の建て替え前の住居である可能性がある。この推測が成り立てば、カマドの痕跡が住居跡内や周辺からも見当たらなかったことから、カマドは第 95 B住居跡と同じ位置にあったと考えられる。

出土遺物は覆土や掘方からコンテナ 1 箱分出土したが、小破片が多く、図示できたのは土師器甕のみである（第 64 図 1・2）。

時期は本住居跡が第 95 B 号住居跡の建て替え前の住居跡であれば、第 95 B住居跡の示す年代観（10 世紀後半）から、大きく乖離したものではないと考えられる。

第 95 B号住居跡（第 62・63・65 図　第 19 表）

A－1 グリッドに位置する。第 95 A 号住居跡の廃絶後に構築されている。平面形状は方形である。規模は長軸 3.68 m、短軸 3.16 m、床面までの深さは 0.32 ㎝である。カマドの中心を通る主軸の傾きはN―32°―Eである。



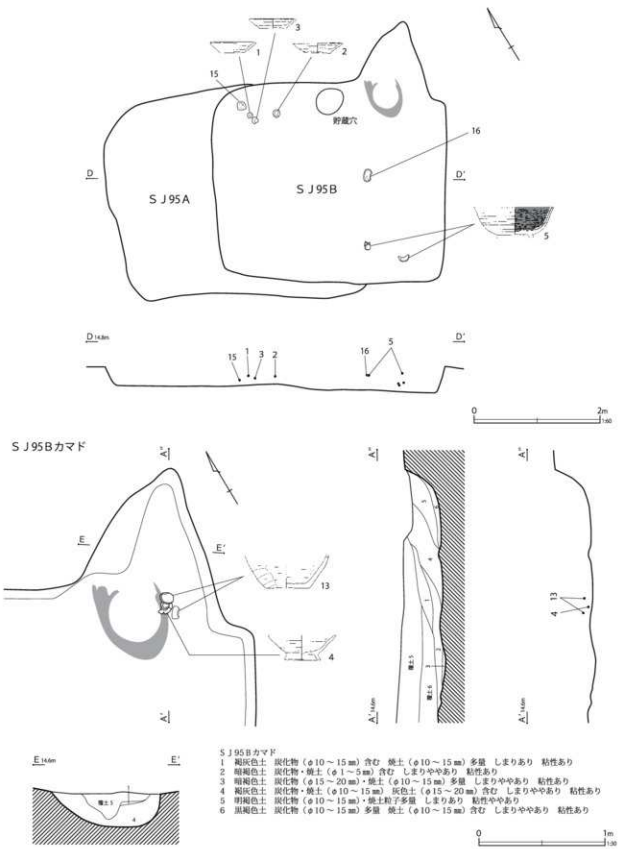
SJ95B 貯蔵穴
F 14.6m F'
1
2

S J 95 B 貯蔵穴
1 暗褐色土 焼土（φ 5 ～ 10 ㎜）・炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）・粘土（φ 5 ～ 10 ㎜）含む
しまりあり 粘性ややあり
2 黒色土 炭化物（φ 10 ～ 15 ㎜）多量 しまりややあり 粘性ややあり
3 明褐色土 焼土（φ 5 ～ 10 ㎜）含む しまりややあり 粘性あり

S J 95 A
1 暗褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
3 暗褐色土 黄褐色土（φ 15 ～ 20 ㎜）含む
しまりあり 粘性ややあり
4 暗褐色土 黄褐色土粒子含む しまりあり 粘性あり 掘方

S J 95 B
5 暗褐色土 炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）含む しまりあり
粘性ややあり
6 暗褐色土 炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）・黄褐色土（φ 10 ～ 15 ㎜）
含む しまりややあり 粘性ややあり
7 明褐色土 炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）含む
しまりややあり 粘性あり
8 明褐色土 炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）含む
黄褐色土（φ 5 ～ 10 ㎜）部分的に含む
しまりややあり 粘性ややあり
9 暗褐色土 焼土（φ 1 ～ 5 ㎜）少量
黄褐色土（φ 5 ～ 10 ㎜）含む
しまりややあり 粘性ややあり
10 明褐色土 炭化物（φ 1 ～ 5 ㎜）・焼土（φ 10 ～ 15 ㎜）含む
しまりややあり 粘性ややあり
11 明褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
12 掘方

第 62 図 第 95 A・95 B 号住居跡（1）



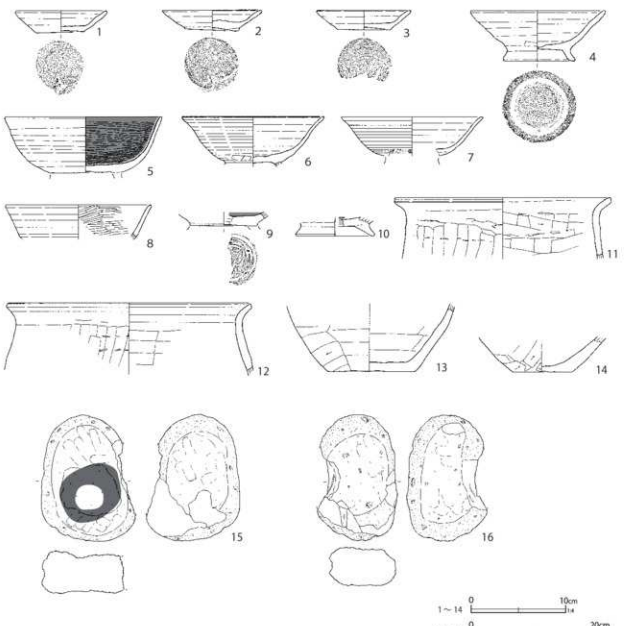
S J95Bカマド
1　褐灰色土　炭化物（φ10～15㎜）含む　焼土（φ10～15㎜）多量　しまりあり　粘性あり
2　暗褐色土　炭化物・焼土（φ1～5㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
3　暗褐色土　炭化物（φ15～20㎜）・焼土（φ10～15㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
4　褐灰色土　炭化物・焼土（φ10～15㎜）　灰色土（φ15～20㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
5　明褐色土　炭化物（φ10～15㎜）・焼土粒子多量　しまりあり　粘性ややあり
6　黒褐色土　炭化物（φ10～15㎜）多量　焼土（φ10～15㎜）含む　しまりややあり　粘性あり

第63図　第95Ａ・95Ｂ号住居跡（２）

第 64 図　第 95 A 号住居跡出土遺物

第 18 表　第 95 A 号住居跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(15.4)	[2.8]	—	A・C・E・H・I・K	5	普通	にぶい橙	カマドNo.7	
2	土師器	甕	—	[3.5]	(7.0)	A・H・I・K	10	普通	にぶい橙	カマドNo.2・10	



第 65 図　第 95 B 号住居跡出土遺物

第19表　第95B号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	坏	9.5	2.3	5.1	C・E・I・K	100	良好	にぶい橙	№2	27-5
2	ロクロ土師器	坏	10.5	2.3	5.7	A・C・H・I・K	80	良好	にぶい橙	№4	27-6
3	ロクロ土師器	坏	9.8	2.1	5.6	C・E・H・I・K	60	普通	にぶい橙	№3	27-7
4	ロクロ土師器	高台付埦	13.9	5.3	7.4	C・E・I・K	60	良好	灰黄褐	カマド№2	28-1
5	ロクロ土師器	高台付埦	16.5	5.9	7.6	A・C・H・I・K	75	普通	灰白	№6 高台剥落 内面ミガキ 内黒 器面風化	28-2
6	ロクロ土師器	高台付埦	(15.0)	[5.3]	—	A・H・I・K	30	普通	にぶい橙	カマド 高台剥落	
7	ロクロ土師器	高台付埦	(15.0)	[4.2]	—	A・I	20	普通	にぶい橙	高台欠落	
8	ロクロ土師器	（高台付）埦	(15.4)	[3.7]	—	A・H・I・K	5	普通	にぶい橙	内面ミガキ	
9	ロクロ土師器	高台付埦	—	[1.5]	—	E・I・K	35	良好	にぶい褐	高台剥落	
10	ロクロ土師器	高台付埦	—	[2.0]	(8.2)	A・C・G・H・I・K	30	普通	にぶい橙	内面ミガキ	
11	土師器	甕	(22.7)	[6.5]	—	A・C・E・I・K	10	良好	にぶい橙		
12	土師器	甕	(25.8)	[7.6]	—	A・C・H・I・K	15	普通	にぶい橙		
13	土師器	甕	—	[7.2]	9.4	A・C・H・I・K	75	普通	にぶい橙	カマド№3　煤付着	28-3
14	土師器	甕	—	[3.6]	(6.4)	A・D・G・H・I・K	20	普通	にぶい赤褐		
15	石製品	不明	長さ20.0 幅13.3 厚さ6.7 重さ1635.9							№1 角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 表円形に煤付着 表裏側面丸ノミ痕	
16	石製品	不明	長さ20.2 幅[10.8] 厚さ5.9 重さ1202.4							№5 角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 部分的に煤付着 表裏丸ノミ痕か 側面工具痕	

床面は踏み固められているが、貼床のような硬化面は認められなかった。

カマドは北壁の北東隅に構築されている。規模は長さ118cm、幅121cmである。掛口は壁の位置とほぼ同じである。燃焼部は壁外に張り出し、顕著な掘り込みはみられない。煙道は急角度で立ち上がる。支脚は土器を転用している。伏せた高台付埦（第65図4）の上に甕（同図13）の底部を正位置に重ねて使用していた。

貯蔵穴はカマドの左脇に設けられている。平面形状は楕円形で、規模は47×38cm、深さは25cmである。覆土から土師器の小片が数点出土した。

床面を精査し、掘方まで掘削したが、壁溝や柱穴は検出されなかった。

出土遺物の量はコンテナ2箱分である。カマドの支脚に転用されていた土器のほかにも、床面直上から状態の良好な遺物が出土した。北西隅の床面には、ロクロ土師器の坏が3点（第65図1～3）正位置で出土した。南東隅近くからは、内黒の高台付埦（同図5）が出土した。土器以外の遺物としては、加工された角閃石安山岩がある（同図15・16）。

時期は、小皿化した坏の存在から、10世紀後半と考えられる。

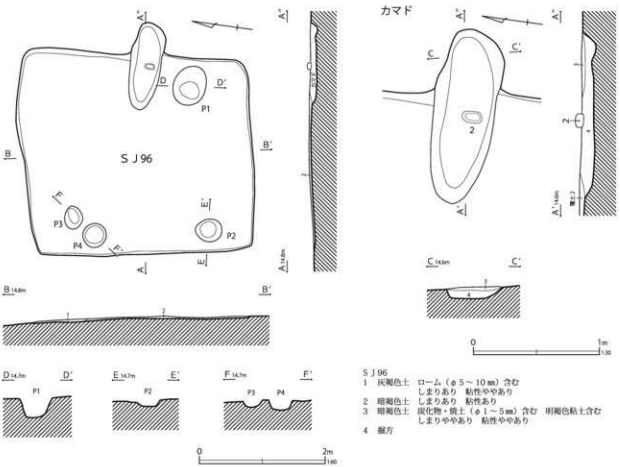
第96号住居跡（第66・67図　第20表）

ZY-998・ZY999・ZZ-998グリッドに位置する。平面形状は方形である。規模は長軸3.72m、短軸3.27mである。遺存状況が大変悪く、掘方でプランが確認された。カマドの位置も推定ではあるが、主軸の傾きはN―82°―Eである。

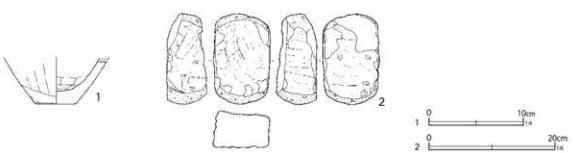
カマドは東壁のほぼ中央に構築されていたと考えられる。覆土はかろうじて炭化物と焼土を含む層が残存していた。角閃石安山岩（第67図2）が燃焼部にあたる箇所から出土したが、支脚に使用されたかどうかは不明である。

住居跡の範囲内から、ピットが4基検出されたが、本住居跡に伴うものである確証はない。P1は径64×50cm、深さ31cmである。規模や検出位置から貯蔵穴である可能性もある。P2は径42×36cm、深さ11cmである。P3は径36×30cm、深さ12cmである。P4は径38×36cm、深さ16cmである。

出土遺物は少なく、図示できたのは土師器甕の底部のみである（第67図1）。



第 66 図　第 96 号住居跡



第 67 図　第 96 号住居跡出土遺物

第 20 表　第 96 号住居跡出土遺物観察表（第 67 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	—	[4.9]	4.2	C・E・H・I・K	70	普通	灰黄褐	カマド	
2	石製品	不明	長さ 14.4 幅 9.1 厚さ 6.4 重さ 571.2							角閃石安山岩 多孔質 側面自然面残存 工具痕 裏擦り痕	

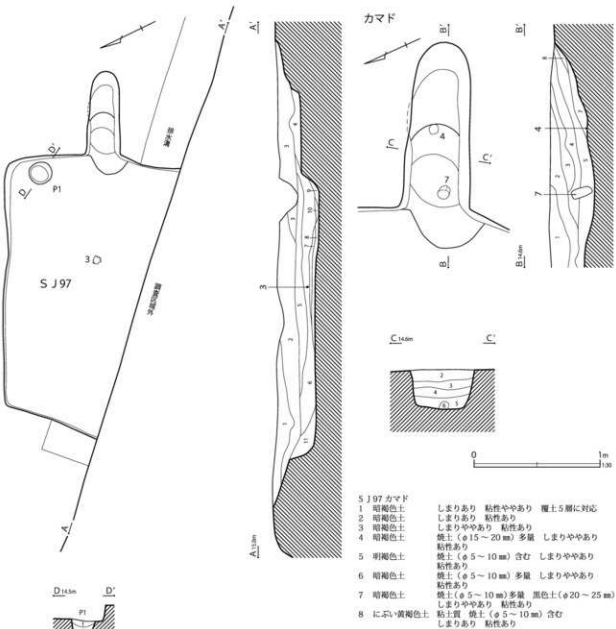
時期は 10 世紀代と考えられる。

第 97 号住居跡（第 68・69 図　第 21 表）

A -999 グリッドに位置する。南側が調査区域外にかかる。平面形状は方形である。規模は東西壁の間が長さ 4.21 m、床面までの深さは 0.35 mである。カマドの中心を通る主軸の傾きはN—59°—Wである。

床面は中央付近を中心に貼床され、踏み固められていた。また、調査区壁にかかる断面図では、東壁に段がつき外壁が 120 cmほど張り出している（4 層）。テラス状の施設の可能性がある。

カマドは東壁に構築されている。規模は全長

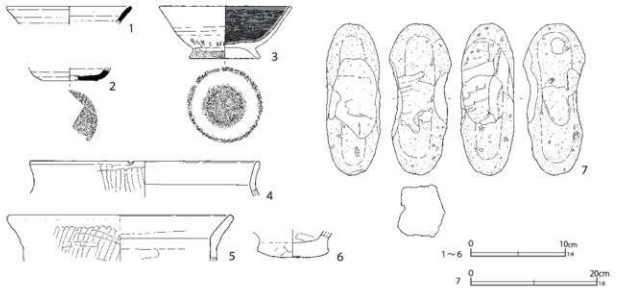


SJ97 カマド
1 暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり　覆土5層に対応
2 暗褐色土　しまりあり　粘性あり
3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 暗褐色土　焼土（φ15～20㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
5 明褐色土　焼土（φ5～10㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
6 暗褐色土　焼土（φ5～10㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
7 暗褐色土　焼土（φ5～10㎜）多量　黒色土（φ20～25㎜）　しまりややあり　粘性あり
8 にぶい黄褐色土　粘土質　焼土（φ5～10㎜）含む　しまりあり　粘性あり

SJ97
1 褐色土　砂質　黄褐色土（φ20～50㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
2 黒褐色土　黄褐色土（φ5～10㎜）含む　しまりややあり　粘性ややあり
3 黒褐色土（φ5～10㎜）含む　しまりあり　粘性ややあり
4 にぶい黄褐色土　砂質　黄褐色土（φ5～10㎜）含む　しまりややあり　粘性ややあり
5 暗褐色土　炭化物含む　しまりあり　粘性あり
6 黒褐色土　炭化物・焼土含む　しまりあり　粘性あり
7 にぶい黄褐色土　しまりあり　粘性あり　貼床
8 暗褐色土　炭化物含む　しまりあり　粘性あり　貼床
9 暗褐色土　炭化物・焼土含む　しまりややあり　粘性あり
10 黒褐色土　炭化物多量　しまりややあり　粘性あり
11 黒褐色土　しまりあり　粘性あり

Pit1
1 暗褐色土　炭化物少量　焼土（φ10～15㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
2 黒色土　しまりややあり　粘性あり

第68図　第97号住居跡



第69図　第97号住居跡出土遺物

第21表　第97号住居跡出土遺物観察表（第69図）

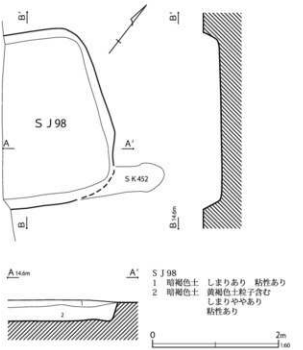
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(13.0)	[1.9]	—	I・K	5	普通	灰白		
2	須恵器	坏	—	[1.3]	(6.0)		25	良好	にぶい黄橙		
3	ロクロ土師器	高台付埦	(13.8)	5.5	7.4	A・K・I	50	普通	にぶい橙	№1 内面ミガキ 内黒	28-4
4	土師器	甕	—	[2.9]	(7.4)	A・C・G・H・I・K	90	普通	にぶい赤褐	カマド№2	
5	土師器	甕	(24.0)	[3.7]	—	A・C・I・K	5	普通	にぶい橙	カマド	
6	土師器	甕	(23.4)	[4.9]	—	A・C・E・H・I・K	5	普通	にぶい橙	カマド	
7	石製品	不明	長さ25.2 幅8.5 厚さ8.4 重さ1290.6				カマド№1 角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 被熱（一部赤変）表・側面幅広工具痕 裏研磨か				

162㎝、幅68㎝である。燃焼部は長さ97㎝、深さ8㎝で、大きく皿状に掘り込まれている。支脚の位置から、掛口は壁のラインよりもやや外側に位置すると考えられる。燃焼部と同じ幅で、徐々に底上げをして煙道に至る。煙出口は検出されなかった。

ピットは北東隅に1基検出された（P1）。P1は径36×35㎝、深さ23㎝である。柱痕はなく、柱穴の可能性は低い。

ピット以外の住居内施設は検出されなかった。

出土遺物の量はコンテナ1箱である。図示したのは床直から出土した内黒の高台付埦（第69図3）、カマドから出土した土師器甕（同図4～6）である。覆土から須恵器坏（同図1・2）が出土しているが混入品であろう。第69図7は支脚に使用されていた角閃石安山岩である。



第70図　第98号住居跡

時期は10世紀前半と考えられる。

第98号住居跡（第70図）

B－0グリッドに位置する。南側は調査区域外にかかる。平面形状は方形である。南東隅を第452号土壙に壊されている。規模は北西壁と南東壁との間で長さ2.77m、床面までの深さは0.31mである。北西壁の傾きはN—53°—Wである。

床面に硬化面は認められなかった。

床面を精査したが、壁溝などの住居内施設は検出されず、カマドの痕跡も見当たらなかった。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第127号住居跡（第71図　第22表）

ZZ-998・A-998グリッドに位置する。南西側は大きく調査区域外にかかる。規模は北東壁の長さが2.67m、床面までの深さは0.73mである。北東壁の傾きはN—30°—Wである。

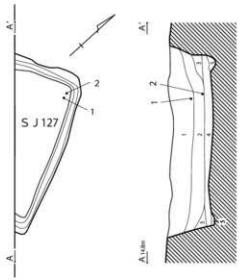
床面には顕著な硬化面はなかったが、固くしまっており明瞭に検出された。

壁溝は検出された範囲すべてで巡っている。幅12～27cm、深さ5～11cmである。

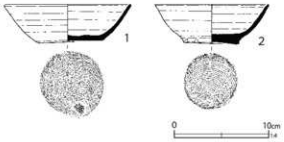
検出範囲が狭く、柱穴などは検出されなかった。

出土遺物の量は少ないが、北隅の覆土中層から完形の須恵器坏が2点出土した（第71図1・2）。産地は不明であるが、武蔵国の窯跡製品ではなく、群馬など他地域の窯の製品と考えられる。なお、このほかに土師器甕の胴部破片が覆土から出土している。

時期は9世紀第2四半期と考えられる。



S J 127
1　黒褐色土　粘質土　炭化物多量　暗灰色粘土ブロック少量
　やや しまりに欠ける
2　黒褐色土　粘質土　炭化物・焼土少量　やや しまりに欠ける
3　暗黄褐色土　粘質土　ロームブロックと暗褐色土ブロックの混合土
　やや しまりに欠ける
4　暗褐色土　粘質土　炭化物含む　ロームブロック多量　しまりあり
5　暗黄褐色土　粘質土　ロームブロック多量　やや しまりに欠ける



第71図　第127号住居跡・出土遺物

第22表　第127号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	13.2	4.1	6.9	C・E・I・K	100	良好	浅黄橙	№1	28-5
2	須恵器	坏	12.0	4.2	5.8	I・K	80	普通	灰白	№2	28-6

（2）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、北側の住居跡群の分布域で、住居跡の間隙を縫うように3棟検出された。3面において確認された遺構であり、古代に属するものと判断した。

第5号掘立柱建物跡（第72図）

ZU-994・ZV-994グリッドに位置する。1面から掘り下げられた第346号土壙に中央部分を切られている。そのため、柱穴の一部が失われており、全容は明らかではないが、西（北西）側に庇を持つ桁行3間×梁行2間の側柱建物跡と推定される。規模は桁行4.60m、梁行は2.90mで、庇を含めて3.75mである。母屋の柱は一直線に並ばず、間隔も不揃いである。柱間は母屋の桁行で1.61～1.70m（平均1.65m）、梁行で1.20～1.65m（平均1.39m）である。母屋から庇までは0.72～0.98mである。桁行の傾きはN—42°—Eである。

柱穴の規模は、母屋のP1が径47×42cm、深さ44cm、P2が長径41cm、深さ44cm、P3が長径34cm　深さ44cm、P4が径48×42cm、深さ80cm、P5が径52×40cm、深さ58cm、P6が径45×41cm、深さ40cm、P7が径42×38cm、深さ49cm、P8が径45×38cm、深さ60cm、P9が推定径52×41cm、深さは24cmまで検出された。庇のP10は径43×39cm、深さ35cm、P11が径47×44cm、深さ46cm、P12が径54×49cm、深さ46cm、P13が径47×43cm、深さ48cmである。

土層断面では、多くの柱穴から、柱痕（12～15層）が確認された。

遺物は、P3の覆土から土師器の小片2点、P5の覆土から土師器の小片4点、P11の覆土から土師器甕の小片2点が出土した。いずれも小破片のため図化できなかった。

第6号掘立柱建物跡（第73図）

ZT-993・ZU-993グリッドに位置する。第39号井戸跡によって柱穴の一部が壊されている。第7号掘立柱建物跡と柱穴同士が重なるが、切り合い面積がほとんどなく、新旧関係を把握することはできなかった。検出されたのは、桁行1間×梁行2間分の柱穴5基（1基は痕跡のみ）である。側柱建物跡と考えられる。規模は、梁行3.34m、桁行は北側の調査域外に延びる可能性もある。桁行の柱間は2.81m、梁行の柱間は1.53mと1.81mである。桁行の傾きはN—2°—Wである。

柱穴の規模は、P1が径77×54cm、深さ38cm、P3が径80×55cm、深さ23cm、P4が径80×67cm、深さ32cm、P5が径57×53cm、深さ29cmである。

柱痕はP1・4・5で確認された。なお、P2は排水溝によってほとんど削平されており、痕跡のみが検出された。

柱穴から遺物は出土しなかった。

第7号掘立柱建物跡（第73図）

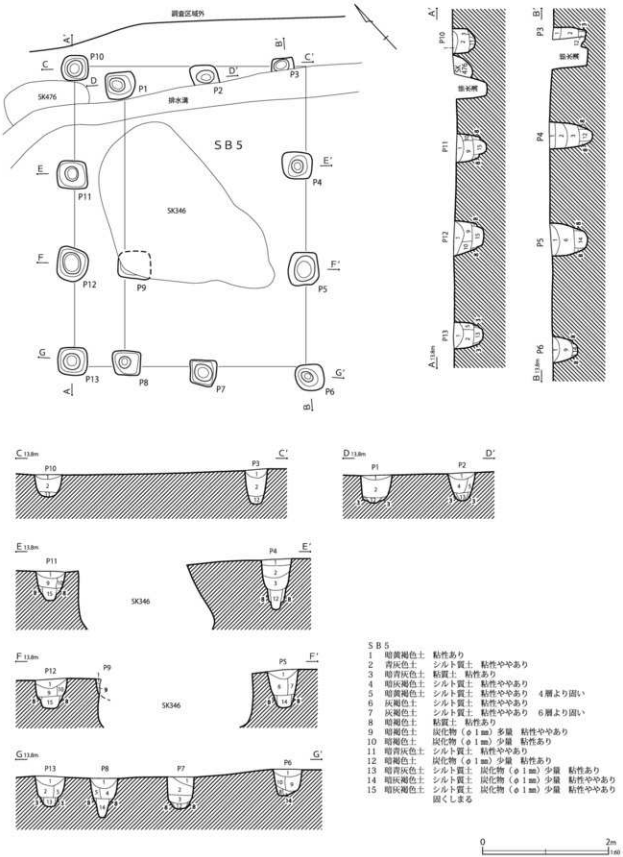
ZT-993・ZU-993グリッドに位置する。検出されたのは柱穴3基である。側柱建物と推定される。北側が調査区域外になり全容は明らかではない。規模は柱穴間が南北2.17m、東西3.73mである。南北柱穴間の傾きはN—5°—Wである。

柱穴の規模は、P1が径67×50cm、深さ34cmである。P2は排水溝によって北側を切られており、短径63cm、深さ26cmである。P3は径63×47cm、深さ32cmである。

いずれの柱穴からも、抜き取られたものか、明瞭な柱痕は認められなかった。

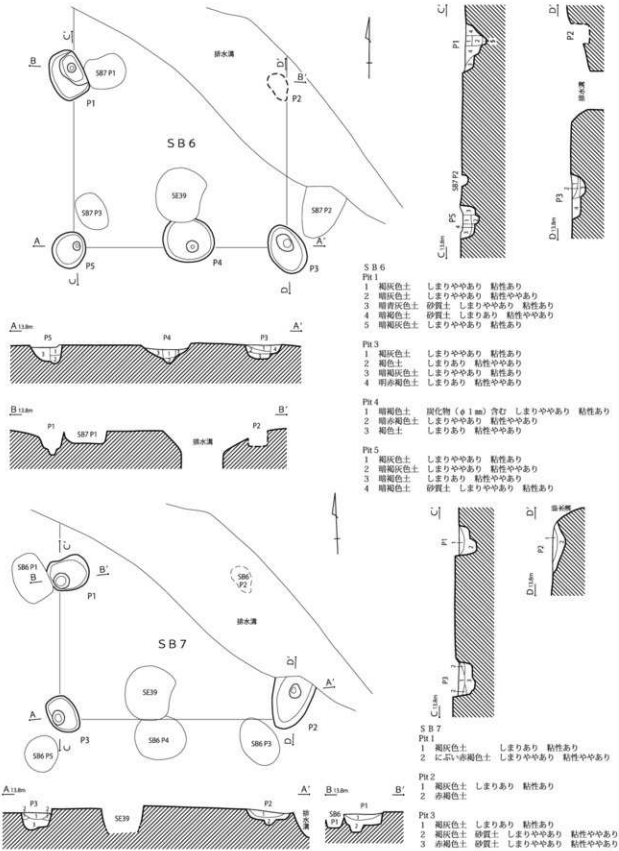
柱穴から遺物は出土しなかった。

第6号掘立柱建物跡と第7号掘立柱建物跡は、方位の傾きがほぼ同一であり、相互の関連性は高いと考えられる。柱穴の重複関係からは新旧関係を明らかにすることはできなかったが、第6号掘立柱建物跡に明瞭な柱痕が観察できるため、第7号掘立柱建物跡を建て替えて、第6号掘立柱建物跡が建築された可能性が高い。



SB5
1 暗黄褐色土 粘性あり
2 青灰色土 シルト質土 粘性ややあり
3 暗青灰色土 粘質土 粘性あり
4 暗灰褐色土 シルト質土 粘性ややあり
5 暗黄褐色土 シルト質土 粘性ややあり 4層より固い
6 灰褐色土 シルト質土 粘性ややあり
7 灰褐色土 シルト質土 粘性ややあり 6層より固い
8 暗褐色土 粘質土 粘性あり
9 暗褐色土 炭化物（φ1mm）多量 粘性ややあり
10 暗褐色土 炭化物（φ1mm）少量 粘性あり
11 暗青灰色土 シルト質土 粘性ややあり
12 暗褐色土 炭化物（φ1mm）少量 粘性あり
13 暗青灰色土 シルト質土 炭化物（φ1mm）少量 粘性あり
14 暗灰褐色土 シルト質土 炭化物（φ1mm）少量 粘性ややあり
15 暗灰褐色土 シルト質土 炭化物（φ1mm）少量 粘性ややあり 固くしまる

第72図 第5号掘立柱建物跡



SB6
Pit 1
1 褐灰色土 しまりややあり 粘性あり
2 暗灰色土 しまりややあり 粘性ややあり
3 暗青灰色土 砂質土 しまりややあり 粘性あり
4 暗褐色土 砂質土 しまりあり 粘性ややあり
5 暗褐灰色土 しまりややあり 粘性あり

Pit 3
1 褐灰色土 しまりややあり 粘性あり
2 褐色土 しまりあり 粘性ややあり
3 暗褐灰色土 しまりややあり 粘性あり
4 明赤褐色土 しまりあり 粘性ややあり

Pit 4
1 暗褐色土 焼化物（φ 1 ㎜）含む しまりややあり 粘性あり
2 暗赤褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
3 褐色土 しまりあり 粘性ややあり

Pit 5
1 褐灰色土 しまりややあり 粘性あり
2 暗褐灰色土 しまりややあり 粘性ややあり
3 暗褐色土 しまりあり 粘性ややあり
4 暗褐色土 砂質土 しまりややあり 粘性あり

SB7
Pit 1
1 褐灰色土 しまりあり 粘性あり
2 にぶい赤褐色土 しまりややあり 粘性ややあり

Pit 2
1 褐灰色土 しまりあり 粘性あり
2 赤褐色土

Pit 3
1 褐灰色土 しまりあり 粘性あり
2 褐灰色土 砂質土 しまりややあり 粘性ややあり
3 赤褐色土 砂質土 しまりややあり 粘性ややあり

0 2m
1:60

第 73 図　第 6 ・ 7 号掘立柱建物跡

（3）土壙（第74～76図　第23・24表）

3面で検出された土壙のうち、他遺構との重複関係や出土遺物などから古代に属すると判断したのは20基である。詳細は第23表にまとめた。

以下、遺物の出土した土壙について記載する。

第477号土壙（第74・76図　第23・24表）

遺物量は多く、ロクロ土師器の坏（第76図4）や内黒土器（同図6）などが出土した。図示したもの以外にも土師器甕の胴部破片がある。

時期は10世紀前半と考えられる。

第495号土壙（第74・76図　第23・24表）

ロクロ土師器の内黒土器（第76図11）が1点出土した。第477号土壙よりも新しい土壙であるが、遺物からは顕著な時期差は認められない。

第497号土壙（第75・76図　第23・24表）

第91・92号住居跡の廃絶後に造られた土壙である。遺物は土師器の甕と底部（第76図13・14）が出土した。胴部の破片も出土しており、同一個体であった可能性もある。

時期は10世紀後半と考えられる。

第511号土壙（第75・76図　第23・24表）

覆土から内黒のロクロ土師器高台付埦（第76図17）が出土した。

時期は10世紀前半と考えられる。

第513号土壙（第75・76図　第23・24表）

覆土から須恵器坏（第76図19）が出土した。底部は回転糸切り後、周辺ヘラケズリを施す。南比企産の須恵器である。

時期は8世紀後半と考えられる。

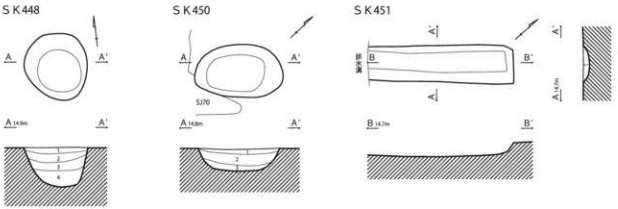
第627号土壙（第75・76図　第23・24表）

遺物は底面から残存状態の良いロクロ土師器の坏（第76図20）が出土した。この遺物の出土状況やその形状から、墓壙の可能性が指摘できる。

時期は10世紀前半と考えられる。

第23表　土壙一覧表（1）

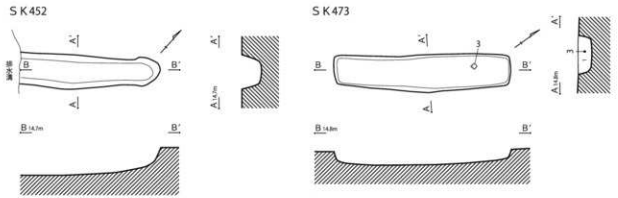
№.	図№.	グリッド	形状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	長軸方位	重複関係	遺物	備考
448	74	B-0	不整円形	1.05	1.01	0.62			土師器	覆土に炭化物多量
450	74	B-0	楕円形	1.40	0.84	0.34	N―46°―E	SJ70より新	なし	
451	74	B-0	方形	[2.30]	0.57	0.09	N―42°―E		なし	
452	74	B-0	不整方形	[2.31]	0.55	0.30	N―48°―E		なし	
468	74	ZU-995・ZV-995	楕円形	1.08	0.97	0.36	N―56°―E		なし	覆土に炭化物多量
469	74	ZV-994	方形か	[0.96]	0.83	0.26	N―44°―E		内黒土器 角閃石安山岩	
473	74	ZT・ZU-993	方形	2.78	0.60	0.22	N―36°―E		土師器鉢	
477	74	ZT-991	不整楕円形	2.40	(0.95)	0.33	N―61°―W	SK495より古	ロクロ土師器坏 内黒土器 土師器甕	
495	74	ZT-991	楕円形	1.07	0.71	0.26	N―55°―W	SK477より新	内黒土器	
497	75	ZT-992	楕円形	1.78	0.72	0.33	N―72°―W	SJ91・92より新	土師器甕	覆土に炭化物多量
503	75	ZU-993	楕円形か	1.04	0.79	0.33	N―72°―W	SA6・P6より古	なし	
506	75	ZT-992	楕円形か	0.78	(0.46)	0.37	N―2°―E	SK507より古 SK508より新	灰釉陶器 ロクロ土師器	
507	75	ZT-992	楕円形	0.80	0.73	0.39	N―2°―E	SK509より古 SK506・508より新	ロクロ土師器埦 土師器甕	
508	75	ZT-992	楕円形か	1.07	[0.48]	0.30		SK506・507・509より古	ロクロ土師器	
510	75	ZZ-998	方形	1.88	0.66	0.10	N―20°―E		土師器	
511	75	ZY-999	不整円形	1.18	1.12	0.15			ロクロ土師器埦	
513	75	ZZ-0・1	円形か	[1.06]	[0.77]	0.28			須恵器坏	
514	75	A・B-0	方形	1.01	1.00	0.25	N―51°―E		なし	
518	75	ZZ-999	楕円形	0.89	0.83	0.24	N―33°―E		土師器	覆土上層に炭化物多量
627	75	ZZ-999	方形	1.6	0.7	0.08	N―75°―W		ロクロ土師器坏	墓壙



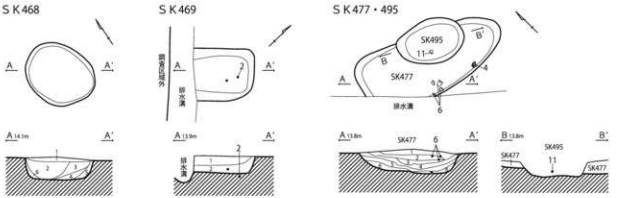
SK448
1　黒褐色土　炭化物・黄褐色土微量
2　黒褐色土　炭化物・焼土・黄褐色土微量
3　黒褐色土　炭化物・焼土微量　黄褐色土少量
4　灰褐色土　粘質土　炭化物多量

SK450
1　暗褐色土　炭化物微量　暗黄褐色土粒子多量
2　黒褐色土　炭化物微量　暗黄褐色土粒子少量
3　黒褐色土　暗黄褐色土ブロック少量

SK451
1　暗灰褐色土　炭化物微量



SK473
1　暗褐色土　炭化物・焼土少量　明灰褐色土粒子含む　しまりややあり



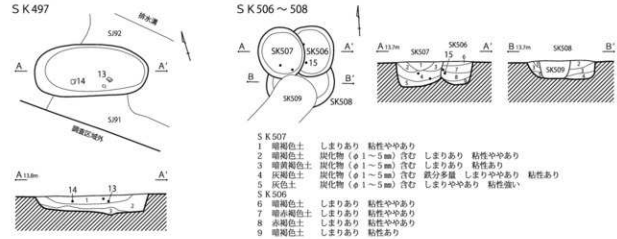
SK468
1　褐色土　　炭化物多量　焼土少量
2　褐色土　　炭化物・焼土やや多量　褐色土粒子極多量　しまりあり　粘性なし
3　褐色土　　炭化物下層に多量　焼土少量　しまりあり　粘性なし
4　褐色土　　炭化物・焼土やや多量　黄色土ブロック下層に多量
　　しまりあり　粘性ややあり
5　褐色土　　炭化物・焼土少量　黄色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性なし
6　赤褐色土　上層が被熱のため赤く硬化　しまりあり　粘性なし

SK469
1　暗褐色土　炭化物少量　粘性あり
2　暗黄褐色土　鉄分多量　粘性あり

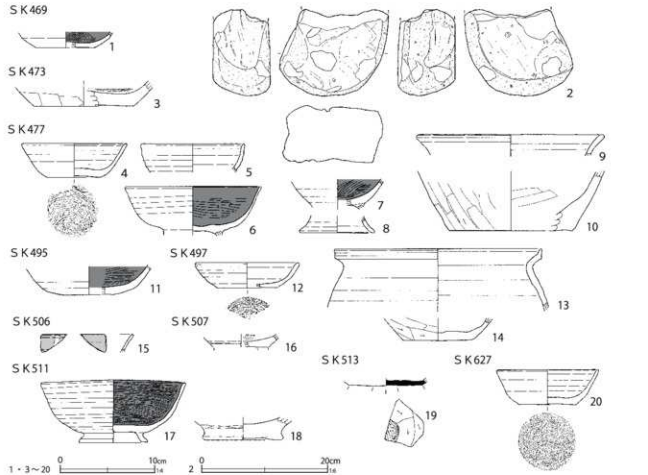
SK477
1　暗黄褐色土　炭化物（φ1～5mm）少量　しまりややあり　粘性あり
2　暗灰色土　　炭化物（φ1～5mm）少量　しまりややあり　粘性あり
3　暗灰色土　　炭化物（φ10～20mm）多量　遺物混入
　　しまりなし　粘性ややあり
4　青灰色土　　炭化物（φ10～20mm）少量　しまりなし　粘性あり
5　暗青灰色土　炭化物（φ1～5mm）少量　しまりややあり　粘性あり
6　暗青灰色土　黄褐色土（φ5～10mm）少量　しまりややあり　粘性あり

0　2m
1:60

第74図　土壙（1）


SK497
排水溝
SJ92
A
A'
13
φ14
SJ91
調査区域外
A 13.8m
14
13
SK506～508
SK507
SK506
15
SK509
SK508
B
B'
SK507
1 暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり
2 暗褐色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　しまりあり　粘性ややあり
3 暗黄褐色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　しまりあり　粘性あり
4 灰褐色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　鉄分多量　しまりややあり　粘性あり
5 灰色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　しまりややあり　粘性強い
SK506
6 暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり
7 暗赤褐色土　しまりあり　粘性ややあり
8 赤褐色土　しまりあり　粘性ややあり
9 暗褐色土　しまりあり　粘性あり
SK508
1 暗褐色土　炭化物（φ1～5㎜）少量　黄褐色土含む　しまりあり　粘性ややあり
2 暗褐灰色土　しまりあり　粘性ややあり
3 褐灰色土　炭化物（φ1～5㎜）少量　黄褐色土・鉄分含む　しまりあり　粘性ややあり
4 暗青灰色土　炭化物（φ1～5㎜）少量　しまりややあり　粘性あり
5 褐灰色土　炭化物（φ5～10㎜）少量　しまりややあり　粘性あり
SK497
1 暗褐色土　炭化物（φ1～5㎜）多量　灰色土含む　しまりややあり　粘性ややあり
2 灰色土　炭化物（φ20～25㎜）斑状に多量　しまりややあり　粘性あり
3 暗青灰色土　炭化物（φ5～10㎜）少量　しまりややあり　粘性あり
SK503
GP
SA7
P6
SK510
SK511
17
SK513
SK512
攪乱
SK503
1 暗青灰色土　粘質土　明灰色シルト質土に暗灰色粘土ブロック含む　しまりなし
2 暗灰色土　粘質土　しまりなし　粘性あり
3 青灰色土　シルト質土　明灰色シルト質土と明灰色粘土の混合土　しまりなし
SK510
1 明褐色土　炭化物（φ1～5㎜）少量　しまりあり　粘性ややあり
SK511
1 暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり
2 明褐色土　炭化物（φ1～5㎜）・焼土含む　しまりあり　粘性ややあり
SK513
1 黄褐色土　黄色土・灰色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
2 黄褐色土　1層に近いが大きい黄色土ブロックを含み、しまりに欠ける
SK514
SK518
SK627
20
SK627
1 暗褐色土　灰色土含む
SK514
1 黄灰褐色土　シルト質土　ブロック状に堆積　しまりなし
2 暗褐色土　粘質土　黄灰褐色土ブロック含む　しまりなし
SK518
1 黒褐色土　炭化物多量　骨粉含む　しまりなし
2 暗褐色土　炭化物・焼土少量　しまりなし
0
2m
1:60

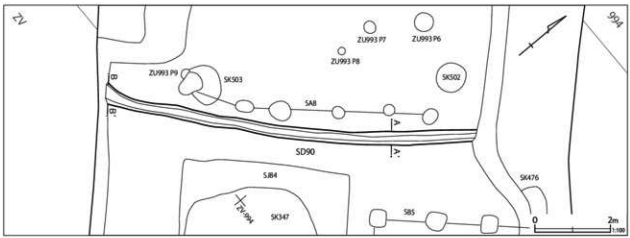
第 75 図　土壙（2）

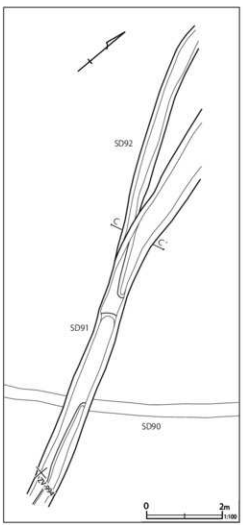


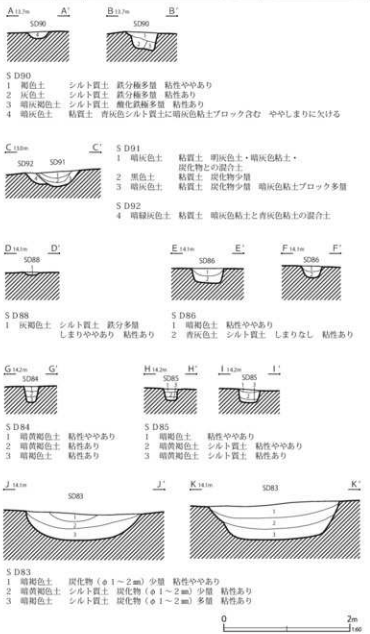
第 76 図　土壙出土遺物（1）

第 24 表　土壙出土遺物観察表（1）（第 76 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	ロクロ土師器	塊	—	[1.7]	(6.2)	C・E・I・K	10	普通	にぶい黄橙	SK469	内面ミガキ 内黒 外面風化	
2	石製品	不明	長さ [12.6] 幅 [16.1] 厚さ 8.8 重さ 1152.3							SK469	№2 角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 幅広工具痕か 被熱	
3	土師器	鉢か	—	[2.7]	(10.6)	A・C・E・I・K	20	普通	にぶい橙	SK473	№1 内面ミガキ	
4	ロクロ土師器	坏	(10.9)	3.6	5.6	C・E・H・I・K	50	普通	にぶい橙	SK477	№1	
5	ロクロ土師器	坏	(10.8)	[3.1]	—	A・H・I・K	10	普通	にぶい黄橙	SK477	内面煤付着	
6	ロクロ土師器	高台付椀	14.2	5.3	6.2	C・G・I・K	85	普通	橙	SK477	№3・4・5 内面ミガキ 内黒 器面風化	29-4
7	ロクロ土師器	高台付椀	—	[3.3]	—	C・H・I・K	20	普通	褐灰	SK477	内面ミガキ 内黒	
8	ロクロ土師器	高台付（椀）	—	[1.8]	(4.0)	A・C・I・K	15	普通	にぶい黄橙	SK477	高台	
9	土師器	甕	(19.2)	[2.3]	—	A・E・I・K	10	普通	にぶい黄橙	SK477		
10	土師器	甕	—	[6.3]	(13.0)	A・C・G・I・K	10	普通	にぶい橙	SK477		
11	ロクロ土師器	塊	—	[3.2]	(5.2)	C・E・I・K	25	普通	灰褐	SK495	№1 内面ミガキ 内黒	
12	ロクロ土師器	坏	(10.7)	2.7	(6.4)	C・E・H・I・K	10	普通	にぶい橙	SK497		
13	土師器	甕	(21.9)	[6.6]	—	A・C・G・H・I・K	10	普通	明赤褐	SK497	№3	
14	土師器	甕	—	[2.4]	7.6	C・I・K	50	普通	にぶい橙	SK497	№1	
15	灰釉陶器	塊	—	[1.9]	—	I・K	5	良好	灰白	SK506	№2 内外面施釉	
16	ロクロ土師器	高台付椀	—	[1.4]	—	A・C・H・I・K	25	普通	にぶい橙	SK507	内面ミガキ 高台剥落	
17	ロクロ土師器	高台付椀	(15.2)	6.6	7.2	A・E・H・K	60	普通	にぶい黄橙	SK511	№1 内面ミガキ 内黒	29-5
18	土師器	甕	—	[2.4]	(8.0)	C・E・H・I・K	25	普通	灰黄褐	SK511		
19	須恵器	坏	—	[0.8]	(7.9)	A・I・J・K	10	普通	にぶい黄	SK513	南比企産 底部回転ヘラケズリ	
20	ロクロ土師器	坏	10.7	3.7	6.2	A・C・E・G・I・K	80	普通	にぶい黄橙	SK627	№1 内外面煤付着	29-6







S D90
1 褐色土　シルト質土　鉄分極多量　粘性ややあり
2 灰色土　シルト質土　鉄分極多量　粘性あり
3 暗灰褐色土　シルト質土　酸化鉄極多量　粘性あり
4 暗灰色土　粘質土　青灰色シルト質土に暗灰色粘土ブロック含む　ややしまりに欠ける

S D91
1 暗灰色土　粘質土　明灰色土・暗灰色粘土・
炭化物との混合土
2 黒色土　粘質土　炭化物少量
3 暗灰色土　粘質土　炭化物少量　暗灰色粘土ブロック多量

S D92
4 暗緑灰色土　粘質土　暗灰色粘土と青灰色粘土の混合土

S D88
1 灰褐色土　シルト質土　鉄分多量
しまりややあり　粘性あり

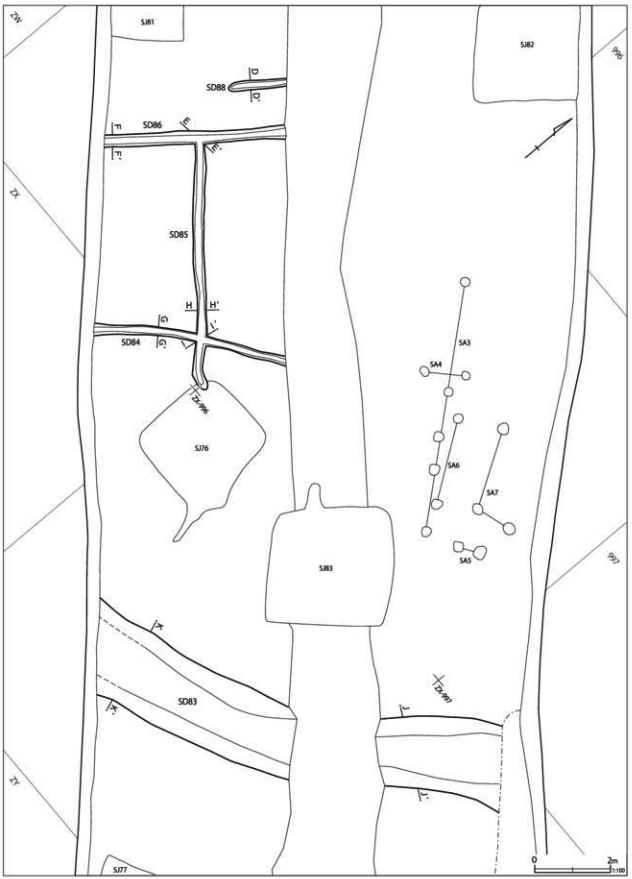
S D86
1 暗褐色土　粘性ややあり
2 青灰色土　シルト質土　しまりなし　粘性あり

S D84
1 暗黄褐色土　粘性ややあり
2 暗黄褐色土　粘性あり
3 暗褐色土　粘性あり

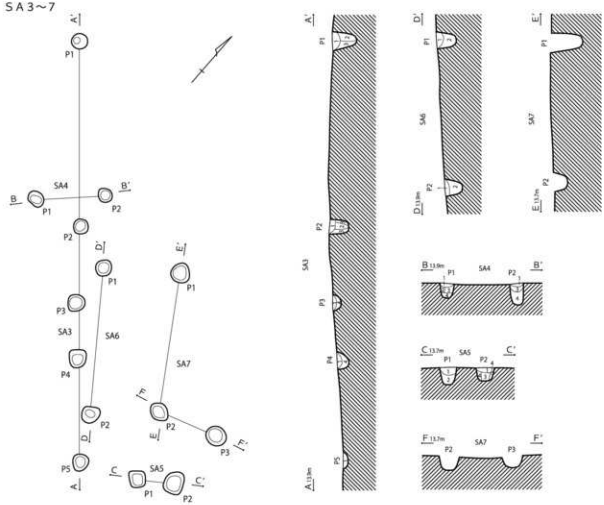
S D85
1 暗褐色土　粘性ややあり
2 暗黄褐色土　シルト質土　粘性ややあり
3 暗黄褐色土　シルト質土　粘性あり

S D83
1 暗褐色土　炭化物（φ1～2㎜）少量　粘性ややあり
2 暗黄褐色土　シルト質土　炭化物（φ1～2㎜）少量　粘性あり
3 暗褐色土　シルト質土　炭化物（φ1～2㎜）多量　粘性あり

第77図　溝跡（3面）（1）


SJ81
SJ82
SJ83
SJ76
SJ77
SD88
SD86
SD85
SD84
SD83
SA3
SA4
SA5
SA6
SA7
0
2m
1:100

第78図　溝跡（3面）（2）



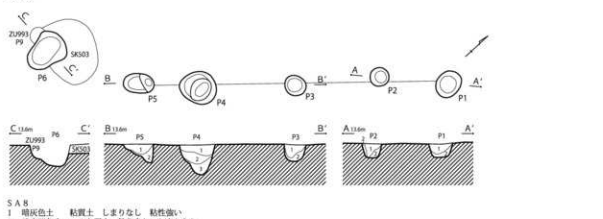
SA3
1 褐灰色土　シルト質土
2 青灰色土　粘質土　しまりややあり　柱痕
3 青灰色土　粘質土　しまり強い　掘方
4 青灰色土　しまりあり

SA4
1 灰褐色土　シルト質土
2 灰褐色土　シルト質土　粘性あり　柱痕
3 青灰色土　粘質土
4 青灰色土　シルト質土

SA5
1 赤褐色土　シルト質土　しまりなし　粘性あり
2 青灰色土　シルト質土　しまりなし　粘性強い
3 青灰色土　シルト質土　しまりなし　粘性あり　柱痕
4 青灰色土　シルト質土　しまりあり　粘性あり

SA6
1 灰色土　シルト質土
2 青灰色土　シルト質土

SA8



SA8
1 暗灰色土　粘質土　しまりなし　粘性強い
2 暗青灰色土　シルト質土　鉄分含む　しまりなし
3 明灰色　粘質土　鉄分多量　ブロック状に粘土を含む

第79図　第3～8号杭列跡

第 25 表　溝跡一覧表（１）

No.	図No.	グリッド	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	走行方向	断面形状	主な重複関係	遺物	備考
83	78	ZW-997 ZX-996・997	11.20	1.82 ～ 2.26	0.42 ～ 0.57	N―58°―E	皿形・逆台形		なし	
84	78	ZW-995・996 ZX-995	5.15	0.19 ～ 0.31	0.15 ～ 0.21	N―51°―E	逆台形	SD85 より古	なし	
85	78	ZW-995	6.20	0.22 ～ 0.31	0.14 ～ 0.21	N―51°―W	逆台形	SD86 より古 SJ76 より新	なし	
86	78	ZW-995	4.80	0.28 ～ 0.36	0.17 ～ 0.21	N―38°―E	逆台形	SD85 より新	なし	
88	78	ZW-995	1.55	0.21 ～ 0.25	0.02 ～ 0.05	N―32°―E	皿形		なし	
90	77	ZU-993・994 ZY-993	9.83	0.27 ～ 0.35	0.06 ～ 0.16	N―46°―E	皿形・逆台形		なし	
91	77	ZU-993 ZY-993・994	11.20	0.59 ～ 0.94	0.07 ～ 0.17	N―26°―W	皿形	SD92 より新	なし	第二面
92	77	ZT・ZU-993	5.70	0.33 ～ 0.48	0.08 ～ 0.15	N―36°―W	皿形	SD91 より古	なし	第二面

第 26 表　杭列跡一覧表（１）

No.	図No.	グリッド	直線距離（m）	走行方向	Pit No.	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	Pit 間の距離（m）	遺物	備考
3	79	ZW-996	6.63	N―41°―W	P 1	0.26	0.25	0.38		なし	柱痕あり
					P 2	0.23	0.23	0.30	2.92	なし	柱痕あり
					P 3	0.26	0.26	0.14	1.20	なし	
					P 4	0.28	0.27	0.18	0.87	なし	
					P 5	0.27	0.26	0.08	1.64	なし	
4	79	ZW-996	1.10	N―46°―E	P 1	0.27	0.21	0.23		なし	
					P 2	0.23	0.23	0.32		なし	
5	79	ZW-996	0.60	N―57°―E	P 1	0.26	0.26	0.26		なし	
					P 2	0.37	0.33	0.21		なし	柱痕あり
6	79	ZW-996	2.31	N―37°―W	P 1	0.25	0.25	0.32		なし	
					P 2	0.29	0.25	0.27		なし	
7	79	ZW-996		N―32°―W	P 1	0.32	0.31	0.50		なし	∠ P2=105°
				N―57°―E	P 2	0.27	0.25	0.21	2.23	なし	
					P 3	0.34	0.30	0.17	0.98	なし	
8	79	ZU-993・994	6.35	N―45°―E	P 1	0.45	0.36	0.21		なし	
					P 2	0.30	0.28	0.23	1.09	なし	
					P 3	0.34	0.32	0.26	1.35	なし	
					P 4	0.53	0.51	0.47	1.45	なし	
					P 5	0.48	0.30	0.29	0.88	なし	
					P 6	0.65	0.52	0.32	1.67	なし	SK80 より新

（４）溝跡（第 77・78 図　第 25 表）

３面で検出された溝跡は６条である。さらに下層の第二面（縄文遺構確認面）の調査時にも当期に帰属すると推定される溝跡が２条が検出された。各溝跡の詳細は第 25 表にまとめた。

第 83 号溝跡は、調査区の中央を南北に横断する溝跡である。この溝跡の南側には８～９世紀の住居跡が含まれ、北側は 10 世紀代の住居跡が主に分布する。本溝を区画溝として、南北２つの住居跡群が構成されている。

第 90 号溝跡は第５号掘立柱建物跡と第 84 号住居跡の北西側を北東から南西に延び、走行方向は第８号杭列跡と並列する。その位置関係から第５号掘立柱建物跡を中心とした居住域を第８号杭列跡とともに区画する溝跡と考えられる。

（５）杭列跡（第 79 図　第 26 表）

遺跡ではピットが直線的に連続する遺構が検出された。本報告ではこれらを杭列跡と呼称する。杭列跡は３面で６条検出された。各杭列跡の詳細は第 26 表にまとめた。

第８号杭列跡は、第 90 号溝跡の西（北西）側に沿って検出された。溝跡とは 0.3 ～ 0.5 ｍの間隔を保つ。位置関係から、第８号杭列跡は第 90 号溝跡とともに第５号掘立柱建物跡を中心とした居住域を区画する柵跡と推定される。

（6）畝跡B（第80～84図　第27表）

2面の畝跡（畝跡B）は、3面よりも40～50cm上の面から検出された。調査区の中央、ZU-995～ZY-999グリッドと、南端のA－0～B－1グリッドに位置する。中央部の畝跡数は畝201～325（畝227は欠番）の124条で、検出面積は約870㎡である。南端部の畝跡数は畝1～13・197～199の16条で、検出面積は約66㎡である。畝跡の詳細は第27表にまとめた。

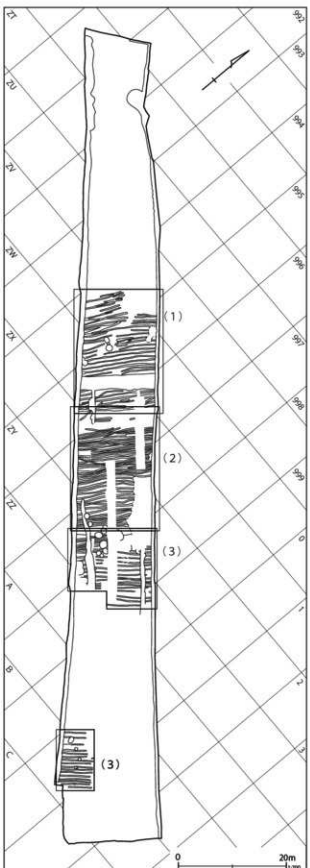
畝の方向は調査区を横切る形で北東から南西方向に延びる。傾きは中央部の畝217でN―33°―E、南端部の畝6でN―43°―Eである。

畝跡の規模は、幅0.14～0.48m（平均0.23m）、深さは0.03～0.12m（平均0.04m）である。

この畝跡は畠跡と考えられる。そこで、その実体を明らかにすることを目的として、堆積土壌の自然科学分析を実施した。その結果、肥料の存在は明らかにすることはできたが、栽培植物を明確に同定することはできなかった（第Ⅴ章参照）。

中央部の畝跡の覆土には軽石質テフラが含まれていた。調査区西壁断面（第4図）で、畝292と294に該当する畝跡に堆積していたテフラを分析した結果、天仁元（1108）年に浅間山から噴出した浅間Bテフラ（As-B）と同定された（第Ⅴ章参照）。

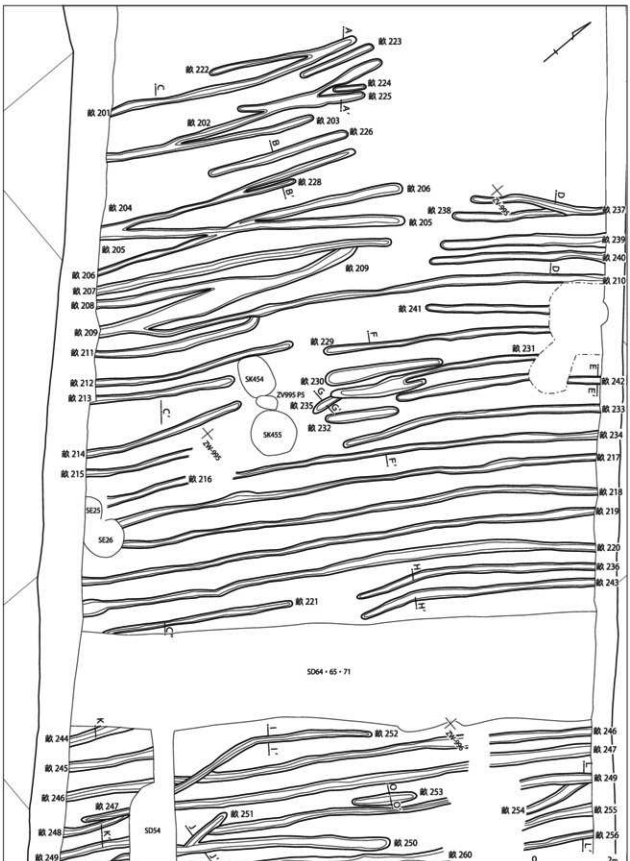
畝跡の年代は、浅間Bテフラが広範囲で認められ、まとまった堆積層が検出されているため、天仁元（1108）年の浅間山の噴火の際には、畠作が行われていたと推定される。3面の集落が廃絶し、埋没した後に畝跡が造られた事実から、その上限は3面の遺構の年代の下限（10世紀後半）と推定される。したがって、少なくとも11世紀代には、この地は耕作地（畠）として機能しており、12世紀初頭の浅間山噴火によって埋没した可能性が指摘できる。



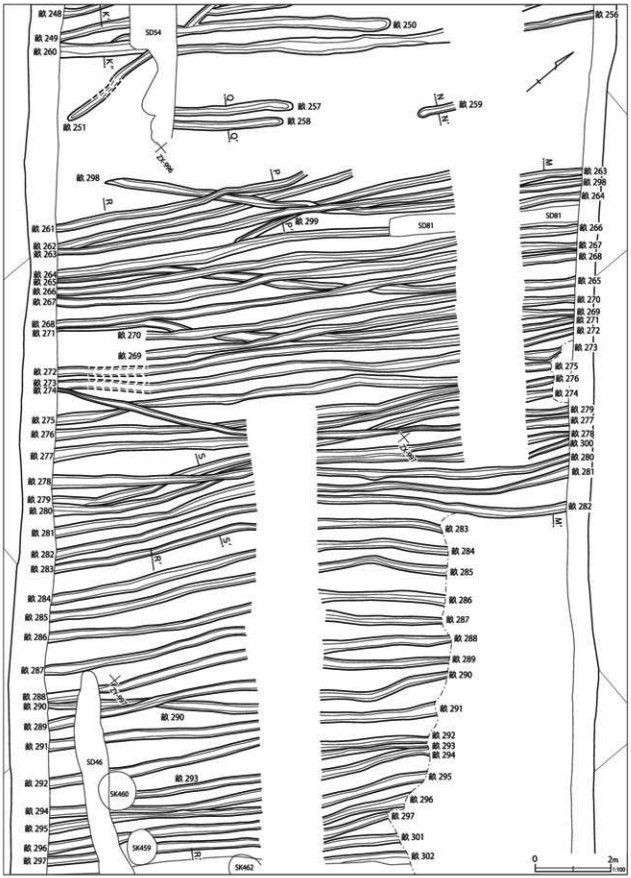
第80図　畝跡B区割図

第27表　畝跡B計測表

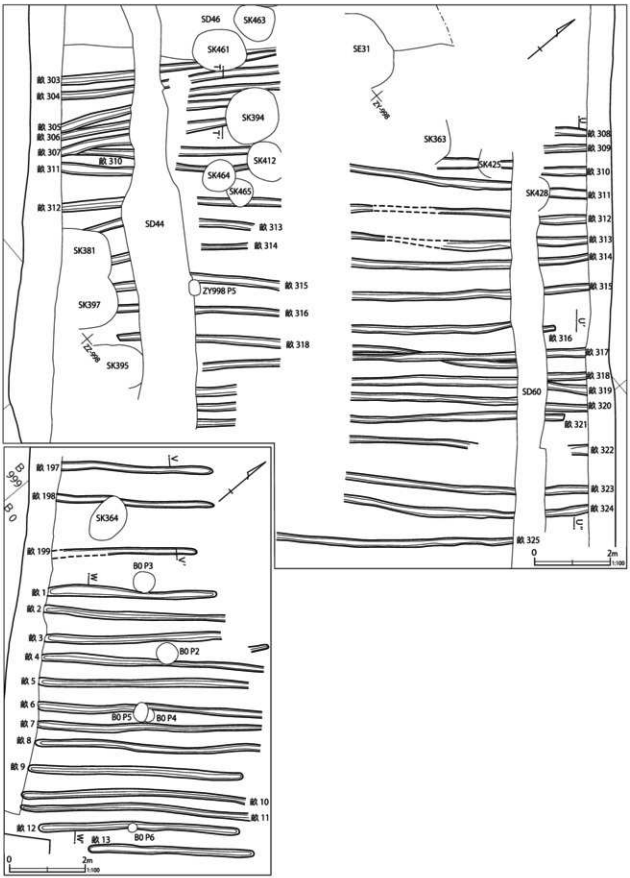
番号	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)
1	4.49	0.32	0.07
2	4.81	0.17	0.07
3	5.59	0.21	0.06
4	5.90	0.23	0.06
5	5.56	0.16	0.03
6	5.95	0.19	0.07
7	5.94	0.19	0.06
8	5.97	0.17	0.05
9	5.68	0.21	0.06
10	5.94	0.19	0.05
11	6.04	0.15	0.05
12	5.34	0.19	0.07
13	4.32	0.20	0.02
197	3.99	0.15	0.03
198	3.82	0.16	0.03
199	3.59	0.15	0.06
201	6.67	0.16	0.04
202	6.05	0.32	0.04
203	5.51	0.23	0.04
204	7.01	0.22	0.03
205	8.03	0.31	0.04
206	8.46	0.29	0.03
207	7.98	0.29	0.04
208	3.91	0.45	0.05
209	7.06	0.48	0.04
210	13.51	0.17	0.03
211	4.41	0.28	0.03
212	5.34	0.18	0.03
213	3.68	0.24	0.05
214	4.32	0.22	0.05
215	2.85	0.18	0.02
216	2.18	0.19	0.03
217	12.82	0.28	0.03
218	12.75	0.18	0.03
219	13.80	0.21	0.04
220	13.78	0.22	0.05
221	4.90	0.21	0.03
222	2.84	0.17	0.03
223	2.08	0.21	0.03
224	0.86	0.14	0.03
225	3.36	0.26	0.05
226	3.83	0.25	0.05
228	1.77	0.14	0.05
229	5.97	0.22	0.04
230	3.13	0.41	0.12
231	5.58	0.19	0.10
232	1.94	0.28	0.06
233	6.92	0.22	0.04
234	9.74	0.24	0.05
235	0.73	0.25	0.04
236	6.42	0.24	0.07
237	3.55	0.22	0.05
238	2.92	0.24	0.04
239	4.32	0.33	0.03
240	4.60	0.24	0.05
241	3.27	0.23	0.04
242	5.45	0.29	0.08
243	6.30	0.27	0.10
244	1.25	0.28	0.03
245	2.27	0.25	0.02
246	13.97	0.23	0.04
247	13.55	0.27	0.03
248	1.62	0.19	0.04
249	14.28	0.25	0.04
250	8.79	0.36	0.07
251	5.36	0.20	0.03
252	5.57	0.23	0.03
253	1.73	0.32	0.06
254	1.58	0.30	0.05
255	1.77	0.26	0.05
256	1.75	0.20	0.05
257	3.12	0.25	0.03
258	2.86	0.22	0.04
259	1.00	0.20	0.05
260	7.10	0.46	0.08
261	6.74	0.21	0.04
262	8.10	0.23	0.03
263	14.00	0.25	0.05
264	14.01	0.25	0.04
265	13.74	0.23	0.04
266	13.95	0.28	0.05
267	13.98	0.23	0.05
268	13.91	0.25	0.06
269	11.39	0.16	0.05
270	11.40	0.21	0.05
271	13.84	0.17	0.05
272	13.78	0.19	0.05
273	13.46	0.26	0.05
274	13.38	0.18	0.06
275	13.23	0.18	0.07
276	13.35	0.16	0.05
277	13.69	0.23	0.06
278	13.75	0.18	0.07
279	13.89	0.15	0.06
280	13.75	0.18	0.04
281	13.68	0.25	0.04
282	13.76	0.24	0.06
283	10.28	0.18	0.04
284	10.61	0.28	0.04
285	10.69	0.24	0.05
286	10.13	0.17	0.03
287	10.52	0.20	0.03
288	10.83	0.24	0.05
289	10.78	0.20	0.05
290	10.67	0.20	0.04
291	10.33	0.25	0.04
292	10.22	0.22	0.04
293	8.50	0.18	0.07
294	10.35	0.29	0.05
295	10.22	0.18	0.05
296	9.67	0.26	0.04
297	9.23	0.22	0.04
298	12.38	0.23	0.03
299	6.01	0.22	0.07
300	6.69	0.16	0.05
301	1.98	0.29	0.04
302	2.21	0.22	0.05
303	5.83	0.18	0.04
304	5.90	0.22	0.04
305	6.04	0.22	0.05
306	4.66	0.21	0.04
307	4.47	0.20	0.04
308	0.89	0.19	0.06
309	1.17	0.18	0.07
310	13.25	0.22	0.06
311	13.85	0.27	0.06
312	13.92	0.27	0.05
313	13.10	0.21	0.05
314	12.61	0.19	0.04
315	12.27	0.18	0.04
316	11.26	0.21	0.04
317	10.09	0.23	0.04
318	12.48	0.19	0.06
319	10.34	0.22	0.07
320	10.29	0.19	0.06
321	9.69	0.24	0.04
322	6.27	0.25	0.06
323	6.35	0.21	0.04
324	6.43	0.26	0.04
325	6.17	0.19	0.04


畝 223
畝 222
畝 224
畝 225
畝 201
畝 202
畝 203
畝 226
畝 228
畝 206
畝 204
畝 238
畝 205
畝 237
畝 239
畝 205
畝 240
畝 209
畝 206
畝 210
畝 207
畝 208
畝 241
畝 209
畝 229
畝 231
畝 211
畝 212
SK454
畝 230
畝 242
畝 213
ZV995 P5
畝 235
畝 233
SK455
畝 232
畝 234
畝 214
ZW995
畝 217
畝 215
畝 216
畝 218
SE25
畝 219
SE26
畝 220
畝 236
畝 243
畝 221
SD64・65・71
畝 244
畝 252
畝 246
畝 247
畝 245
畝 249
畝 246
畝 253
畝 247
畝 254
畝 255
畝 251
SD54
畝 248
畝 250
畝 256
畝 249
畝 260
0
2m

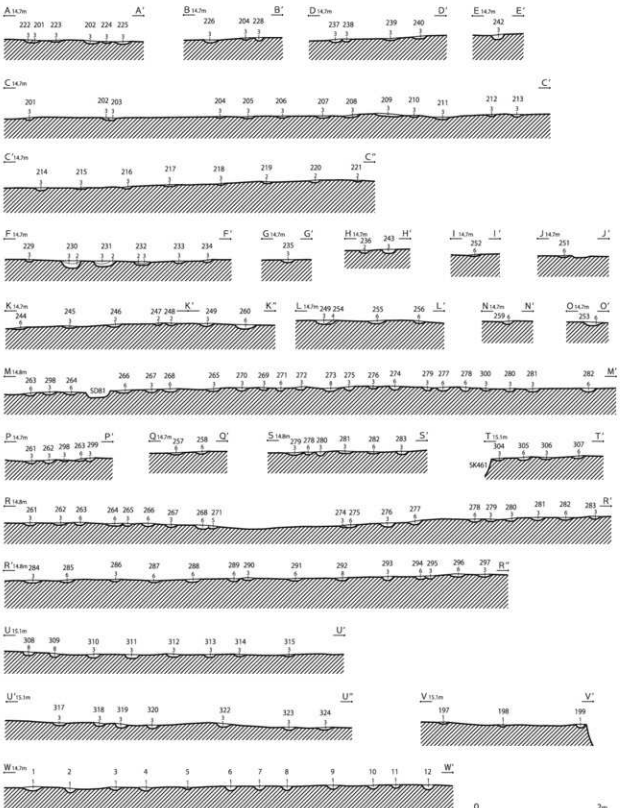
第81図　畝跡B（1）


畝 248
畝 249
畝 260
畝 251
SD54
畝 250
畝 257
畝 258
畝 259
畝 256
畝 298
畝 299
SDB1
畝 261
畝 262
畝 263
畝 265
畝 266
畝 267
畝 268
畝 271
畝 270
畝 269
畝 272
畝 273
畝 274
畝 275
畝 276
畝 277
畝 278
畝 279
畝 280
畝 281
畝 282
畝 283
畝 284
畝 285
畝 286
畝 287
畝 288
畝 289
畝 290
畝 291
畝 292
畝 293
畝 294
畝 295
畝 296
畝 297
畝 301
畝 302
畝 263
畝 298
畝 264
SDB1
畝 266
畝 267
畝 268
畝 265
畝 270
畝 269
畝 271
畝 272
畝 273
畝 275
畝 276
畝 274
畝 279
畝 277
畝 278
畝 300
畝 280
畝 281
畝 282
SD46
SK460
SK459
SK462
0
2m
1:100

第 82 図　畝跡 B（2）


SD46
SK463
SK461
SE31
SK394
SK363
SK412
SK464
SK465
SK425
SK428
SD44
SK381
SK397
SK395
SD60
SK364
B0 P3
B0 P2
B0 P5
B0 P4
B0 P6
畝 303
畝 304
畝 305
畝 306
畝 307
畝 310
畝 311
畝 312
畝 313
畝 314
畝 315
畝 316
畝 318
畝 308
畝 309
畝 310
畝 311
畝 312
畝 313
畝 314
畝 315
畝 316
畝 317
畝 318
畝 319
畝 320
畝 321
畝 322
畝 323
畝 324
畝 325
畝 197
畝 198
畝 199
畝 1
畝 2
畝 3
畝 4
畝 5
畝 6
畝 7
畝 8
畝 9
畝 10
畝 11
畝 12
畝 13
0
2m

第83図　畝跡B（3）



跡跡
1　暗灰黄褐色土　炭化物微量
2　暗灰黄褐色土　テフラと層に多量　炭化物微量　しまりあり
3　暗灰黄褐色土　2層に比べてテフラの量が少ない　しまりあり　粘性あり
4　暗灰褐色土　テフラはほとんど含まない　炭化物微量　しまりややあり
5　黒褐色土　テフラ層　しまりなし
6　暗灰黄褐色土　テフラ多量　炭化物微量　しまりややあり
7　暗灰黄褐色土　炭化物微量　テフラ多量　しまりなし
8　灰褐色土　シルト質土　テフラ少量　炭化物微量　しまりなし

第84図　跡跡B（4）

2　中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、竪穴状遺構３基、土壙140基、火葬跡５基、井戸跡21基、溝跡41条、杭列跡４条、畝跡180条、ピット126基である。１面の遺構と２面の畝跡Ｂを切る遺構は当期に属する可能性が高いが、時期不明の遺構も含まれる。また、３面で検出された遺構のうち、時期不明の土壙もこの項で報告する。

（１）竪穴状遺構

第５号竪穴状遺構（第85図）

ZU-992・993グリッドに位置する。南側は調査区域外にかかる。畝跡Ａを切る。平面形状は方形である。規模は北西―南東軸で2.79ｍ、深さ0.12ｍである。傾きはＮ―47°―Ｅである。

幅25～41㎝、深さ２～６㎝の周溝が巡る。周溝内区から３基のピットが検出されたが、当遺構に伴うかどうかは不明である。

遺構の性格は不明である。

遺物は、焙烙と鉄滓の破片が出土している。

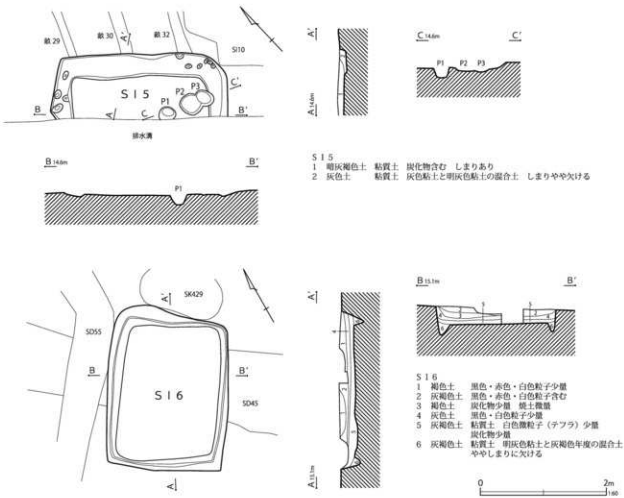
第６号竪穴状遺構（第85・87図　第28表）

Ａ－０・Ｂ－０グリッドに位置する。第45号溝跡の埋没後に造られている。平面形状は方形である。規模は長軸2.61ｍ、短軸1.89ｍ、底面までの深さは0.27ｍである。長軸の傾きはＮ―30°―Ｅである。

幅７～25㎝、深さ８～16㎝の周溝が巡る。掘り込み角度は深く、壁溝の可能性もある。

遺構の性格は不明である。

出土遺物のうち、本遺構に伴うのは磁器碗（第

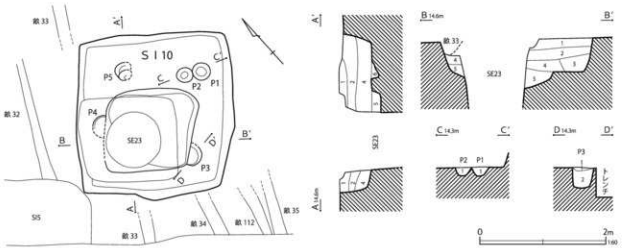


第85図　第５・６号竪穴状遺構

87図2・3）と煙管（同図4）である。
時期は19世紀中葉と考えられる。

第10号竪穴状遺構（第86・87図　第28表）

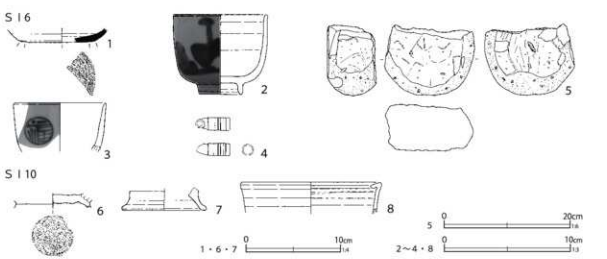
ZU-993グリッドに位置する。第23号井戸跡に



S I 10
1　褐灰色土　シルト質土　灰色粘土ブロックと褐色土の混合土
2　暗灰褐色土　粘質土　砂粒含む
3　褐色土　粘質土　暗褐色土ブロック多量　しまりなし
4　暗灰褐色土　粘質土
5　暗灰色土　粘質土　ややしまりに欠ける　粘性強い
6　暗灰色土　粘質土　しまりに欠ける　Pit 5

Pit 1・2・3
1　灰褐色土　粘質土　灰褐色粘土ブロック暗灰色粘土の混合土
2　暗灰色土　粘質土　粘性強い

第86図　第10号竪穴状遺構



第87図　竪穴状遺構出土遺物

第28表　竪穴状遺構出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	時期	備考	図版
1	須恵器	坏	—	[1.5]	(7.0)	H・I・J・K	20	良好	黄灰	SI6	南比企産 底部周辺回転ヘラケズリ	29-2
2	磁器	碗	7.4	6.3	3.4	K	50	良好	灰白	SI6	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鬼付 19C中	
3	磁器	碗	(7.2)	[3.8]	—	I	15	良好	灰白	SI6	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鬼付 19C中	
4	銅製品	煙管	長さ[2.7] 小口径0.9 重さ3.2							SI6	雁首 火皿欠失	
5	石製品	不明	長さ[10.5] 幅14.1 厚さ7.2 重さ1039.0							SI6	角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 表幅広工具痕 裏研磨か	
6	ロクロ土師器	高台付椀	—	[1.5]	—	A・H・I・K	90	普通	灰白	SI10	据方 内黒 器面風化	
7	ロクロ土師器	高台付椀	(9.0)	[2.3]	—	A・H・I・K	15	普通	灰白	SI10	高台のみ	
8	陶器	香炉	(11.0)	[2.5]	—	H・I・K	5	良好	灰白	SI10	京都信楽系 外面透明釉 19C	

壊されている。畝跡Aを切る。平面形状は正方形に近い。長軸の傾きはN—41°—Eである。規模は長軸2.59m、短軸2.48m、底面までの深さは0.49mである。底面は平らだが、中央は不整方形状に30cmほど掘り込まれている。

ピットは5基検出された。規模はP1が径28cm、深さ14cm、P2が径23×27cm、深さ14cmである。いずれも柱痕は確認されなかった。

遺構の性格は不明である。

遺物はロクロ土師器や陶磁器片が出土した。

（2）土壙（第88～105図　第29～31表）

土壙の大多数は1面で検出された。そのほとんどが畝跡Aよりも新しい土壙である。2面で畝跡Bを壊して検出された土壙と、3面で検出された時期不明の土壙を合わせた140基を報告する。各土壙の詳細は第29・30表にまとめた。

埋設桶と考えられる円形の土壙が9基検出された。このうち、第378・379号土壙、第383・384号土壙、第392・393号土壙、第398・401号土壙は、それぞれ2基並んで検出された。重複関係をもつものもあるが、第383・384号土壙を除いて、桶が埋設された中心は切り合っていない。とくに第378・379号土壙と、第398・401号土壙は4基集中して検出され、その周辺を杭列跡（SA9～11）が巡っていた。

時期は、第378・383・384号土壙が18世紀前半～中葉、他の土壙は19世紀後半と考えられる。

第348号土壙（第88・102図　第29・31表）

皿状の掘方に埋土（4層）を入れ、平らにした底面から桶の底板（第102図4）が出土した。

遺物は、桶の内部から焜炉（同図2）と平瓦（同図3）の破片が出土した。

第378号土壙（第92・102図　第29・31表）

底面に、埋設桶の痕跡である径0.60×0.55mの円形の浅い掘り込みが検出された。

遺物は、陶器坏（第102図8）と寛永通寶（同図9・10）などが出土した。

第379号土壙（第92図　第29表）

底面に、埋設桶の痕跡である径0.49mの円形の浅い掘り込みが検出された。

第383号土壙（第92・103図　第29・31表）

底面に、埋設桶の痕跡である径0.80×0.90mの円形の浅い掘り込みが検出された。

遺物は、磁器碗（第103図15）、煙管（同図17）、釘（同図21～24）、寛永通寶（同図26～28）、砥石（同図30・31）などが出土した。

第384号土壙（第92・103図　第29・31表）

底面に、埋設桶の痕跡である径0.90mの円形の浅い掘り込みが検出された。

遺物は、磁器碗（第103図36）やかわらけの底部破片が出土した。

第392号土壙（第94・103図　第29・31表）

底面の掘方は皿状であるが、埋土（2層）を入れて平らにし、桶を埋設している。

遺物は、磁器（第103図38・39）や焙烙（同図40・42）、煙管（同図43）、簪（同図44）、寛永通寶（同図57・58）、文久永寶（同図59）などが出土した。

第393号土壙（第94・104図　第29・31表）

中央に桶を埋設した径0.8mの平らな窪みが検出された。

遺物は桶内と桶外のものが混在している。磁器（第104図61～64）、土瓶蓋（同図65・66）、灯明皿（同図67）、擂鉢（同図68）、火鉢（同図69・70）、道具瓦（同図73）、煙管（同図75）、釘（同図82～93図）、寛永通寶（同図94・95）などが出土した。

第398号土壙（第94図　第29表）

底面に、桶を埋設した痕跡が検出された。

遺物は、焙烙底部片と骨片などが出土した。

第401号土壙（第94図　第29表）

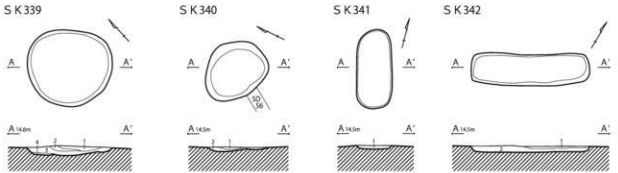
桶内に堆積していたと考えられる土層（4～6層）が検出された。

第 29 表　土壙一覧表（2）

No.	図No.	グリッド	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	重複関係	遺物	備考
339	88	ZU-994	楕円形	1.35	1.21	0.14	N—48°—W		なし	
340	88	ZU-993・994	楕円形	1.06	0.89	0.07	N—65°—W	SD56 より新	なし	
341	88	ZU-993	隅丸方形	1.25	0.57	0.05	N—14°—W		なし	
342	88	ZU-993	方形	1.87	0.49	0.10	N—60°—E		なし	
343	88	ZU-993	不整楕円形	1.07	1.01	0.05	N—46°—E		なし	
344	88	ZV-995	楕円形	1.16	1.09	0.05	N—72°—E		なし	
345	88	ZV-995	楕円形	0.95	0.81	0.50	N—66°—W		なし	
346	88	ZU-994	不整楕円形	2.25	1.91	2.05	N—12°—E		土器	袋状の掘り込み
347	89	ZU-994 ZV-993・994	不整楕円形	3.50	3.19	2.17	N—39°—E		ロクロ土師器	遺物は SJ84 に帰属か
348	88	ZV-995	円形	0.61		0.24		SD71 より新	焜炉・瓦	埋設補
349	89	ZW-995	楕円形	0.86	0.50	0.33	N—10°—E		なし	
350	89	ZW-995	隅丸方形	1.12	0.56	0.14	N—29°—E		なし	
351	89	ZW-996	隅丸方形	1.07	0.84	0.19	N—39°—E	SK352 より新	なし	
352	89	ZW-996	楕円形	0.77	[0.36]	0.15	N—38°—E	SK351 より古	なし	
353	89	ZV-995	楕円形	0.88	0.68	0.08	N—47°—E		なし	
354	89	ZV-995	隅丸方形	1.36	0.65	0.10	N—0°		なし	
355	90	ZV-995	方形	0.83	0.54	0.06	N—31°—E		なし	
356	90	ZW・ZX-996	方形	2.40	0.92	0.19	N—36°—E		なし	
357	90	ZY-997・998	不整方形	1.11	1.01	0.09	N—45°—E		なし	
358	90	ZW・ZX-996	方形	2.44	1.05	0.20	N—16°—E		常滑甕	
359	90	ZW・ZX-997	方形	2.28	0.99	0.14	N—46°—W	SK360 より新	なし	
360	90	ZW-997	方形	2.58	0.80	0.20	N—41°—E	SK359 より古	なし	
361	90	ZX-996	楕円形	0.96	0.82	0.15	N—19°—E		なし	
362	90	ZY-997	不整方形	0.84	0.59	0.03	N—83°—E		なし	
363	90	ZX・ZY-998	不整楕円形	1.61	1.39	0.50	N—43°—E	SK431・SD70 より新	陶器・銭貨	
364	90	B-0	楕円形	1.26	0.85	0.20	N—20°—W		なし	
365	91	ZW-996	楕円形	0.75	0.64	0.52	N—83°—E		内黒土器	
366	91	ZX-997	不整楕円形	1.13	0.98	0.11	N—35°—E		なし	
367	91	ZW-995	不整楕円形	1.24	1.01	0.22	N—55°—W	SD54 より新	なし	
368	91	A-0	不整円形	0.67	0.66	0.09			なし	
369	91	A-0	楕円形	1.16	0.91	0.29	N—74°—E	SD44・45 より新	なし	
370	91	ZY-997	楕円形	0.95	0.65	0.11	N—60°—E		なし	
371	91	ZY-996・997	楕円形	1.41	0.95	0.09	N—83°—W		なし	
372	91	ZY-998	楕円形	1.11	1.00	0.24	N—10°—E	SE28 より新	土師器・瓦質土器・瓦・砥石	
373	91	ZZ-997・998	隅丸方形	1.61	1.06	0.48	N—50°—W	SK395 より新	土師器・陶器・磨石	
374	91	A-999	楕円形	0.68	0.61	0.14		SK375~377 より新		
375	91	A-999	方形	0.90	0.84	0.12	N—0°	SK374 より古 SK376・377 より新	土師器・土器	
376	91	A-999	楕円形か	0.93	[0.65]	0.15		SK374・375 より古 SK377 より新	角閃石安山岩	
377	91	A-999	不整楕円形	1.52	1.42	0.38	N—37°—E	SK374 ～ 376 より古		
378	92	ZZ-0	洋梨形	1.52	1.15	0.35	N—25°—W	SK379 より古 SK427 より新	陶器・銭貨	埋設補
379	92	ZZ-0	楕円形	0.91	0.83	0.22	N—32°—W		土器	埋設補
380	92	ZZ-0	楕円形	1.01	0.91	0.20	N—10°—W		陶磁器	
381	92	ZY-997	楕円形か	1.52	[0.95]	0.81	N—41°—E	SK397 より古	漆椀か	
382	92	A-0	不整円形	1.75	1.69	0.45		SH4 SD5・D-01 より新	焙烙・砥石・瓦	
383	92	A-0	円形	1.86	1.80	0.44		SK384 より新	磁器・煙管・釘 銭貨・砥石他	埋設補

No.	図No.	グリッド	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	長軸方位	重複関係	遺物	備考
384	92	A-0	円形	1.57	[1.08]	0.31		SK383より古	磁器・かわらけ	埋設桶
385	93	ZZ・A-999	楕円形	1.12	1.07	0.30	N―70°―W	SD44より新	土器	
386	93	ZY-997	方形	1.89	0.71	0.11	N―45°―E	SD44より新 SD42より古	角閃石安山岩	
387	93	ZZ-999	楕円形	[1.05]	0.67	0.17	N―43°―W	SD43より新	土師器・土器	
388	93	A-0	方形	1.54	0.83	0.20	N―80°―E	SK389・390・420・421・455 SD55より新	焙烙	
389	93	A-0	円形	1.12	1.03	0.31		SK388より古 SK390・420・421・445 SD55・61より新	土器	
390	93	A-0	方形か	[1.31]	0.91	0.35	N―31°―W	SK388・389 SD55より古 SK445 SD61より新	なし	
391	93	ZZ-999	楕円形	0.81	0.63	0.26	N―53°―W	SD45より新	土師器	
392	94	ZY-997	円形	1.01	0.98	0.53		SK393・394より新	磁器・焙烙 煙管・瓶 銭貨他	埋設桶
393	94	ZY-997	楕円形	(1.50)	0.85	0.40	N―60°―W	SK392より古	陶磁器・擂鉢 火鉢・瓦・煙管 釘・銭貨他	埋設桶
394	94	ZY-997	円形	1.42	1.41	0.38	N―20°―E	SK392より古	なし	2面
395	91	ZY・ZZ-998	隅丸方形か	[1.27]	1.21	0.55	N―38°―E	SK373より古	土師器・砥石	
396	94	ZV・ZV-994	不整楕円形	2.06	1.84	1.00	N―27°―W		瓦質土器	
397	92	ZY-997・998 ZZ-997	楕円形か	2.02	[1.65]	0.62		SK381より新	須恵器坏	
398	94	ZZ-999	楕円形	1.32	1.27	0.51	N―22°―E	SK405・SD55より新	焙烙・骨	埋設桶
399	94	ZZ-0	不整楕円形	0.99	0.78	0.11	N―40°―E	SK401より新	砥石	
400	94	ZZ-0	不明	[0.71]	[0.10]	0.11		SK401より古 SK405より新	なし	
401	94	ZZ-0	楕円形	1.19	1.13	0.33	N―62°―W	SK399より古 SK400・405 SD55より新	なし	埋設桶
402	95	ZV-995	楕円形か	[1.10]	1.10	0.18		SD71より古	陶器・焙烙	
403	95	A-999	楕円形	0.91	0.68	0.19	N―6°―W	SD45より新	焙烙	
404	95	ZX-996	方形	0.64	0.62	0.16	N―60°―W		土器	
405	94	ZZ-999・0	楕円形か	1.27	[0.44]	0.10		SK398・400・401・408 より古 SD55より新	なし	
406	95	ZX-998	方形か	[1.52]	[0.43]	0.05			なし	
408	94	ZZ-999・0	円形	0.64	0.62	0.20		SK399より古 SK405より新	土器	
409	95	ZX-998	方形	1.81	0.60	0.11	N―40°―E	SK426・432より新	なし	
410	95	ZW-995	楕円形か	[0.66]	0.44	0.14	N―33°―E		なし	
411	95	A-0	楕円形	0.82	0.55	0.23	N―56°―W	SD43より新	土師器甕	
412	94	ZY-997	不整楕円形	1.10	0.95	0.27	N―70°―W		なし	2面
413	95	ZY-997	円形	0.93	0.90	0.20		SK414・SD70より新	なし	
414	95	ZY-997	円形	0.96	[0.60]	0.21		SK413より古 SD70より新	なし	
415	95	ZY-997	不整楕円形	2.09	1.96	0.09	N―37°―W	SD44より新	なし	
416	96	A-999	方形	1.75	0.85	0.24	N―56°―W	SK417より新	なし	
417	96	A-999	方形	3.57	1.26	0.19	N―56°―W	SK416・419より古 SK418より新	土師器甕	
418	96	A-999	方形	2.39	1.09	0.15	N―34°―E	SK417・419より古	土師器	
419	96	A-999	楕円形	0.93	0.68	0.22	N―53°―W	SK417・418より新	なし	

No.	図No.	グリッド	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	重複関係	遺物	備考
420	93	A-0	不明	[0.55]	[0.17]	0.09		SK388・389 より古 SK445・SD61 より新	なし	
421	93	A-0	不明	[1.02]	[0.32]	0.15		SK388・389 より古 SK445・SD65 より新	陶器碗	
423	96	B-1	隅丸方形	1.02	0.58	0.05	N―45°―E	SD45 より新	ロクロ土師・玉縁	
424	96	B-1	楕円形	1.49	1.15	0.29	N―40°―W	SD45 より新	磁器・焙烙 かわらけ	
425	96	ZX-998	方形	1.48	0.75	0.15	N―47°―W	SD70 より新	なし	
426	95	ZX-998	不整円形	0.89	0.85	0.12		SK409 より古	なし	
427	92	ZZ-0	円形か	[0.59]	[0.29]	0.25		SK378 より古	なし	
428	96	ZX-998	方形	1.38	0.84	0.06	N―45°―W	SD60 より新	磁器	
429	96	A-0	楕円形	1.32	0.74	0.35	N―48°―W	SX6 より古 SD52 より新	なし	
430	97	ZX・ZY-998	方形	2.02	0.98	0.23	N―75°―E	SE30 より古	なし	
431	97	ZX・ZY-998	楕円形	2.32	[0.73]	0.59	N―8°―W	SK363・SE30 より古	なし	
432	97	ZX-998	不整方形	1.13	0.76	0.16	N―53°―E	SK409 より古	なし	
433	97	ZS-990	不整円形	1.03	0.98	0.35		SD47 より古	陶器	
434	97	A-0	不整楕円形	1.59	0.88	0.40	N―15°―W	SK435 より新	磁器・瓦	
435	97	A-0	不整楕円形	[1.55]	[0.61]	0.35		SK434 より古 SK436 より新	なし	
436	97	A-0	楕円形か	[0.95]	[0.63]	0.31		SK435・438 より古 SK437 より新	なし	
437	97	A-0	円形か	[0.96]		0.29		SK436・SK438 より古	須恵器・土師器	
438	97	A-0	楕円形	1.13	0.71	0.30	N―54°―E	SK436 より古 SK437 より新	なし	
439	98	ZY-997	方形	1.68	0.65	0.07	N―40°―E		なし	
440	98	ZU-994・995	楕円形か	1.74	0.55	0.16	N―50°―W		なし	
441	98	ZW・ZX-996	楕円形か	2.52	[0.75]	0.17	N―38°―E	SD58 より古	なし	
442	98	ZY-998	方形	0.89	0.54	0.32	N―40°―E	SK443 より新	なし	
443	98	ZY-998	方形	1.04	0.46	0.25	N―39°―E	SK442 より古	焙烙	
444	92	A-0	楕円形か	[2.01]	[0.76]	0.36		SK382 より古 SD61 より新	なし	
445	93	A-0	不整方形	1.90	1.51	0.50	N―34°―E	SK388～390・420・ 421 SD55・61 より古	土師器	
447	98	B-1	楕円形か	[0.57]	[0.51]	0.20		SD45 より古	土師器甕	
453	98	ZZ-0	楕円形	1.21	0.94	0.17	N―22°―E		煙管	
454	98	ZY-994・995	楕円形	1.15	0.84	0.05	N―75°―W		なし	2面
455	98	ZY-995	円形	1.21	1.19	0.10			なし	2面
456	98	ZZ-0	不整楕円形	0.71	0.43	0.13	N―27°―E	第4号火葬跡より古 SD60-1 より新	なし	
457	99	A-1	方形	[1.03]	0.92	0.25	N―34°―E	SD60-2 より古	ロクロ土師器	
458	99	B・C-1	楕円形	(0.78)	0.68	0.40	N―32°―E	SJ71 より新	須恵器坏	
459	99	ZY-997	楕円形	0.94	0.78	0.22	N―50°―W		なし	2面
460	99	ZY-997	円形	1.03	0.98	0.16		SD44 より新	なし	2面
461	99	ZY-997	楕円形	1.44	1.09	0.26	N―51°―E	SD46 より新	土師器脚部	2面
462	99	ZY-997	楕円形	0.83	0.67	0.31	N―58°―E	SK463・SD46 より新	なし	2面 覆土に焼化物多量
463	99	ZY-997	不整楕円形	1.06	0.94	0.13	N―59°―E	SK462 より古 SD46 より新	土器・自然石	2面 覆土に焼土多量
464	99	ZY-997	楕円形	0.88	0.81	0.16	N―40°―W	SK465 より新	なし	2面
465	99	ZY-997	楕円形	[0.67]	0.63	0.16	N―78°―W	SK464 より古		2面
466	99	ZZ-0	円形	1.51	1.48	0.99		SD60-1・2 より古	陶器鉢・かわらけ	

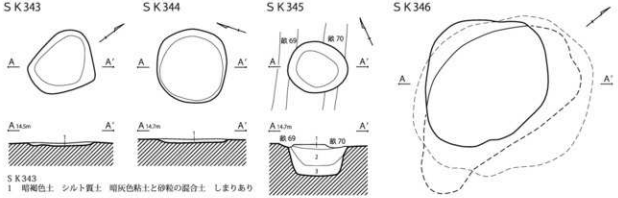


S K 339
1 灰褐色土　砂質土　褐色シルト・灰色シルト少量
2 灰褐色土　砂質土　褐色シルトをブロック状に含む
3 暗灰褐色土　砂質土　褐色シルト・灰色シルトがブロック状に斑に混入
　黒色粒子含む
4 灰褐色土　砂質土　灰色シルトをブロック状に含む

S K 340
1 褐色土　粘質土　粘土ブロック少量　鉄分多量
2 灰褐色土　粘土ブロック・灰色砂を含む

S K 341
1 暗褐色土　シルト質土　暗灰色粘土と砂粒の混合土　しまりあり

S K 342
1 暗灰褐色土　粘質土　暗灰色粘土多量　鉄分多量
2 暗褐色土　シルト質土　暗褐色土・砂粒・明褐色土ブロックの混合土

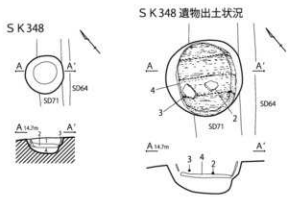


S K 343
1 暗褐色土　シルト質土　暗灰色粘土と砂粒の混合土　しまりあり

S K 344
1 黒色土　砂質土　炭化物・灰・焼土の混合土　しまりなし

S K 345
1 黒褐色土　砂質土　炭化物微量　黄褐色土粒子少量
2 暗褐色土　暗褐色土ブロックと砂の混合土
3 暗褐色土　2層より暗褐色土ブロックの量が多く、砂の量が少ない

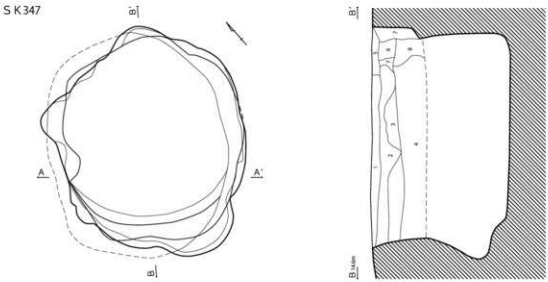
S K 348

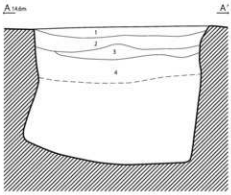


S K 348
1 黒色土　粘質土　炭化物多量　灰・小砂礫含む　ややしまりに欠ける
2 暗灰褐色土　粘質土　灰色粘土と明灰色土の混合土　炭化物少量　しまりなし
3 暗褐色土　粘質土　炭化物・暗褐色土・明褐色土小ブロックの混合土
4 暗灰褐色土　粘質土　砂粒多量　鉄分含む　しまりあり　脆方

S K 346
1 青灰色土　シルト質土　砂粒多量　鉄分含む
2 暗青灰色土　粘質土　暗灰色粘土ブロック少量
3 暗灰色土　粘質土　遺物含む　ややしまりに欠ける　粘性強い
4 青灰色土　暗灰色粘土含む　底面硬化　しまりあり
5 灰褐色土　シルト質土　青灰色土ブロック含む　壁崩落土
6 暗灰色土　粘質土　根菜類含む　しまりなし　粘性強い

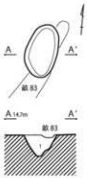
第 88 図　土壙（3）



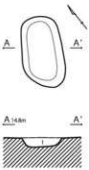


S K 347
1　青灰色土　　シルト質土　上部に砂粒多量
2　青灰色土　　粘質土　炭化物少量
3　暗青灰色土　粘質土　しまりあり
4　暗灰色土　　粘質土　ややしまりに欠ける　粘性強い
5　明灰色土　　シルト質土　砂粒と明灰色粘土の混合土
6　灰褐色土　　シルト質土　灰色粘土含む　鉄分多量　しまりよし
7　暗灰褐色土　シルト質土　暗褐色土と灰色粘土の混合土　しまりよし
8　暗灰褐色土　シルト質土　暗褐色土と暗灰色粘土の混合土　しまりよし

S K 349



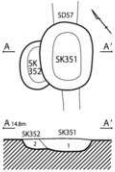
S K 350



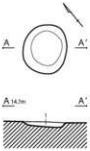
S K 349
1　暗灰褐色土　暗黄褐色土粒子・炭化物微量　底面に鉄分沈着

S K 350
1　灰褐色土　　砂質土　黄褐色土ブロック・炭化物微量

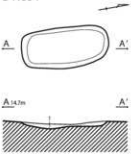
S K 351・352



S K 353



S K 354



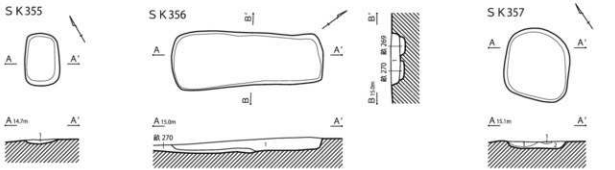
S K 351
1　暗青灰褐色土　砂質土　底に鉄分沈着　黄褐色土少量

S K 352
2　暗灰黄褐色土　砂質土　黄褐色土粒子・ブロック少量　炭化物微量

S K 353
1　暗灰褐色土　　シルト質土　暗褐色土・灰色粘土・細砂粒の混合土　しまりやや欠ける

S K 354
1　暗灰褐色土　シルト質土　暗褐色土・灰色粘土・細砂粒の混合土　しまりやや欠ける

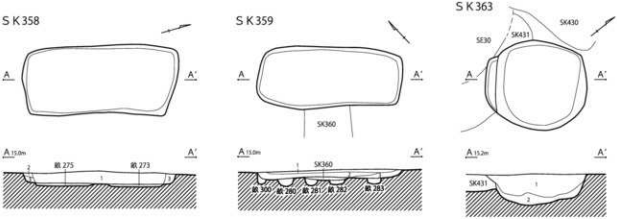
第89図　土壙（4）



SK355
1　暗灰褐色土　シルト質土　暗褐色土・灰色粘土・細砂粒の混合土　しまりやや欠ける

SK356
1　褐色土　　シルト質土　粘土ブロック含む

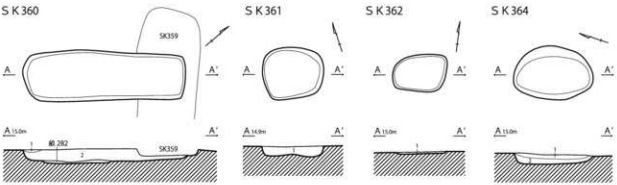
SK357
1　褐色土　　灰褐色土が斑に混じる　鉄分多量　しまりかなりあり
2　灰褐色土　均質　しまりかなりあり



SK358
1　褐色土　　シルト質土　底面に灰褐色粘土ブロック混入
2　灰褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量
3　灰褐色土　シルト質土

SK359
1　褐色土　シルト質土　灰色砂質土混入
2　褐色土　シルト質土　粘土（φ10㎜）含む
3　褐色土　シルト質土　粘土（φ20～30㎜）含む
　　しまりあり

SK363
1　褐色土　　砂質土　灰色シルト粒子多量
2　暗灰色土　シルト質土　炭化物微量
　　黄褐色土粒子少量



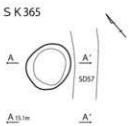
SK360
1　灰褐色土　　シルト質土　灰色砂ブロック含む　粘土ブロック多量　黒色粒子少量
2　褐色土　　シルト質土　粘土ブロック多量　黒色粒子少量

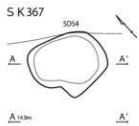
SK361
1　暗灰褐色土　砂質土　しまりあり　粘性なし

SK362
1　褐色土　　炭化物少量　粘性ややあり　しまりあり

SK364
1　灰褐色土　　砂質土　粘土（φ3～5㎜）少量　炭化物微量
2　暗黄褐色土　粘質土　部分的に砂質土が混じる

第90図　土壙（5）



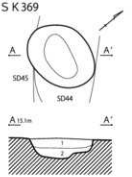


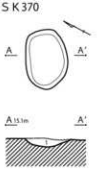
S K 365
1 灰褐色土　砂質土　炭化物・黄褐色土粒子少量
2 暗灰褐色土　砂質土
3 灰褐色土　砂質土を主体に粘性の強い　灰褐色土を含む
4 暗灰褐色土　砂質土　炭化物・黄褐色土粒子微量
5 黒色土
6 灰褐色土　黄褐色土粒子少量　粘性あり
7 灰褐色土　6に近いがやや黒味が強い
8 暗灰褐色土　炭化物少量　粘性強い

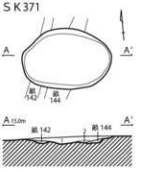
S K 366
1 灰褐色土　砂質土　粘土（φ3～5㎜）少量　炭化物微量
2 暗黄褐色土　粘質土　部分的に砂質土が混じる

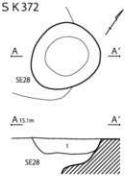
S K 367
1 暗黄褐色土　砂粒多量　黒色粒子微量
2 暗灰褐色土　シルト質土　黄褐色土粒子・炭化物微量

S K 368
1 黒褐色土　黄褐色土粒子やや多量







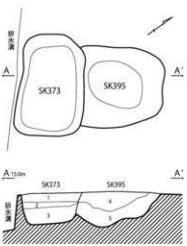


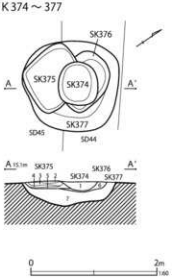
S K 369
1 明灰褐色土　粘質土　炭化物・暗褐色土ブロック少量　側面鉄分沈着
2 暗褐色土　粘質土　明灰色粘土と暗褐色土ブロックの混合土
底面鉄分沈着　しまりやや欠ける

S K 370
1 暗灰褐色土　炭化物・焼土微量　灰白色粘土ブロック少量

S K 371
1 暗灰褐色土　炭化物微量　黄褐色土ブロック少量　粘性あり
2 暗黄褐色土　黄褐色土がブロック状に堆積

S K 372
1 褐色土　黄褐色土ブロック多量





S K 373
1 暗褐色土　黄褐色土ブロック（φ20～30㎜）多量
2 暗緑灰色土　やや粘性強い
3 暗褐色土　砂質土　黄褐色土粒子・炭化物少量
S K 395
4 暗緑灰色土　粘質土　炭化物やや多量
黄褐色土粒子少量
5 暗褐色土　砂質土　炭化物・暗緑灰色粘土ブロック
少量

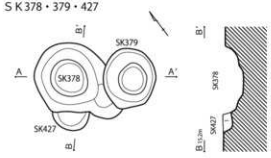
S K 374
1 灰色土　シルト質土　赤色粒子・黒色粒子少量
底面に鉄分沈着

S K 375
2 灰色土　シルト質土　赤色粒子含む
3 青灰色土　シルト質土　黒色粒子（φ5㎜）含む
4 灰褐色土　シルト質土　鉄分多量
5 黒色土　赤褐色土ブロック（φ20～30㎜）多量
S K 376
6 灰褐色土　シルト質土
黒色粒子・赤色粒子・白色粒子少量

S K 377
7 褐色土　シルト質土　黒色粒子少量
粘性あり　しまりなし

第91図　土壙（6）

S K 378・379・427

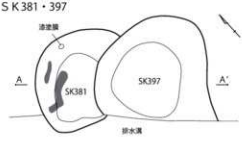


S K 378
1　黒灰褐色土　　炭化物・黄褐色土粒子微量　暗灰褐色土ブロックやや多量
2　暗褐色土　　炭化物・暗灰黄褐色土ブロックやや多量
3　暗褐色土　　炭化物微量
4　暗灰黄褐色土　暗褐色土ブロック多量
5　暗灰褐色土　　黒色土ブロック少量
6　暗褐色土　　炭化物少量

S K 379
1　灰褐色土　　炭化物・黄褐色土ブロック微量
2　暗灰黄褐色土　炭化物・黄褐色土粒子・黒色土粒子少量
3　黒灰褐色土　　炭化物微量　黒色土やや多量　黄褐色土粒子少量
4　砂層

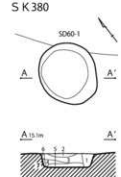
S K 427
1　褐色土　　粘質土　焼土少量

S K 381・397



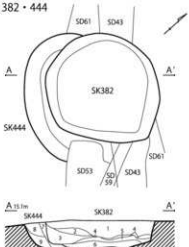
S K 381
1　暗灰褐色土　　黄褐色土ブロック多量
　　下面に炭化物（φ10～20㎜）が面的に堆積
2　暗褐色土　　炭化物（φ10～20㎜）少量　黄褐色土粒子少量
3　暗褐色土　　炭化物（φ10～20㎜）少量　黄褐色土ブロック少量
4　灰褐色土　　砂質土　壁崩りに炭化物少量
5　暗灰褐色土　　炭化物少量　灰褐色土ブロック少量
6　暗褐色土　　炭化物・黄褐色土粒子少量
S K 397
7　暗灰黄褐色土　焼土・炭化物・黄褐色土粒子少量　灰白色粘土ブロック多量
8　暗褐色土　　炭化物・黄褐色土粒子少量　褐色土ブロックやや多量
　　しまりなくもろい
9　暗褐色土　　砂質土　炭化物少量　しまりあり

S K 380



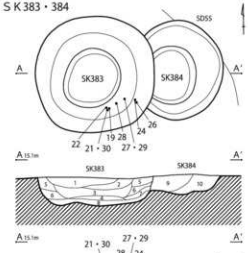
S K 380
1　暗灰褐色土　暗灰褐色土と
　　黒褐色土の混合土
　　黒色土粒子少量
　　焼土微量
2　暗灰褐色土　灰白色粘子
　　（φ5㎜）・黒色
　　土粒子（φ5㎜）
　　多量
3　暗灰褐色土　2層に近いが
　　灰白色粒子・黒色
　　土粒子は少ない
4　黒灰褐色土　黒色土粒子・
　　黄褐色土粒子微量
5　灰褐色土　　黄褐色土粒子微量
　　粘性強い
6　暗褐色土　　3層に近いが混入
　　粒子微量
7　灰褐色土　　5層に近いが炭化
　　物微量

S K 382・444



S K 382
1　黄褐色土　　シルト質土　黒色粒子・赤色粒子少量
　　黒褐色土ブロック含む
2　黒褐色土　　シルト質土　黒色粒子・黄褐色粒子含む
3　黄褐色土　　シルト質土　赤色粒子少量　黒褐色土ブ
　　ロック含む
4　黒色土　　砂質土　赤色粒子（φ5㎜）含む
5　灰色土　　粘質土　黒色粒子・赤色粒子・白色粒子
　　を含む
6　灰褐色土　　粘質土　炭化物・黄褐色土ブロック含む
S K 444
7　黄褐色土　　白色粒子少量
8　褐色土　　黄褐色土（φ5～10㎜）・褐色シルト・
　　暗褐色土を含む
9　暗褐色土　　黄褐色土（φ5～10㎜）多量

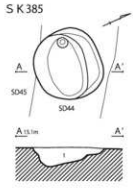
S K 383・384

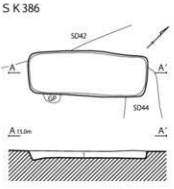


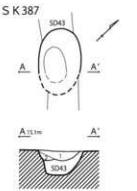
S K 383
1　明褐色土　　暗褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
2　明褐色土　　暗褐色土が筒に混じる（1層より少ない）
　　しまりあり　粘性なし
3　明褐色土　　暗褐色ブロック多量（1層より大きい）
　　しまりあり　粘性なし
4　明灰色土　　灰層　しまりあり　粘性弱い
　　上層5～8㎜ほどは褐色でしまりなく粘性のある状態
5　黄褐色土　　暗褐色土（φ2～20㎜）やや多量
　　しまりあり　粘性なし
6　黄褐色土　　5層に近いが暗褐色土（φ10～20㎜）多量
7　暗灰色砂　　細砂層　褐色土少量
8　暗褐色土　　炭化物小片・骨片微量　しまりあり　粘性あり
S K 384
9　褐色土　　炭化物・骨片微量　しまりあり　粘性弱い
10　褐色土　　炭化物微量　暗褐色土（φ2～10㎜）多量
　　しまりあり　粘性なし

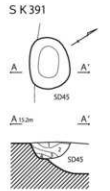
0　2m
1:40

第92図　土壙（7）









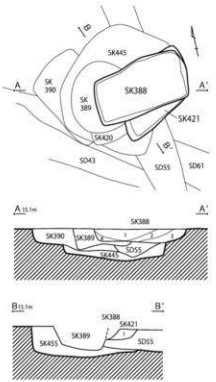
S K 385
1　灰褐色土　　シルト質土　　粘分多量

S K 386
1　暗灰褐色土　シルト質土　細砂粒と暗灰色粘土の混合土
　　粘分多量　しまりやや欠ける

S K 387
1　灰色土　　シルト質土　灰褐色土ブロック含む
　　しまりなし　粘性あり
2　灰褐色土　粘分含む

S K 391
1　褐色土　砂質土　混入物なし　しまりあり
2　褐色土　暗褐色粘質土少量　しまりややあり
3　褐色土　しまりやや欠く
4　褐色土　粘土ブロック多量　しまりなし

S K 388・421

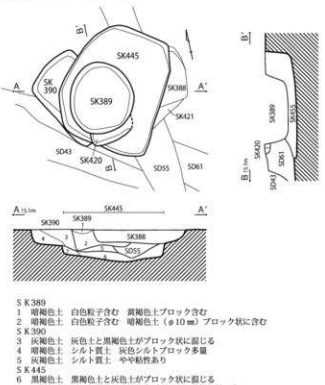


S K 388・421

S K 388
1　褐色土　　白色粒子・黒色粒子・赤色粒子含む　しまりあり
2　黄褐色土　黒褐色土・黄褐色土ブロック含む
3　灰褐色土　黄褐色土ブロック少量
4　灰褐色土　黄褐色粒子・黒色粒子含む

S K 421
1　褐色土　　焼土・白色粒子少量　暗褐色土ブロック含む

S K 389・390・420・445

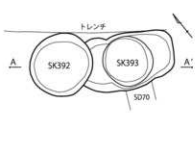


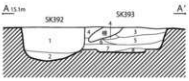
S K 389
1　暗褐色土　白色粒子含む　黄褐色土ブロック含む
2　暗褐色土　白色粒子含む　暗褐色土（φ10㎜）ブロック状に含む
S K 390
3　灰褐色土　灰色土と黒褐色土がブロック状に混じる
4　暗褐色土　シルト質土　灰色シルトブロック多量
5　灰褐色土　シルト質土　やや粘性あり
S K 445
6　黒褐色土と灰色土がブロック状に混じる
7　灰褐色土　シルト質土　暗褐色土ブロック・黄褐色粒子含む

S K 420
1　褐色土　　黄褐色粘土ブロック・灰色粒子・黒色粒子少量

第 93 図　土壙（8）

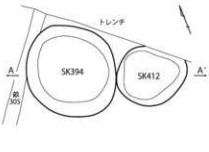
S K 392・393

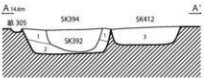




S K 392
1 暗褐色土　焼土・炭化物多量　粘性弱い
2 黒褐色土　焼土・炭化物少量　粘性弱い
S K 393
3 暗褐色土　シルト質　黒色粒子少量　鉄分含む
4 褐色土　シルト質土　黒色粒子・黄褐色粒子多量
5 褐色土　シルト質土　黒色粒子・黄褐色粒子含む
6 灰黒褐色土　シルト質土　黒色粒子・黄褐色粒子・赤色粒子を含む
7 灰黒褐色土　黒色粒子・黄褐色粒子・赤色粒子多量
8 黒色土　上面に円形に有機物が散る

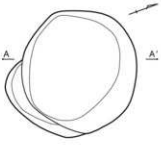
S K 394・412

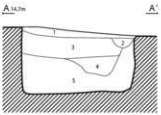




S K 394
1 暗褐色土　焼土・炭化物多量　粘性なし
2 黒褐色土　焼土・炭化物少量　粘性なし
S K 412
3 暗黄褐色土　焼土・炭化物少量　粘性なし

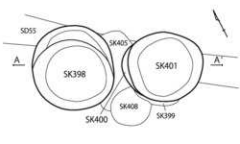
S K 396

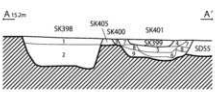




S K 396
1 青灰色土　砂質土　グライ化
2 緻灰褐色土　グライ化した砂質土　ブロック含む　粘性あり
3 暗緑灰褐色土　灰褐色土粒子多量
4 黒褐色土　炭化物多量　粘性強い
5 暗灰褐色土　炭化物多量　粘性強い

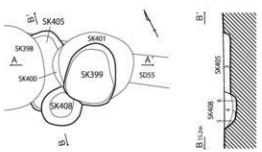
S K 398・400・401

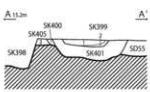




S K 398
1 灰褐色土　褐色土・灰色土ブロック・黒色粒子・赤色粒子・黄褐色粒子多量
2 灰褐色土　1 層に近いがしまりがなく、黄褐色土ブロックの割合が多い
S K 400
3 灰褐色土　シルト質土　赤色粒子・黒色粒子含む
S K 401
4 黄褐色土　黒褐色土ブロック・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子含む　植内
5 褐色土　混入物は 4 層と同じ　植内
6 青灰色土　鉄分多量　植内
7 灰褐色土　混入物は 4 層と同じ　掘方
8 灰褐色土　黒褐色土ブロック含む　赤色粒子・黒色粒子少量　掘方
9 灰褐色土　粘質土　赤色粒子・黒色粒子少量　掘方

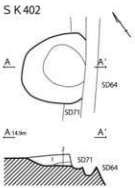
S K 399・405・408



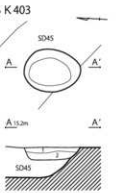


S K 399
1 褐色土　灰褐色シルト質土ブロック・黒褐色土ブロック含む　赤色粒子多量
2 黒色土　赤色粒子（φ 5 ㎜）多量
S K 405
3 褐色土　黒褐色土ブロック少量　黒色粒子・赤色粒子含む
S K 408
4 灰褐色土　シルト質土　黒色粒子少量
5 灰褐色土　シルト質土　黄褐色粒子少量
6 褐色土　灰褐色シルトと暗褐色土が斑に混じる

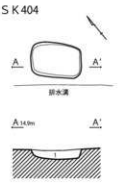
第 94 図　土壙（9）



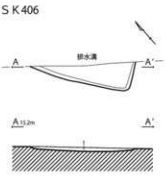
S K 402
1　灰白色土　粘質土　鉄分多量　しまりあり
2　灰白色土　粘質土　1層に近いが鉄分の量が少ない



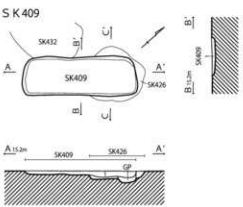
S K 403
1　褐色土　砂質土　粘土（φ5～8㎜）含む　しまりあり　粘性なし
2　褐色土　炭化物・焼土微量　しまりあり　粘性ややあり



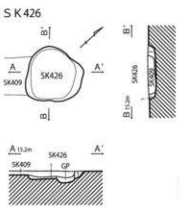
S K 404
1　褐色土　砂質土　粘質土斑に混じる　炭化物少量　しまりあり



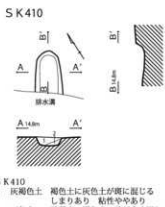
S K 406
1　褐色土　砂質土に粘性土が混じる　しまりなし



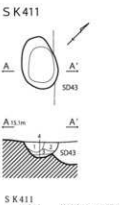
S K 409
1　褐色土　砂質土　ロームブロック斑に混じる
　　炭化物微量　しまりあり



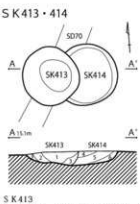
S K 426
1　黒褐色土　暗褐色土粒子少量



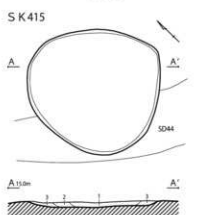
S K 410
1　灰褐色土　褐色土に灰色土が斑に混じる
　　しまりあり　粘性ややあり
2　灰色土　砂質土　褐色土に砂が多く混じる
　　しまりあり



S K 411
1　灰色土　黄褐色土・灰褐色土ブロック含む
2　灰褐色土　黄褐色土・灰色土ブロック含む
3　褐色土　灰褐色土ブロック含む
4　褐色土　灰褐色土ブロック少量



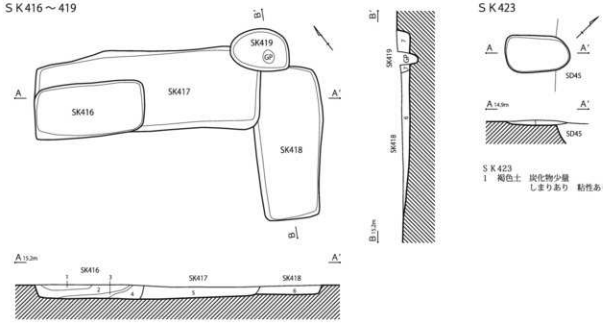
S K 413
1　褐色土　砂質土　しまりあり　粘性なし
2　褐色土　砂質土　灰色粘質土含む　しまりあり
　　粘性なし
3　褐色土　1層に近いが粘性があり均質　しまりあり
S K 414
4　暗褐色土　砂質土　炭化物微量　しまりあり　粘性なし
5　褐色土　砂質土　均質　炭化物微量
　　しまりあり　粘性なし
6　灰褐色土　砂質土　しまりあり　粘性なし



S K 415
1　褐色土　灰色粘質土含む　鉄分含む　しまりあり
　　粘性弱い
2　灰褐色土　砂質土　鉄分少量　しまりあり
　　粘性なし
3　褐色土　灰色粘質土含む　しまりあり　粘性なし

0　2m
1:60

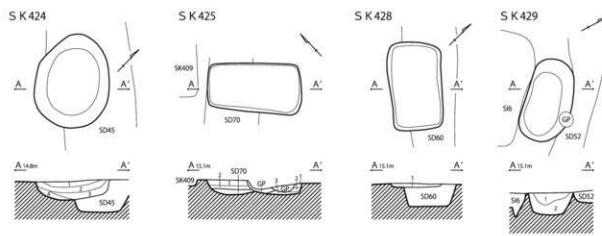
第95図　土壙（10）



S K 416
1　明灰褐色土　粘質土　明灰褐色粘土ブロック多量　炭化物少量
2　暗灰褐色土　シルト質土　暗灰褐色粘土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
3　明灰褐色土　粘質土　明灰褐色粘土ブロック多量
4　暗灰褐色土　シルト質土　暗灰褐色粘土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
S K 417
5　灰褐色土　　粘質土　炭化物・浅間Aテフラ含む　暗灰色粘土と細砂粒の混合土

S K 418
6　明灰褐色土　粘質土　炭化物少量　明灰褐色土ブロックと暗灰色土の混合土
　しまりあり
S K 419
7　暗灰褐色土　粘質土　暗褐色土と暗灰色粘土ブロックの混合土
　しまりややあり

S K 423
1　褐色土　炭化物少量
　しまりあり　粘性あり



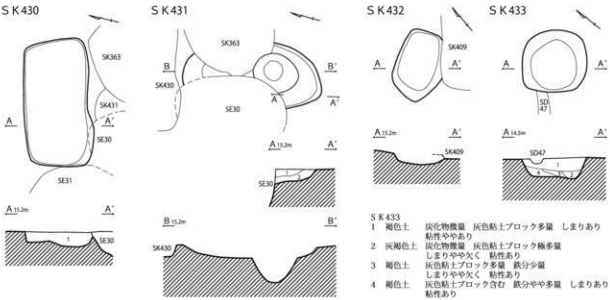
S K 424
1　灰褐色土　　炭化物少量　鉄分多量　しまりあり　粘性なし
2　灰褐色土　　鉄分含む　しまりややあり　粘性強い
3　灰褐色土　　炭化物少量　鉄分含む　しまりややあり　粘性ややあり
4　灰褐色土　　鉄分含む　しまりあり　粘性あり

S K 425
1　黒褐色土　　炭化物微量　灰黄褐色土粒子少量
2　暗褐色土　　炭化物少量　焼土微量　灰黄褐色土粒子多量
3　黒褐色土　　粒子の細かいしまった層　炭化物微量

S K 428
1　暗褐色土　炭化物微量　黄褐色土粒子多量

S K 429
1　灰褐色土　粘質土　炭化物少量　明灰色粘土ブロック少量
2　灰褐色土　粘質土　灰褐色粘土と暗褐色土ブロックの混合土
　壁面に鉄分沈着

第 96 図　土壙（11）

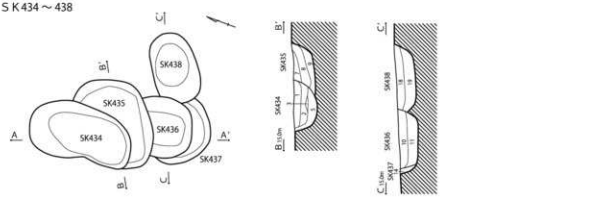


S K430
1　灰褐色土　　砂質土　炭化物少量　しまりあり　粘性なし

S K431
1　褐色土　　炭化物微量　しまりあり　粘性なし
2　暗黄褐色土　炭化物微量　黄色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性なし

S K433
1　褐色土　　炭化物微量　灰色粘土ブロック多量　しまりあり　粘性ややあり
2　灰褐色土　炭化物微量　灰色粘土ブロック極多量　しまりややなく　粘性あり
3　褐色土　　灰色粘土ブロック多量　鉄分少量　しまりややなく　粘性あり
4　褐色土　　灰色粘土ブロック含む　鉄分やや多量　しまりあり　粘性あり

S K434～438



S K434
1　褐色土　　炭化物・焼土微量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性なし
2　褐色土　　炭化物・焼土微量　褐色土・黒色土ブロック含む　しまりあり　粘性なし
3　灰褐色土　炭化物少量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性ややあり
4　灰褐色土　3層に灰色砂粒が多く含まれる層　炭化物含む
5　褐色土　　1層に近く、炭化物少量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性なし
6　褐色土　　炭化物少量　灰色土ブロック多量　しまりに欠け均質でない　粘性ややあり

S K435
7　黄褐色土　焼土微量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性なし
8　褐色土　　炭化物少量　骨片微量　明褐色土斑に含む　しまりあり　粘性なし
9　暗褐色土　褐色土ブロックがまとまって混じる　しまりあり　粘性なし

S K436
10　褐色土　均質　明褐色土ブロック少量　しまりあり　粘性なし
11　褐色土　10層に近いが明褐色土ブロックやや多量　しまりややあり　粘性ややあり
12　褐色土　炭化物微量　しまりあり　粘性ややあり
13　褐色土　黄褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性ややあり

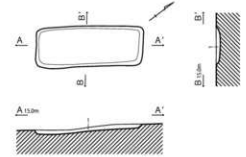
S K437
14　暗褐色土　炭化物少量　黄褐色土ブロック少量　しまりあり　粘性なし
15　暗褐色土　褐色土に黒色土が斑に混じる　しまりややあり　粘性ややあり
16　褐色土　　焼土微量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性ややあり　崩落土
17　褐色土　　明褐色土が斑に混じる　しまりあり　粘性ややあり

S K438
18　褐色土　　炭化物少量　褐色土ブロック少量　しまりあり　粘性なし
19　暗褐色土　炭化物やや多量　焼土微量　褐色土ブロック少量　しまりあり　粘性あり

0　2m
1/60

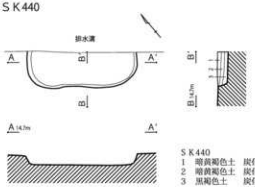
第97図　土壙（12）

S K 439



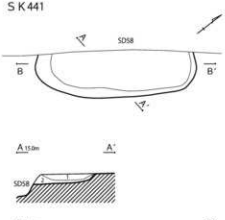
S K 439
1　褐色土　黄褐色土（φ 5 ㎜）をブロック状に少量含む

S K 440



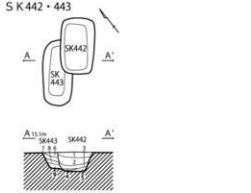
S K 440
1　暗黄褐色土　炭化物微量
2　暗黄褐色土　炭化物少量
3　黒褐色土　炭化物極多量

S K 441



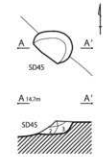
S K 441
1　暗褐色土　シルト質土　炭化物少量　しまりなし
2　暗黄褐色土　シルト質土　黄褐色粘土（φ 5 ～ 30 ㎜）多量　しまりややあり

S K 442・443



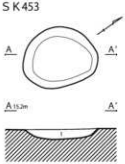
S K 442
1　褐色土　砂質土　灰色土・褐色土・黄色土ブロック極多量
2　褐色土　灰色土ブロック極多量　しまりあり　粘性なし
3　褐色土　褐色土・灰色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
4　黒褐色土　有機物由来の粘質土　しまりあり　粘性ややあり
5　褐色土　炭化物微量　灰色土ブロックややや多量　しまりあり　粘性ややあり
S K 443
6　褐色土　砂質土　灰色土・褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
7　褐色土　砂質土　黒色土ブロック太疣　しまりあり　粘性なし
8　褐色土　灰色土・褐色土ブロックややや多量　しまりあり　粘性なし
9　褐色土　炭化物少量　褐色土ブロック少量　しまりあり　粘性なし

S K 447



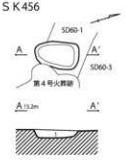
S K 447
1　暗灰褐色土　粘質土　炭化物微量
2　暗灰褐色土　炭化物微量　暗黄褐色土少量
3　暗褐色土　炭化物・暗黄褐色土微量

S K 453



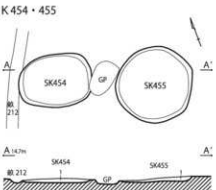
S K 453
1　褐色土　粘質土　灰色土（φ 20 ～ 30 ㎜）ブロック状に少量

S K 456



S K 456
1　灰褐色土　炭化物・焼土含む

S K 454・455



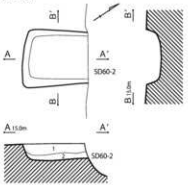
S K 454
1　褐色土　炭化物多量　焼土やや多量　しまりあり

S K 455
1　褐色土　炭化物・焼土やや多量　しまりあり

0　2m

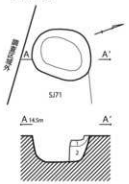
第 98 図　土壙（13）

S K 457



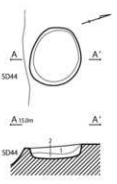
S K 457
1　褐色土
2　黒褐色土

S K 458



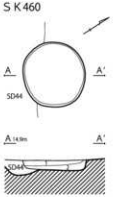
S K 458
1　暗褐色土　炭化物微量　黄褐色土粒子少量
2　黒褐色土　炭化物微量　黄褐色土ブロック多量　埋戻し

S K 459



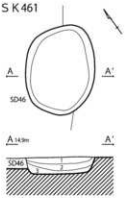
S K 459
1　暗黄褐色土　炭化物・焼土少量　しまりあり　粘性なし
2　暗褐色土　炭化物・焼土微量　しまりややあり　粘性ややあり

S K 460



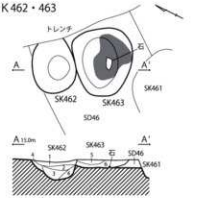
S K 460
1　暗黄褐色土　炭化物・焼土少量　しまりあり　粘性なし
2　暗褐色土　炭化物・焼土微量　しまりややあり　粘性ややあり

S K 461



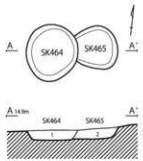
S K 461
1　暗褐色土　炭化物・焼土極多量　しまりあり　粘性なし
2　暗黄褐色土　炭化物・焼土少量　しまりややあり　粘性ややあり
3　暗褐色土　炭化物・焼土少量　しまりややあり　粘性ややあり

S K 462・463



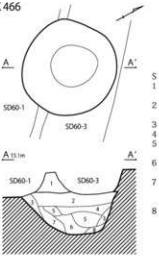
S K 462
1　暗褐色土　砂質土　炭化物少量　粘性なし
2　暗黄褐色土　砂質土　炭化物・焼土少量　粘性なし
3　黒褐色土　砂質土　炭化物多量　粘性なし
4　暗黄褐色土　砂質土　炭化物・焼土少量　粘性なし
S K 463
5　暗褐色土　砂質土　炭化物・焼土多量　しまりあり　粘性なし
6　暗褐色土　砂質土　下面に炭化物層形成　焼土極多量
　　しまりややあり　粘性なし

S K 464・465

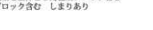


S K 464
1　暗褐色土　砂質土　炭化物・焼土少量　粘性なし
S K 465
2　暗褐色土　炭化物・焼土少量　粘性なし

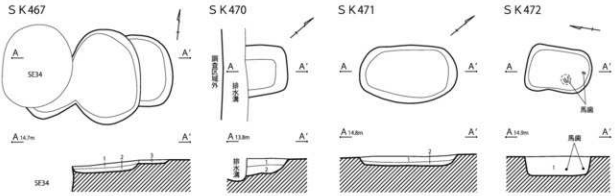
S K 466



S K 466
1　明褐色土　白色粒子（φ1～2㎜）やや多量
　　炭化物（φ2～3㎜）少量　土壌環境後の堆積層
2　褐色土　灰色土ブロック極多量　下層に鉄分含む
　　しまりあり
3　灰褐色土　灰色土・黒色土・褐色土ブロック多量　崩落土
4　褐色土　灰色土ブロック極多量　鉄分多量
5　褐色土　炭化物少量　灰色土・褐色土ブロック多量
　　鉄分含む　しまりやや欠く
6　灰褐色土　炭化物少量　褐色土ブロック多量
　　土層に鉄分含む
7　灰褐色土　灰色土ブロック極多量
　　下層にローム（φ30～50㎜）多量
　　しまりなし
8　灰褐色土　灰色粘質土を主体とし褐色土ブロック含む
　　凝灰岩ブロック含む　しまりあり



第 99 図　土壙（14）

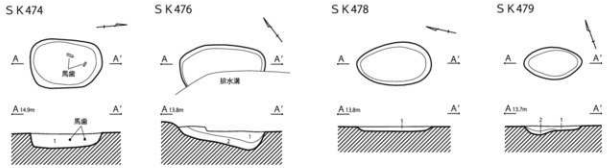


SK467
1　灰褐色土　　褐色土と灰褐色土の混合土　褐色土がやや多い　炭化物微量　しまりややあり
2　灰褐色土　　1層に近いが褐色土がやや多い　しまりあり
3　灰褐色土　　褐色土と灰褐色土の混合層　褐色土やや多量　しまりあり

SK470
1　暗黄褐色土　鉄分少量　粘性あり
2　暗褐色土　　鉄分多量　粘性あり

SK471
1　暗褐色土　　炭化物（φ1～3㎜）多量　粘性ややあり
2　暗黄褐色土　シルト質土　しまりなし　粘性あり

SK472
1　暗褐色土　　粘質土　明灰褐色粘質土ブロック含む

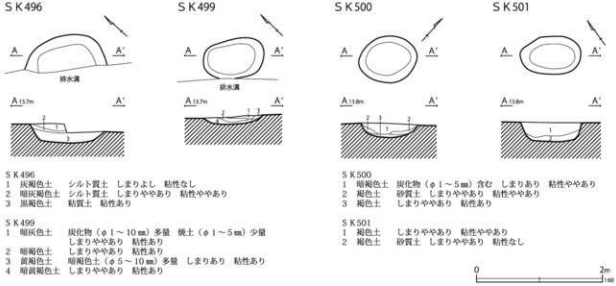


SK474
1　暗褐色土　　粘質土　明灰褐色粘質土ブロック含む

SK476
1　暗褐色土　　炭化物・焼土（φ1～2㎜）多量　粘性なし
2　暗灰褐色土　炭化物・焼土（φ1㎜）少量　粘性ややあり

SK478
1　明灰色土　　しまりややあり　粘性あり

SK479
1　暗褐色土　　しまりややあり　粘性ややあり
2　暗灰色土　　炭化物（φ1～5㎜）少量　しまりあり　粘性あり



SK496
1　灰褐色土　　シルト質土　しまりよし　粘性なし
2　暗灰褐色土　シルト質土　しまりややあり　粘性ややあり
3　黒褐色土　　粘質土　粘性あり

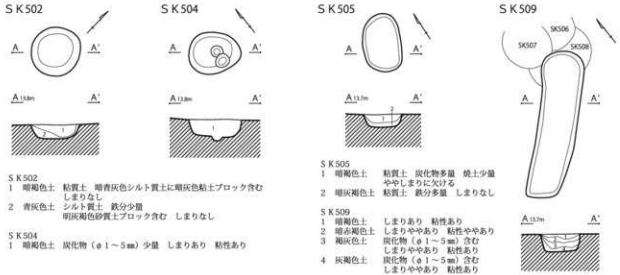
SK499
1　暗灰色土　　炭化物（φ1～10㎜）多量　焼土（φ1～5㎜）少量
　　しまりややあり　粘性あり
2　暗褐色土　　しまりややあり　粘性あり
3　黄褐色土　　暗褐色土（φ5～10㎜）多量　しまりあり　粘性あり
4　暗黄褐色土　しまりややあり　粘性あり

SK500
1　暗褐色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　しまりあり　粘性ややあり
2　褐色土　　砂質土　しまりややあり　粘性ややあり
3　褐色土　　しまりややあり　粘性あり

SK501
1　褐色土　　しまりややあり　粘性ややあり
2　褐色土　　砂質土　しまりややあり　粘性なし

0　2m
1:60

第100図　土壙（15）

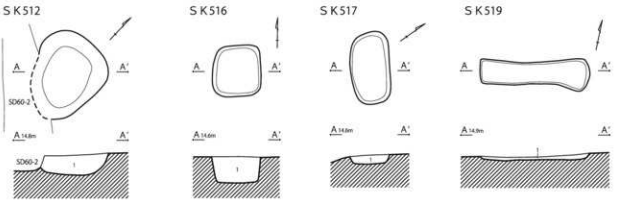


SK502
1　暗褐色土　粘質土　暗青灰色シルト質土に暗灰色粘土ブロック含む　しまりなし
2　青灰色土　シルト質土　鉄分少量　明灰褐色砂質土ブロック含む　しまりなし

SK504
1　暗褐色土　炭化物（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性あり

SK505
1　暗褐色土　粘質土　炭化物多量　焼土少量　ややしまりに欠ける
2　暗灰褐色土　粘質土　鉄分多量　しまりなし

SK509
1　暗褐色土　しまりあり　粘性あり
2　暗赤褐色土　しまりややあり　粘性ややあり
3　褐灰色土　炭化物（φ1～5mm）含む　しまりややあり　粘性あり
4　灰褐色土　炭化物（φ1～5mm）含む　しまりややあり　粘性あり



SK512
1　暗褐色土　炭化物・焼土少量　灰褐色粘土ブロック多量

SK516
1　灰褐色土　粘質土　炭化物・焼土・明灰色粘土ブロック少量　しまりなし

SK517
1　褐灰色土　炭化物（φ1～5mm）含む　しまりあり　粘性ややあり

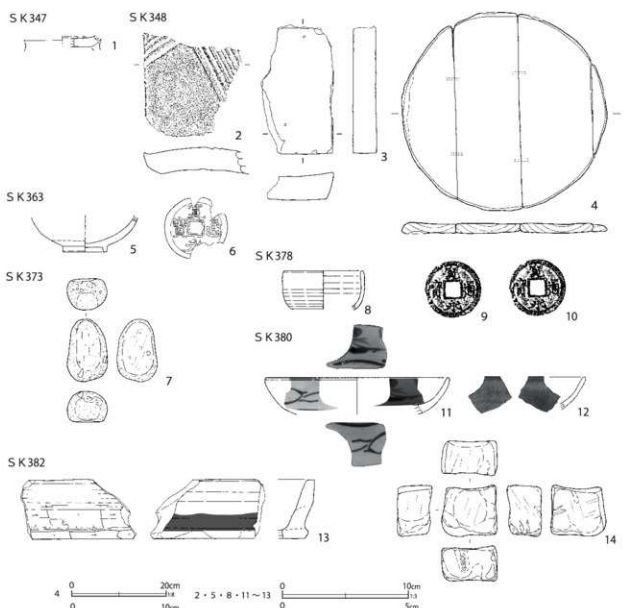
SK519
1　灰褐色土　粘質土　灰褐色粘土ブロックと暗褐色土ブロックの一括埋土　しまりなし

第101図　土壙（16）

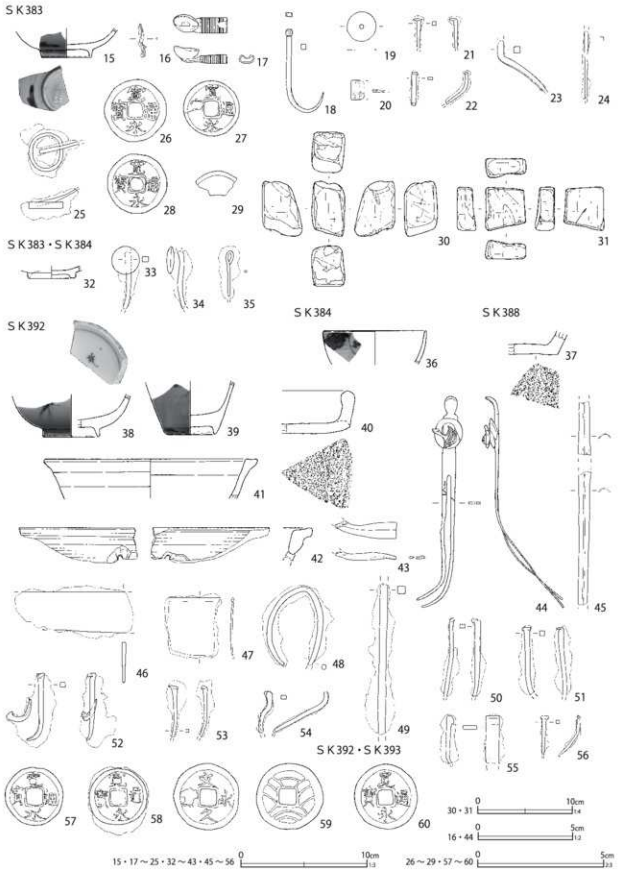
第30表　土壙一覧表（3）

No.	図No.	グリッド	形状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	長軸方位	重複関係	遺物	備考
467	100	ZY-998	3連の円形	[2.39]	1.47	0.13	N－65°－E	SE34より古	なし	3面　重複する複数の土壙か
470	100	ZV-470	方形	[0.65]	0.78	0.27	N－48°－W		緑泥片岩	3面
471	100	ZS-991・992 ZT-991	楕円形	1.53	0.91	0.18	N－39°－E		なし	3面
472	100	ZU-993	不整方形	1.02	0.74	0.30	N－2°－W		馬歯	3面
474	100	ZU-993	楕円形	1.13	0.87	0.24	N－5°－W		馬歯	3面
476	100	ZU-994	楕円形か	1.35	[0.54]	0.35	N－51°－W		なし	3面
478	100	ZT-992	楕円形	1.18	0.66	0.07	N－13°－E		なし	3面
479	100	ZT-991	楕円形	0.91	0.52	0.13	N－71°－W		なし	3面
496	100	ZT-993・994	楕円形か	1.28	[0.56]	0.29	N－48°－W		なし	3面

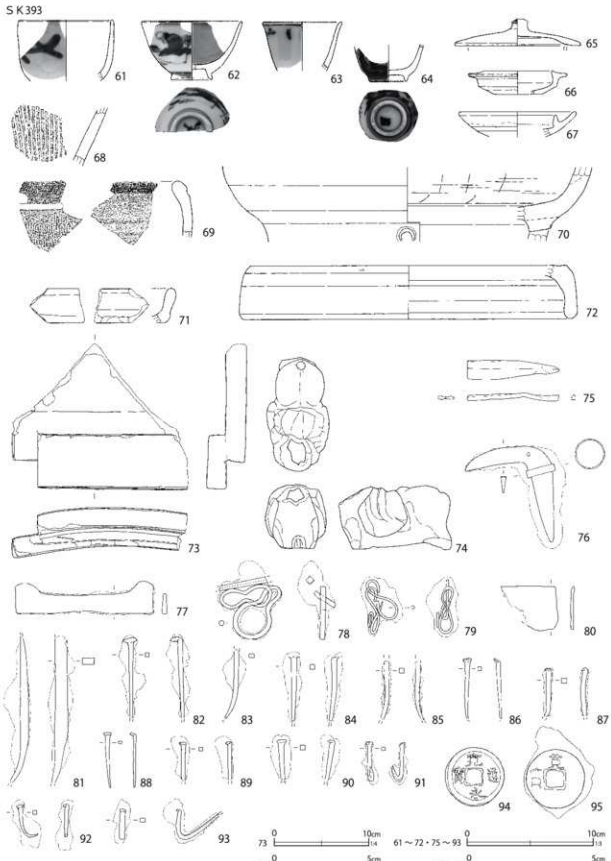
No.	図No.	グリッド	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	重複関係	遺物	備考
499	100	ZT-991	楕円形	0.94	0.62	0.11	N—47°—W		なし	3面
500	100	ZT-992	楕円形	0.93	0.74	0.23	N—41°—E		なし	3面
501	100	ZT-992・993	楕円形	0.96	0.60	0.30	N—54°—W		なし	3面
502	101	ZU-994	円形	0.81	0.77	0.23			なし	3面
504	101	ZU-992	楕円形	0.83	0.66	0.34	N—50°—W		なし	3面
505	101	ZU-993	楕円形	0.92	0.61	0.20	N—32°—E		なし	3面
509	101	ZT-992	隅丸方形	2.35	0.67	0.27	N—49°—E	SK507・508より新	なし	3面
512	101	ZZ-0・1 A-0・1	不整楕円形	(1.43)	1.13	0.25	N—30°—W	SD60-2より古	なし	3面
516	101	A・B-1	方形	0.81	0.77	0.41	N—1°—W		なし	3面
517	101	B-1	方形	1.14	0.62	0.16	N—60°—W		なし	3面
519	101	ZZ-999	方形	1.74	0.50	0.12	N—80°—E		なし	3面



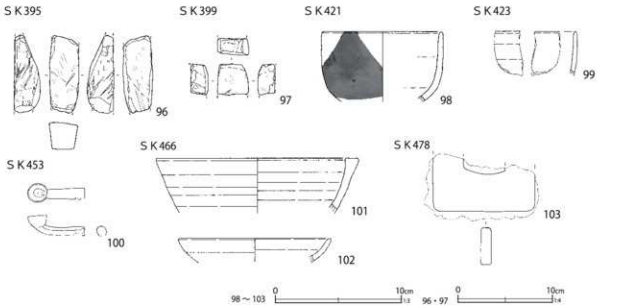
第102図　土壙出土遺物（2）



第 103 図　土壙出土遺物（3）



第104図　土壙出土遺物（4）



第105図　土壙出土遺物（5）

埋設桶以外で特徴的な土壙を以下に記す。

第381号土壙（第92図　第29表）

上面に堆積していた層土1層の下面に、炭化物の薄い層が広がっていた。覆土1層には黄褐色土ブロックが多く含まれており、故意に埋め戻された形跡がある。漆碗の漆の塗膜がこの層から出土した（図版15―3）。木質部は腐食し、ほとんど残っていなかった。

第463号土壙（第99図　第29表）

覆土に、炭化物と焼土が大量に含まれていた。底面は被熱していないため、焼けた廃材などを処分した土壙と推定される。

第472・474号土壙（第100図　第30表）

2基並んで検出された。規模や覆土が共通する。ともに、覆土中から馬歯が出土した。馬の頭骨を埋めた土壙と考えられる。

第31表　土壙出土遺物観察表（2）（第102～105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	登録番号	備考	図版
1	ロクロ土師器	高台付椀	—	[1.2]	—	A・H・I・K	25	普通	にぶい黄橙	SK347	高台剥落 内面ミガキ 器面風化	
2	瓦質土器	焜炉	—	[8.5]	—	A・C・H・I・K	5	普通	にぶい橙	SK348	№2 窓部破片 やや酸化炎焼成 外面施文 19C後	
3	瓦	平瓦	長さ[13.3] 幅[7.0] 厚さ[2.7] 重さ[307.0]			A・C・E・I・K	10	普通	灰	SK348	№1 内外面強くナデ	
4	木製品	底板	長さ41.9 幅43.5 厚さ2.3							SK348	№3 板目 木釘6本	
5	陶器	碗	—	[2.9]	(3.4)	I・K	20	良好	黄灰	SK363	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C中～後	
6	銅製品	銭貨	径24.7 厚さ1.3 重さ2.3							SK363	寛永通寶（古）	
7	石製品	磨石	長さ6.6 幅4.3 厚さ3.3 重さ66.7							SK373	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用	34-14
8	陶器	坏	(7.0)	[3.1]	—	I・K	10	普通	灰黄	SK378	京都信楽系 内外面施釉 18C中	
9	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.2 重さ3.0							SK378	寛永通寶（古）	
10	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.2 重さ2.8							SK378	寛永通寶（新）	
11	磁器	皿	(14.4)	[2.9]	—	I	5	良好	灰白	SK380	肥前系 内外面施釉・染付 18C	
12	陶器	碗	(9.8)	[2.6]	—	I・K	5	良好	灰	SK380	肥前系 内外面施釉（刷毛目釉か） 17C後～18C前	
13	瓦質土器	焙烙	—	4.6	—	C・F・H・I・K	10	普通	灰黄褐	SK382	底部シワ状痕 内面下位煤付着 18C～19C	
14	石製品	砥石	長さ5.4 幅5.9 厚さ3.7 重さ198.7							SK382	砂岩 砥面6 ツルハシ状工具痕か	34-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構番号	備考	図版
15	磁器	碗	—	[2.3]	(3.9)		15	良好	灰白	SK383	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C 前	
16	銅製品	針金	長さ 1.7 厚さ 0.03 重さ 0.2							SK383		
17	銅製品	煙管	長さ 4.2 火皿縦 2.0 横 1.5 小口縦 0.7 横 1.2 重さ 5.1							SK383	雁首 つぶれて歪む	34-1
18	銅製品	鉤金具	長さ 6.6 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.3							SK383	孔部面取り	34-2
19	銅製品	不明	径 23.1 厚さ 0.8 重さ 1.9							SK383	№5	
20	銅製品	不明	縦 1.5 横 [1.0] 厚さ 0.2 重さ 1.1							SK383	二折り 隅に小孔あり 円形金具挟む	
21	鉄製品	釘	長さ [2.4] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.6							SK383	№6	
22	鉄製品	釘	長さ [2.7] 幅 0.4 厚さ 0.2 重さ 2.4							SK383	№7	
23	鉄製品	釘	長さ [4.0] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 4.4							SK383		
24	鉄製品	釘	長さ [5.4] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.1							SK383	№2	
25	鉄製品	環金具	縦 3.0 横 2.7 幅 0.5 厚さ 0.3 重さ 24.6							SK383	棒状品付着	
26	銅製品	銭貨	径 24.2 厚さ 1.1 重さ 3.0							SK383	№1 寛永通寶（古）	
27	銅製品	銭貨	径 21.7 厚さ 1.0 重さ 1.8							SK383	№3 寛永通寶（新）	
28	銅製品	銭貨	径 32.1 厚さ 1.2 重さ 3.1							SK383	№4 寛永通寶（新）	
29	銅製品	銭貨	縦 10.3 横 16.0 厚さ 0.8 重さ 0.3							SK383	№3 銭名不明	
30	石製品	砥石	長さ 5.8 幅 3.5 厚さ 4.3 重さ 122.2							SK383	№6 流紋岩 砥面 6 U字状使用痕	
31	石製品	砥石	長さ 4.6 幅 4.3 厚さ 2.0 重さ 60.3							SK383	流紋岩 砥面 6 刃物痕 U字状使用痕	
32	陶器	碗	—	[1.0]	3.7	K	95	良好	灰	SX03-384	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C	
33	石製品	碁石	径 2.2 厚さ 0.6							SX03-384	黒 34 に錆付く	
34	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 12.9							SX03-384		
35	鉄製品	不明	長さ [3.6] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 6.1							SX03-384		
36	磁器	碗	(8.0)	[2.6]	—	K	5	良好	灰白	SK384	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C 前～中	
37	瓦質土器	焙烙	—	[2.0]	—	C・I・K	5	普通	灰黄褐	SK388	底部シワ状痕 内外面煤付着	
38	磁器	碗	—	[3.4]	(4.2)		25	良好	灰白	SK392	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 19C 前	
39	磁器	猪口	—	[4.2]	3.8		40	良好	灰白	SK392	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C 中～後	
40	土師質土器	焙烙	—	3.4	—	C・H・I・K	5	不良	灰褐	SK392	底部シワ状痕 外面煤付着 19C	
41	瓦質土器	植木鉢	(16.7)	[3.2]	—	A・I・K	5	普通	灰白	SK392	胎土粉質	
42	瓦質土器	焙烙	—	[2.7]	—	C・H・I・K	5	良好	黄灰	SK392	内外面燻す 体部二次穿孔 18C 前～中	
43	銅製品	煙管	長さ 4.9 小口縦 0.2 横 1.3 重さ 5.2							SK392	雁首 つぶれて火皿欠失	34-3
44	銅製品	簪	長さ 11.1 幅 1.6 厚さ 0.1 重さ 10.0							SK392		34-4
45	銅製品	不明	長さ [14.9] 幅 0.9 厚さ 0.03 重さ 7.5							SK392	接合しないが同一個体	
46	鉄製品	不明	縦 [3.2] 横 [9.4] 厚さ 0.3 重さ 45.5							SK392		
47	鉄製品	不明	縦 [4.6] 横 [4.2] 厚さ 0.1 重さ 16.4							SK392		
48	鉄製品	不明	縦 [6.2] 横 4.5 厚さ 0.4 重さ 30.0							SK392		
49	鉄製品	不明	長さ [11.9] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 47.8							SK392		
50	鉄製品	釘	長さ [6.2] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 6.7							SK392		
51	鉄製品	釘	長さ [5.4] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 10.0							SK392		
52	鉄製品	釘	長さ [5.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 25.5							SK392	2 本錆付く	
53	鉄製品	釘	長さ [4.0] 幅 0.25 厚さ 0.25 重さ 5.7							SK392		
54	鉄製品	釘	長さ [3.3] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.0							SK392		
55	鉄製品	釘	長さ [3.8] 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 9.2							SK392		
56	鉄製品	釘	長さ [3.1] 幅 0.3 厚さ 0.2 重さ 1.3							SK392		
57	銅製品	銭貨	径 22.9 厚さ 1.1 重さ 2.7							SK392	寛永通寶（新）	
58	銅製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.6 重さ 4.5							SK392	寛永通寶（新）	
59	銅製品	銭貨	径 26.6 厚さ 0.8 重さ 2.8							SK392	文久永寶	
60	銅製品	銭貨	径 25.3 厚さ 1.2 重さ 3.4							SX02-383	寛永通寶（新）	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	登録番号	備考	図版
61	磁器	碗	(7.4)	[4.8]	—	K	15	良好	灰白	SK393	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 19C 中	
62	磁器	坏	(8.0)	4.6	(3.2)		25	良好	白	SK393	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 19C 中	
63	磁器	坏	(6.2)	[3.8]	—		20	良好	灰白	SK393	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 19C 後	
64	磁器	坏	—	[2.9]	2.8		60	良好	白	SK393	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 19C 後	
65	陶器	土瓶蓋	—	2.1	10.0	K	30	良好	灰白	SK393	外面青緑釉 つまみ部施文 19C 前	
66	陶器	土瓶蓋	(7.8)	[1.8]	(3.8)	I・K	20	良好	灰白	SK393	上面灰釉 19C 前～中	
67	陶器	灯明皿	(9.0)	[2.0]	—	I・K	5	良好	淡黄	SK393	瀬戸美濃系 内外面柿釉 19C 前	
68	陶器	擂鉢	—	[4.6]	—	E・H・I・K	5	良好	赤褐	SK393	内面擂目 堺明石系	
69	瓦質土器	火鉢	—	[4.4]	—	C・I・K	5	普通	灰	SK393	全体燻す 外面トビガンナ状施文	
70	瓦質土器	火鉢	—	[5.9]	—	C・E・H・I	5	普通	にぶい黄橙	SK393	内外面燻す 脚部穿孔	
71	土師質土器	焙烙	—	[2.7]	—	C・H・I・K	5	不良	灰黄	SK393	砂目底 19C 中～後	
72	瓦質土器	蓋	(25.6)	4.2	(25.1)	C・E・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SK393	上面シワ状痕 燻す	
73	瓦	道具瓦	長さ[15.4] 幅[18.6] 高さ5.4			A・C		普通	黄灰	SK393	内外面燻す 外面ミガキ・焼成前穿孔	
74	土製品	土人形	縦(3.4) 横(5.9) 幅3.2			E・I・K	95	普通	にぶい黄橙	SK393	馬 中空 水滴か	29-3
75	鋼製品	煙管	長さ7.3 小口縦0.3 横1.4 口付縦0.4 横0.3 重さ10.0							SK393	吸口 つぶれる	34-5
76	鉄製品	鹿ロか	縦7.6 横7.0 厚さ0.4 重さ84.0							SK393		
77	鉄製品	火打金	長さ2.6 幅10.9 厚さ0.4 重さ36.4							SK393		
78	鉄製品	鎖か	縦[4.9] 横[5.0] 厚さ0.4 重さ41.6							SK393	釘錆付く	
79	鉄製品	鎖か	縦4.3 横2.6 厚さ0.2 重さ23.3							SK393		
80	鉄製品	不明	縦[3.6] 横[4.6] 厚さ0.2 重さ17.0							SK393		
81	鉄製品	不明	長さ[11.6] 幅1.0 厚さ0.5 重さ46.2							SK393		
82	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ10.9							SK393		
83	鉄製品	釘	長さ[5.5] 幅0.4 厚さ0.3 重さ8.1							SK393		
84	鉄製品	釘	長さ[5.1] 幅0.4 厚さ0.4 重さ11.1							SK393		
85	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.8							SK393		
86	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.2							SK393		
87	鉄製品	釘	長さ[3.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.9							SK393		
88	鉄製品	釘	長さ4.4 幅0.3 厚さ0.2 重さ1.2							SK393		
89	鉄製品	釘	長さ[3.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.1							SK393		
90	鉄製品	釘	長さ[3.4] 幅0.4 厚さ0.4 重さ8.5							SK393		
91	鉄製品	釘	長さ[3.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.5							SK393		
92	鉄製品	釘	長さ2.6 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.1							SK393		
93	鉄製品	釘	長さ[3.4] 幅0.4 厚さ0.3 重さ9.0							SK393		
94	鋼製品	銭貨	径22.9 厚さ1.0 重さ2.4							SK393	寛永通寶（新）	
95	鉄製品	銭貨	径23.3 厚さ1.3 重さ10.9							SK393	寛永通寶（新）釘錆付く	
96	石製品	砥石	長さ[8.2] 幅3.1 厚さ2.8 重さ97.3							SK395	流紋岩 砥面4 刃物痕	
97	石製品	砥石	長さ[3.3] 幅3.3 厚さ[1.8] 重さ31.0							SK399	流紋岩 砥面2 工具痕	
98	陶器	碗	(12.0)	[5.2]	—	H・I	15	普通	灰白	SK421	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須絵 18C 前	
99	陶器	碗	—	[3.5]	—	I・K	5	良好	にぶい黄橙	SK423	内外面鉄釉 胎土硬質	
100	鋼製品	煙管	長さ4.5 火皿径1.5 小口縦[0.7] 横0.8 重さ4.0							SK453	雁首	
101	陶器	片口鉢	(16.0)	[4.3]	—	A・H・I・K	5	良好	灰白	SK466	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面緑釉流掛 18C	
102	かわらけ	小皿	(12.0)	[1.9]	—	C・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SK466	胎土砂質	
103	鉄製品	不明	縦[4.5] 横8.1 厚さ0.8 重さ127.3							SK478		

（3）火葬跡（第106図　第32表）

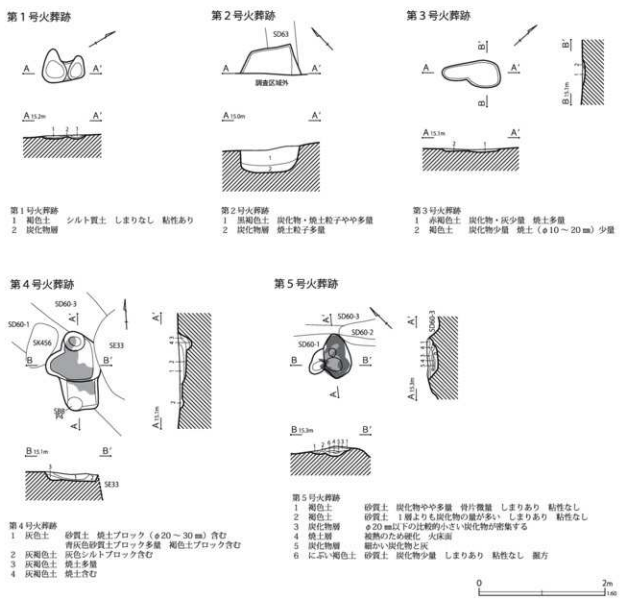
火葬跡は、1面から5基検出された。各火葬跡の詳細は第32表にまとめた。

第4号火葬跡は南北方向に主軸をもち、西辺には煙道あるいは送風口と考えられる突出部が設けられている。南北両端部には、浅いピット状の掘り込みがある。骨片等は検出されなかった。

第2号火葬跡は、炭化物と焼土が覆土に多く含まれていた。火葬跡と推定されるが、大半が調査区域外にかかるため全容は不明である。

第32表　火葬跡一覧表

No.	図No.	グリッド	形状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	長軸方位	重複関係	遺物	備考
1	106	ZZ-999	不整形	0.67	0.53	0.05	N—29°—E		なし	
2	106	B-0	不明	[0.93]	[0.46]	0.35			なし	
3	106	ZZ-0	隅丸方形	0.91	0.43	0.04	N—43°—E		なし	
4	106	ZZ-0	方形	1.25	0.82	0.20	N—9°—E	SE33より古	なし	
5	106	ZZ-0	不整形	0.70	0.66	0.16	N—41°—E		なし	



第106図　火葬跡

（4）井戸跡（第107～118図　第33～36表）

井戸跡は21基検出された。1面では撹乱や試掘トレンチのため確認されず、3面で底面近くが検出された井戸跡もある。出土遺物から、時期は18世紀から19世紀にかけてと考えられる。各井戸跡の詳細は第33表にまとめた。

このうち、周囲に竪穴状の掘り込みをもつ井戸跡が2基、井戸側を設けた井戸跡が2基存在する。以下、これらを中心に、代表的な井戸跡について記載する。

第21号井戸跡（第107・112図　第33・34表）

周囲に掘り込みをもつ井戸跡である。外側は円形に、内側は方形に掘り込んでいる。外側の掘り込みの規模は長径2.08m、短径2.02m、深さ0.04m、内側の掘り込みの規模は長軸1.67m、短軸1.38m、深さ0.33mである。方形の掘り込みの四隅には長径0.26～0.30m、短径0.19～0.24m、深さ0.16～0.27mのピットを設けている。ピットに柱痕は確認できなかったが、四本柱で屋根を支える上屋が設けられていた可能性がある。

遺物は図示したもの以外に、漆椀（図版19―8）が出土した。遺存状態が悪く図示できなかった。

第23号井戸跡（第107・112図　第33・34表）

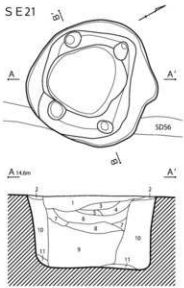
周囲を方形に掘り込む井戸跡である。掘り込みの規模は長軸1.50m、短軸1.35m、深さ0.15～0.21mである。ピットが検出されていないため、囲塀の跡であった可能性が考えられる。

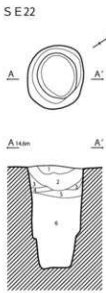
第27号井戸跡（第108・112・114～116図　第33～35表）

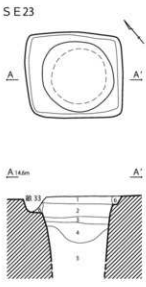
井戸側が検出された井戸跡である。調査中に半裁した土層観察用の壁が崩れたために、正確には計測できなかったが、実際の井戸の直径は約0.9mと推定される。井戸側の径は出土時の現状で0.82×0.77m、高さは1.14mである。出土時には3条のタガがはめられていた。

第33表　井戸跡一覧表

No.	図No.	グリッド	断面形状	上径（m）	下径（m）	深さ（m）	重複関係	遺物	備考
21	107	ZU-993	筒形	1.42×1.10	1.05×0.96	1.15	SD56より新	陶磁器・擂鉢・瓦・漆椀	上屋跡あり
22	107	ZU-993	筒形	1.01×0.88	0.67×0.52	1.61		常滑甕・かわらけ	
23	107	ZU-993	筒形	1.20×1.15	0.89×0.85	[1.15]	SI10より新	擂鉢・植木鉢	囲塀跡あり
24	107	ZY・ZW-995	筒形	1.51×1.49	0.95×0.82	[1.84]		なし	
25	107	ZW-994	筒形か	1.03	0.75	[0.64]	SE26より新	なし	
26	107	ZW-994・995	筒形	1.23×1.13	0.95×0.90	[0.65]	SE25より古	なし	
27	108	ZY・ZZ-998	筒形	2.05×1.70	0.96×0.75	2.54	SD44・72・76より新	陶磁器・擂鉢 刀子・砥石・磨石	井筒径0.82×0.77m
28	108	ZY-998	漏斗形	1.85×1.76	0.29×0.26	2.59	SK372より古	陶磁器・竈将	
29	108	ZU-993	筒形	0.81×0.76	0.66×0.62	[2.14]		焙烙	
30	109	ZY-997・998 ZX-998	漏斗形	[1.28]×0.90	(1.05)	1.36	SK363・430・431より新	陶器	
31	109	ZX・ZY-997	筒形か	(2.40)	0.75×0.74	[2.08]		香炉・砥石	
32	109	ZS-991	筒形か	2.11×1.78	0.88×0.80	[2.40]	SD47・51より新	焙烙・かわらけ・板碑	
33	110	ZZ-0	筒形	1.92×1.66	1.55×1.21	2.02	SD60-2・3 4号火葬跡より新	土師器	
34	109	ZY-998	筒形	1.33×1.10	0.88×0.82	[1.43]	SK467より新	陶器・火鉢	
35	110	ZT-992	筒形か	1.21×1.21	0.55×0.46	1.15		瓦・砥石	井筒径0.82×0.64m
36	111	ZU-992	筒形	1.14×1.12	0.79×0.70	1.25		なし	
37	111	ZT-991	筒形	1.65×1.42	0.70	1.58		なし	
38	111	ZT-992	筒形	0.71×0.63	0.48×0.42	1.48	SJ87より新	なし	
39	111	ZT・ZU-993	筒形	0.86×0.73	0.69×0.60	[1.30]	SB6-P4より新	須恵器	
40	111	ZS-991	筒形	1.16×1.04	1.02×0.94	0.75		なし	
41	111	ZS-991	筒形	1.01×0.93	0.80	0.58		なし	



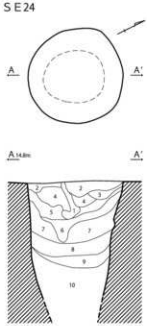


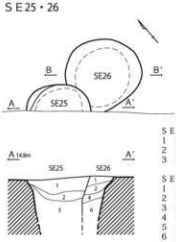


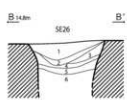
SE21
1 灰褐色土　粘質土　炭化物少量　明灰色土ブロック含む
2 暗灰色土　粘質土　鉄分多量　井戸外枠
3 灰色土　粘質土　炭化物少量
4 灰色土　粘質土　鉄分多量　しまりよし
5 暗灰色土　粘質土　粘性強い
6 暗灰色土　粘質土　明灰色土ブロック含む　しまりなし
7 灰色土　粘質土　崩落土
8 暗灰色土　粘質土　炭化物少量　しまりなし
9 暗灰色土　粘質土　明灰色粘土多量　粘性強い　しまりなし
10 灰色土　粘質土　明灰色土ブロック多量　層方
11 青灰色土　粘質土　炭化物（φ2～3㎜）微量　しまりあり　層方

SE22
1 褐色土　シルト質土　明灰褐色土ブロックと砂粒の混合土
2 灰褐色土　粘質土　明灰褐色土と灰色粘土ブロックの混合土　底面硬化
3 灰褐色土　粘質土　褐色土ブロック多量　崩落土
4 暗灰褐色土　粘質土　粘性強い
5 暗灰色土　粘質土　炭化物少量　粘性強い
6 暗灰色土　粘質土　灰色粘土ブロック多量　粘性強い　しまりなし

SE23
1 灰褐色土　シルト質土　灰色粘土ブロック多量　鉄分多量
2 明灰褐色土　シルト質土　明灰色粘土ブロック多量　鉄分沈着
3 黄灰褐色土　砂質土　黄褐色粘土と砂粒の混合土
4 暗灰色土　粘質土　炭化物少量　粘性強い
5 灰色土　粘質土　粘性強い　しまりなし
6 灰褐色土　粘質土　灰色粘土ブロックと褐色土ブロックの混合土　井戸外枠







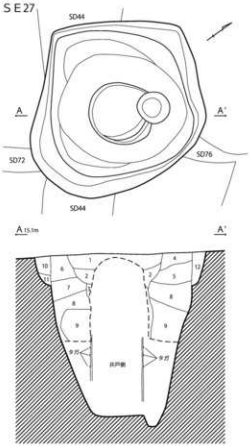
SE25
1 褐色土　砂質土　灰褐色土（φ8㎜）多量
2 褐色土　1層に近いが、灰褐色土の量が少ない
3 褐色土　砂質土　炭化物（φ10～20㎜）少量　粘性強い

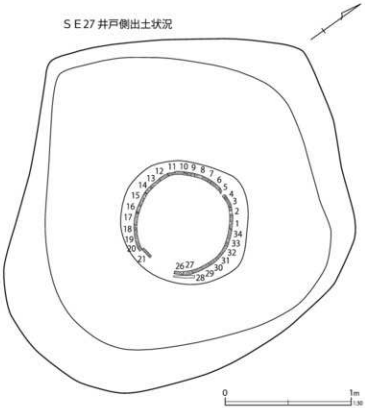
SE26
1 暗青灰褐色土　砂質土　黄褐色土ブロック微量
2 青灰褐色土　砂質土　黄褐色土ブロック少量
3 褐色土　灰褐色砂ブロック・黄褐色土ブロックやや多量
4 褐色土　層に近いが黄褐色土ブロックを含まない
5 青灰褐色土　炭化物砂ブロック多量
6 褐色土　炭化物・黄褐色土ブロック・灰褐色砂ブロック少量

SE24
1 黒褐色土　砂質土
2 黒褐色土　砂質土　炭化物微量　暗褐色土ブロック・粒子少量
3 黒褐色土　砂質土　炭化物・暗褐色土粒子微量
4 黒褐色土　砂質土　炭化物少量　暗褐色土ブロック多量
5 黒褐色土　砂質土　炭化物（φ5～10㎜）多量　暗褐色土ブロック少量
6 黒色土　砂質土　炭化物少量　暗褐色土粒子少量
7 黒色土　砂質土　炭化物・暗褐色土粒子微量　底面に鉄分沈着
8 灰褐色土　シルト質土　暗灰色粘土ブロック多量　鉄分多量　しまりよし
9 灰黄褐色土　粘質土　褐色土と明褐色土の混合土　鉄分多量　しまりあり
10 暗灰色土　粘質土　粘性強い　しまりなし

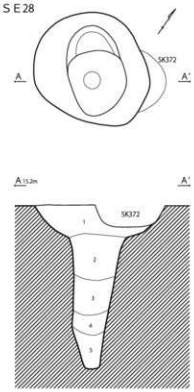
0　2m
1:40

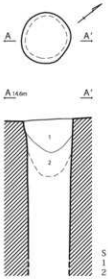
第107図　井戸跡（1）





SE27
1　暗褐色土　灰白色粘土粒子・黄褐色土粒子多量　しまり弱い
2　灰褐色土　粘質土　炭化物・黄褐色土粒子少量　しまり弱い
3　暗褐色土　黄褐色土ブロック多量　しまり弱い
4　褐色土　灰褐色土・黄褐色土ブロック多量　脱方
5　暗褐色土　灰褐色土ブロック多量　黄褐色土粒子少量
6　暗灰褐色土　黄褐色土ブロック多量
7　黒褐色土　炭化物多量　黄褐色土ブロック少量　しまり弱い
8　黒灰褐色土　黄褐色土ブロック多量　しまり弱い
9　暗青灰色土　グライ化層　炭化物少量　粘性あり
10　灰褐色土　砂質土　しまり弱い
11　暗黄褐色土
12　灰色土　粘質土



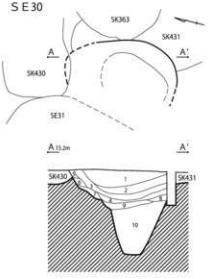


SE29
1　明灰褐色土　粘質土　明灰色粘土と褐色土の混合土　しまりあり
2　暗灰色土　粘質土　鉄分多量　粘性強い

SE28
1　暗灰褐色土　シルト質土　炭化物（φ1～2㎜）多量
2　明褐色土　炭化物少量　暗灰褐色土ブロック多量
3　褐色土　炭化物少量　暗灰褐色土ブロック少量
4　暗灰褐色土　粘質土　グライ化層　鉄分少量　均質
5　灰褐色土　粘質土　炭化物（φ1～3㎜）少量

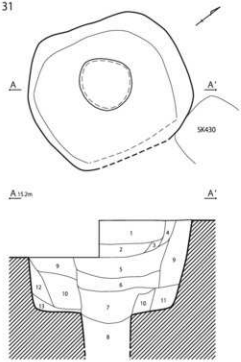
第108図　井戸跡（2）

SE30



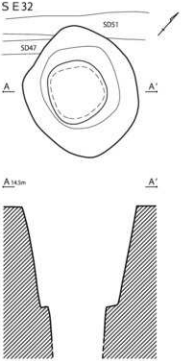
SE30
1 灰褐色土　黄色土・褐色土・灰色土ブロックの混合土
しまりかなりあり　粘性なし
2 褐色土　黄褐色土ブロックと灰褐色土の混合土　しまりあり
3 褐色土　灰色粘土・黄色土ブロック含む
しまりあり　粘性ややあり
4 褐色土　炭化物少量　黄色・褐色土ブロック含む
しまりあり　粘性ややあり
5 灰褐色土 砂質土　炭化物少量　灰色土ブロック多量
しまりややや欠く　粘性ややあり
6 褐色土　地山土主体　褐色土ブロック多量
しまりあり　粘性強い
7 灰褐色土 地山土主体　炭化物含む　灰色土ブロック多量
しまりあり　粘性強い
8 褐色土　灰色粘土と地山土の混合土　しまりあり　粘性強い
9 灰褐色土 黄色土ブロック含む　下層に植物遺存体堆積
しまりあり　粘性なし
10 暗灰色土 しまりややあり　粘性弱い

SE31

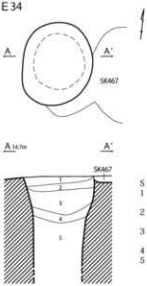


SE31
1 灰褐色土　炭化物微量　褐色土・灰色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
2 褐色土　灰色土ブロック極多量　褐色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性なし
3 褐色土　褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
4 灰褐色土 灰色土ブロック極多量　褐色土ブロックやや多量
しまりややあり　粘性なし
5 褐色土　灰色土ブロック極多量　褐色土ブロック少量　しまりややあり　粘性なし
6 褐色土　炭化物少量　褐色土ブロック極多量　鉄分含む
しまりあり　粘性なし
7 褐色土　褐色土と灰色土の混合土　褐色土ブロックやや多量　鉄分含む
しまりややあり　粘性あり
8 褐色土　7層に近いが、褐色土ブロックの量が少ない
9 褐色土　灰色土に黄褐色土ブロック極多量　しまりややあり　粘性なし　掘方
10 褐色土　褐色土ブロックやや多量　鉄分含む　固くしまる　掘方
11 褐色土　10層に近いが、褐色土と鉄分の量が少ない
12 灰褐色土 灰色土ブロック多量　しまりややあり　粘性ややあり　掘方
13 灰褐色土 12層に近いが、灰色土ブロックの量がやや少ない

SE32

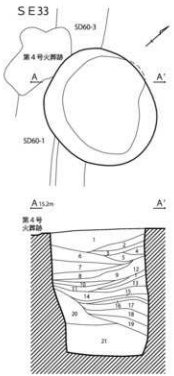


SE34



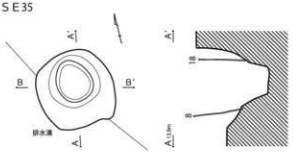
SE34
1 灰褐色土　明褐色土が縞状に混入
赤色土・褐色土・黒色土粒子多量　しまりあり
2 褐色土　褐色土と灰色土が斑に混じる
赤色土・褐色土・黒色土粒子多量　しまりあり
3 灰褐色土 灰褐色土を主体として褐色土が斑に混入
赤色土・褐色土粒子多量　しまりやや欠く
4 青灰色土 褐色土がグライ化する漸移層　しまりなし
5 青灰色土 グライ化層

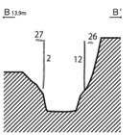
第109図　井戸跡（3）



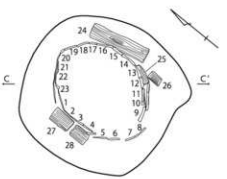
SE33
1　灰褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ30～40㎜）少量
2　赤褐色土　焼土層　焼土（φ20～30㎜）多量　暗褐色土（φ10～20㎜）少量
3　褐色土　焼土少量　灰褐色シルト質土と褐色土の混合土
4　灰褐色土　シルト質土　黒色粒子少量
5　赤褐色土　焼土層　炭化物少量　灰褐色シルト質土が縞状に堆積
6　灰褐色土　灰色粘土（φ30～40㎜）含む
7　灰褐色土　炭化物・灰色シルト質土（φ20～30㎜）含む
8　灰褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）・黒褐色土が縞状に堆積
9　赤褐色土　焼土層　炭化物含む
10　灰褐色土　シルト質土　焼土少量
11　赤褐色土　焼土と灰褐色シルト質土の混合土
12　黒褐色土　焼土（φ20～30㎜）・炭化物（φ2～3㎜）含む
13　赤褐色土　焼土層　焼土（φ30～40㎜）多量　黒褐色土少量
14　黒褐色土　焼土（φ10～20㎜）含む
15　黄橙色土　ロームと暗褐色土（φ30～40㎜）の混合土
16　灰色土　シルト質土
17　黄橙色土　ローム主体
18　灰色土　ロームと灰色シルト質土の互層
19　黄橙色土　ローム主体　灰色シルト質土少量
20　褐色土　シルト質土　ローム含む
21　青灰色土　粘質土

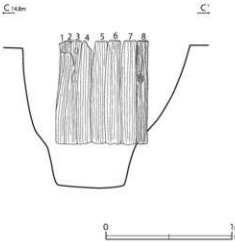
SE35

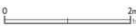




SE35 井戸側出土状況

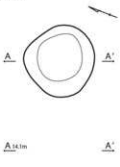




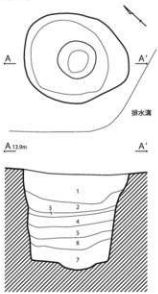


第 110 図　井戸跡（4）

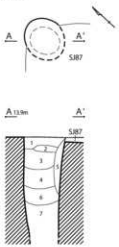
SE36



SE37



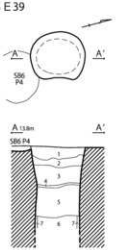
SE38



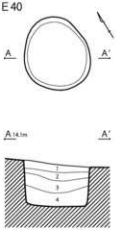
SE37
1 灰色土　全体的に均質な砂質土　しまりやや欠く　粘性あり
2 灰色土　均質な砂質土が斑に混じる　しまりあり　粘性あり
3 灰色土　全体的に均質な砂質土　しまりやや欠く　粘性あり
4 灰色土　炭化物少量　しまりやや欠く　粘性強い
5 灰色土　炭化物少量　しまりなし　粘性強い
6 灰色土　部分的にブロック状に堆積　炭化物やや多量　しまりややあり　粘性あり
7 灰色土　緻密な粘質土　炭化物少量　しまりあり　粘性強い

SE38
1 灰褐色土　明褐色土ブロックやや多量　しまりあり　粘性ややあり
2 灰褐色土　明褐色土少量　しまりやや欠く　粘性ややあり
3 灰色土　全体的に均質な砂質土　しまりやや欠く　粘性あり
4 灰色土　全体的に均質な砂質土　しまりあり　粘性あり
5 灰色土　全体的に均質な砂質土　しまりやや欠く　粘性あり
6 灰色土　全体的に緻密で均質　しまりやや欠く　粘性強い
7 青灰色土　全体的に緻密で均質　有機質（植物繊維）微量　しまりやや欠く　粘性強い

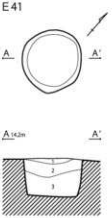
SE39



SE40



SE41



SE39
1 褐灰色土　しまりあり　粘性ややあり
2 暗緑灰色　しまりあり　粘性ややあり
3 暗緑灰色　しまりあり　粘性ややあり
4 明赤褐色土　鉄分多量　しまりあり　粘性ややあり
5 暗灰色土　炭化物（φ1～5㎜）含む　しまりややあり　粘性あり
6 暗灰色土　炭化物（φ10㎜）多量　有機質含む　しまりややあり　粘性あり
7 炭化物層

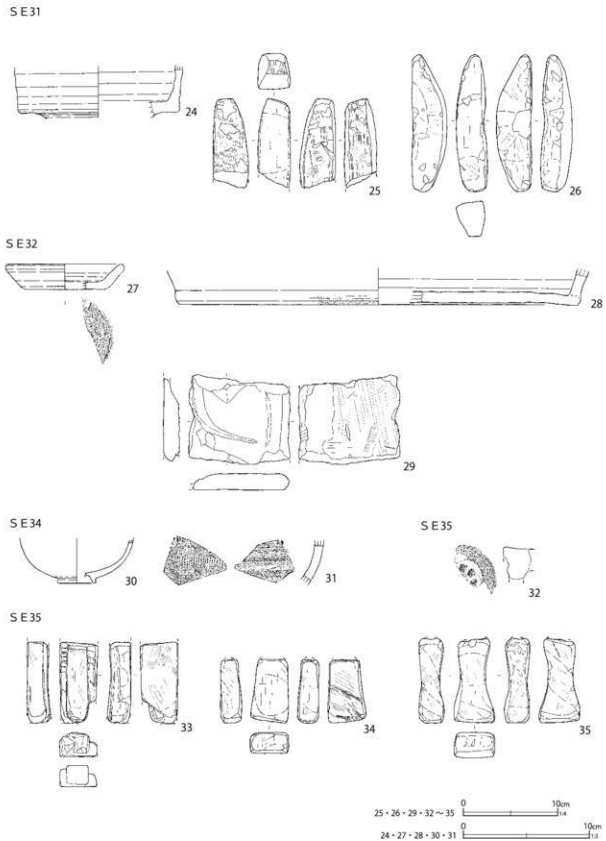
SE40
1 褐色土　しまりかなりあり　粘性ややあり
2 灰褐色土　灰色土を主体に明褐色土が斑に混じる　しまりあり　粘性ややあり
3 灰色土　均質な砂質土　鉄分含む　しまりやあり　粘性ややあり
4 灰色土　粘質土　炭化物少量　しまりかなりあり　粘性あり

SE41
1 灰色土　下層に鉄分沈着　しまりかなりあり　粘性強い
2 灰色土　均質な灰色土に褐色土が斑に混じる　しまりかなりあり　粘性強い
3 灰色土　均質な粘質土　しまりあり　粘性強い

0　2m
1:60

第111図　井戸跡（5）

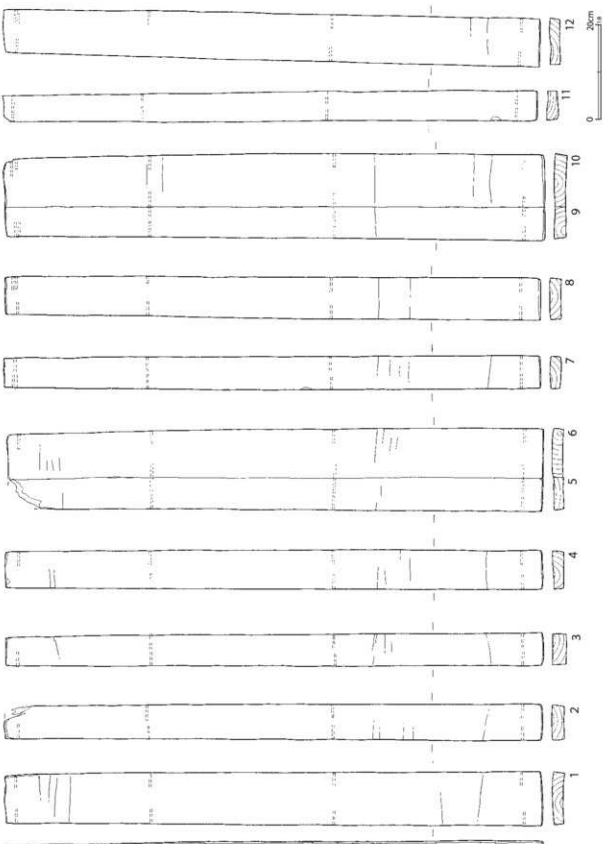
第 112 図　井戸跡出土遺物（1）



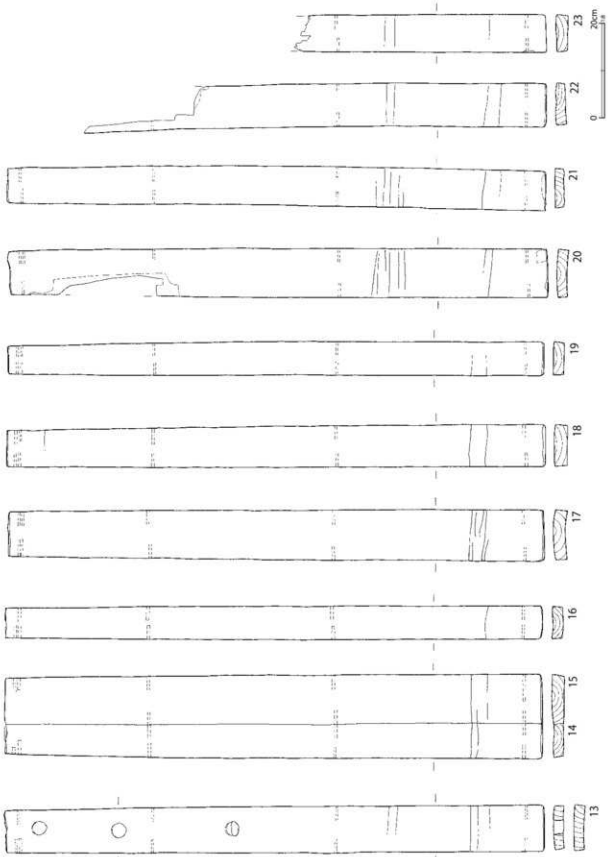
第113図　井戸跡出土遺物（2）

第 34 表　井戸跡出土遺物観察表（第 112・113 図）

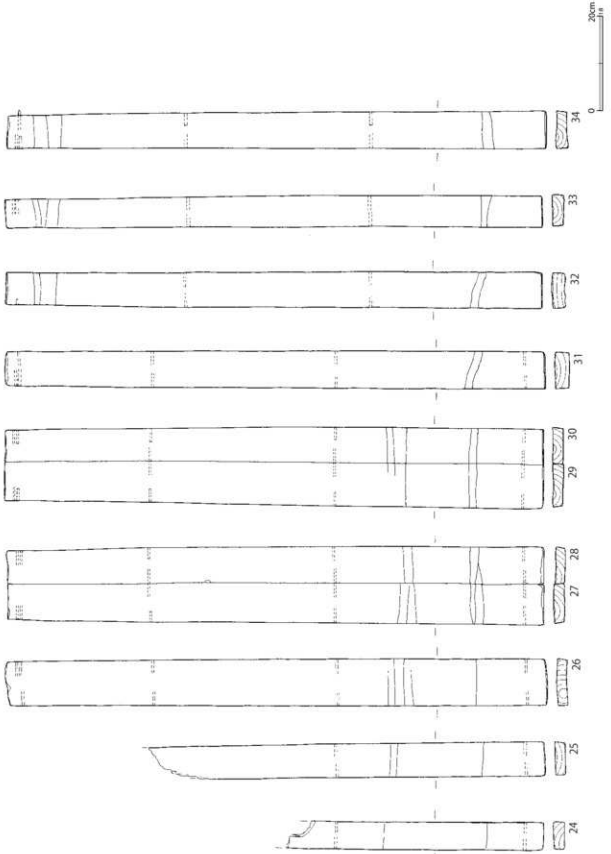
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	皿	—	[2.0]	—	I	5	良好	灰白	SE21	肥前内野山上窯系　内面銅緑釉　外面透明釉 17C 末～ 18C 初	
2	磁器	碗	—	[2.4]	3.2		40	良好	白	SE21	肥前波佐見系　内外面施釉　外面染付 18C	
3	陶器	擂鉢	—	[3.8]	(14.3)	I・K	10	普通	灰白	SE21	瀬戸美濃系　底部糸切痕　内外面錆釉　内面擂目　17 ～ 18C	
4	瓦	軒丸瓦	長さ [7.3] 幅 [9.1] 厚さ 2.2　重さ 16.99			E・I・K	20	普通	灰	SE21	瓦当面貼付部より剥離　外面ミガキ　内面ゴザ目状痕跡	
5	陶器	甕	—	[4.1]	—	E・I・K	5	良好	黄灰	SE22	常滑　肩部外面押印文　外面降灰 12C 後～ 13C 前	
6	かわらけ	小皿	(9.7)	[1.6]	—	C・E・H・I・K	5	不良	浅黄橙	SE22	胎土砂質	
7	陶器	擂鉢	—	[2.3]	—	E・H・I・K	5	良好	にぶい橙	SE23	丹波系　内面擂目 17C 後～ 19C 前	
8	瓦質土器	植木鉢	(15.2)	[1.9]	—	C・E・I・K	5	普通	褐灰	SE23	燻す 19C 以降	
9	磁器	皿	(13.4)	3.1	(8.2)		30	良好	白	SE27	肥前系　内外面施釉・染付　焼継痕・焼継印（赤）あり　被熱 18C 前	28-7
10	磁器	碗	(11.0)	6.5	(4.2)		10	良好	白	SE27	瀬戸美濃系　内外面施釉・染付 19C 前	
11	磁器	碗	—	[3.1]	(3.9)		10	良好	白	SE27	瀬戸美濃系　内外面施釉　外面陰刻文・染付 19C 前	
12	磁器	坏	—	[2.3]	2.8	I・K	30	良好	灰白	SE27	肥前系　内外面施釉 18C	
13	磁器	仏飯器	(6.0)	[2.8]	—	I	5	良好	灰白	SE27	肥前系　内外面施釉　外面染付 18C 後	
14	陶器	碗	(9.4)	[3.4]	—	H・I・K	15	良好	淡黄	SE27	京都信楽系　内外面施釉（貫入多い）19C 初	
15	陶器	碗	—	[2.7]	5.5	C・H・I・K	70	普通	にぶい黄橙	SE27	瀬戸美濃系　内外面灰釉 18C 前～中	
16	陶器	擂鉢	—	[4.4]	(12.8)	I・K	10	普通	灰白	SE27	瀬戸美濃系　底部糸切痕（右）内外面錆釉　内面擂目 17C ～ 18C 前	
17	鉄製品	刀子	長さ [4.0]　刃長 [1.8]　刃幅 1.0　背幅 0.3　重さ 6.2							SE27	関部破片	
18	石製品	砥石	長さ 4.8　幅 3.5　厚さ 2.5　重さ 48.8							SE27	流紋岩　砥面 6	
19	石製品	磨石	長さ 6.6　幅 5.6　厚さ 3.4　重さ 40.4							SE27	角閃石安山岩　多孔質　自然面使用	
20	磁器	碗	(6.8)	[5.0]	—		30	良好	白	SE28	瀬戸美濃系　内外面施釉　外面染付 19C 前	
21	磁器	碗	—	[3.1]	(3.6)	I・K	40	良好	灰白	SE28	瀬戸美濃系　内外面施釉・染付 18C 後	
22	陶器	半胴甕	—	[3.2]	(11.0)	I・K	20	良好	にぶい黄橙	SE28	瀬戸美濃系　内外面柿釉 18C 後	
23	瓦質土器	竈鍔	(48.4)	4.4	(44.6)	C・E・H・I・K	15	普通	黄灰褐	SE28	上面～内面に煤付着 19C 中～	
24	陶器	香炉	—	[4.6]	—	H・I・K	10	良好	灰白	SE31	瀬戸美濃系　外面鉄釉 18C 前	
25	石製品	砥石	長さ [9.4] 幅 3.4　厚さ 3.8　重さ 173.9							SE31	流紋岩（緑色）砥面 2 断面状工具痕	34-7
26	石製品	砥石	長さ 17.5　幅 3.3　厚さ 3.7　重さ 222.3							SE31	流紋岩（緑色）砥面 4　刃物痕	34-8
27	かわらけ	小皿	(9.0)	2.0	(6.4)	C・F・H・I・K	25	普通	にぶい黄橙	SE32	底部糸切痕　胎土砂質	
28	瓦質土器	焙烙	—	[2.9]	(31.8)	C・E・G・H・I・K	5	普通	灰白	SE32	底部シワ状痕　内外面煤付着 19C 前	
29	石製品	板碑	長さ [9.5] 幅 [10.7]　厚さ 1.7　重さ 334.1							SE32	緑泥片岩　枠線・キリーク種子遺存　側縁部二次利用	29-1
30	陶器	碗	—	[3.5]	(3.0)	K	20	良好	灰白	SE34	京都信楽系　内外面施釉 18C 後～ 19C 前	
31	瓦質土器	火鉢	—	[3.9]	—	C・I・K	5	不良	灰	SE34	外面トビガンナ状施文　燻す 19C 前～中	
32	瓦	軒桟瓦	長さ（7.6）幅— 厚さ 2.0　重さ 61.1			C・I・K	25	普通	灰	SE35	軒丸部分破片 19C 以降	
33	石製品	砥石	長さ [8.6] 幅 4.0　厚さ 2.5　重さ 115.5							SE35	流紋岩　砥面 1　裏面煤付着・金属光沢　砥石台付　台裏面幅広工具痕か　被熱（台と砥石溶着）	34-9
34	石製品	砥石	長さ [6.7] 幅 4.0　厚さ 2.2　重さ 100.4							SE35	流紋岩　砥面 5　刃物痕多数	
35	石製品	砥石	長さ [8.9] 幅 4.3　厚さ 2.7　重さ 140.0							SE35	流紋岩　砥面 4　刃物痕　幅広工具痕か	34-10



第 114 図　第 27 号井戸跡出土木製品（1）



第 115 図　第 27 号井戸跡出土木製品（2）



第 116 図　第 27 号井戸跡出土木製品（3）

第35表　第27号井戸跡出土木製品観察表（第114～116図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	木取り	備考	図版
1	木製品	井戸側	113.8	11.4	2.2	板目	№1 木釘残 タガ痕	
2	木製品	井戸側	113.8	7.6	2.6	板目	№2 木釘残 タガ痕	
3	木製品	井戸側	113.6	6.6	2.8	板目	№3 木釘残 タガ痕	
4	木製品	井戸側	113.6	8.3	2.4	板目	№4 木釘残 タガ痕 面加工痕	
5	木製品	井戸側	(113.4)	7.0	2.2	板目	№5 木釘で2枚固定 タガ痕 面加工痕	
6	木製品	井戸側	113.4	10.4	2.2	柾目	№6 木釘で2枚固定 タガ痕 面加工痕	
7	木製品	井戸側	113.4	6.8	2.2	板目	№7 木釘残 タガ痕	
8	木製品	井戸側	113.0	8.8	2.2	板目	№8 木釘残 タガ痕	
9	木製品	井戸側	113.4	6.8	2.5	板目	№9 木釘で2枚固定 タガ痕	
10	木製品	井戸側	113.4	11.2	2.5	板目	№10 木釘で2枚固定 タガ痕	
11	木製品	井戸側	112.8	6.2	2.5	板目	№11 木釘残	
12	木製品	井戸側	113.5	10.4	2.2	板目	№12 木釘残 タガ痕	
13	木製品	井戸側	114.2	9.8	2.2	板目	№13 木釘残 タガ痕 木栓（径3.0） 3箇所残存	
14	木製品	井戸側	113.6	7.4	2.5	板目	№14 木釘で2枚固定 タガ痕	
15	木製品	井戸側	113.6	10.2	2.5	板目	№15 木釘で2枚固定 タガ痕	
16	木製品	井戸側	113.5	7.0	2.2	板目	№16 木釘残 タガ痕	
17	木製品	井戸側	113.4	10.6	2.8	板目	№17 木釘残 タガ痕	
18	木製品	井戸側	113.8	8.8	2.8	板目	№18 木釘残 タガ痕	
19	木製品	井戸側	113.4	7.1	2.3	板目	№19 木釘残 タガ痕	
20	木製品	井戸側	114.1	10.2	2.2	板目	№20 木釘残 タガ痕	
21	木製品	井戸側	113.8	8.4	2.0	板目	№21 木釘残 タガ痕	
22	木製品	井戸側	(97.6)	9.0	2.3	板目	№22 木釘残 タガ痕	
23	木製品	井戸側	[54.3]	5.8	2.4	板目	№23 木釘残 タガ痕	
24	木製品	井戸側	[53.0]	8.0	3.4	板目	№24 木釘残 タガ痕	
25	木製品	井戸側	[83.5]	7.1	2.1	板目	№25 木釘残 タガ痕	
26	木製品	井戸側	114.3	9.9	2.2	板目	№26 木釘残 タガ痕	
27	木製品	井戸側	113.7	8.6	2.4	板目	№27 木釘で2枚固定 タガ痕	
28	木製品	井戸側	113.7	8.0	2.2	板目	№28 木釘で2枚固定 タガ痕	
29	木製品	井戸側	113.7	9.2	2.2	板目	№29 木釘で2枚固定 タガ痕	
30	木製品	井戸側	113.7	7.6	2.2	板目	№30 木釘で2枚固定 タガ痕	
31	木製品	井戸側	113.8	7.8	3.0	板目	№31 木釘残 タガ痕	
32	木製品	井戸側	113.2	7.6	3.0	板目	№32 木釘残 タガ痕	
33	木製品	井戸側	113.5	6.6	2.6	板目	№33 木釘残 タガ痕	
34	木製品	井戸側	113.8	8.0	2.65	板目	№34 木釘残 タガ痕	

側板は全部で34枚である（第114～116図第35表）。側面の4箇所に木の目釘を打ち込んで連結している。うち1枚の側板（第115図13）には、径3cmの孔が3箇所にあけられ、孔には木栓がはめられている。このことから、醤油などを醸造する大桶が再利用されていた可能性がある。

第28号井戸跡（第108・112図　第33・34表）

漏斗形に掘り込まれた井戸跡である。第372号土壙に上面を壊されている。覆土上層（1層）には炭化物が多量に含まれていた。

遺物は、磁器碗（第112図20・21）や電鎖（同図23）などが出土した。

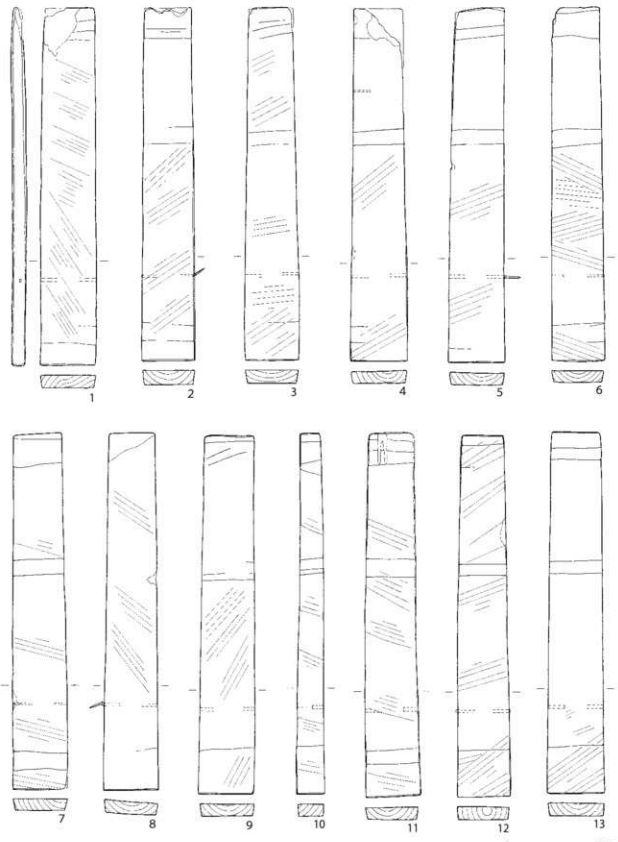
第31号井戸跡（第109・113図　第33・34表）

掘方を有する井戸跡である。深さ1.4mまでは周囲が大きく掘り込まれ、井戸本体との段差の平場を、掘削用の足場にしていたものと考えられる。

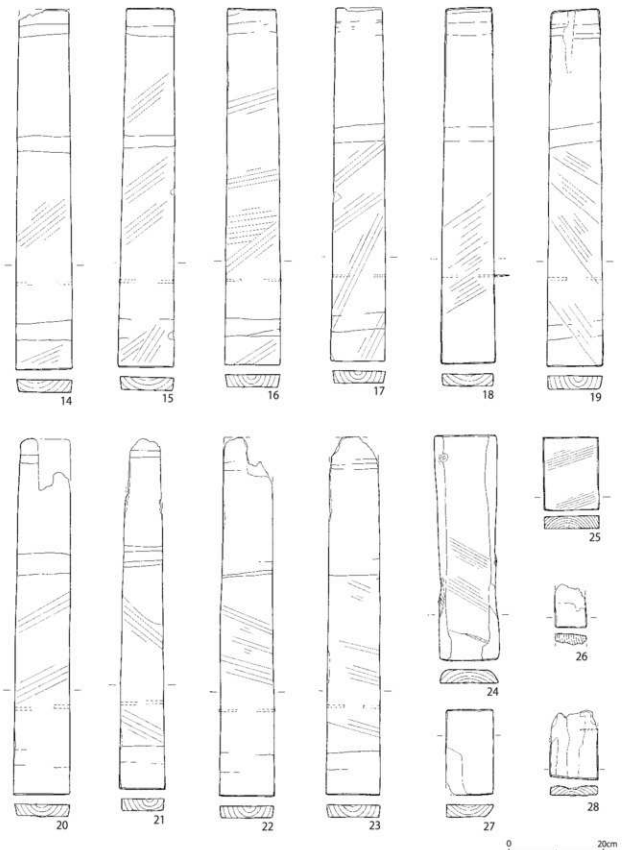
遺物は、香炉（第113図24）と砥石（同図25・26）が出土した。

第32号井戸跡（第109・113図　第33・34表）

掘方を有する井戸跡である。覆土を半裁中に崩落したため、土層断面図を作成できなかった。覆



第 117 図　第 35 号井戸跡出土木製品（1）



第 118 図　第 35 号井戸跡出土木製品（2）

第 36 表　第 35 号井戸跡出土木製品観察表（第 117・118 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	木取り	備考	図版
1	木製品	井戸側	75.4	11.6	2.6	板目	№1 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
2	木製品	井戸側	74.4	11.4	3.0	板目	№2 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
3	木製品	井戸側	74.4	11.6	2.8	板目	№3 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
4	木製品	井戸側	74.4	11.9	2.8	板目	№4 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
5	木製品	井戸側	74.8	11.4	2.7	板目	№5 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
6	木製品	井戸側	74.5	11.2	2.5	板目	№6 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
7	木製品	井戸側	75.0	11.2	2.5	板目	№7 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
8	木製品	井戸側	75.3	11.6	2.7	板目	№8 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
9	木製品	井戸側	75.5	11.6	2.7	板目	№9 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
10	木製品	井戸側	76.0	5.8	2.6	板目	№10 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
11	木製品	井戸側	76.3	11.5	2.6	板目	№11 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
12	木製品	井戸側	76.4	11.4	2.8	板目	№12 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
13	木製品	井戸側	76.4	12.2	2.6	板目	№13 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
14	木製品	井戸側	75.9	12.0	2.6	板目	№14 木釘残 鋸加工痕	
15	木製品	井戸側	75.9	12.0	2.6	板目	№15 木釘孔 鋸加工痕	
16	木製品	井戸側	75.1	11.8	2.5	板目	№16 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
17	木製品	井戸側	74.4	11.6	2.5	板目	№17 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
18	木製品	井戸側	74.8	11.2	2.4	板目	№18 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
19	木製品	井戸側	75.2	11.8	2.8	板目	№19 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
20	木製品	井戸側	75.0	11.8	2.7	板目	№20 木釘孔 タガ痕 鋸加工痕	
21	木製品	井戸側	[73.8]	9.6	2.6	板目	№21 木釘孔 タガ痕 鋸加工痕	
22	木製品	井戸側	75.5	11.2	2.6	板目	№22 木釘孔 タガ痕 鋸加工痕	
23	木製品	井戸側	75.6	11.3	2.5	板目	№23 木釘残 タガ痕 鋸加工痕	
24	木製品	板材	47.5	13.3	2.8	板目	フタ№1 鋸加工痕	
25	木製品	板材	15.4	11.6	2.6	板目	フタ№2 鋸加工痕	
26	木製品	板材	[9.2]	6.6	2.2	板目	フタ№3	
27	木製品	板材	18.0	10.1	2.6	板目	フタ№4	
28	木製品	板材	[14.7]	10.1	2.6	板目	フタ№5 木釘残	

土上層は灰色土がブロック状に混じる褐色土であった。下層は灰褐色土で植物由来の有機物が多く混入していた。

出土遺物は、かわらけ（第 113 図 27）や焙烙（同図 28）、側縁部に 2 次加工を施した板碑片（同図 29）などがある。このほかに、下層から巻貝の殻が出土した。

第 35 号井戸跡（第 110・113・117・118 図　第 33・34・36 表）

井戸側が検出された井戸跡である。覆土を半裁して調査中、約 0.7 m掘削したところで崩壊したため、土層断面図の作成を断念した。井戸側の内側に堆積していた土はしまりを欠く細かい砂質土で、炭化物の小片をわずかに含んでいた。外側の掘方の土は、粘性としまりのある灰褐色土であった。

井戸側の径は調査時の現状で 0.82 × 0.64 m、高さ 0.76 mである。東西方向に圧を受けて楕円形となっていた。井戸側の小口周囲には、5 枚の板材が向かい合うように敷かれていた。井戸構築時の足場に使用されたものと考えられる。

井戸側は桶の底板を抜いて再利用したものである。側板は全部で 23 枚である（第 117・118 図第 36 表）。側面の 1 箇所に木の目釘を打ち込んで連結している。表面には 3 条のタガの痕跡や鋸で裁断した加工痕がみられる。

（5）溝跡（第119～139図　第37・38表）

溝跡は1面から39条、2面から2条の合わせて41条が検出された。方向をみる限りでは、調査区を横切るように南西―北東に延びる溝跡と、調査区と平行し南東―北西に延びる溝跡の大きく二つに分けることができる。畝跡に平行あるいは直交して走る位置関係から、これらの溝跡のなかには、畠の区割りや居住地との地境を目的に掘削されたものがあると考えられる。

出土する遺物は近世に属するものが多いが、南東―北西に延びる溝跡を中心に中世の遺物が出土しているため、一部の溝跡は中世まで遡る可能性がある。

各溝跡の詳細は第37表にまとめた。以下、特徴的な溝跡について記載する。

第44号溝跡（第122・123・126・128・129図　第37・38表）

南東―北西に延びる溝跡である。調査区内で完結する。3面で検出されたが、2面でさらに7m程北西に延びることが確認された。3面において掘り直された溝跡と推定される。常滑甕（第129図8～11）が出土していることから、中世段階にも機能していた可能性が高い。

第55号溝跡（第122～124・126・127・130図　第37・38表）

調査区域外から北東に走り、調査区中央で45度づつ2段階に折れて、最終的に直角に向きを変えて北西に延びる溝跡である。調査時にはそれぞれ第49・50・55号溝跡として処理したが、溝跡間の遺物が接合したため、同一の溝跡として報告する。南東―北西に延びる第43・45・52・61号溝跡より新しい溝跡と考えられる。出土遺物は18世紀代のものが大半を占めている。

第60号溝跡（第122～127・131～134図　第37・38表）

南東―北西に延びる溝跡である。調査当初は1条の溝跡として掘削していたが、途中から重複する3条の溝跡であることが判明した。そのため、古い順に1～3までの枝番号を付けて調査を継続した。枝番号のない遺物は、重複を確認する以前に出土した遺物である。出土遺物の時期は18世紀代のものが主体であるが、片口鉢（第131図38）や常滑甕（第131図39・第133図63・第134図64・65）など、中世所産の遺物も含まれている。溝跡の重複関係と必ずしも一致しないが、中世に遡る溝跡の存在が想定される。

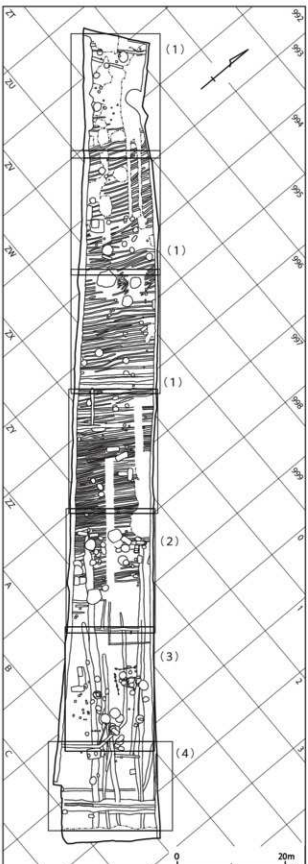
第66・67・68号溝跡（第124・127・136～138図　第37・38表）

重複しながら南西―北東に延びる溝跡である。3条の重複関係は、第68号溝跡が最も古く、第66号溝跡が最も新しい。第66号溝跡の断面形状は薬研形である。出土遺物はほぼ18世紀代の範疇に収まり、顕著な時期差は認められない。比較的短期間に掘り直されているようである。

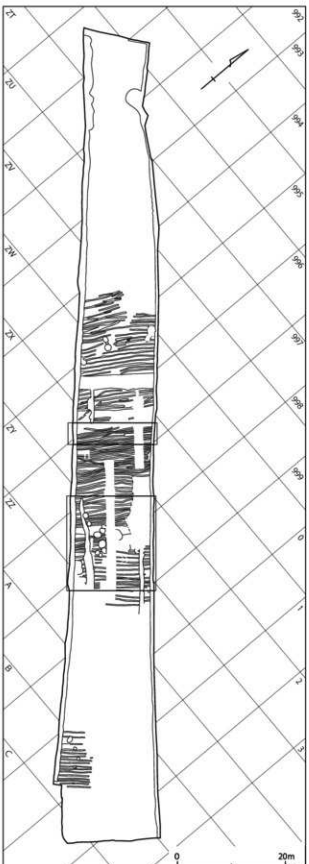
第37表　溝跡一覧表（2）

No.	図No.	グリッド	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	走行方向	断面形状	主な重複関係	遺物	備考
41	121・125	ZW-995・996 ZV-996 ZX-995	(14.10)	0.48～0.88	0.32～0.53	N―36°―E	U字形	SD54より古 SD57より新	焙烙	
42	122・125	ZY-997	(5.80)	0.45～0.66	0.08～0.10	N―40°―E	皿形		円筒埴輪	
43	123・124 126・127	ZZ-999 A-999・1	(21.20)	0.40～0.80	0.15～0.37	N―50°―W	逆台形	SD55より古 SD61・52より新	かわらけ 片口鉢	
44	122・123 126・128	ZY-996・997・998 ZZ-998・999 A-999・0	(41.50)	0.65～1.50	0.30～0.50	N―50°―W	逆台形	SD42・45より新	灰釉陶器 常滑甕	1・2面
45	122・123 124・126	ZZ-998・999 A-999・0 B-0・1	37.50	0.90～1.20	0.30～0.52	N―50°―W	逆台形	SD44・55より古	須恵器・陶器 内耳鍋・鉄貨	
46	128	ZY-997	(5.80)	1.15～1.95	0.10～0.19	N―40°―E	逆台形	SD44より古	なし	2面
47	121・125	ZR-991 ZS-990・991	(9.25)	0.13～0.23	0.03～0.11	N―50°―E	皿形		なし	
48	121・125	ZS-990・991	(6.00)	0.37～0.65	0.24～0.50	N―54°―E	U字形		なし	

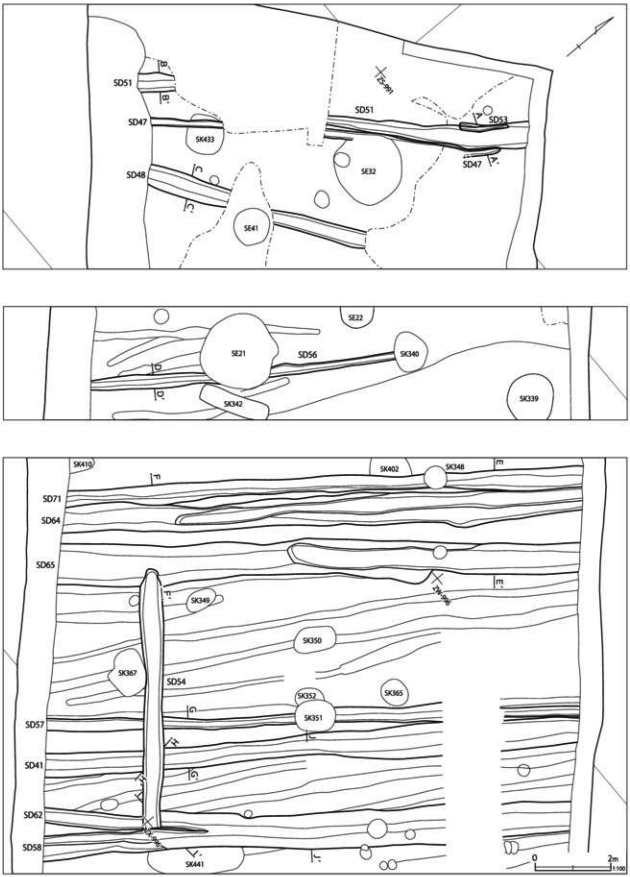
No.	図No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	走行方向	断面形状	主な重複関係	遺物	備考
51	121・125	ZS-990・991 ZR-991	(10.40)	0.25～0.72	0.17～0.29	N―49°―E	椀形	SD47・53より古	なし	
52	123・124 126・127	A-0・1 B-1	(19.30)	0.50～0.60	0.17～0.30	N―55°―W	椀形	SD43・55・61より古	内黒土器 陶器椀	
53	121・125	ZR-991	(1.30)	0.09～0.18	0.03～0.10	N―39°―E	椀形	SD51より新	なし	
54	121・125	ZW・ZX-995・996	(6.87)	0.43～0.61	0.58～0.59	N―48°―W	U字形	SD41・62より新	かわらけ・磨輪	
55	123・125・126 126・127	ZY-999 ZZ-998・999 ZZ・A・B-0	34.00	0.30～0.65	0.25～0.50	N―40°―E N―50°―W	U字形 逆台形	SD77より古 SD43・45・52・61より新	常滑甕・擂鉢 かわらけ・硯石	
56	121・125	ZU・ZY-993	(8.10)	0.20～0.37	0.38～0.41	N―38°―E	U字形		なし	
57	121・125	ZY・ZW・ZX-995 ZW-996	13.90	0.25～0.50	0.12～0.36	N―39°―E	U字形		なし	
58	121・125	ZW・ZX-995・996	13.90	0.45～1.05	0.33～0.78	N―41°―E	U字形	SD62より新	陶器椀 擂鉢・火鉢	
59	123・124・126	A-0	(4.25)	0.17～0.20	0.09～0.15	N―30°―W	皿形		なし	
60-1	123・125・126 126・127	ZY-999 ZZ-999・0 A-0・1	(26.20)	0.70～1.00	0.28～0.35	N―45°―W	U字形 逆台形	SD60-2・3より古	須恵器坏 土こチェア土器	
60-2	123・124 127	ZZ-0 A-0・1	13.90	0.55～1.00	0.30～0.50	N―45°―W	逆台形	SD60-3より古 SD60-1より新	古瀬戸・常滑甕 陶磁器椀	
60-3	122・123 124・125 126・127	ZX-998 ZY-998・999 ZZ-999・1 A-0・1・2 B-2	(52.00)	0.44～1.00	0.24～0.40	N―45°―W	U字形 逆台形	SD60-1・2より新	擂鉢・焙烙 火鉢・かわらけ 硯石・磨石他	
61	123・124 126・127	A-0・1 B-1	(22.00)	0.60～0.90	0.30～0.40	N―55°―W	逆台形 皿形	SD43・55より古 SD52より新	常滑甕	
62	121・125	ZW・ZX-995・996	(5.15)	0.32～0.46	0.34～0.37	N―45°―E	逆台形	SD54・SD58より古	釘	
63	124・127	A-1 B-0・1	14.00	0.30～0.45	0.05～0.25	N―41°―E	U字形		なし	
64	121 125	ZY-995・996 ZW-995	13.77	0.60～0.95	0.43～0.72	N―32°―E	U字形	SD65より古 SD71より新	天目茶碗 香炉・灯明皿 擂鉢・行平鍋 擂鉢・焙烙 火鉢・瓦 鞆絵・磨石他	
65	121 125	ZY・ZW-995・996	13.88	1.20～1.63	0.49～0.79	N―36°―E	逆台形	SD54・64より新	天目茶碗 擂鉢・鞴羽	
66	124 127	A-1・2 B-1	(17.00)	1.80	0.70	N―40°―E	薬研形	SD69より古 SD67・68より新	かわらけ 火鉢・硯石 磨石・鉄滓	
67	124 127	A-1・2 B-1	(17.00)	不明	0.80	N―40°―E	U字形か	SD66より古 SD68より新	ロクロ土 師器坏	
68	124 127	A-1・2 B-1	(17.00)	不明	0.50	N―40°―E	逆台形か	SD66・67より古	ロクロ土師器坏 陶器甕・擂鉢	
69	124・127	B-1	(5.80)	0.26～0.50	0.25～0.35	N―40°―E	U字形	SD66より新	なし	
70	122・125	ZY-997	(5.00)	0.36～0.63	0.06～0.12	N―30°―E	逆台形		なし	
71	121・125	ZY-995・996 ZW-995	(13.70)	0.34～0.56	0.23～0.43	N―36°―E	U字形	SD64より古	なし	
72	122・125	ZZ-998	(2.90)	0.38～0.43	0.12～0.16	N―41°―E	逆台形		なし	
73	122・125	ZZ-998	2.28	0.24～0.37	0.08～0.14	N―40°―E	逆台形		鞴羽	
75	125・126・126	ZY-998 ZZ-998・999	(7.93)	0.22～0.31	0.04～0.10	N―51°―W	皿形	SD77より新	なし	
76	122・126	ZY-998 ZZ-998・999	(5.30)	0.26～0.56	0.07～0.11	N―42°―W	U字形		なし	
77	122・123 126	ZY-999 ZZ-998・999	(8.00)	0.29～0.54	0.05～0.17	N―42°―E	逆台形	SD75より古 SD55より新	陶磁器 かわらけ 硯石	
78	123・126	ZY・ZZ-999	(7.40)	0.14～0.25	0.02～0.05	N―38°―E	皿形		灯明皿	
79	124 127	A-0・1	(4.70)	0.35～0.48	0.06～0.08	N―43°―E	皿形		火鉢 かわらけ	
80	124・127	ZZ・A-1	(8.70)	0.55～0.70	0.26～0.50	N―40°―W	U字形		陶器椀	
81	128	ZW-996	(5.00)	0.37～0.53	0.05～0.09	N―37°―E	皿形		なし	2面
82	124・127	A-1・2	(8.20)	0.18～0.28	0.06～0.15	N―50°―W	U字形		土師器甕	



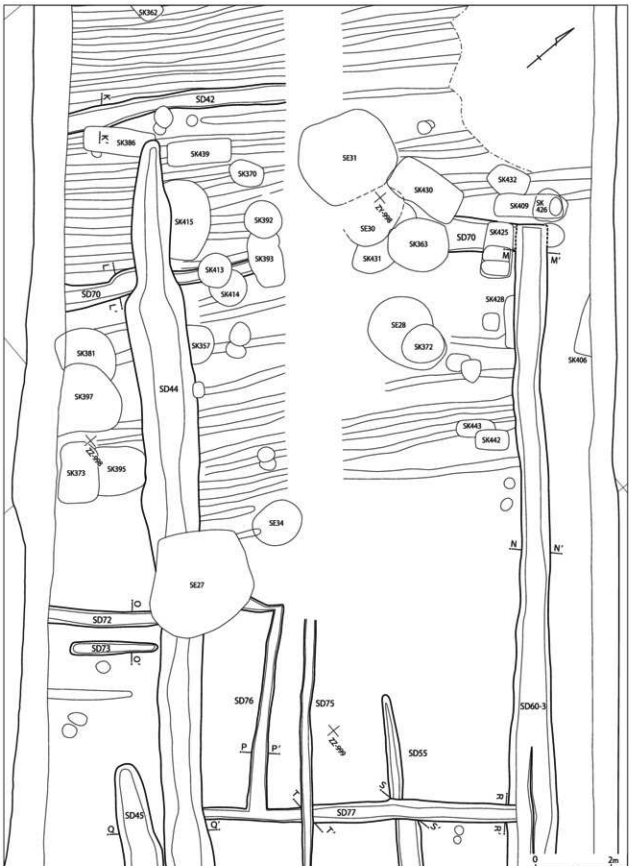
第 119 図　溝跡（１面）区割図



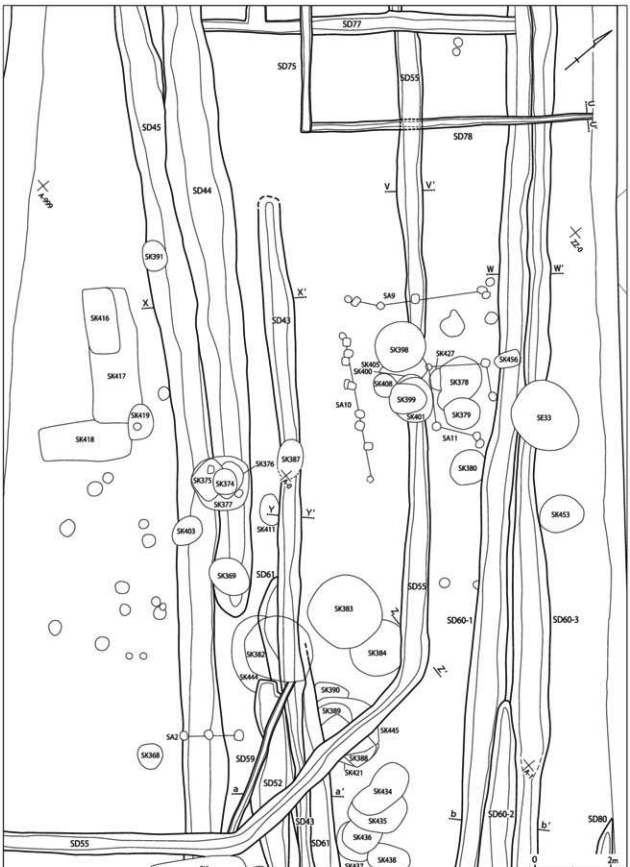
第 120 図　溝跡（２面）区割図


SD51
SD47
SK433
SD48
SE41
SE32
SD51
SD53
SD47
SE22
SE21
SD56
SK340
SK342
SK339
SK410
SK402
SK348
SD71
SD64
SD65
SK349
SK350
SK367
SD54
SK352
SK365
SK351
SD57
SD41
SD62
SD58
SK441
0
2m
1:100

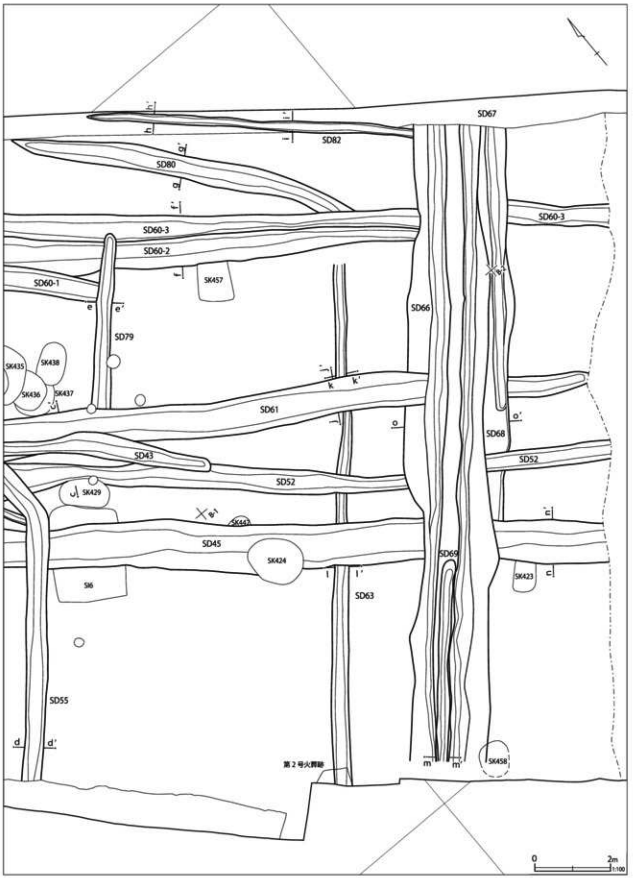
第121図　溝跡（1面）（1）


SK362
SD42
SK386
SK439
SK370
SE31
SK430
SK432
SK409
SK426
SK415
SK392
SK393
SK413
SK414
SE30
SK363
SK431
SD70
SK425
SK428
SE28
SK372
SK406
SK357
SK381
SK397
SD44
SK443
SK442
SK373
SK395
SE34
SE27
SD72
SD73
SD76
SD75
SD55
SD60-3
SD77
SD45
0
2m

第122図　溝跡（1面）（2）


SD77
SD75
SD55
SD78
SD45
SD44
SK391
SK416
SK417
SK419
SK418
SD43
SA9
SK398
SK427
SK456
SK405
SK400
SK408
SK378
SK399
SK401
SK379
SA10
SA11
SE33
SK380
SK376
SK387
SK375
SK374
SK377
SK411
SK403
SK453
SK369
SD61
SK383
SD55
SD60-1
SD60-3
SK382
SK384
SK444
SK390
SK389
SK445
SA2
SK368
SD59
SK388
SK421
SD52
SK434
SK435
SD43
SD61
SK436
SK438
SK437
SD60-2
SD80
SD55
SI6
0
2m

第123図　溝跡（1面）（3）

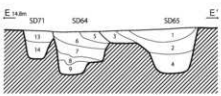

SD67
SD82
SD80
SD60-3
SD60-2
SD60-1
SK457
SD66
SD79
SK435
SK438
SK436
SK437
SD61
SD68
SD43
SD52
SK429
SK443
SD45
SK424
SD69
SK423
SK6
SD63
SD55
第2号火葬墓
SK458
0
2m
1:100

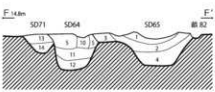
第 124 図　溝跡（1 面）（4）

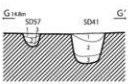
S D47
1 褐色土　灰色粘質土との混合土 炭化物少量しまりあり 粘性ややあり
S D53
2 褐色土・灰色土ブロック多量 しまりあり 粘性なし
S D51
3 褐色土　灰色粘質土との混合土 炭化物多量
褐色土ブロックやや多量 しまりあり 粘性なし
4 褐色土　灰色粘質土・褐色土ブロック多量 しまりなし 粘性なし
5 灰褐色土 褐色土と灰色粘質土の混合土 褐色土ブロックやや多量
しまりあり 粘性あり

S D48
1 褐色土 炭化物少量 褐色土・灰色土ブロック多量 しまりあり 粘性なし
2 褐色土 褐色土ブロック極多量 灰色粘質土ブロック少量 しまりあり 粘性なし
3 褐色土 褐色土ブロック極多量 しまりなし 粘性あり
4 灰色土 粘質土 炭化物少量 しまりなし
5 褐色土 しまりあり 粘性あり 壁崩落土

S D56
1 暗黄褐色土 粘質土 テフラ少量 しまりあり
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりなし
3 暗褐色土 粘質土 しまりややあり

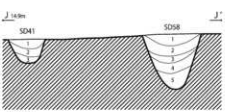




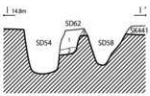


S D65
1 暗黄褐色土 シルト質土
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 鉄分やや多量
3 灰褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり 粘性あり
4 灰褐色土 粘質土 炭化物微量 しまりなし
S D64
5 暗灰黄褐色土 シルト質土
6 灰褐色土 シルト質土 炭化物微量
7 灰褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりあり 粘性あり
8 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量
9 暗灰色土 粘質土 シルト多量 しまりなし
10 灰褐色土 粘質土 炭化物微量 しまりややあり
11 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり
12 暗黄褐色土 粘質土 しまりあり
S D71
13 暗灰黄褐色土 シルト質土 粘質土（φ5㎜）少量
14 暗灰黄褐色土 シルト質土 粘質土（φ5～30㎜）多量

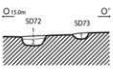
S D57
1 暗黄褐色土 テフラ少量 しまりあり
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり
3 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量
S D41
1 暗黄褐色土 テフラ少量 しまりあり
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物少量 しまりなし
3 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり



S D41
1 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりなし
2 暗黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり
3 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物少量 しまりややあり
S D58
1 暗黄褐色土 浅間Bテフラ少量 しまりあり
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物少量 しまりなし
3 暗灰黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりややあり
4 暗黄褐色土 粘質土 炭化物微量 しまりややあり
5 暗黄褐色土 シルト質土 炭化物微量 しまりなし



S D54
1 暗黄褐色土 シルト質土 しまりややあり
2 灰黄褐色土 シルト質土 しまりなし
3 暗灰黄褐色土 シルト質土 しまりなし
4 暗灰黄褐色土 粘質土 しまりややあり
S D62
1 暗灰黄褐色土 シルト質土 しまりややあり
2 暗灰黄褐色土 シルト質土 しまりなし
3 暗黄褐色土 シルト質土 しまりなし



S D42
1 褐色土 シルト質土 しまりあり 粘性ややあり

S D70
1 褐色土 黒色粒子・黄褐色粒子少量
2 褐色土 白色シルト（φ5㎜）ブロック状に含む

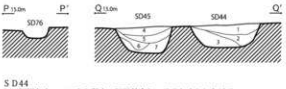
S D60－3
1 褐色土 炭化物・褐色土ブロック少量 しまりあり 粘性なし
2 褐色土 炭化物・褐色土ブロック・灰色土ブロック少量
しまりあり 粘性なし
3 褐色土 炭化物微量 褐色土ブロックやや多量 灰色土ブロック多量
しまりあり 粘性なし
4 褐色土 灰色土・黄色土ブロック多量 壁崩落土

S D60－3
1 褐色土 炭化物・褐色土ブロック少量 しまりあり 粘性なし
2 褐色土 炭化物・褐色土ブロック・灰色土ブロック少量 しまりあり 粘性なし
3 褐色土 炭化物微量 褐色土ブロックやや多量 灰色土ブロック多量

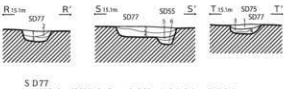
S D72
1 暗褐色土 褐色シルト・灰色シルトが斑に混じる
2 暗褐色土 灰色シルト（φ10㎜）ブロック状に含む しまりあり 粘性なし

S D73
1 暗褐色土 灰色シルト（φ10㎜）ブロック状に含む

第125図 溝跡（1面）（5）



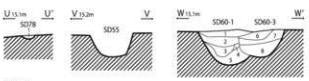
S D44
1　灰褐色土　　シルト質土　細砂粒含む　ややしまりに欠ける
2　暗灰褐色土　粘質土　灰褐色土を主体に暗褐色土ブロック含む
　　ややしまりに欠ける
3　暗褐色土　　粘質土　暗褐色土ブロック多量　しまりややあり
S D45
4　褐色土　　灰色シルト（φ10～20㎜）多量
5　褐灰色土　粘質土　暗褐色土小ブロック多量　しまりややあり
6　褐灰色土　粘質土　灰褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
　　ややしまりに欠ける
7　暗褐色土　粘質土　暗褐色土ブロック多量　細砂粒含む　しまりあり



S D77
1　褐色土　暗褐色土ブロック少量　しまりなし　粘性なし
2　褐色土　2層に近い焼土・灰色土ブロック少量
3　褐色土　褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし

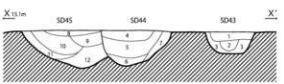
S D75
1　褐色土　炭化物・焼土・骨片微量
　　褐色土ブロック・灰色土ブロック含む　しまりあり

S D77
2　褐色土　暗褐色土ブロック少量　しまりなし　粘性なし
3　褐色土　2層に近い焼土・灰色土ブロック少量
4　褐色土　褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
S D55
5　褐色土　褐色土ブロック多量　しまりあり　粘性なし
6　暗褐色土　炭化物・骨片微量　しまりあり　粘性なし

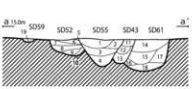


S D78
1　褐色土　　焼土微量　褐色土ブロック含む　しまりあり　粘性なし

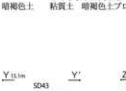
S D60－1・3
1　褐色土　　シルト質土　焼土少量
S D60－1
2　褐色土　　シルト質土　炭化物・焼土微量
3　褐色土　　シルト質土　焼土微量　しまりなし
4　赤褐色土　シルト質土　焼土多量
5　暗褐色土　シルト質土　焼土　黄褐色粒子（φ2～3㎜）少量
S D60－3
6　褐色土　　シルト質土　黒褐色土（φ20～30㎜）ブロック状に少量
7　褐色土　　シルト質土　焼土・白色粒子・黒色粒子少量
8　暗褐色土　焼土少量　黒褐色土ブロック含む



S D43
1　明灰褐色土　粘質土　明灰色粘土を主体に灰褐色土ブロックを含む
2　暗灰褐色土　粘質土　炭化物含む　しまりなし
3　暗灰褐色土　灰褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
S D44
4　灰褐色土　　シルト質土　細砂粒含む　ややしまりに欠ける
5　暗灰褐色土　粘質土　灰褐色土を主体に暗褐色土ブロック含む
　　ややしまりに欠ける
6　暗褐色土　　粘質土　暗褐色土ブロック多量　しまりややあり
7　暗褐色土　　粘質土　灰褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
S D45
8　暗灰褐色土　粘質土　細砂粒含む　ややしまりに欠ける
9　暗褐色土　　粘質土　遺物含む　しまりなし
10　褐灰色土　　粘質土　暗褐色土小ブロック多量　しまりややあり
11　褐灰色土　　粘質土　灰褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
　　ややしまりに欠ける
12　暗褐色土　　粘質土　暗褐色土ブロック多量　細砂粒含む　しまりあり

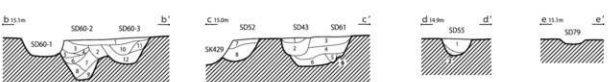


S D55
1　褐色土　　炭化物（φ5㎜）少量　黄褐色土（φ10㎜）ブロック状に含む
2　褐色土　　黄褐色土（φ10㎜）ブロック状に含む
3　褐色土　　青灰色シルトブロック少量　しまりなし　粘性あり
4　黄褐色土　灰色シルトブロック多量　しまりなし　粘性あり
S D52
5　灰黒褐色土　炭化物・灰・骨粉含む　しまりなし　粘性あり
6　灰色土　　炭化物・骨粉・褐色土ブロック含む　灰多量
7　褐色土　　シルト質土　炭化物・焼土少量　しまりなし　粘性あり
8　灰色土　　炭化物・骨粉含む　灰・褐色土ブロック多量　しまりなし　粘性あり
9　黒褐色土　炭化物少量　褐色シルト（φ20～30㎜）ブロック状に含む
　　しまりなし　粘性あり
10　灰褐色土　灰と褐色土の混合土　骨粉含む　しまりなし　粘性あり
S D43
11　明灰褐色土　粘質土　明灰色粘土を主体に灰褐色土ブロックを含む
12　暗灰褐色土　粘質土　炭化物含む　しまりなし
13　暗灰褐色土　灰褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
S D61
14　灰褐色土　　シルト質土　骨粉少量　暗褐色土（φ10㎜）含む
15　灰褐色土　　シルト質土　骨粉少量　暗褐色土（φ20～30㎜）含む
16　灰褐色土　　シルト質土　黒色粒子（φ2㎜）少量
17　褐色土　　黄褐色土（φ5㎜）少量
18　暗褐色土　　灰褐色シルト質土と黒褐色土がブロック状に混じる
　　黄褐色土（φ5㎜）少量
S D59
19　褐色土　　シルト質土　しまりあり　粘性ややあり



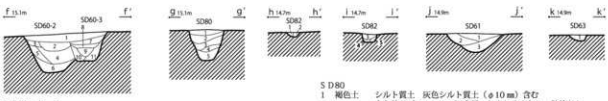
S D43
1　黄褐色土　シルト質土　灰色土・暗褐色土・
　　黄褐色土ブロックが斑に混じる　しまりなし　粘性なし
2　暗褐色土　焼土少量　黄褐色シルト質土ブロック多量
3　褐色土　　黄褐色シルト質土・暗褐色土ブロック多量
S D55
1　黄褐色土　暗褐色土・黄褐色土ブロック含む
2　褐色土　　暗褐色土ブロック含む
3　暗褐色土　黒色粒子含む
4　暗褐色土　黄褐色土（φ5㎜）ブロック状に多量
5　暗褐色土と黒褐色土の互層
6　褐色土　　シルト質土　黒色・赤色・黄褐色粒子少量
7　褐色土　　黄褐色土・暗褐色土ブロック含む
8　黄褐色土　シルト質土

第126図　溝跡（1面）（6）



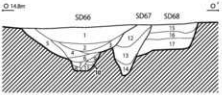
S D60－2・3
1　褐色土　シルト質土　焼土少量
S D60－2
2　黄褐色土　シルト質土
3　黄褐色土　シルト質土　黒色・黄褐色粒子含む
4　灰褐色土　シルト質土　黒色・黄褐色粒子含む
　灰色シルトブロック多量
5　灰褐色土　シルト質土　黒色・黄褐色粒子含む　黒褐色土多量
6　灰褐色土　シルト質土　黄褐色・赤色粒子（φ２～３㎜）少量
7　灰褐色土　シルト質土　黒色粒子（φ１㎜）少量
8　暗褐色土　シルト質土　黄褐色粒子（φ２～３㎜）少量
9　灰褐色土　シルト質土　黒色粒子（φ２～３㎜）・
　黄褐色シルト（φ20～30㎜）少量
S D60－3
10　褐色土　シルト質土　黒褐色土（φ20～30㎜）ブロック状に少量
11　褐色土　シルト質土　焼土・白色粒子・黒色粒子少量
12　暗褐色土　焼土少量　黒褐色土ブロック含む

S D43
1　明灰褐色土　粘質土　明灰褐色土ブロックと灰褐色土ブロックの混合土　しまりなし
2　灰褐色土　粘質土　炭化物少量
　灰褐色土ブロックを主体とし明灰褐色土ブロック含む
S D61
3　灰褐色土　シルト質土　細砂粒含む攪拌層　しまりよし
4　灰褐色土　粘質土　灰褐色土と暗褐色土ブロックの混合土
5　明灰褐色土　粘質土　明灰褐色粘土ブロック多量　やや しまりに欠ける
6　明灰褐色土　粘質土　暗灰褐色ブロックと暗褐色土ブロックの混合土
　やや しまりに欠ける
S D52
7　灰白色土　シルト質土　炭と炭化物を主体とする層　しまりなし
8　暗灰褐色土　粘質土　暗褐色土・暗灰褐色土・明灰褐色土の混合土
S D55
1　褐色土　シルト質土　灰色シルト質土ブロック多量
2　灰褐色土　1層に近いがやや粘性あり



S D60－2・3
1　褐色土　シルト質土
S D60－2
2　褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ20㎜）多量
3　黄褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）多量
4　褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）斑に多量
5　暗褐色土　黄褐色シルト質土と黒褐色土がブロック状に混じる
6　暗褐色土　10層に近いが黒褐色土の量が多い
S D60－3
7　灰褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）含む
8　灰褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）多量
9　褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10～20㎜）少量
10　暗褐色土　黄褐色土（φ10～20㎜）少量
11　暗褐色土　黒褐色土と灰褐色シルト質土がブロック状に混じる

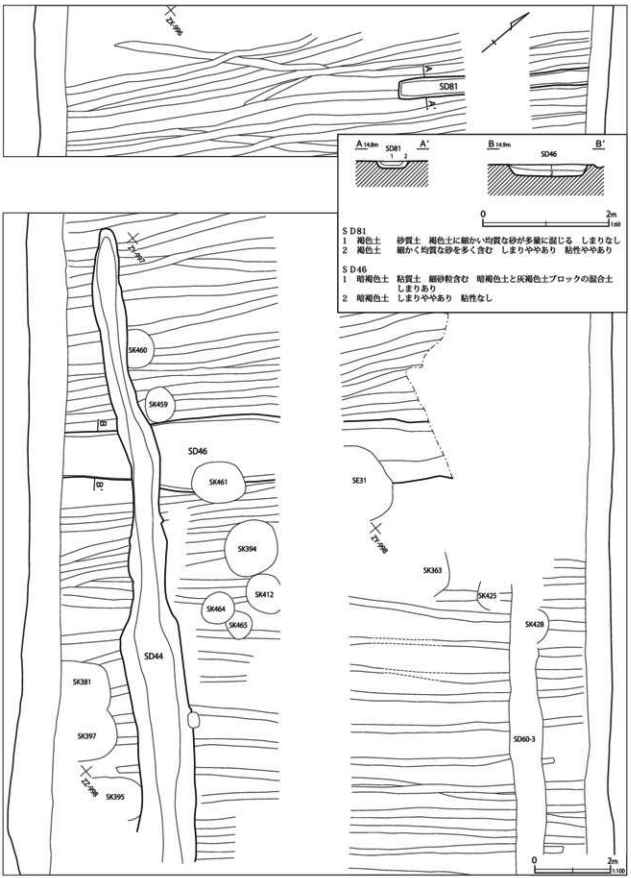
S D80
1　褐色土　シルト質土　灰色シルト質土（φ10㎜）含む
　白色粒子（φ１～２㎜）多量　しまりややあり　粘性あり
2　暗褐色土　シルト質土　浅間Ｂテフラ（φ１～２㎜）多量
3　褐色土　シルト質土　暗灰色シルト質土（φ10㎜）・
　浅間Ｂテフラ（φ１～２㎜）多量
4　褐色土　褐色シルト質土を斑に含む　浅間Ｂテフラ（φ１～２㎜）含む
5　暗褐色土　褐色シルト質土を斑に多量　浅間Ｂテフラ（φ１～２㎜）含む
S D82
1　暗褐色土　黒褐色土（φ10㎜）・黒色粒子少量
2　褐色土　赤色粒子少量
3　灰褐色土　シルト質土　黒色粒子少量
4　褐色土　シルト質土　赤色・白色・黒色粒子少量
5　暗褐色土　シルト質土　赤色粒子少量
S D61
1　灰褐色土　シルト質土　骨粉少量
2　褐色土　シルト質土　骨粉少量　黒色粒子・赤色粒子少量
3　暗褐色土　骨粉少量
S D63
1　暗褐色土　灰色シルト（φ10㎜）ブロック状に含む



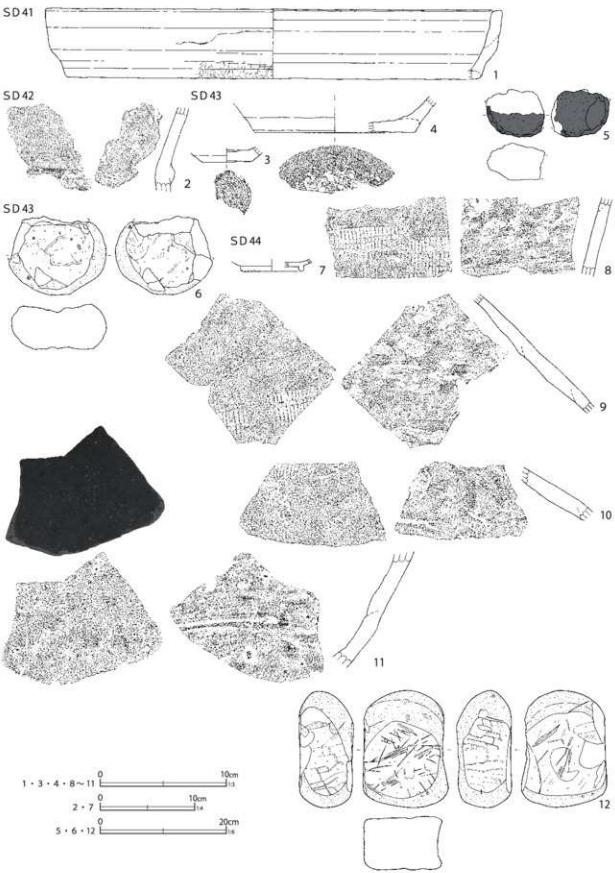
S D66
1　灰褐色土　灰色シルト・暗褐色砂質土が斑に混じる　しまりあり　粘性あり
2　灰褐色土　灰色シルト・暗褐色砂質土が斑に混じる　炭化物・焼土（φ20㎜）含む
3　褐色土　灰色シルト・暗色砂質土が斑に混じる　しまりなし　粘性あり
4　灰褐色土　灰色シルト・暗褐色砂質土が斑に混じる　しまりなし　粘性あり
5　褐色土　灰色砂質土・褐色砂質土が斑に混じる　しまりなし　粘性やや あり
6　灰褐色土　褐色砂質土・褐色粘土が斑に混じる　炭化物・焼土（φ30～40㎜）含む
7　灰褐色土　６層に近いが、褐色砂質土の割合が多い
8　褐色土　褐色砂質土・灰色粘土が斑に混じる
9　灰褐色土　褐色シルト・灰色シルトが斑に混じる　しまりなし　粘性あり
10　暗褐色土　炭化物・焼土（φ20㎜）含む　しまりなし　粘性強い
11　灰褐色土　褐色砂質土・灰色砂質土・暗褐色土が斑に混じる
S D67
12　灰褐色土　灰色砂質土・褐色シルトが斑に混じる　黒色粒子少量
　しまりなし　粘性あり
13　褐色土　灰色砂質土・暗褐色シルトが斑に混じる　しまりなし　粘性あり
14　灰色土　褐色ブロック含む　しまりなし　粘性あり
S D68
15　灰色土　褐色土が斑に多量
16　灰褐色土　灰色砂質土・褐色砂質土が斑に混じる
17　黄褐色土　灰色シルト・黄褐色シルトが斑に混じる
　暗褐色土（φ20㎜）ブロック状に含む

S D63
1　褐色土　シルト質土　灰色粘質土（φ10㎜）ブロック状に多量
2　褐色土　砂質土　黒色粒子含む　しまりあり
3　灰褐色土　シルト質土　鉄分少量
S D69
1　褐色土　シルト質土　暗褐色シルト質土を斑に多量
　灰色シルト（φ10㎜）斑に少量
2　灰褐色土　シルト質土　灰色シルト（φ10㎜）斑に含む

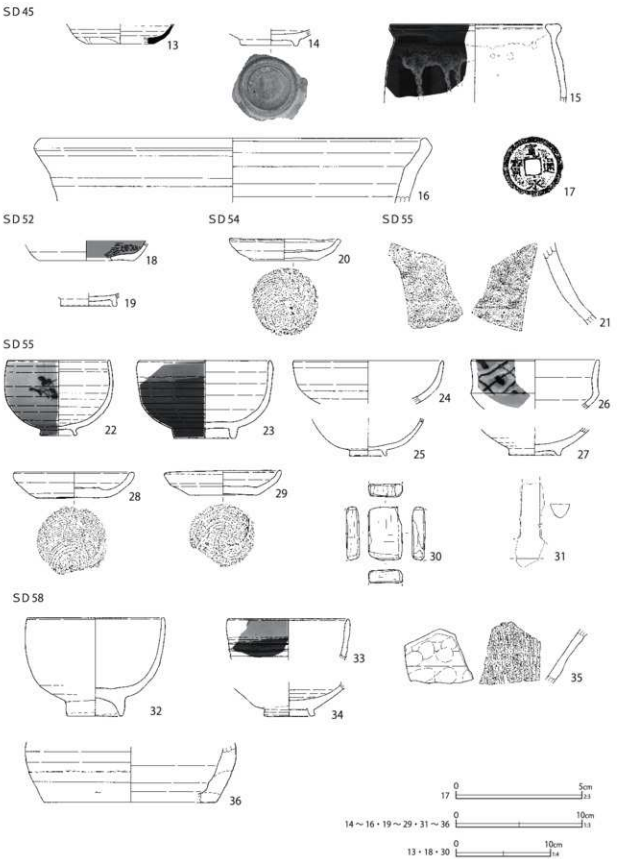
第127図　溝跡（１面）（７）


SD81
A 14.8m
A'
B 14.9m
B'
SD46
0
2m
1:60
S D81
1 褐色土 砂質土 褐色土に細かい均質な砂が多量に混じる しまりなし
2 褐色土 細かく均質な砂を多く含む しまりややあり 粘性ややあり
S D46
1 暗褐色土 粘質土 細砂粒含む 暗褐色土と灰褐色土ブロックの混合土 しまりあり
2 暗褐色土 しまりややあり 粘性なし
SK460
SK459
SD46
SK461
SK394
SK412
SK464
SK465
SD44
SK381
SK397
SK395
SE31
SK363
SK425
SK428
SD60-3
0
2m
1:100

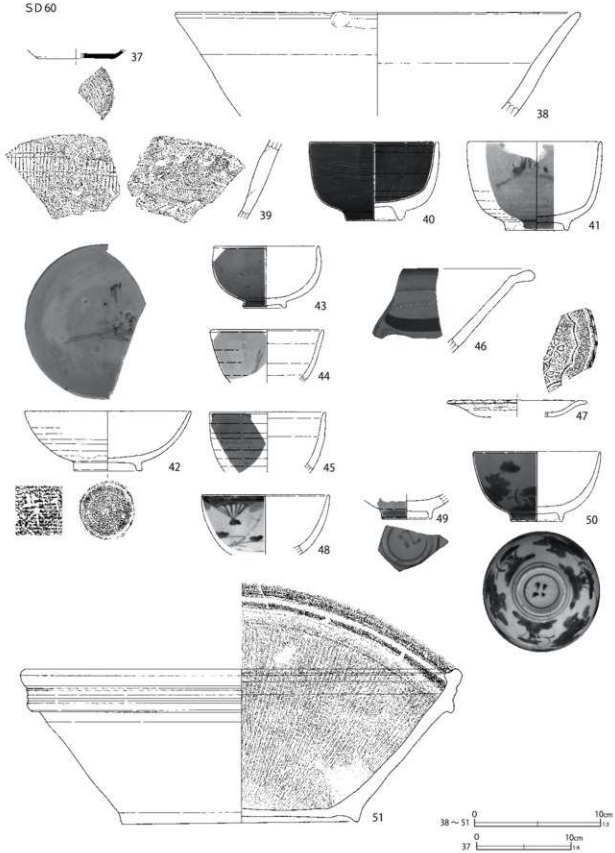
第128図 溝跡（2面）



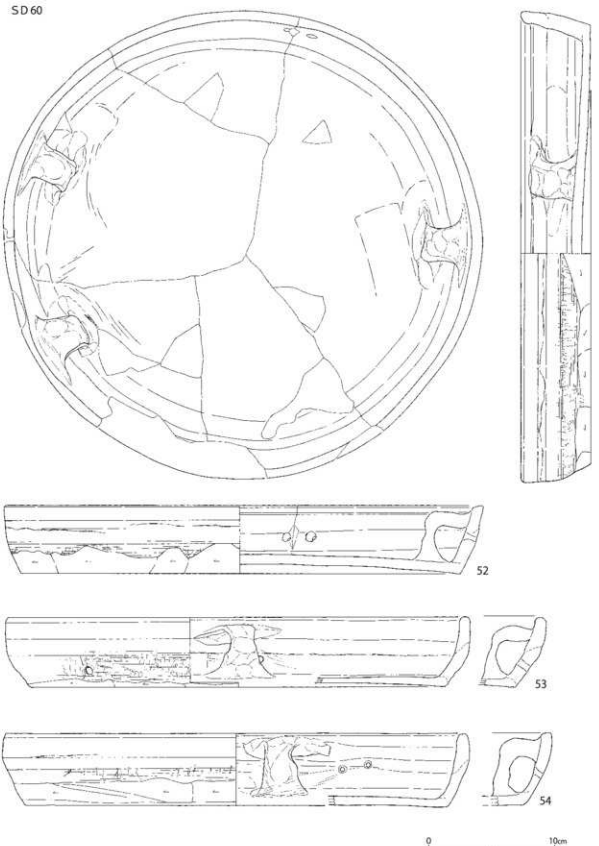
第 129 図　溝跡出土遺物（1）



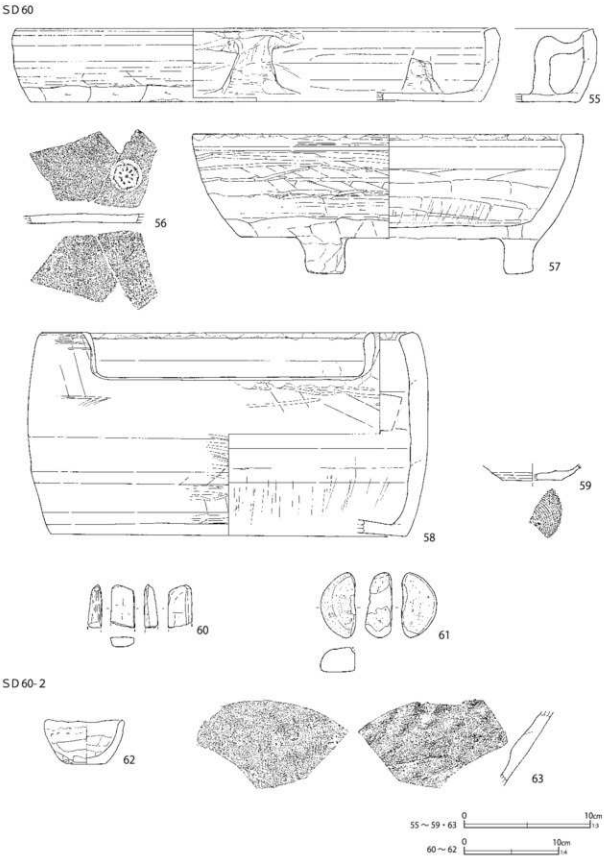
第130図　溝跡出土遺物（2）



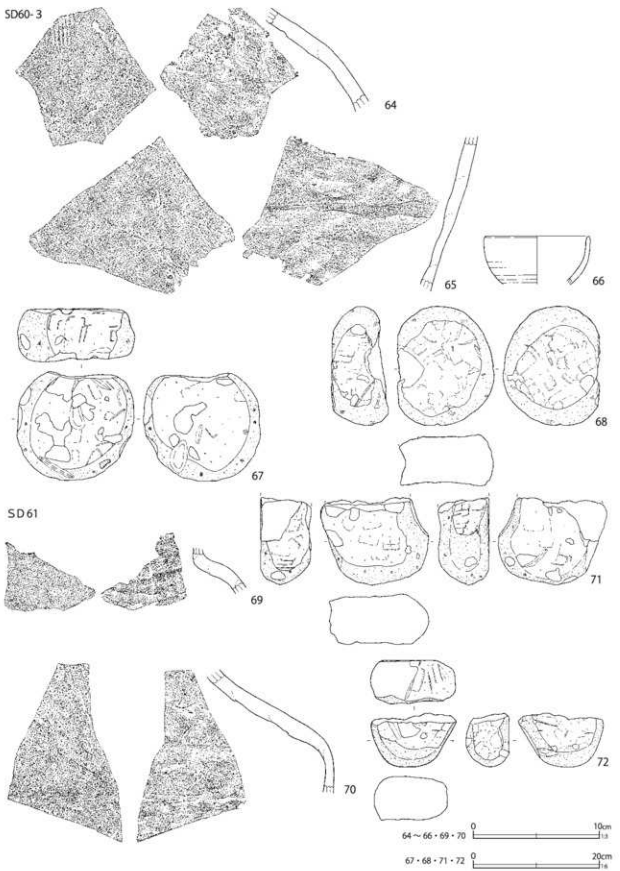
第131図　溝跡出土遺物（3）



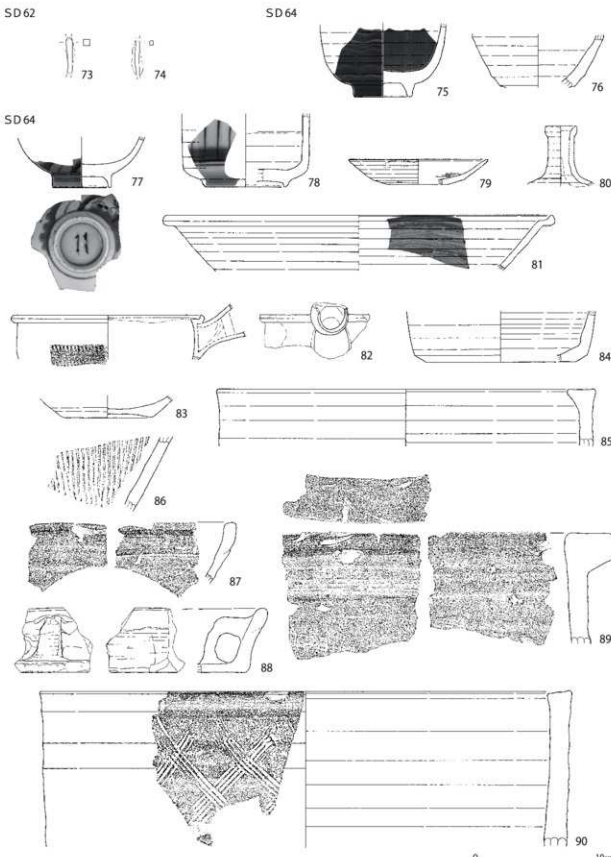
第132図　溝跡出土遺物（4）



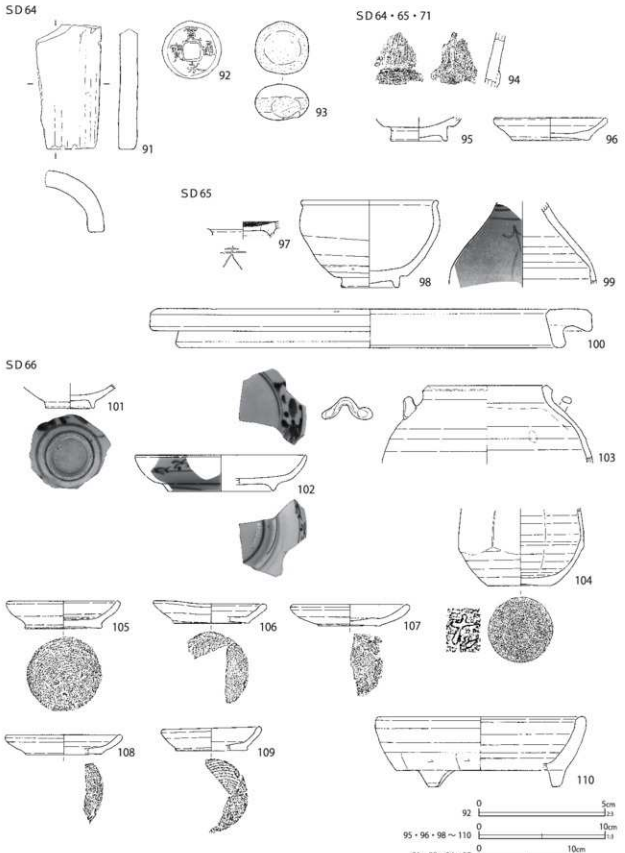
第 133 図　溝跡出土遺物（5）



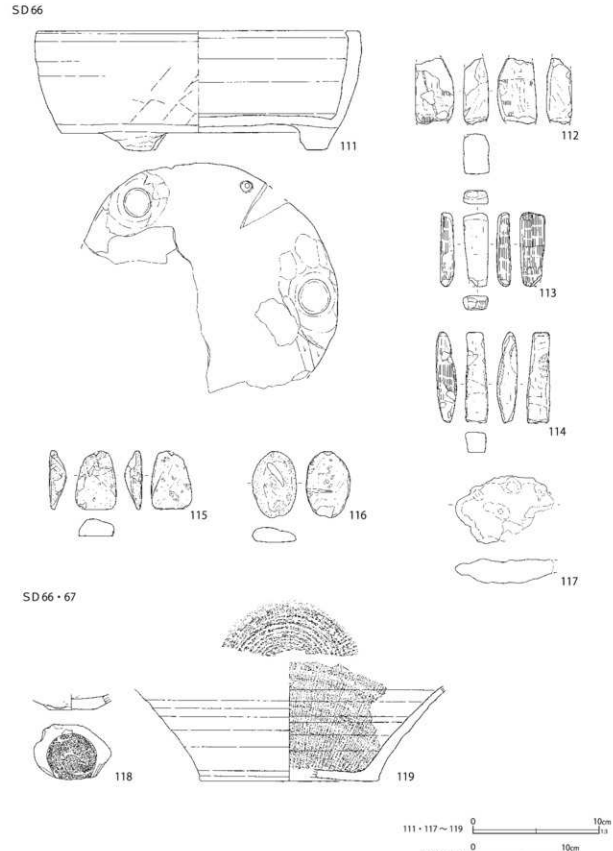
第 134 図　溝跡出土遺物（6）



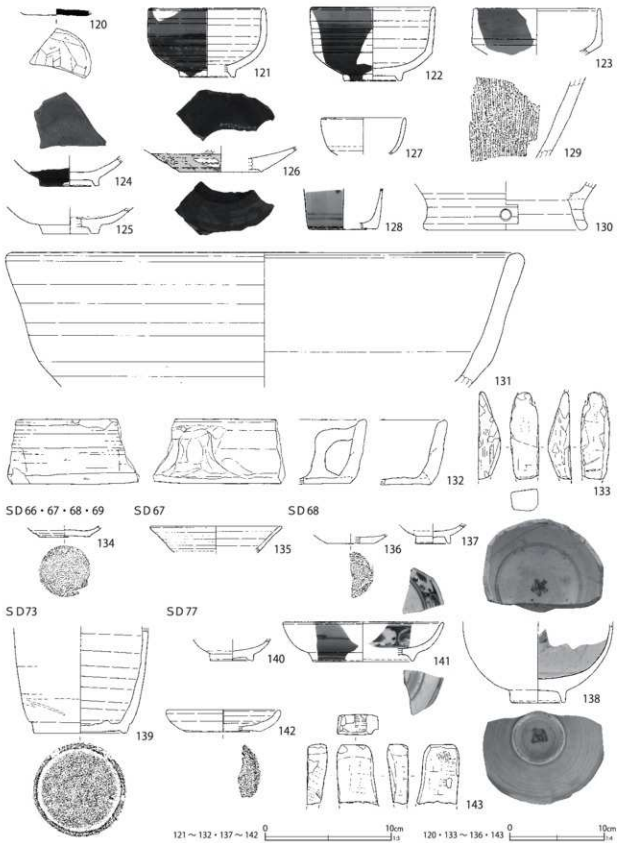
第135図　溝跡出土遺物（7）



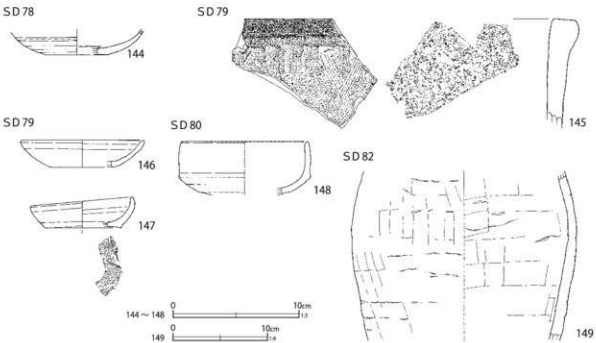
第136図　溝跡出土遺物（8）



第137図　溝跡出土遺物（9）



第 138 図　溝跡出土遺物（10）



第 139 図　溝跡出土遺物（11）

第 38 表　溝跡出土遺物観察表（第 129 ～ 139 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構番号	備考	図版
1	瓦質土器	焙烙	(35.9)	5.5	(32.6)	C･H･I･K	10	普通	灰白	SD41	底部シワ状痕 煤す	
2	埴輪	円筒埴輪	—	[8.9]	—	A･C･D･E･G･I･K	5	普通	橙	SD42	突帯部	
3	かわらけ	小皿	—	[1.1]	4.0	C･E･G･I･K	35	普通	橙	SD43	底部糸切痕（右） 内底面強い回転ナデ	
4	瓦質土器	片口鉢	—	[2.9]	(12.8)	E･H･I･K	20	普通	にぶい橙	SD43	底部糸切痕 内面はすべて剥離 煤す 15 ～ 16C	
5	石製品	不明	長さ [7.6] 幅 [9.2] 厚さ 5.9 重さ 247.2							SD43	角閃石安山岩 多孔質 被熱 煤付着	
6	石製品	不明	長さ [12.6] 幅 15.2 厚さ 7.5 重さ 1234.4							SD43	角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 工具痕	
7	灰釉陶器	埦	—	1.4	6.0	H･I･K	10	良好	灰白	SD44	内面一部施釉	29-7
8	陶器	甕	—	[6.2]	—	D･E･I	5	普通	黄灰	SD44	常滑 体部 外面押印文 中世	
9	陶器	甕	—	[9.4]	—	E･G･H･I･K	5	良好	黄灰	SD44	常滑 肩部 外面押印文 中世	
10	陶器	甕	—	[4.3]	—	E･I･K	5	普通	灰黄褐	SD44	常滑 肩部 外面自然釉 中世	
11	陶器	甕	—	[9.2]	—	A･E･I･K	5	普通	灰白	SD44	常滑 体部下位破片 破損部 二次研磨再利用 中世	
12	石製品	不明	長さ 18.7 幅 12.5 厚さ 8.9 重さ 1413.5							SD44	角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 幅広工具痕 表裏刃物痕 煤付着	
13	須恵器	坏	—	[2.1]	(7.2)	A･D･E･I･K	20	普通	黄灰	SD45	体部下半手持ちヘラケズリ	
14	陶器	碗	—	[1.3]	4.5	H･I･K	70	良好	浅黄	SD45	瀬戸美濃系 内外面灰釉（外面刷毛目釉）18C	
15	陶器	甕	(13.3)	[6.2]	—	H･I･K	20	良好	にぶい橙	SD45	産地不詳 内面鉄化粧 内外面飴釉 外面白色釉流掛 19C 後	
16	瓦質土器	内耳鍋	(30.4)	[5.0]	—	B･E･I･K	5	普通	灰白	SD45	外面煤付着 15C	
17	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.1 重さ 2.3							SD45	寛永通寶（新）	
18	ロクロ土師器	埦	—	[2.1]	(10.0)	H･I･K	15	普通	橙	SD52	内面ミガキ 内黒	
19	陶器	碗	—	[1.0]	4.4	I･K	60	良好	灰白	SD52	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面鉄釉 18C 後	
20	かわらけ	小皿	(8.8)	1.7	5.3	C･E･H･I･K	55	普通	浅黄橙	SD54	底部糸切痕（左） 胎土砂質	29-8
21	陶器	甕	—	[6.6]	—	E･I･K	5	普通	黄灰	SD55	常滑 肩～頸部 中世	
22	陶器	碗	(8.0)	6.0	3.0	K	50	良好	浅黄橙	SD55	京都信楽系 内外面施釉 外面鉄絵 18C 中～後	30-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
23	陶器	碗	(10.4)	6.2	(4.8)	E・I・K	45	良好	灰黄	SD55	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰釉・鉄釉掛分 18C前	30-2
24	陶器	碗	11.8	[3.4]	—	K	10	良好	灰白	SD55	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C前～中	
25	陶器	碗	—	[3.0]	2.9	K	10	良好	灰白	SD55	京都信楽系 内外面透明釉 18C中～後	
26	陶器	碗	(10.0)	[3.9]	—	H・I・K	10	良好	浅黄橙	SD55	京都信楽系 内外面施釉 外面鉄絵 白盛絵付 18C中	
27	陶器	碗	—	[2.2]	4.1	H・I・K	80	良好	灰白	SD55	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰釉・鉄釉掛分 18C後	
28	かわらけ	小皿	9.4	2.1	5.7	C・H・I・K	70	普通	灰黄褐	SD55	№1 底部糸切痕（左）胎土砂質	30-3
29	かわらけ	小皿	9.2	2.0	5.4	C・H・I・K	65	普通	灰白	SD55	底部糸切痕（左）胎土砂質	30-4
30	石製品	砥石	長さ5.6 幅3.6 厚さ[1.8] 重さ47.2							SD55	流紋岩 砥面4 幅広工具痕か	
31	鉄製品	五徳	縦[6.0] 横[2.4] 厚さ1.2 重さ33.1							SD55		
32	陶器	碗	(10.8)	7.8	4.4	K	50	良好	灰白	SD58	ZW-996G 肥前系 内外面灰釉 17C後	30-5
33	陶器	碗	(9.4)	[3.2]	—	H・I	10	普通	灰白	SD58	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉掛分 18C前～中	
34	陶器	碗	—	[2.7]	2.0	K	35	良好	灰白	SD58	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C中	
35	陶器	擂鉢	—	[4.2]	—	I・K	5	良好	灰	SD58	丹波系か 内面摺目 17C後～18C前	
36	瓦質土器	火鉢	—	[4.7]	(12.0)	C・I・K	10	普通	灰白	SD58	内外面わずかに燻す 脚剥落の痕跡 18C	
37	須恵器	坏	—	[1.1]	4.0	H・I・J・K	20	普通	灰黄	SD60	南比企産	
38	陶器	片口鉢	(31.8)	[8.2]	—	A・E・H・I・K	10	普通	黄灰	SD60	山茶碗窯系 内面下位と口唇部使用痕（摩耗）12C中～後	
39	陶器	甕	—	[6.3]	—	E・K	5	良好	にぶい黄橙	SD60	常滑 外面押印文 中世	
40	陶器	碗	(10.0)	6.2	4.4	I	45	良好	灰黄褐	SD60	肥前系 内外面刷毛目釉 17C後～18C前	31-1
41	陶器	碗	10.4	7.0	4.9	E・I・K	85	良好	灰白	SD60	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須絵 18C前	31-2
42	陶器	碗	13.1	4.7	5.3	H・I・K	55	良好	灰白	SD60	№2 肥前系 内外面灰釉 内面鉄絵 高台内刻印 18C前	30-6
43	陶器	碗	8.1	4.9	3.2	I	55	良好	黄灰	SD60	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵 18C後	
44	陶器	碗	(8.8)	[4.2]	—	I・K	15	良好	灰白	SD60	京都信楽系 18C後～19C前	
45	陶器	碗	(9.0)	[4.6]	—	H・I・K	15	良好	浅黄	SD60	ZY-999G 肥前系 内外面灰釉 17Cか	
46	陶器	鉢	—	[6.5]	—	H・I・K	5	良好	灰黄	SD60	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面緑釉流掛・鉄絵 17C後～18C前	
47	陶器	皿	(11.1)	[1.3]	—	I	20	良好	にぶい赤褐	SD60	備前系 型押施文 内面朱書状の痕跡	
48	磁器	碗	(10.0)	[4.7]	—	I・K	25	不良	灰白	SD60	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C前～中	
49	磁器	碗	—	[2.0]	(3.8)	—	15	良好	灰白	SD60	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C	
50	磁器	碗	9.9	5.5	4.0	—	90	良好	白	SD60	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C前	31-3
51	陶器	擂鉢	(34.0)	12.2	(18.5)	E・I・K	40	普通	にぶい赤褐	SD60	ZY-999G 堺明石系 内面摺目 18C中～後	31-4
52	瓦質土器	焙烙	37.5	5.4	34.6	C・G・H・I・K	85	普通	灰白	SD60	底部シワ状痕 燻す 体部二次穿孔2あり	31-5
53	瓦質土器	焙烙	(36.1)	5.5	(32.6)	C・E・I・K	25	普通	灰白	SD60	底部シワ状痕 外面煤付着 内耳裏に二次穿孔あり	
54	瓦質土器	焙烙	(35.9)	5.7	(33.0)	C・I・K	25	普通	灰白	SD60	底部シワ状痕 燻す 内底面煤付着 二次穿孔2あり	
55	瓦質土器	焙烙	(37.7)	5.8	(35.4)	C・G・I・K	25	普通	灰白	SD60	底部シワ状痕 燻す 内底面煤付着	
56	瓦質土器	焙烙か	—	—	—	C・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SD60	砂目をヘラナデ 内面刻印	31-6
57	瓦質土器	火鉢	(30.6)	11.9	(23.6)	C・E・G・I・K	50	普通	淡黄	SD60	ZY-999G 砂目底 外面粗いミガキ 燻す 脚一箇所の欠失後、剥離部に二次穿孔	31-7
58	瓦質土器	火鉢	(29.6)	16.0	28.0	C・H・I・K	50	普通	灰白	SD60	ZY-999G 底部シワ状痕 外面ヘラナデ後ミガキ 燻す 内面煤付着	31-8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構番号	備考	図版
59	かわらけ	小皿	—	[1.3]	(4.7)	C・E・H・I・K	25	普通	にぶい橙	SD60	ZY-9996 底部糸切痕（右） 内底面中心は剥離激しい 胎土砂質	
60	石製品	紡石	長さ [4.6] 幅 2.6 厚さ 1.0 重さ 20.5							SD60	流紋岩 紡面 4 櫛歯状工具痕 被熱黒色化	
61	石製品	磨石	長さ 6.9 幅 [3.7] 厚さ 2.5 重さ 35.4							SD60	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用	34-15
62	土師器	ミニチュア土器	8.1	4.6	4.3	A・E・H・I・K	95	普通	橙	SD60-2	№1 手づくね	32-1
63	陶器	甕	—	[5.9]	—	I・K	5	良好	にぶい褐	SD60-2	常滑 中世	
64	陶器	甕	—	[8.2]	—	E・I・K	5	良好	黄灰	SD60-3	常滑 外面上位降灰・押印文 中世	
65	陶器	甕	—	[12.2]	—	E・I・K	5	良好	にぶい橙	SD60-3	常滑 中世	
66	陶器	碗	(8.1)	[3.8]	—	K	20	良好	灰黄	SD60-3	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C 後	
67	石製品	不明	長さ 16.6 幅 18.4 厚さ 8.5 重さ 1966.1							SD60-3	角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 幅広工具痕か 刃物痕	
68	石製品	不明	長さ 19.0 幅 15.2 厚さ 9.1 重さ 1590.4							SD60-3	角閃石安山岩 多孔質 側面自然面 表裏平ノミ痕 側面幅広工具痕	
69	陶器	甕	—	[3.7]	—	E・I・K	5	良好	黄灰	SD61	常滑 外面降灰 中世	
70	陶器	甕	—	[9.7]	—	E・I・K	5	良好	にぶい赤褐	SD61	常滑 肩部外面降灰 中世	
71	石製品	不明	長さ [12.9] 幅 16.0 厚さ 8.0 重さ 1280.7							SD61	角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 側面表裏幅広工具痕か 表一部ヘノミ痕か 被熱全面煤付着 白色物質付着	
72	石製品	不明	長さ [8.6] 幅 11.7 厚さ 6.9 重さ 525.6							SD61	角閃石安山岩 多孔質 自然面残存 幅広工具痕	
73	鉄製品	釘	長さ [3.4] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 1.4							SD62		
74	鉄製品	釘	長さ [2.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.0							SD62		
75	陶器	碗	—	[5.8]	4.6	I	45	良好	黄灰	SD64	肥前系 内外面刷毛目釉 18C 前	32-2
76	陶器	天目茶碗	—	[4.1]	—	I・K	20	普通	灰白	SD64	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 16C 後～17C 初	
77	磁器	碗	—	[4.0]	4.6	—	50	良好	白	SD64	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C 前～中	
78	磁器	香炉	—	[5.7]	(6.3)	—	10	良好	白	SD64	肥前系 外面施釉・染付 18C ～ 19C 前	
79	陶器	灯明皿	(10.8)	2.0	(4.6)	E・I・K	20	普通	灰白	SD64	京都信楽系 内面施釉・櫛歯状文 口縁部煤付着 19C 前	
80	陶器	擂利	2.4	[4.8]	—	I・K	80	普通	灰白	SD64	瀬戸美濃系 外面施釉 18C 後～19C 前	
81	陶器	鉢	(30.4)	[4.5]	—	I・K	5	良好	赤	SD64	肥前系 内外面刷毛目釉 内面緑釉波掛 17C 中	
82	陶器	行平鍋	(14.7)	[4.4]	—	I・K	10	良好	にぶい橙	SD64	内外面柿釉 外面トビガンナ状施文 19C 中～	
83	陶器	行平鍋	—	[1.7]	6.8	I	50	良好	にぶい黄橙	SD64	内面柿釉 外面煤付着 19C	
84	陶器	瓶類	—	[4.0]	(11.8)	A・I	10	良好	にぶい黄橙	SD64	瀬戸美濃系 外面柿釉	
85	陶器	半胴甕	(29.6)	[4.5]	—	H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SD64	瀬戸美濃系 内外面柿釉 18C ～ 19C	
86	陶器	擂鉢	—	[6.0]	—	D・E・I・K	5	良好	褐灰	SD64	堺明石系 内面擂目 18C ～ 19C	
87	瓦質土器	焙烙	—	[4.8]	—	C・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SD64	やや酸化炎焼成	
88	瓦質土器	焙烙	—	5.1	—	C・E・H・I・K	5	普通	にぶい黄橙	SD64	砂目底 やや酸化炎焼成 19C 前～中	
89	土師質土器	甕	—	[8.7]	—	C・H・I・K	5	普通	明赤褐	SD64	19C 後	
90	瓦質土器	火鉢	(41.6)	[12.4]	—	C・F・I・K	5	普通	灰白	SD64	外面施文 鐘寸 19C 後	
91	瓦	丸瓦	長さ [13.1] 幅 [7.0] 厚さ 1.9			E・H・I・K	5	普通	灰	SD64	上面ミガキ 下面布目痕	
92	銅製品	銭貨	径 23.1 厚さ 0.8 重さ 1.9							SD64	寛永通寶（新）	
93	石製品	磨石	長さ 5.6 幅 5.7 厚さ 3.8 重さ 106.4							SD64	角閃石安山岩 緻密 自然面使用	34-16
94	埴輪	円筒埴輪	—	[5.8]	—	B・H・I・K	5	普通	灰褐	SB46-71	突帯部	
95	陶器	天目茶碗	—	[1.9]	4.5	E・H・K	60	良好	灰白	SB46-71	瀬戸美濃系 内面鉄釉 17C 前	
96	かわらけ	小皿	(8.7)	1.8	(6.0)	C・E・I・K	40	普通	にぶい橙	SB46-71	底部糸切痕（左） 胎土砂質	
97	ロクロ土師器	高台付埦	—	[1.8]	—	C・H・I・K	25	普通	にぶい橙	SD65	内面ミガキ 内黒 刻書「夫」	32-3
98	陶器	天目茶碗	(10.5)	6.9	4.4	K	50	良好	灰白	SD65	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C 中～後	32-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構番号	備考	図版
99	磁器	皿利	—	[6.7]	—	—	20	良好	灰白	SD65	肥前系 外面施釉・染付 18C	
100	瓦質土器	竈脚	(34.0)	3.1	(29.8)	C・I・K	20	良好	にぶい赤褐	SD65	内外面煤付着	
101	陶器	碗	—	[2.0]	3.7	I・K	90	良好	灰白	SD66	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付（太白手）18C 末	
102	磁器	皿	(13.4)	2.8	(8.2)	—	20	良好	白	SD66	肥前系 内外面施釉・染付 18C 前	
103	陶器	有耳壺	(9.4)	[6.1]	—	A・D・I・K	30	普通	黄灰	SD66	瀬戸美濃系 外面鉄釉 17C 後～18C 前	
104	陶器	皿利	—	[6.1]	5.2	A・E・I・K	70	普通	にぶい赤褐	SD66	備前系 底部糸切後周辺ナデ 外面火襷 底部刻印	
105	かわらけ	小皿	(8.6)	2.2	6.0	C・E・H・I・K	55	普通	にぶい黄橙	SD66	底部糸切痕（左）胎土砂質	32-5
106	かわらけ	小皿	(8.7)	1.8	(6.0)	C・F・H・I・K	40	普通	にぶい橙	SD66	底部糸切痕（左）胎土砂質	
107	かわらけ	小皿	(9.0)	1.7	(5.0)	C・F・H・I・K	20	普通	にぶい橙	SD66	底部糸切痕（左）胎土砂質	
108	かわらけ	小皿	(9.0)	1.6	(6.0)	C・E・H・I・K	20	普通	にぶい黄橙	SD66	底部糸切痕 胎土砂質	
109	かわらけ	小皿	(7.6)	1.9	(5.7)	C・I・K	30	普通	にぶい橙	SD66	底部糸切痕（左）胎土砂質	
110	瓦質土器	火鉢	(16.2)	5.5	(13.4)	C・H・I・K	15	不良	にぶい黄橙	SD66	底部シワ状痕 脚 1 遺存	
111	瓦質土器	火鉢	(25.4)	9.4	(21.7)	C・F・H・I・K	30	普通	黄灰	SD66	底部シワ状痕 外面剥離著しい 内面煤付着 上下接合しない破片から図化	
112	石製品	砥石	長さ [7.0] 幅 4.1 厚さ 4.2 重さ 113.2							SD66	凝灰岩 砥面 4 擂鉢状工具痕	34-11
113	石製品	砥石	長さ 7.8 幅 2.5 厚さ 1.4 重さ 45.5							SD66	流紋岩（緑色）砥面 2 擂鉢状工具痕	34-12
114	石製品	砥石	長さ 9.6 幅 2.4 厚さ 2.1 重さ 66.8							SD66	流紋岩（緑色）砥面 3 擂鉢状工具痕	
115	石製品	磨石	長さ 6.2 幅 4.3 厚さ 1.8 重さ 21.9							SD66	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用	34-17
116	石製品	磨石	長さ 7.0 幅 4.7 厚さ 1.6 重さ 29.0							SD66	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用 裏刃物痕か	34-18
117	鉄滓	椀型滓	長さ [5.5] 幅 [7.8] 厚さ 2.0 重さ 104.2							SD66	破断面あり	
118	陶器	緑釉小皿	—	[1.2]	3.9	E・G・I・K	75	普通	灰白	SD66-67	古瀬戸 底部糸切痕（右）内外面灰釉散る 後Ⅲ～Ⅳ期（15C）	32-6
119	陶器	擂鉢	—	[7.5]	(14.0)	D・E・I	25	良好	灰黄	SD66-67	丹波系 内面擂目 17C 後～18C 前	32-7
120	須恵器	坏	—	[0.7]	(6.6)	I・J	5	普通	黄灰	SD67-68	南比企産 底部全面ヘラケズリ	
121	陶器	碗	(9.0)	5.4	(4.4)	I	30	良好	灰白	SD67-68	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰・鉄釉掛分 18C 後	
122	陶器	碗	(9.6)	5.8	4.6	I・K	50	良好	灰白	SD67-68	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰・鉄釉掛分 18C 前～中	
123	陶器	碗	(10.0)	[3.7]	—	I・K	10	普通	淡黄	SD67-68	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵・呉須絵 18C 中	
124	陶器	碗	—	[2.4]	4.7	I・K	80	普通	にぶい黄橙	SD67-68	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面鉄釉 18C 後	
125	陶器	皿	—	[2.2]	(4.4)	H・K	20	良好	にぶい黄橙	SD67-68	肥前系 内面銅緑釉 外面透明釉 17C 後～18C 初	
126	陶器	皿か	—	[2.0]	(6.4)	I	20	良好	黄灰	SD67-68	産地不詳 内外面鉄釉	
127	陶器	坏	(6.6)	[2.9]	—	I・K	30	良好	灰白	SD67-68	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C 後～19C 前	
128	磁器	蓋物か	—	[3.2]	(5.3)	—	?	良好	白	SD67-68	肥前系 内外面施釉 外面染付	
129	陶器	擂鉢	—	[6.4]	—	E・I・K	5	普通	明赤褐	SD67-68	堺明石系 内面擂目 全体に煤付着 18C 後～19C 前	
130	瓦質土器	火鉢	—	[3.8]	(12.5)	C・H・I・K	15	普通	灰	SD67-68	脚部境成前穿孔 燻す	
131	瓦質土器	火鉢	(40.0)	[10.6]	—	C・H・I・K	10	普通	灰白	SD67-68	内面上位器面剥離	
132	瓦質土器	焙烙	—	5.1	—	C・E・H・I	5	普通	灰白	SD67-68	底部シワ状痕 外面・内面下位煤付着	
133	石製品	砥石	長さ [9.2] 幅 3.0 厚さ 2.1 重さ 80.7							SD67-68	流紋岩 砥面 3 擂鉢状工具痕か 被熱黒色化	
134	ロクロ土師器	坏	—	[1.2]	5.5	A・E・H・I・K	80	普通	橙	SD68		
135	ロクロ土師器	坏	(13.8)	[2.9]	—	E・I・K	15	良好	にぶい橙	SD67		
136	ロクロ土師器	坏	—	[1.1]	(4.9)	E・I・K	45	普通	浅黄橙	SD68		
137	陶器	坏	—	[1.6]	2.8	I・K	80	良好	灰白	SD68	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
138	磁器	碗	—	6.4	4.2	—	50	良好	白	SD68	肥前系 内外面施釉（外面青磁釉）・染付 18C 後	32-8
139	陶器	皿利	—	[8.1]	7.4	I・K	60	良好	灰白	SD73	瀬戸美濃系 外面灰釉 18C 中～後	33-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
140	陶器	坏	—	[1.7]	3.4	I・K	90	良好	黄灰	SD77	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C 後	
141	磁器	皿	(12.5)	3.1	(7.8)	—	5	良好	白	SD77	肥前系 内外面施釉・染付 18C 前	
142	かわらけ	小皿	(8.8)	1.7	(6.0)	C・E・H・I・K	15	普通	にぶい黄橙	SD77	底部糸切痕 胎土砂質	
143	石製品	砥石	長さ[6.3] 幅 4.2 厚さ 2.1 重さ 93.1							SD77	流紋岩（緑色）砥面 4 櫛歯状工具痕	
144	陶器	灯明皿	—	[2.0]	(5.0)	I	20	良好	灰黄	SD78	瀬戸美濃系 内外面柿釉 内面重焼痕 底部煤付着 18C 後	
145	瓦質土器	火鉢	—	[8.6]	—	A・C・F・H・I・K	5	良好	褐	SD79	外面施文 櫛す 19C ～	
146	かわらけ	小皿	(9.5)	2.1	(5.2)	C・E・H・I・K	15	不良	にぶい黄橙	SD79	胎土砂質	
147	かわらけ	小皿	(7.9)	2.4	(6.2)	C・H・I・K	25	普通	橙	SD79	底部糸切痕（左）胎土砂質	
148	陶器	碗	(9.8)	[4.2]	—	K	20	良好	灰白	SD80	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C 中	
149	土師器	甕	—	[17.9]	—	A・C・E・H・I・K	20	普通	にぶい褐	SD82		

（6）杭列跡（第 140 図　第 39 表）

1 面で検出された杭列跡は 4 条である。各杭列跡の詳細は第 39 表にまとめた。

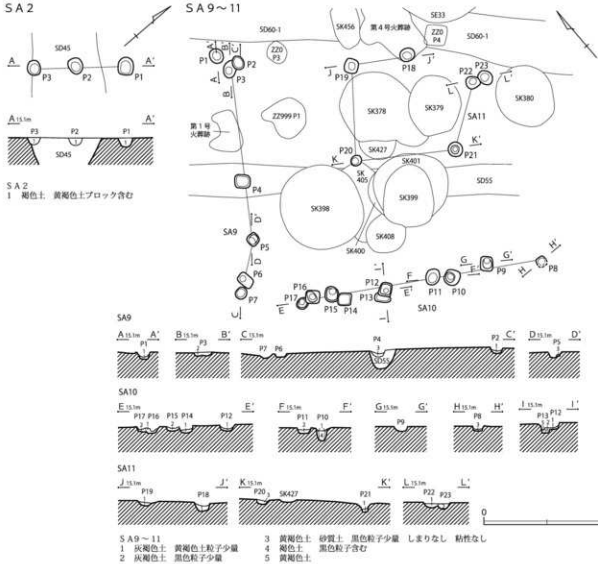
第 9 ～ 11 号杭列跡は、調査は建物跡（ＳＢ８）として実施したが、並びや間隔が不揃いで東側にピットが並ばないこと、柱痕の確認できたピットが 1 基のみであることなどから、上屋を伴わない杭列跡として報告することとした。

第 9 ～ 11 号杭列跡は合計 23 基のピットで構成されている。南側の第 10 号杭列跡は、比較的規則正しい配列をみせている。ピット同士の重複関係から、方形のピット列の方が円形のピット列よりも新しいと考えられる。

この杭列跡は、第 378・379・398・399 号土壙など、埋設桶を含む土壙群を囲うように検出されている。その配置から土壙群との関連性が想起さ

第 39 表　杭列跡一覧表（2）

№.	図№.	グリッド	直線距離（m）	走行方向	Pit №.	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	Pit 間の距離（m）	遺物	備考
2	140	A-0	1.45	N－50°－W	P 1	0.28	0.24	0.14		なし	
					P 2	0.25	0.24	0.12	0.65	なし	SD45 より新
					P 3	0.23	0.20	0.12	0.80	なし	SD45 より新
9	140	ZZ-999	3.87	N－38°－E	P 1	0.24	0.21	0.12		なし	
					P 2	0.22	0.18	0.11	1.75	なし	
					P 3	0.28	0.20	0.05		なし	
					P 4	0.25	0.21	0.10		なし	SD55 より新
					P 5	0.18	0.18	0.10	0.95	なし	
					P 6	0.26	0.17	0.06	0.61	なし	
					P 7	0.19	0.17	0.05		なし	
10	140	ZZ-999 ZZ-0	3.85	N－60°－W	P 8	0.22	(0.07)	0.09		なし	
					P 9	0.23	0.20	0.07	0.85	なし	
					P 10	0.27	0.25	0.22	0.63	なし	柱痕あり
					P 11	0.25	0.21	0.08	0.28	なし	
					P 12	0.21	0.19	0.09	0.78	なし	
					P 13	0.25	(0.10)	0.16		なし	
					P 14	0.21	0.19	0.11	0.60	なし	
					P 15	0.24	0.22	0.07		なし	
					P 16	0.23	0.20	0.11	0.35	なし	
					P 17	0.19	0.16	0.08		なし	
11	140	ZZ-0		N－58°－W	P 18	0.24	0.21	0.14		なし	
				N－40°－E	P 19	0.22	0.21	0.09	0.90	なし	
					P 20	0.18	0.16	0.07	1.54	なし	
					P 21	0.23	0.22	0.12	1.63	なし	
					P 22	0.24	0.19	0.09	1.12	なし	
					P 23	0.24	0.20	0.10		なし	



第 140 図　第 2・9～11 号杭列跡

れるが、具体的な動機は明らかではない。

（7）畝跡A（第 141～146 図　第 40 表）

1 面の畝跡（畝跡A）は、調査区の中央北寄り、ZT-991～ZY-998 グリッドに位置する。畝跡数は畝 14～195・200（畝 80・81・171 は欠番）の 180 条で、検出面積は約 1,200 ㎡である。畝跡の詳細は第 40 表にまとめた。

畝の方向は畝跡Bと同様に調査区を横切る形で北東から南西方向に延びる。傾きは北に位置する畝 24 でN―19°―E、中央部の畝 75 でN―32°―E、南に位置する畝 161 でN―36°―Eである。畝跡間の距離は 0.4～0.5 m程度に保たれるが、ZX-996・997 グリッド付近では耕作物の違いに起因するものか、0.1～0.3 mと極端に狭くなる。

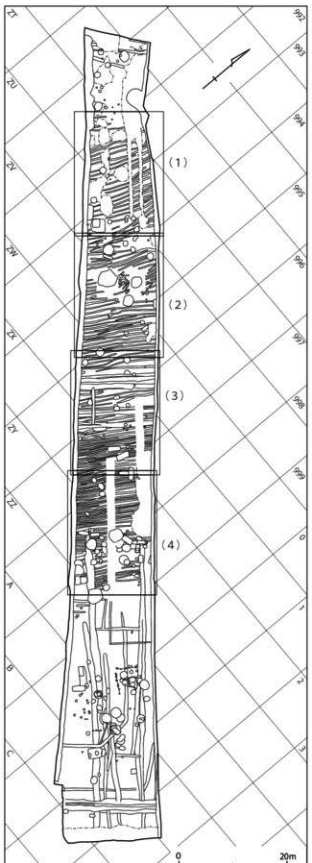
畝跡の規模は、幅 0.13～0.41 m（平均 0.22 m）、深さは 0.01～0.15 m（平均 0.05 m）である。2 面の畝跡Bとの規模の差はほとんどない。

畝跡Aの畠が耕作されていた時期は明らかではない。18 世紀代の遺物が多く出土する溝跡との関連から、溝跡が機能していた 18 世紀から、畝跡Bの埋没した 12 世紀初頭にかけての間のある時期に、耕作地として土地が利用されていたと考えられる。

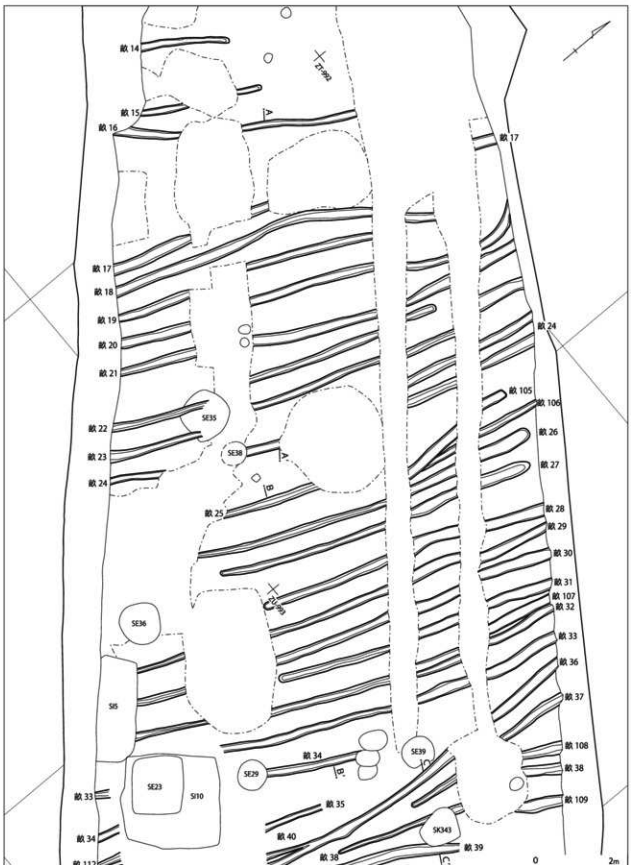
第 40 表　畝跡A計測表

番号	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)
14	2.35	0.19	0.07
15	3.24	0.18	0.03
16	6.47	0.17	0.04
17	10.63	0.24	0.06
18	8.81	0.23	0.07
19	7.01	0.21	0.05
20	10.86	0.24	0.04
21	11.02	0.31	0.03
22	8.94	0.22	0.04
23	11.93	0.20	0.05
24	12.04	0.25	0.05
25	3.75	0.24	0.06
26	9.34	0.21	0.06
27	8.77	0.16	0.04
28	7.84	0.23	0.04
29	11.45	0.18	0.07
30	11.68	0.24	0.05
31	7.65	0.23	0.05
32	11.65	0.20	0.15
33	12.98	0.22	0.08
34	7.18	0.24	0.06
35	6.12	0.14	0.04
36	13.37	0.27	0.06
37	4.97	0.17	0.05
38	6.43	0.19	0.07
39	9.75	0.28	0.07
40	6.29	0.15	0.07
41	5.98	0.21	0.08
42	4.73	0.20	0.09
43	2.23	0.20	0.10
44	5.01	0.22	0.05
45	12.24	0.41	0.09
46	4.58	0.27	0.06
47	13.37	0.21	0.06
48	6.56	0.21	0.06
49	5.91	0.20	0.05
50	4.50	0.21	0.05
51	3.40	0.24	0.05
52	1.23	0.19	0.06
53	1.86	0.23	0.08
54	1.86	0.24	0.09
55	1.91	0.23	0.10
56	3.36	0.24	0.07
57	1.19	0.20	0.06
58	3.94	0.24	0.05
59	5.64	0.25	0.07
60	12.37	0.21	0.07
61	12.75	0.21	0.05
62	13.47	0.28	0.07
63	13.60	0.31	0.06
64	13.66	0.13	0.06
65	10.61	0.30	0.06
66	7.18	0.16	0.06
67	5.21	0.20	0.05
68	10.79	0.17	0.05
69	10.82	0.27	0.05
70	11.28	0.19	0.05
71	4.06	0.24	0.06
72	9.30	0.23	0.04
73	13.84	0.24	0.05
74	13.62	0.27	0.04
75	13.21	0.32	0.04
76	5.60	0.14	0.04
77	12.60	0.24	0.10
78	13.75	0.20	0.05
79	3.70	0.20	0.06
82	8.20	0.22	0.08
83	4.46	0.26	0.05
84	13.99	0.17	0.07
85	13.80	0.25	0.05
86	10.12	0.16	0.05
87	14.16	0.18	0.09
88	6.12	0.23	0.06
89	3.99	0.19	0.04
90	1.69	0.24	0.06
91	1.81	0.20	0.04
92	7.02	0.19	0.03
93	7.16	0.23	0.04
94	1.18	0.17	0.04
95	8.29	0.17	0.04
96	3.89	0.23	0.05
97	2.06	0.21	0.05
98	2.83	0.22	0.05
99	4.23	0.21	0.05
100	14.05	0.14	0.04
101	10.99	0.19	0.03
102	11.06	0.30	0.05
103	14.45	0.38	0.08
104	14.12	0.32	0.05
105	3.38	0.25	0.03
106	3.58	0.21	0.01
107	3.88	0.28	0.05
108	1.08	0.31	0.07
109	1.13	0.34	0.07
110	3.30	0.19	0.04
111	2.79	0.16	0.05
112	0.64	0.18	0.05
113	4.07	0.14	0.03
114	5.17	0.25	0.04
115	13.41	0.31	0.07
116	14.10	0.35	0.06
117	7.61	0.25	0.03
118	13.97	0.18	0.03
119	13.94	0.25	0.04
120	4.74	0.20	0.04
121	11.78	0.16	0.04
122	5.62	0.22	0.06
123	13.63	0.21	0.03
124	5.35	0.21	0.06
125	10.21	0.24	0.04
126	13.92	0.17	0.05
127	9.32	0.15	0.05
128	8.92	0.18	0.04
129	10.83	0.22	0.05
130	4.69	0.19	0.04
131	11.09	0.22	0.07
132	5.48	0.16	0.05
133	11.04	0.26	0.06
134	3.42	0.20	0.06
135	10.02	0.31	0.06
136	8.04	0.23	0.07
137	7.81	0.32	0.07
138	11.23	0.20	0.04
139	9.72	0.26	0.05
140	1.74	0.19	0.06
141	1.75	0.18	0.04
142	11.67	0.18	0.04
143	10.69	0.28	0.05
144	11.17	0.17	0.04
145	11.09	0.20	0.05
146	4.26	0.24	0.05
147	11.25	0.25	0.05
148	5.64	0.20	0.04
149	11.20	0.22	0.06
150	11.15	0.24	0.06
151	11.29	0.24	0.05
152	4.17	0.14	0.04
153	11.55	0.31	0.05
154	11.71	0.22	0.03
155	11.69	0.17	0.03
156	11.55	0.19	0.03
157	11.19	0.21	0.05
158	10.57	0.18	0.04
159	10.13	0.17	0.04
160	10.23	0.14	0.04
161	10.32	0.21	0.05
162	9.38	0.25	0.04

番号	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)
163	2.25	0.26	0.04
164	5.79	0.16	0.05
165	5.83	0.21	0.03
166	4.37	0.21	0.05
167	10.86	0.18	0.03
168	11.34	0.34	0.07
169	14.08	0.23	0.04
170	14.09	0.20	0.05
172	1.26	0.21	0.04
173	1.70	0.20	0.05
174	1.33	0.25	0.03
175	2.13	0.25	0.02
176	5.70	0.21	0.03
177	1.76	0.15	0.05
178	1.45	0.20	0.03
179	0.94	0.22	0.03
180	5.23	0.24	0.03
181	1.35	0.19	0.04
182	4.86	0.25	0.04
183	0.45	0.16	0.02
184	5.09	0.20	0.02
185	10.37	0.31	0.07
186	2.21	0.25	0.02
187	4.54	0.21	0.02
188	11.50	0.22	0.05
189	8.47	0.20	0.04
190	8.33	0.22	0.04
191	8.59	0.23	0.04
192	8.58	0.21	0.04
193	1.48	0.20	0.02
194	0.55	0.17	0.03
195	2.25	0.26	0.03
200	0.43	0.17	0.04



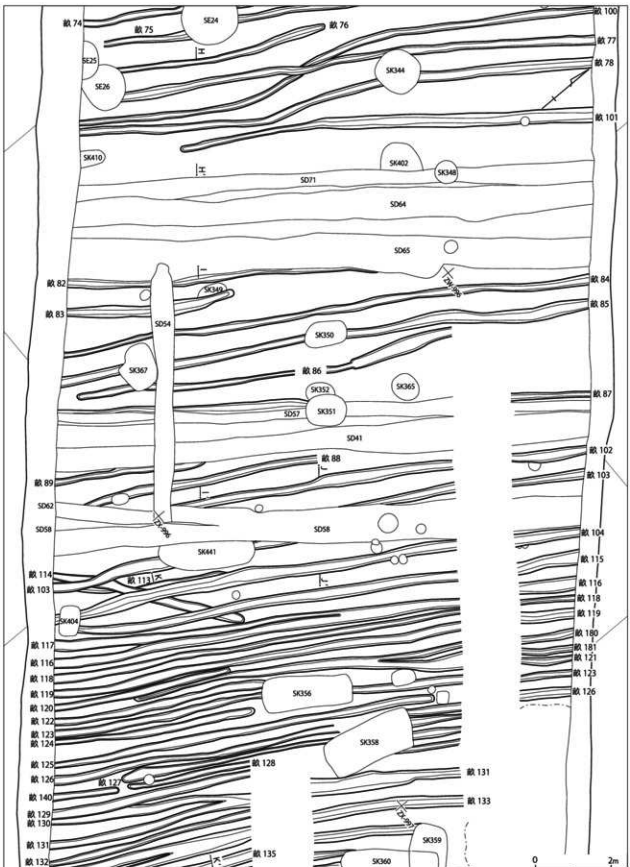
第141図　畝跡A区割図


畝14
畝15
畝16
畝17
畝17
畝18
畝19
畝20
畝21
畝22
畝23
畝24
畝25
畝24
畝105
畝106
畝26
畝27
畝28
畝29
畝30
畝31
畝107
畝32
畝33
畝36
畝37
畝108
畝38
畝109
畝33
畝34
畝112
畝35
畝35
畝40
畝38
畝39
SE35
SE38
SE36
SE39
SE29
SE23
SI10
SI5
SK343
SK341
0
2m
1:100

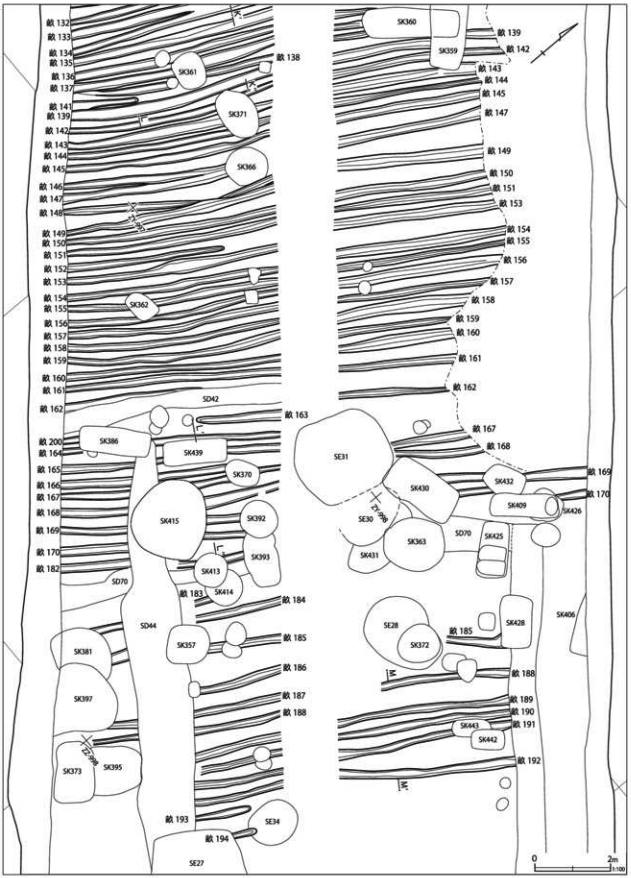
第142図　畝跡A（1）

畝112
畝35
SI10
D
畝40
畝36
畝39
畝41
畝42
畝43
SE21
SD56
SK342
畝44
畝45
畝46
畝47
D'
畝48
畝49
畝110
SK341
畝111
SE22
ZW-994
SK340
E
SK339
畝50
畝51
畝90
E'
F
畝91
畝92
畝93
畝94
畝96
畝97
畝98
F'
畝172
畝92
畝174
畝93
SK346
畝176
畝173
畝176
畝175
畝178
畝177
畝179
畝95
畝57
畝56
畝55
畝54
畝53
畝52
G
SK347
ZW-994
畝58
畝59
畝60
畝61
畝62
G'
畝99
SK396
畝60
SK440
ZW-995
畝63
畝64
畝65
畝67
畝69
畝70
畝71
畝72
畝73
畝74
G'
ZW-995
SE24
畝76
畝77
畝75
畝100
SK353
畝68
畝66
SK354
SK355
SK345
0
2m
1:100

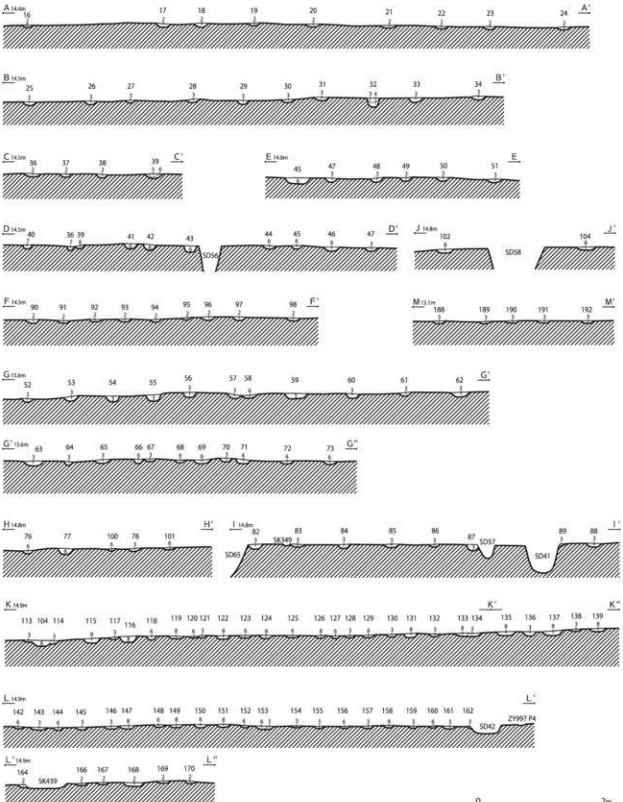
第143図　畝跡A（2）


畝74
畝75
畝76
畝77
畝78
畝82
畝83
畝84
畝85
畝86
畝87
畝88
畝89
畝100
畝101
畝102
畝103
畝104
畝111
畝113
畝114
畝115
畝116
畝117
畝118
畝119
畝120
畝121
畝122
畝123
畝124
畝125
畝126
畝127
畝128
畝129
畝130
畝131
畝132
畝133
畝135
畝140
SE24
SE25
SE26
SK344
SK410
SK402
SK348
SD71
SD64
SD65
SK349
SD54
SK350
SK367
SK352
SK365
SD57
SK351
SD41
SD62
SD58
SK441
SK404
SK356
SK358
SK359
SK360
0
2m
1:100

第144図　畝跡A（3）


畝132
畝133
畝134
畝135
畝136
畝137
畝141
畝139
畝142
畝143
畝144
畝145
畝146
畝147
畝148
畝149
畝150
畝151
畝152
畝153
畝154
畝155
畝156
畝157
畝158
畝159
畝160
畝161
畝162
畝200
畝164
畝165
畝166
畝167
畝168
畝169
畝170
畝182
畝183
畝184
畝185
畝186
畝187
畝188
畝193
畝194
畝138
畝163
畝360
畝359
畝139
畝142
畝143
畝144
畝145
畝147
畝149
畝150
畝151
畝153
畝154
畝155
畝156
畝157
畝158
畝159
畝160
畝161
畝162
畝167
畝168
畝169
畝170
畝185
畝188
畝189
畝190
畝191
畝192
SK361
SK371
SK366
SK362
SK386
SK439
SK370
SK415
SK392
SK393
SK413
SK414
SD70
SD42
SD44
SK357
SK381
SK397
SK373
SK395
SE27
SE34
SE31
SE30
SK430
SK432
SK409
SK426
SK363
SD70
SK425
SK431
SK428
SK406
SE28
SK372
SK643
SK442
0
2m
1:100

第145図　畝跡A（4）



畝跡

1 暗灰黄褐色土　炭化物微量
2 暗灰黄褐色土　テフラ上層に多量　炭化物微量　しまりあり
3 暗灰黄褐色土　2層に比べてテフラの量が少ない　しまりあり　粘性あり
4 暗黄褐色土　テフラはほとんど含まない　炭化物微量　しまりややあり
5 黒褐色土　テフラ層　しまりなし
6 暗灰黄褐色土　テフラ多量　炭化物微量　しまりややあり
7 暗灰黄褐色土　炭化物微量　テフラ多量　しまりなし
8 灰褐色土　シルト質土　テフラ少量　炭化物微量　しまりなし

第146図　畝跡A（5）

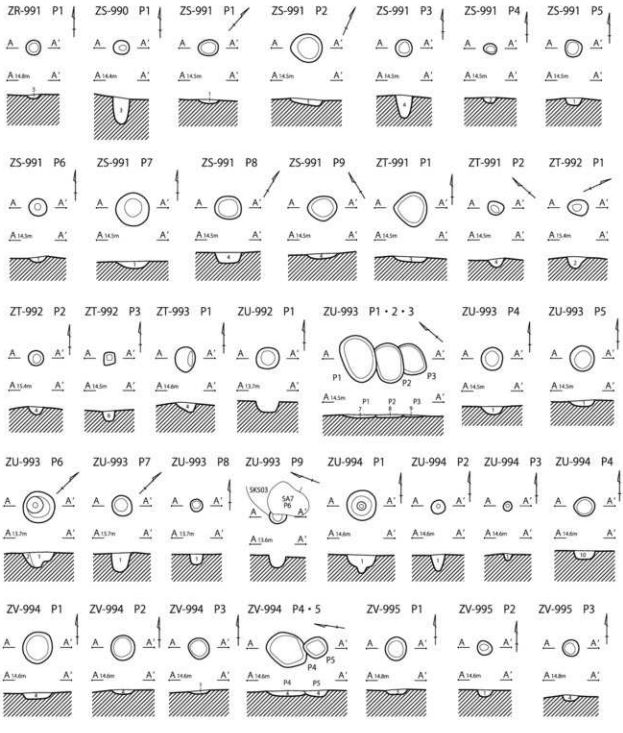
（8）ピット（第147～151図　第41・42表）

調査区からは、規模や形状がさまざまなピットが126基検出された。そのほとんどは1面で確認されたが、ZU-992グリッドP1、ZU-993グリッドP6～9、ZV-995グリッドP5の6基は3面で検出された。土層堆積に柱痕など、用途を推定する痕跡は残っていなかった。ピットの詳細は第41表にまとめた。

遺物が出土したピットは、ZS-991グリッドP9、ZY-997グリッドP2・3、ZY-998グリッド

第41表　ピット計測表

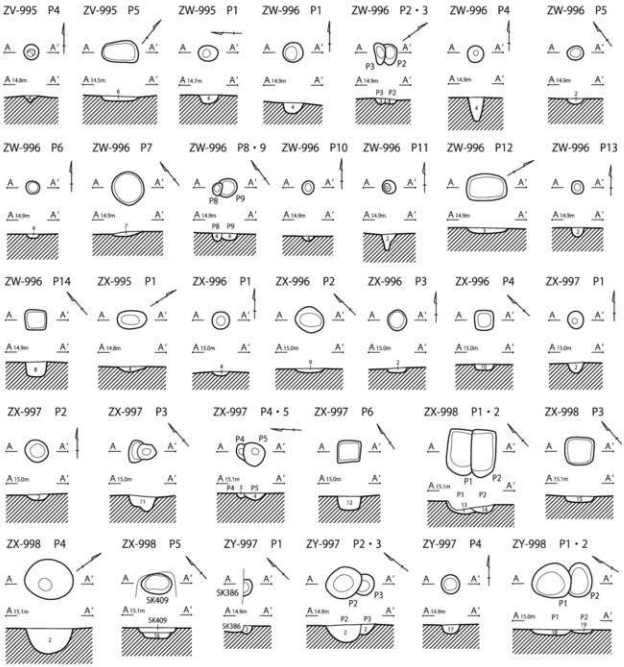
グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
ZR-991	P1	0.23	0.22	0.06
ZS-990	P1	0.25	0.22	0.41
ZS-991	P1	0.32	0.25	0.06
	P2	0.50	0.45	0.10
	P3	0.28	0.27	0.37
	P4	0.21	0.17	0.09
	P5	0.27	0.26	0.07
	P6	0.28	0.28	0.08
	P7	0.53	0.52	0.06
	P8	0.42	0.36	0.17
	P9	0.47	0.39	0.08
ZT-991	P1	0.55	0.52	0.09
	P2	0.26	0.22	0.14
ZT-992	P1	0.32	0.24	0.19
	P2	0.24	0.24	0.13
	P3	0.20	0.18	0.16
ZT-993	P1	0.41	0.32	0.15
ZU-992	P1	0.36	0.33	0.18
ZU-993	P1	0.75	0.53	0.04
	P2	0.63	(0.42)	0.04
	P3	0.50	(0.35)	0.03
	P4	0.36	0.34	0.13
	P5	0.41	0.38	0.10
	P6	0.49	0.49	0.25
	P7	0.32	0.31	0.30
	P8	0.20	0.19	0.16
	P9	0.22	0.16	0.17
ZU-994	P1	0.48	0.45	0.28
	P2	0.22	0.21	0.26
	P3	0.15	0.13	0.11
	P4	0.34	0.30	0.13
ZV-994	P1	0.51	0.46	0.10
	P2	0.40	0.37	0.07
	P3	0.33	0.33	0.06
	P4	0.67	0.54	0.08
	P5	0.39	0.34	0.09
ZV-995	P1	0.37	0.33	0.08
	P2	0.23	0.23	0.11
	P3	0.27	0.26	0.09
	P4	0.24	0.24	0.11
	P5	0.57	0.35	0.07
ZW-995	P1	0.31	0.24	0.14
ZW-996	P1	0.33	0.31	0.17
	P2	0.33	(0.20)	0.08
	P3	0.34	(0.15)	0.09
	P4	0.26	0.25	0.38
	P5	0.25	0.22	0.08
	P6	0.21	0.19	0.06
	P7	0.52	0.51	0.07
	P8	0.20	0.14	0.13
	P9	[0.30]	0.28	0.11
	P10	0.20	0.19	0.08
	P11	0.21	0.21	0.26
	P12	0.63	0.43	0.09
	P13	0.20	0.19	0.14
	P14	0.34	0.32	0.24
ZX-995	P1	0.47	0.29	0.09
ZX-996	P1	0.28	0.27	0.07
	P2	0.45	0.41	0.07
	P3	0.32	0.30	0.08
	P4	0.32	0.30	0.09
ZX-997	P1	0.28	0.25	0.17
	P2	0.36	0.35	0.09
	P3	0.43	0.35	0.23
	P4	0.23	(0.11)	0.07
	P5	0.38	0.34	0.11
	P6	0.36	0.35	0.21
ZX-998	P1	0.71	(0.39)	0.11
	P2	0.75	(0.38)	0.08
	P3	0.46	0.45	0.10
	P4	0.75	0.63	0.39
	P5	0.48	0.32	0.10
ZY-997	P1	0.26	[0.20]	0.13
	P2	0.59	0.50	0.27
	P3	0.34	(0.22)	0.15
	P4	0.30	0.28	0.15
ZY-998	P1	0.62	0.55	0.09
	P2	0.54	(0.33)	0.06
	P3	0.45	0.39	0.09
	P4	0.43	(0.23)	0.08
	P5	0.41	0.30	0.08
	P6	0.46	(0.41)	0.08
	P7	0.59	0.52	0.10
	P8	0.30	0.29	0.09
ZY-998	P9	0.36	0.27	0.08
ZY-999	P1	0.25	0.22	0.20
	P2	0.20	0.20	0.07
ZZ-998	P1	0.50	0.33	0.16
	P2	0.39	0.36	0.19
	P3	0.34	0.33	0.10
	P4	0.30	0.25	0.03
ZZ-999	P1	0.70	0.65	0.08
ZZ-0	P1	0.23	(0.15)	0.32
	P2	0.27	0.26	0.07
	P3	0.34	0.32	0.05
	P4	0.35	0.32	0.21
A-999	P1	0.40	0.34	0.11
	P2	0.30	0.28	0.12
	P3	0.36	0.36	0.16
	P4	0.43	0.38	0.25
	P5	0.41	0.37	0.33
	P6	0.28	0.27	0.23
	P7	0.36	0.31	0.18
	P8	0.26	0.24	0.24
	P9	0.36	0.35	0.28
	P10	0.22	(0.18)	0.05
	P11	0.21	0.20	0.30
	P12	0.20	0.16	0.10
A-0	P1	0.38	0.36	0.11
	P2	0.17	0.16	0.18
	P3	0.18	0.17	0.13
	P4	0.34	[0.32]	0.12
	P5	0.19	0.17	0.20
	P6	0.25	0.25	0.17
	P7	0.24	0.24	0.13
	P8	0.80	0.55	0.11
	P9	0.68	0.46	0.11
	P10	0.25	0.22	0.18
A-1	P1	0.37	0.34	0.40
	P2	0.29	0.27	0.21
B-0	P1	0.25	0.24	0.12
	P2	0.57	0.55	0.10
	P3	0.57	0.54	0.14
	P4	0.35	[0.28]	0.08
	P5	0.50	0.37	0.10
	P6	0.26	0.24	0.25



共通土層
1　灰～褐色土　粘質土　シルトをブロック状に少量
2　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量
3　青灰色土　シルト質土　粘土ブロック少量
4　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土
5　灰色土　シルト質土　粒子細かい

ZT-992 Pit 3
6　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土　炭化物（φ1.0 cm）少量
ZU-993 Pit 1
7　暗褐色土　暗灰褐色砂ブロック多量　黄褐色土粒子少量　炭化物微量
ZU-993 Pit 2
8　褐色土　暗灰褐色砂ブロック少量　黄褐色土粒子多量
ZU-993 Pit 3
9　暗赤褐色土　鉄分沈着層　下面にわずかに黄褐色土粒子を多く含む層が堆積
ZU-994 Pit 4
10　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土　炭化物多量

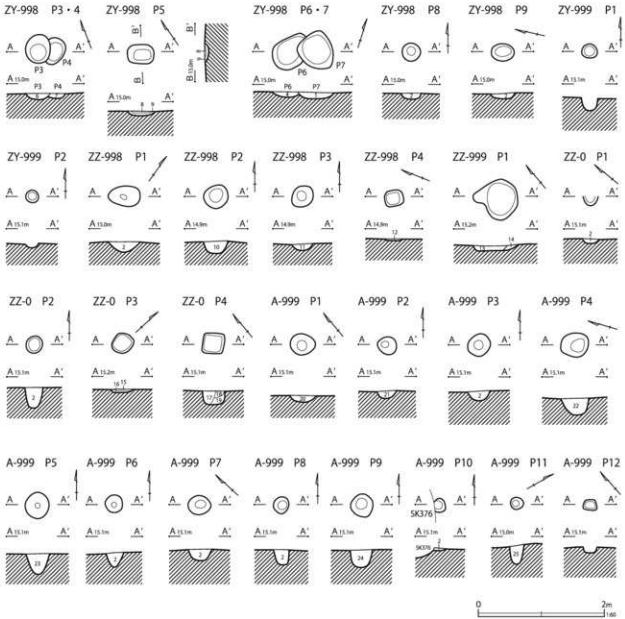
第147図　ピット（1）



共通土層
1　灰～褐色土　粘質土　シルトをブロック状に少量
2　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量
3　青灰色土　シルト質土　粘土ブロック少量
4　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土
5　灰色土　シルト質土　粒子細かい

ZV-995 Pit 5
6　褐色土　炭化物局所的にやや多量　しまりあり
ZW-996 Pit 7
7　青灰色土　シルト質土　鉄分を部分的に含む
ZW-996 Pit14
8　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　灰色シルトを斑に含む
ZX-996 Pit 2
9　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物（φ0.5～1.0cm）・粘土（φ0.5～2.0cm）多量
ZX-996 Pit 4
10　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物（φ0.5cm）少量　底部に粘土ブロック多量
ZX-997 Pit 3
11　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物（φ0.5～1.0cm）多量
ZX-997 Pit 6
12　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物ブロック（φ0.5～1.0cm大）・焼土ブロック（φ0.5cm）少量
ZX-998 Pit 1
13　暗灰褐色土　炭化物・黄褐色土粒子少量
ZX-998 Pit 2
14　暗褐色土　黄褐色土粒子多量
ZX-998 Pit 3
15　褐色土　シルト質土　底面に灰褐色粘土（φ5mm）少量
ZX-998 Pit 5
16　暗褐色土　暗灰褐色土ブロック少量
ZY-997 Pit 4
17　褐色土　シルト質土　粘土ブロック（φ0.5cm）少量　灰色シルトを斑に含む
ZY-998 Pit 1
18　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物（φ0.5～1.0cm）を全体的に含む
ZY-998 Pit 2
19　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物・焼土粒子（φ0.5cm）を全体的に含む

第148図　ピット（2）



共通土層
1　灰～褐色土　粘質土　シルトをブロック状に少量
2　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量
3　青灰色土　シルト質土　粘土ブロック少量
4　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土
5　灰色土　シルト質土　粒子細かい

ZY-998 Pit 3
6　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土　焼土ブロック（φ0.5 ㎝）多量
ZY-998 Pit 4
7　青灰色土と褐色土の混合層　シルト質土　炭化物粒子微量
ZY-998 Pit 5
8　褐色土　炭化物多量　焼土（φ2～10 ㎜）少量　しまりあり
9　暗褐色土　炭化物少量　しまりあり

ZZ-998 Pit 2
10　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量
炭化物ブロック（φ0.5～1.0 ㎝）・焼土粒子多量

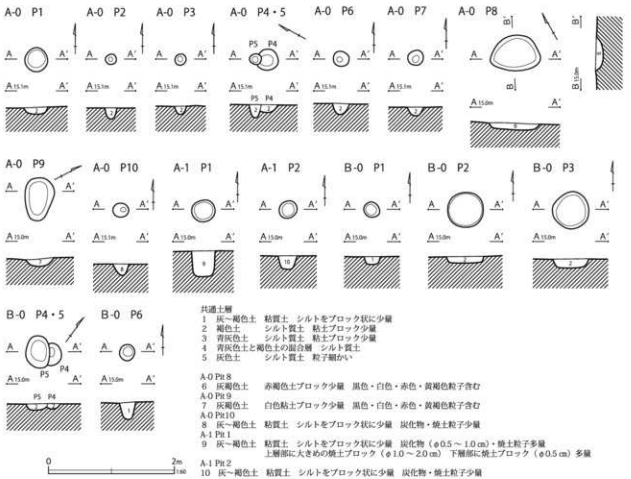
ZZ-998 Pit 3
11　灰～褐色土　粘質土　シルトをブロック状に少量
粘土ブロック（φ0.5 ㎝）微量

ZZ-998 Pit 4
12　炭化物層　焼土含む　火床面上に堆積

ZZ-999 Pit 1
13　黄褐色土　炭化物・焼土含む
14　黄褐色土
ZZ-0 Pit 3
15　赤褐色土　灰と焼土の混合層
16　炭化物層　焼土含む　火床面上に堆積
ZZ-0 Pit 4
17　黄褐色土　炭化物・焼土含む　暗褐色土ブロック含む　柱痕
18　黄褐色土　炭化物・焼土少量
19　褐色土　黄褐色粒子含む
A-999 Pit 1
20　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　焼土粒子微量
A-999 Pit 2
21　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物・焼土粒子を全体的に含む
A-999 Pit 4
22　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　焼土ブロック（φ1.0～2.0 ㎝）多量
A-999 Pit 5
23　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物・焼土粒子を全体的に含む
焼土ブロック（φ2.0 ㎝）多量

A-999 Pit 9
24　褐色土　シルト質土　粘土ブロック少量　炭化物・焼土粒子少量
A-999 Pit 11
25　褐灰色土　粘質土　灰褐色土ブロック含む　しまりなし

第149図　ピット（3）



第 150 図　ピット（4）

P 1・3・4・6、ZY-999 グリッド P 1、ZZ-998 グリッド P 1、ZZ-999 グリッド P 1、ZZ- 0 グリッド P 1・2・4、A -999 グリッド P 1～9、A－0 グリッド P 2・4・9 の 25 基である。

その多くは、時期不詳の土器小片であるが、ZY-998 グリッド P 4 からは常滑甕、ZY-998 グリッド P 6 からは須恵器坏底部、A -999 グリッド P 5 からは土師器甕胴部が出土した。いずれも小片である。図示したのは ZS-991 グリッド P 9 から出土した陶器鉢（第 151 図 1）である。このピットからは、ほかにも焙烙やかわらけの小片が出土している。

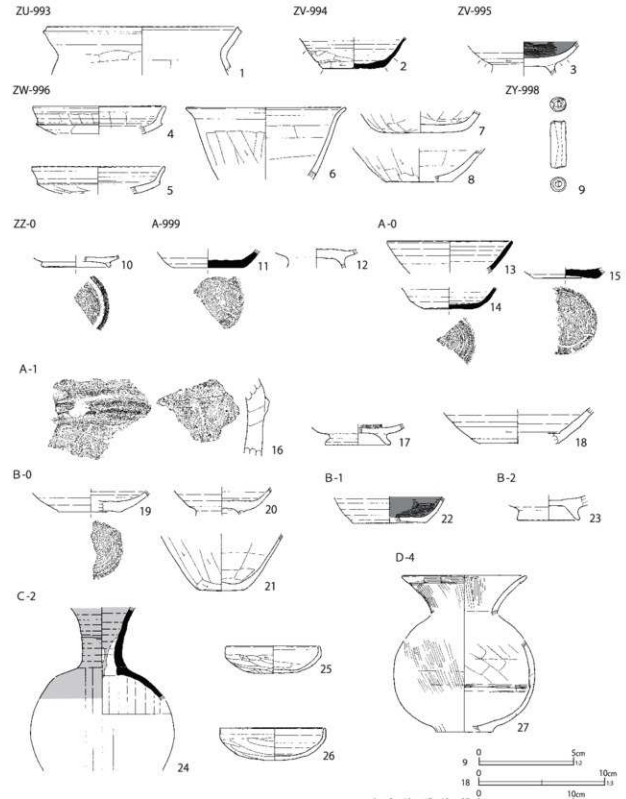
第 151 図　ピット出土遺物

第 42 表　ピット出土遺物観察表（第 151 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	登録番号	備考	図版
1	陶器	鉢	—	[5.6]	—	C・I・K	5	良好	灰白	ZS-991G P9	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面鉄釉流掛 漆継痕 17C 後	

3　遺構外の出土遺物

表土掘削時や遺構確認時に出土した遺構の帰属が明らかでない遺物は、グリッド単位で取り上げた。このうち、図化したものを第 152・153 図、第 43 表にまとめた。



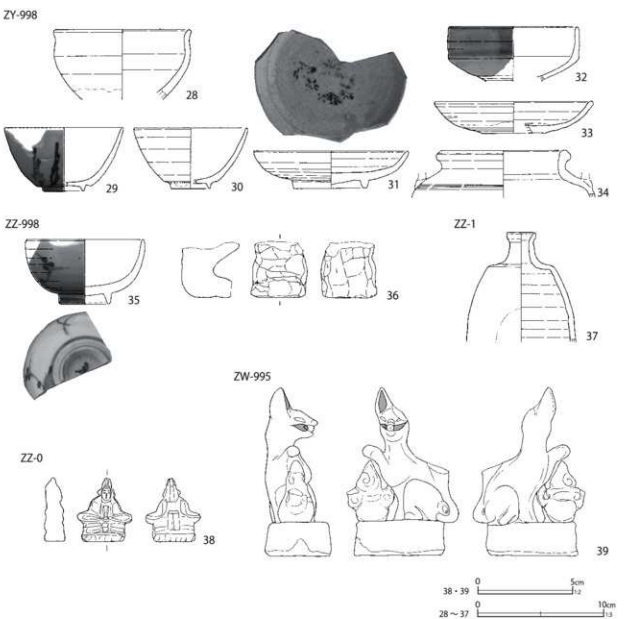
第 152 図　遺構外出土遺物（1）

第152図は古墳時代から古代の遺物、第153図は近世の遺物である。

ZW-996グリッドからは、古墳時代後期の模倣坏などが出土した（第152図4～8）。ZY-998グリッドの管玉（同図9）も当期に属する遺物と考えられる。古墳時代の遺構はD区では検出されていないが、南側のA区～C区では、6世紀後半から7世紀前半の住居跡4軒、竪穴状遺構2基、畝跡2箇所が検出されている。D区で発見された遺物も同時期であり、その関連性が指摘できる。

なお、C－2グリッド及びD－4グリッドの遺物（同図24～27）はA区に属する遺物である。本来であれば『長竹遺跡Ⅰ』で報告しなくてはならなかったものであるが、遺漏してしまったため本報告で図化した。

古代の遺物で注目されるのが、中国産の白磁碗（第152図18）である。内面には釉がかかり、外面遺存部には施釉はみられない。11世紀後半から12世紀前半の所産と考えられる。



第153図　遺構外出土遺物（2）

第43表　遺構外出土遺物観察表（第152・153図）

番号	出土位置	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ZU-993	土師器	甕	(20.2)	[5.1]	—	A・C・I・K	10	良好	にぶい橙		
2	ZV-994	須恵器	坏	—	[3.3]	6.7	A・I・K	80	良好	黄灰	胴部下半～底部手持ちヘラケズリ 三和産か	33-2
3	ZY-995	ロクロ土師	高台付埦	—	[3.6]	—	A・C・H・I・K	70	普通	にぶい橙	内面ミガキ 内黒	
4	ZW-996	土師器	坏	(14.0)	[3.0]	—	A・I・K	10	普通	にぶい橙		
5	ZW-996	土師器	坏	(14.0)	[2/9]	—	A・C・H・I・K	15	普通	にぶい橙		
6	ZW-996	土師器	甕	(17.0)	[7.6]	—	C・H・J・K	10	普通	にぶい橙		
7	ZW-996	土師器	甕	—	[2.3]	(8.6)	A・B・C・I・K	25	普通	橙		
8	ZW-996	土師器	甕	—	[3.5]	(7.0)	A・C・H・I・K	20	普通	橙		
9	ZY-998	石製品	管玉	長さ2.5 幅0.8 重さ3.0				100			滑石製 両側穿孔	
10	ZZ-0	灰釉陶器	段皿	—	[1.3]	(7.0)	I・K	25	良好	灰白	内面灰釉刷毛塗	33-3
11	A-999	須恵器	坏	—	2.0	(8.0)	A・C・I・K	25	普通	褐		
12	A-999	ロクロ土師	高台付埦	—	[2.0]	—	A・E・I・K	80	普通	橙		
13	A-0	須恵器	坏	(13.2)	[3.4]	—	E・I・K	15	良好	黄灰		
14	A-0	須恵器	坏	—	2.3	(6.0)	E・H・I・K	25	良好	黄灰	東金子産か	
15	A-0	須恵器	坏	—	[1.1]	7.0	I・K	55	良好	褐灰	東金子産か	
16	A-1	埴輪	朝顔形円筒埴輪	—	[8.4]	—	A・C・E・I・K	5	普通	にぶい橙	透孔あり	
17	A-1	ロクロ土師	高台付埦	—	[2.2]	(6.9)	E・I・K	30	普通	にぶい黄橙	内面ミガキ	
18	A-1	磁器（白磁）	碗	—	[2.9]	—	—	15	良好	灰白	中国 内面施釉 見込部段あり 11C後～12C前	33-4
19	B-0	ロクロ土師	埦	—	[2.4]	(6.8)	C・I・K	25	普通	にぶい黄橙		
20	B-0	土師器	高台付埦	—	[3.0]	—	A・I・K	75	普通	にぶい橙		
21	B-0	土師器	甕	—	[6.0]	4.9	C・E・H・I・K	50	普通	にぶい褐		
22	B-1	ロクロ土師	埦	—	[2.8]	(7.8)	A・C・H・I・K	45	普通	にぶい橙	内面ミガキ 内黒	
23	B-2	ロクロ土師	高台付埦	—	[2.6]	(6.6)	A・J・K	70	普通	にぶい橙	器面風化	
24	C-2	須恵器	瓶	—	[17.2]	—	E・I・K	35	良好	黄灰	A区 №1 外面自然釉	
25	C-2	土師器	坏	9.8	2.9	—	A・C・E・H・K	75	普通	橙	A区 №3	
26	C-2	土師器	坏	11.0	3.4	—	A・C・I・K	60	普通	橙	A区 №2	
27	D-4	土師器	壺	15.0	(16.5)	6.0	C・E・H・I・K	40	普通	にぶい橙	A区 器面摩耗	
28	ZY-998	陶器	天目茶碗	(10.6)	[5.5]	—	I・K	35	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C中～後	
29	ZY-998	陶器	碗	(9.2)	5.0	(3.2)	K	40	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 外面鉄絵 18C後	
30	ZY-998	陶器	碗	(8.9)	4.8	(3.2)	I・K	25	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 18C後	
31	ZY-998	陶器	皿	(12.2)	3.0	5.8	H・I・K	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面摺絵（鉄絵）18C	33-5
32	ZY-998	陶器	碗	(10.0)	[4.3]	—	I・K	25	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵 18C中	
33	ZY-998	陶器	灯明皿	(12.4)	2.5	(5.0)	C・I・K	25	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面赤釉 重焼痕 18C後～19C前	
34	ZY-998	陶器	有耳壺	(9.8)	[3.7]	—	I・K	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 18C前～中	
35	ZZ-998	磁器	碗	(9.1)	5.1	(3.7)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C	
36	ZZ-998	瓦質土器	火鉢	—	[4.4]	—	C・E・I・K	5	普通	灰	脚部破片 内外面燻す	
37	ZZ-1	陶器	徳利	2.2	[8.6]	—	I・K	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面赤釉 体部くぼます 19C前	
38	ZZ-0	土製品	人形	縦3.3 横2.9 厚さ1.1			A	100	良好	橙	天神 前後合型成形 表裏面雲母付着 江戸在地系	33-6
39	ZW-995	磁器	人形	—	8.9	—	—	90	良好	白	稲荷白狐 瀬戸美濃系 外面施釉・上絵付（赤・黄）	33-7

V　自然科学分析

長竹遺跡D区の調査では、1面と2面から畠跡を構成していた畝跡が検出され、2面の畝跡Bの覆土には軽石質テフラが大量に含まれていた。そこで畠の実体を明らかにし、その時期を確定する目的で以下各種の自然化学分析を実施した。

花粉分析とプラントオパール分析は、畠の栽培植物を明らかにする目的で実施した。その結果、花粉化石の検出量が十分ではなく栽培植物の同定には至らなかった。プラントオパールはすべての試料からイネ科が産出された。畝の造られていた時期に稲の葉が堆積していたことが明らかとなった。水田地が畠に転用された可能性や、二毛作が行われていた可能性が指摘されている。

元素マッピング分析は、畠であれば土壌に含まれるであろう肥料などの存在を明らかにするために実施した。その結果、リンとカルシウムが多く検出された。骨などカルシウムを多く含む物質を肥料として意図的に加えていた可能性が指摘されている。

テフラの分析は、2面の畠の耕作年代を明らかにするために実施した。その結果、天仁元(1108)年に浅間山から噴出した浅間Bテフラ（As-B）と同定された。2面の畠が12世紀初頭まで耕作されていたことが明らかとなった。

1　長竹遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析

（1）はじめに

埼玉県加須市に所在する長竹遺跡では、平安時代の畠跡が検出されている。以下では、畠跡で採取した試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、畠の作物について検討した。

（2）試料と方法

西壁の土層には平安時代（10～11世紀以降）の畠跡が確認されており、畠跡の畝や畝間、その上下層から計11点を採取した（第4図）。このうち、花粉分析に供したのは10試料で、プラント・オパール分析に供したのは5試料である（第44表）。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1　花粉分析

試料（湿重量約3～4ｇ）を遠沈管にとり、10％水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、

第44表　分析試料一覧表

試料No.	調査区	遺構	層位	時期	土相	花粉分析	プラント・オパール分析
1	西壁	畝跡A畝間堆積土	14層	平安時代（第Ⅰ～Ⅱ c 区間）	暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）シルト質細粒砂	○	○
2			13層		暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）シルト質微粒砂	○	○
3		畝跡B上層畝間堆積土①	17層		暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）スコリア混じりシルト	○	
4			16層		暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂混じりシルト	○	
5		畝跡B上層畝間堆積土②			黒褐色（2.5Y3/2）シルト混じりスコリア	○	○
6							
7		畝跡B下層畝間堆積土			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト	○	
8		畝跡B下層畝間堆積土	22層			○	○
9						○	
10						○	
11			15層			○	○

第 45 表　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11
樹木											
Abies	モミ属	2	−	1	−	−	−	1	−	−	−
Tsuga	ツガ属	1	−	−	−	1	−	1	−	−	−
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	2	1	−	−	−	−	−	2	1	−
Cryptomeria	スギ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pterocarya − *Juglans*	サワグルミ属−クルミ属	−	2	−	−	−	1	−	1	−	−
Carpinus − *Ostrya*	クマシデ属−アサダ属	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−
Betula	カバノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Alnus	ハンノキ属	−	−	1	−	1	−	−	−	−	1
Fagus	ブナ属	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Ulmus − *Zelkova*	ニレ属−ケヤキ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Tilia	シナノキ属	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−
草本											
Gramineae	イネ科	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Artemisia	ヨモギ属	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−
シダ植物											
monolate type spore	単条溝胞子	1	1	−	−	1	−	−	−	1	−
Arboreal pollen	樹木花粉	10	4	3	1	2	1	3	4	1	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	−	−	−	−	1	−	−	2	−	−
Spores	シダ植物胞子	1	1	−	−	1	−	−	−	1	−
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	11	5	3	1	4	1	3	6	2	1

続いてアセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。

2-2　プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約 1 g（秤量）をトールビーカーにとり、約 0.02 g のガラスビーズ（直径約 0.04 mm）を加える。これに 30%の過酸化水素水を約 20 ～ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 0.01 mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定及び計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、第 154 図に載せた。

（3）結果

3-1　花粉分析

10 試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 12、草本花粉 2、形態分類のシダ植物胞子 1 の総計 15 である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第 45 表に示す。表においてハイフン（−）で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。なお、今回の分析試料には十分な量の花粉化石が含まれていなかったため、分布図は示していない。

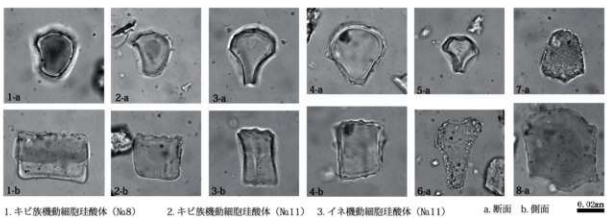
3-2　プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1 g 当りの各プラント・オパール個数を求めた。一覧表を第 46 表に、分布図を第 155 図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料 1 g 当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸

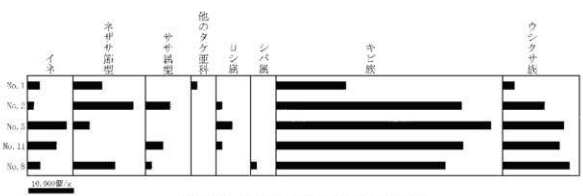
第46表　試料1ｇあたりのプラント・オパール個数

	イネ（個／ｇ）	ネザサ節型（個／ｇ）	ササ属型（個／ｇ）	他のタケ亜科（個／ｇ）	ヨシ属（個／ｇ）	シバ属（個／ｇ）	キビ族（個／ｇ）	ウシクサ族（個／ｇ）	棒状珪酸体（個／ｇ）	ポイント型珪酸体（個／ｇ）
№1	2,600	6,400	0	1,300	0	0	15,400	2,600	2,600	0
№2	1,300	13,200	5,300	0	1,300	0	40,900	9,200	13,200	0
№5	8,500	3,600	0	0	3,600	0	47,400	13,400	21,900	1,200
№11	6,300	0	3,800	0	1,300	0	41,300	12,500	23,800	0
№8	2,700	9,300	1,300	0	0	1,300	37,300	14,600	10,700	1,300



1. キビ族機動細胞珪酸体（№8）　2. キビ族機動細胞珪酸体（№11）　3. イネ機動細胞珪酸体（№11）　a. 断面　b. 側面
4. ネザサ節型機動細胞珪酸体（№2）　5. シバ属機動細胞珪酸体（№8）　6. ウシクサ族機動細胞珪酸体（№2）
7. ササ属型機動細胞珪酸体（№2）　8. ヨシ属機動細胞珪酸体（№5）

第154図　長竹遺跡から産出した植物珪酸体



第155図　長竹遺跡における植物珪酸体分布図

体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の８種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体とキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、それぞれ1,300～8,500個、15,400～47,400個、2,600～14,600個の産出量である。ネザサ節型機動細胞珪酸体は№11以外から産出しており、3,600～13,200個である。ササ属型機動細胞珪酸体は№2・8・11から産出しており、1,300～3,800個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体は№1から産出しており、1,300個である。ヨシ属機動細胞珪酸体は№2・5・11から産出しており、1,300～3,600個である。シバ属機動細胞珪酸体は№8で産出しており1,300個である。それ以外では、棒状珪酸体やポイント型珪酸体の産出が見られた。

（4）考察

今回の分析試料には花粉化石がほとんど含まれておらず、畠作物に関係すると考えられる分類群

も検出されていない。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境に堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。東壁には褐鉄鉱の沈積などが多数観察され、酸化的環境になったことが窺われる。また、プラント・オパール分析の結果では、抽水植物のヨシ属が産出している試料（№2・5・11）があり、湿地的環境が存在していたと推測されるが、花粉化石の残りが悪いのは、土層の堆積後に耕作などによって酸化的環境に晒されたためではなかろうか。こうしたことから花粉分析により畠の作物について言及するのが難しいため、以下ではプラント・オパール分析の結果に基づいて検討した。

プラント・オパール分析の結果では、畝を伴う耕作地にもかかわらず、全ての試料からイネが産出した。畝を伴う耕作地でイネ機動細胞珪酸体が産出する理由については、土壌流出の防止や足場固めなどのために耕作地に稲藁を敷いた可能性や、耕作地にまく肥料に稲藁が混じっていた可能性、水田であった場所が畠に転用された可能性、二毛作が行われていた可能性、陸稲を栽培していた可能性などいくつかの可能性が考えられる。例えば、畠の下位層（№8）においてもイネ機動細胞珪酸体が産出しているので、水田であった場所を畠に転用していた状況が考えられるであろう。または、畝跡B上層の畝間堆積物（№5と№11）において特にイネ機動細胞珪酸体の産出量が多くなっているので、畝跡B上層の時期には上記の可能性のいずれかが盛んに行われていたなどの状況も考えられるであろう。いずれにしろ、畝が形成されていた時期にはイネの葉身が畝に堆積していたと考えられる。

イネ以外では、キビ族機動細胞珪酸体の産出が栽培植物の存在を示唆している。キビ族機動細胞珪酸体は、いずれの層においても多くの産出が見られるが、イネ機動細胞珪酸体と同様に畝跡B上層の畝間堆積物（№5と№11）において産出量が多くなる傾向がある。キビ族にはアワやヒエ、キビといった栽培種が含まれるため、こうした作物が畝跡B上層で栽培されていた可能性が考えられる。ただし、キビ族という分類階級には野生種も含まれており、機動細胞珪酸体の形態で栽培種と野生種を区別するのは難しい。今回産出したキビ族機動細胞珪酸体は、耕作地周辺に生育していた雑草類由来という可能性もあり、キビ族機動細胞珪酸体の産出から、明確に栽培植物を指摘するのは難しい。

2　長竹遺跡より採取した土壌の元素マッピング分析

（1）はじめに

加須市に所在する長竹遺跡では、平安時代の畠跡が検出された。ここでは採取した土壌について、蛍光X線分析装置による元素マッピング分析を行い、土壌の化学組成を調査した。

第47表　分析対象一覧

試料№	土相	備考
1	暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）シルト質細粒砂	14層（畝跡A畝間堆積土）
6	黒褐色（2.5Y3/2）シルト混じりスコリア	畝跡B上層畝間堆積土②
8	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト	22層（比較試料）
11	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト	15層

（2）試料と方法

分析対象となる試料は、平安時代（10～11世紀以降）の畠跡堆積土より採取した土壌3点（№1・№6・№11）と、比較試料として畠跡の下の22層の土壌1点（№8）の計4点である（第47表）。測定試料は、乾燥後、極軽く粉砕して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で20ｔ・1分以上プレスしたものを作製、使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光

X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム（Rh）ターゲット、X線ビーム径が 100 μm または 10 μm、検出器は高純度 Si 検出器（Xerophy）で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、リン（P）のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、ビーム径 100 μm、測定時間 2000s を5回走査、パルス処理時間Ｐ３に、ポイント分析では 50kV、0.10 ～ 0.40mA（自動設定）、ビーム径 100 μm、測定時間 500s、パルス処理時間Ｐ４に設定して行った。定量計算は装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

（３）結果

ポイント分析結果より酸化物の形で表した各元素半定量値を第 48 表に、元素マッピングで測定した範囲全体より得たスペクトルを基に算出された半定量値を第 49 表に示す。

（４）考察

ポイント分析の結果、いずれの試料からもリン（P2O5）が１％を超える箇所が複数検出された。これらのポイントは、すべてカルシウムとの相関がみられ、リンとともにカルシウムも多く検出されている。この結果より、これらの箇所は骨（主成分はハイドロキシアパタイト Ca5（PO4）3OH）に由来する可能性が高い。マッピング図より、いずれの骨も微小破片として存在すると考えられる。

比較試料である№８とその他３点を比較する

第 48 表　各ポイントの半定量分析結果（mass%）

No.	ポイント	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
1	a	1.66	12.22	37.57	**19.25**	0.02	0.54	**23.52**	0.42	0.13	4.58	0.00	0.04	0.01	0.01
	b	6.31	10.39	41.67	**16.03**	0.19	0.65	**15.92**	0.47	0.30	7.99	0.00	0.04	0.02	0.01
	c	0.74	6.62	27.46	**27.60**	0.08	0.45	**29.80**	0.50	0.14	6.51	0.01	0.05	0.00	0.02
	d	0.99	16.33	52.46	**8.33**	0.18	1.35	**10.34**	0.97	0.16	8.80	0.01	0.05	0.01	0.02
	e	2.45	12.73	64.71	**3.39**	0.17	0.58	**10.47**	0.45	0.10	4.89	0.00	0.04	0.00	0.01
6	a	1.57	7.69	23.76	**23.68**	0.15	0.27	**22.58**	2.62	0.12	17.51	0.00	0.03	0.01	0.01
	b	1.51	6.28	24.65	**12.53**	0.10	0.30	**10.98**	18.49	0.20	24.90	0.00	0.02	0.02	0.03
	c	1.06	12.58	51.66	**11.27**	0.22	1.46	**11.49**	0.76	0.16	9.26	0.00	0.05	0.01	0.02
	d	1.39	17.80	53.30	**6.30**	0.25	0.59	**17.07**	0.34	0.06	2.80	0.00	0.08	0.01	0.01
	e	0.84	14.10	59.35	**7.65**	0.27	1.24	**8.99**	0.80	0.12	6.57	0.00	0.05	0.01	0.02
8	a	**2.45**	**15.33**	**58.36**	**6.10**	**0.25**	**1.65**	**7.41**	**0.69**	**0.13**	**7.54**	**0.01**	**0.04**	**0.01**	**0.02**
	b	**0.87**	**14.19**	**62.12**	**5.66**	**0.46**	**1.47**	**7.40**	**1.29**	**0.18**	**6.29**	**0.01**	**0.03**	**0.01**	**0.02**
	c	**4.51**	**15.04**	**61.31**	**0.26**	**0.16**	**1.15**	**6.59**	**2.20**	**0.18**	**8.51**	**0.01**	**0.03**	**0.00**	**0.02**
	d	**0.92**	**13.88**	**66.27**	**3.40**	**0.12**	**1.45**	**6.43**	**0.40**	**0.12**	**6.90**	**0.01**	**0.04**	**0.01**	**0.03**
	e	**2.71**	**16.49**	**64.86**	**2.21**	**0.23**	**1.31**	**4.96**	**0.49**	**0.28**	**6.40**	**0.01**	**0.03**	**0.01**	**0.02**
11	a	1.02	14.01	52.06	**11.30**	0.29	1.63	**11.40**	1.44	0.12	6.62	0.01	0.05	0.03	0.02
	b	0.61	21.16	49.26	**5.67**	0.18	1.19	**7.74**	0.38	0.32	13.47	0.00	0.01	0.01	0.00
	c	2.52	15.35	50.67	**7.57**	0.47	1.02	**9.00**	0.54	0.25	12.56	0.00	0.04	0.01	0.01
	d	2.03	15.25	65.03	**1.64**	0.15	1.59	**4.35**	0.78	0.14	8.95	0.01	0.05	0.01	0.03
	e	0.84	13.16	58.20	**11.54**	0.15	1.06	**8.88**	0.57	0.10	5.45	0.01	0.03	0.01	0.02

第 49 表　分析範囲全体の半定量分析結果（mass%）

No.	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_2	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2
1	0.00	16.01	62.35	0.38	0.29	1.93	**5.78**	1.14	0.26	11.71	0.02	0.09	0.01	0.05
6	0.08	16.79	60.29	0.27	0.25	1.59	**6.87**	1.16	0.27	12.28	0.01	0.10	0.01	0.04
8	**0.25**	**16.19**	**64.59**	**0.28**	**0.30**	**2.09**	**3.63**	**1.07**	**0.27**	**11.19**	**0.02**	**0.06**	**0.01**	**0.04**
11	0.28	16.44	63.56	0.21	0.21	2.03	**4.23**	1.11	0.25	11.52	0.02	0.07	0.01	0.04

と、ポイント分析においては、No.8はリンの検出量が少ない傾向がみられた。これは、X線照射時に骨以外の土の部分にも照射され、土の成分が多く検出されてしまっているためと考えられる。すなわち、他試料で検出されるようなサイズの骨は含まれておらず、より微細な骨しか検出されないということであり、土壌中に含まれている骨の量が少ないと考えられる。

また、分析範囲全体の化学組成を見ると、畠跡の堆積土3点は比較試料であるNo.8よりカルシウムが多い傾向がみられた。

リンやカルシウムは、植物の生育に欠かせない成分の一部であり、肥料として補ってやる必要がある。骨や、カルシウムを多く含む物質を肥料として、意図的に加えていた可能性がある。

3　長竹遺跡のテフラ分析

（1）はじめに

長竹遺跡は、加須市大越620-1他に所在する遺跡である。調査では、古代の畠跡が検出された。ここでは、畠跡に挟在する軽石質テフラ層について、軽鉱物及び重鉱物組成、火山ガラス及び斜方輝石の屈折率測定を行い、テフラ同定を行った。

第50表　テフラ分析を行った試料

分析No.	試料No.	遺構	層位	堆積物の特徴
1	6	畠	畝跡B上層畝間堆積土②	黒褐色（2.5Y3/2）シルト混じりスコリア

（2）試料と分析方法

分析試料は、畝跡B上層畝間堆積土②の軽石質テフラ層1点である（第50表）。

分析は、湿重37ｇ程度をトールビーカーに入れ、精製水を加えて超音波洗浄機を用いて分散した。分散した試料は、１φ（0.500mm）、２φ（0.250mm）、３φ（0.125mm）、４φ（0.0063mm）の４枚の篩を重ねて湿式篩分けを行った。各篩残渣を乾燥して秤量した後、４φ篩残渣の一部について重液（テトラブロモエタン、比重2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。なお、これら試料とは別に、湿重７ｇ程度を乾燥させて乾燥重量を算出した。

重液分離した軽鉱物は、簡易プレパラートを作製し、石英や長石のほか、町田・新井（2003）の分類基準に従って火山ガラスの形態分類を行った。また、重鉱物は、同様に封入剤カナダバルサムを用いてプレパラートを作製し、単斜輝石（Cpx）、斜方輝石（Opx）、角閃石（Ho）、磁鉄鉱（Mag）を同定・計数した。

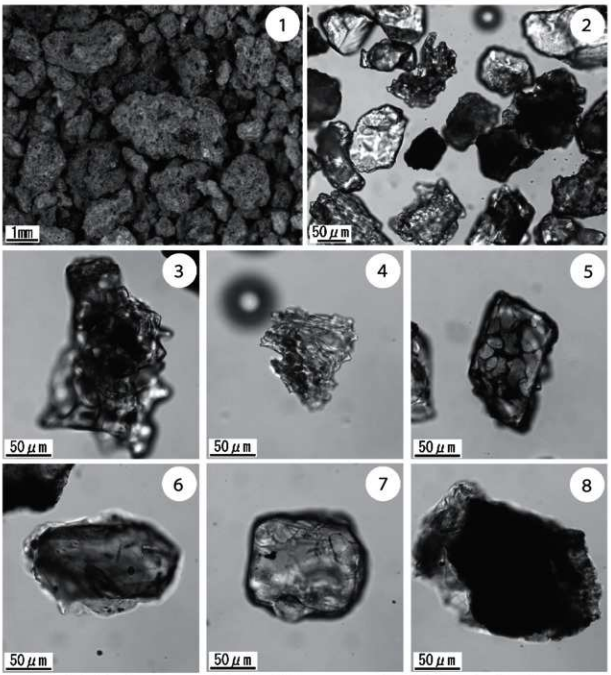
１φ篩残渣中の軽石を粉砕し、火山ガラスについて、横山ほか（1986）に従って、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率を測定した。また、同様に、斜方輝石（Opx）は、横山・山下（1986）

第51表　試料の処理重量と篩分け結果

分析No.	分析試料（g）		乾燥試験試料（g）		粒度（g）				粒度（%）			
	湿重	乾燥	湿重	乾重	1.0φ	2.0φ	3.0φ	4.0φ	1.0φ	2.0φ	3.0φ	4.0φ
1	37.05	29.92	7.79	6.29	1.8656	9.9416	8.5101	1.2150	6.24	33.23	28.45	4.06

第52表　４φ篩残渣中の鉱物組成（個数）

分類 / 分析No.	石英（Qu）	長石（Pl）	スコリアガラス（Sc）	不明（Opq）	バブル（泡）型 平板状（bl1）	バブル（泡）型 Y字状（bl2）	軽石型 繊維状（pl1）	軽石型 スポンジ状（pl2）	急冷破砕型 フレーク状（ch0）	急冷破砕型 塊状（ch0）	ガラス合計	軽鉱物の合計	斜方輝石（Opx）	単斜輝石（Cpx）	角閃石（Ho）	磁鉄鉱（Mg）	不　明（Opq）	重鉱物の合計
1	11	101	42	47				14		1	15	216	117	60	4	15	16	212



1　1φ篩残渣中の軽石　2　4φ篩残渣中の軽鉱物　3・4　4φ篩残渣中の軽石型スポンジ状ガラス
5　ガラス付着長石　6　ガラス付着斜方輝石　7　ガラス付着単斜輝石　8　ガラス付着磁鉄鉱

第156図　晶跡から検出された軽石質テフラ

に従って屈折率を測定した。

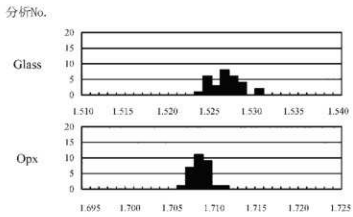
（3）分析結果

以下に、軽石層試料について、粒度組成の特徴、4φ篩残渣中の軽鉱物及び重鉱物組成、火山ガラス及び斜方輝石の屈折率測定結果について述べる。

［分析No.1］

試料は、畝跡B上層に堆積していた黒褐色の軽石層である。

湿式篩分けを行った結果、2φ篩残渣が最も多く33.23％であった。1φ篩残渣を観察すると、



	範囲(range)	平均(mean)	個数
Glass	1.5236 - 1.5309	1.5266	30
Opx	1.7065 - 1.7110	1.7087	30

第157図　1φ篩軽石中の火山ガラス及び斜方輝石の屈折率測定結果

最大2㎜の淡褐色～褐色の発泡の良い軽石からなる(第156図)。重液分離した結果、軽鉱物では、褐色のやや斑晶を含むスコリアガラス（Sc）が多く、軽石型スポンジ状ガラス（p2）も含まれていた。重鉱物は、斜方輝石が最も多く、単斜輝石も多く含まれていた。その他角閃石や磁鉄鉱が含まれていた（第52表）。1φ残渣中の軽石を粉砕した火山ガラスの屈折率測定では、n =1.5236-1.5309（平均値1.5266）と広い。また、同様に斜方輝石の屈折率測定では、γ =1.7065-1.7110（平均値1.7087）であった（第157図）。

（4）考察

試料は、1φ篩残渣において淡褐色の軽石からなり、4φ篩残渣中にはスコリアガラス（Sc）や軽石型スポンジ状ガラス（p2）が含まれていた。また、1φ残渣中の軽石を粉砕した火山ガラスの屈折率測定では、n =1.5236-1.5309（平均値1.5266）と広い。また、同様に斜方輝石の屈折率測定では、γ =1.7065-1.7110(平均値1.7087)であった。

以上の特徴や火山ガラスの屈折率から、浅間BBテフラ（As-B）と同定される。浅間Bテフラ（As-B）は、1108年（天仁元年）に浅間火山から噴出した降下軽石（pfa)、降下スコリア（sfa)、降下火山灰（afa）からなり、分布は東に150km以上に及ぶ。火山ガラスの屈折率は、n =1.524-1.532、斜方輝石の屈折率がγ =1.708-1.710である（町田・新井　2003）。

（5）おわりに

畝跡B上層畝間堆積土②の軽石質テフラ層1点についてテフラ分析を行った。その結果、軽石の特徴や火山ガラスあるいは斜方輝石の屈折率から、1108年（天仁元年）に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B）と同定された。

引用文献

町田 洋・新井房夫　2003『新編火山灰アトラス』　336p　東京大学出版会.

横山卓雄・檀原 徹・山下 透　1986「温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定」『第四紀研究』25　21-30

横山卓雄・山下　透　1986「温度変化型屈折率測定装置（RIMS-86）による斜方輝石・角閃石の屈折率測定の試み」『京都大学教養部報告（九十九地学）』21　30-36

Ⅵ　調査のまとめ

長竹遺跡D区第一面の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡3棟、土壙20基、溝跡8条、杭列跡6条、畝跡140条、中・近世の竪穴状遺構3基、土壙140基、火葬跡5基、井戸跡21基、溝跡41条、杭列跡4条、畝跡180条、ピット126基が検出された。

長竹遺跡の考古学的評価は、縄文時代後晩期の盛土遺構に集約されがちであるが、今回の一連の調査で明らかとなった奈良・平安時代及び中・近世の様相を、D区を含む長竹遺跡全体の成果と、隣接する樋ノ口遺跡の成果を合わせて概観し、まとめとしたい。

1　奈良・平安時代の様相

長竹遺跡D区の南側（下流側）に接する長竹遺跡A～C区からは、奈良・平安時代の住居跡26軒、北側（上流側）に接する樋ノ口遺跡からは、平安時代の住居跡9軒が検出された。長竹遺跡と樋ノ口遺跡の古代の遺構は空間的・時間的に近接しており、繋がりをもつ同一集落とみなしてもよいと考えられる。

この長竹・樋ノ口古代集落は、合計66軒の住居跡と4棟の掘立柱建物跡で構成される（第158図）。全体としては、8世紀中葉から10世紀後半まで、若干の空白期を挟みながらも継続して営まれていた集落である（第53表）。

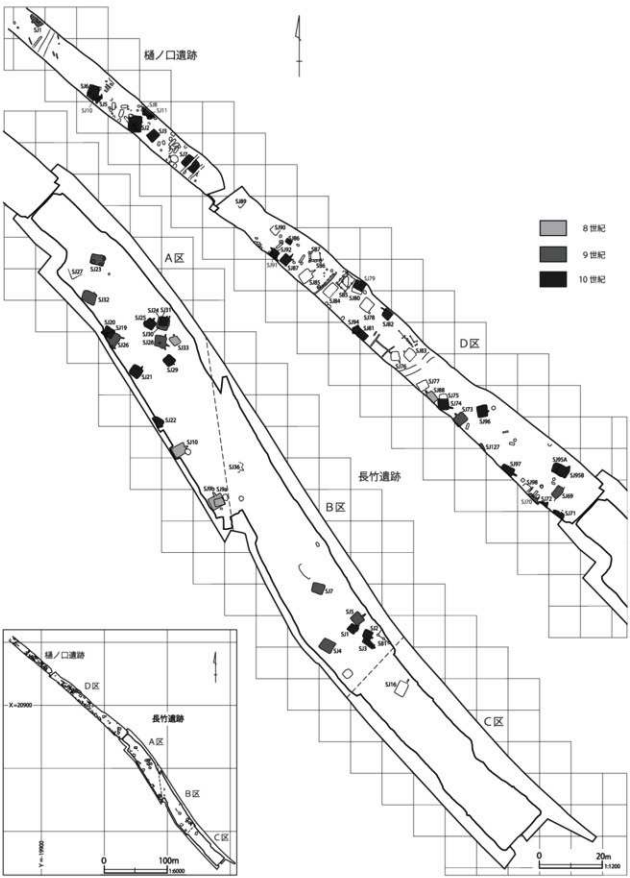
まず、8世紀の中頃に長竹遺跡A区とD区南半に住居が造られはじめた。調査区内では8世紀前半の住居跡は検出されていないが、長竹遺跡A区からC区に展開していた古墳時代後期の集落の耕作地を居住地に利用しながら、集落を拡大していく。この傾向は9世紀でも同様で、9世紀後半までには、南側の長竹遺跡B区まで範囲を広げた。しかし、その単位は数件程度で、緩やかな増加傾向をみせている。

ところが、10世紀に入ると、住居跡の軒数は一気に増加し、集落域は北側の樋ノ口遺跡まで膨張する。10世紀代の住居跡の件数は33軒となり、北埼玉地域でも有数の規模を誇る集落に成長する。10世紀は律令制度下での郡司による地方支配が弱体化し、新たな勢力である有力農民層が台頭を始める時期である。長竹・樋ノ口古代集落の成長にはこうした社会的・経済的変革が大きく関わっているものと推定される。

10世紀後半になると住居軒数は縮小し、竪穴住居跡を主体とした集落は終焉を迎える。その後おそらく11世紀代には、この地は再び畠作の農地として利用されていた。しかし天仁元（1108）年の浅間山の噴火によって畠は埋没し、いったんは耕作放棄地になったと考えられる。

第53表　長竹遺跡・樋ノ口遺跡における古代住居跡の時期

時期		長竹遺跡			樋ノ口遺跡	住居跡軒数
		A～C区	D区			
8世紀	中葉	9b　31	88			6
	後半	9a　10　33				
9世紀	末～初頭	23	70			13
	前半	4　28				
	中葉		73			
	後半	5　7　26　30　32	69　127		1	
10世紀	前半	1　2　19　21　22　24　25　29	71　72　74　86　87　97	81　82　92　94 95A　96	2　3　6　11 5　7　8　10	33
	後半	3　20	79　91　95B			



第 158 図　長竹遺跡・樋ノ口遺跡の古代集落

2　中・近世の様相

中世になると、長竹遺跡B・C区では墓域として利用されていた土地に旧堤防が築堤された。築堤の時期は明らかではないが、室町時代には堤防を修復していたことが判明した。D区や樋ノ口遺跡でも火葬跡など、墓域に伴う遺構が確認されているが、堤防が築堤された後には、水田や畠作地が広がっていたものと推定される。

天明３（1783）年に浅間山が噴火し、北関東の河川に水害をもたらした。噴火後は噴出物の堆積により河床が上昇したため、利根川水系でも頻繁に河川の氾濫が起こるようになる。長竹遺跡の旧堤防ではこの２次災害を防ぐため、急遽水田上に土盛りをする補強工事が行われた。この天明の大噴火前後の遺物（18 世紀後半）は、長竹遺跡や樋ノ口遺跡の近世の遺構でまとまりをもって出土している。

近世の遺構では、D区の埋設桶が注目される。９基中８基は２基並んで検出された。うち４基は周囲に杭列跡を伴なっている。水溜めか肥溜め、もしくはトイレ遺構の可能性があるが、いずれにしても生活に密着した遺構である。出土遺物の示す年代、18 世紀後半から 19 世紀にかけては、農業もしくは河川交通を生活の中心とした集落が存在していたと考えられる。

引用・参考文献

板倉町教育委員会 1985『伊勢ノ木・小保呂遺跡発掘調査報告書』
板倉町教育委員会 1998『町内遺跡Ⅲ―中古墳・南久保遺跡・宇那根西遺跡―』
板倉町教育委員会 1999『町内遺跡Ⅳ―薬師堂北遺跡・浮戸遺跡・新村下遺跡・城遺跡・舟山古墳・薬師堂古墳―』
板倉町教育委員会 2000『町内遺跡Ⅴ―大塚山古墳・岡西遺跡・後安遺跡―』
板倉町教育委員会 2001『沼田南遺跡・花和田遺跡・藤ノ木遺跡・板倉遺跡』
板倉町教育委員会・板倉町土地開発公社 2007『八反遺跡・長良遺跡』
板倉町史編さん委員会 1989『板倉町史』別巻９　板倉町の遺跡と遺物
大宮市遺跡調査会 1993『氷川神社東遺跡・氷川神社遺跡・B―17 号遺跡』大宮市遺跡調査会報告第 42 集
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『島悪途遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 376 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007『飯積遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 333 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007『飯積遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 334 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2014『長竹遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 413 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2016『屋敷裏遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 422 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『茂手木遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 438 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『米の宮遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 439 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『東畑遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 449 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『旧利根川堤防跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 450 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『樋ノ口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 455 集
館林市 2011『館林市史』資料編１原始古代　館林の遺跡と古代史
羽生市教育委員会 2009『大道遺跡』羽生市発掘調査報告書第２集